# 男女共同参画に関する市民意識・実態調査

## ー　報告書　ー

平成 23 年（2011 年）3 月

吹　田　市

# ～ 目 次 ～


**Ⅰ　調査の概要** ---------- 1

**Ⅱ　回答者の属性** ---------- 3
１．性別 ---------- 3
２．年齢別構成 ---------- 3
３．同居家族構成 ---------- 4
４．未既婚 ---------- 5
５．配偶者の有職状況 ---------- 6
６．末子の学齢 ---------- 7

**Ⅲ　調査結果** ---------- 8
**【１】男女共同参画について** ---------- 8
１．性別役割分担意識 ---------- 8
２．女性が職業を持つことについて ---------- 11
３．男女の地位の平等意識 ---------- 18
**【２】家庭生活や仕事について** ---------- 23
１．望ましい家庭内の仕事の分担 ---------- 23
２．実際の家庭内の仕事の分担 ---------- 28
３．結婚についての考え方 ---------- 33
４．就労の状況 ---------- 38
（１）就労の有無 ---------- 38
（２）未就労者／仕事をしていない場合の状況 ---------- 39
（３）未就労者／今後の就労希望 ---------- 40
（４）未就労者／就労希望形態 ---------- 41
（５）未就労者／就労についての不安や心配なこと ---------- 42
（６）就労者／現在の就労状況 ---------- 45
（７）就労者／１週間あたりの平均労働時間 ---------- 47
（８）就労者／昨年１年間の収入（税込み） ---------- 48
（９）就労者／仕事で悩んでいることや心配なこと ---------- 50
（10）就労者／日常生活における優先度 ---------- 54
**【３】子育てについて** ---------- 58
１．子育てについての考え方 ---------- 58
２．望ましい子どもの教育程度 ---------- 61
３．学校教育における男女平等推進に必要と思うこと ---------- 64
**【４】女性の人権と配偶者等からの暴力について** ---------- 67
１．セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）と思うもの ---------- 67
２．セクシュアル・ハラスメントの体験 ---------- 70
３．暴力だと思うこと ---------- 73
４．ドメスティックバイオレンスの体験 ---------- 78
５．暴力行為等についての相談経験 ---------- 82

６．どこにも相談しなかった理由 ---------- 83
７．ドメスティックバイオレンスの体験（既婚者） ---------- 85
８．暴力行為等についての相談経験（既婚者） ---------- 89
９．どこにも相談しなかった理由（既婚者） ---------- 90
10．知っているＤＶ相談窓口 ---------- 92
11．ＤＶ防止に必要と思うこと ---------- 96
12．女性の人権が尊重されていないと感じる場面 ---------- 100
13．メディアにおける人権尊重において問題と思うこと ---------- 104
14．市民病院の女性総合外来等の認知状況 ---------- 108
**【５】男女共同参画社会について** ---------- 110
１．現在している、今後したい活動 ---------- 110
２．社会・地域活動参加への参加に支障になること ---------- 115
３．男性が家事、子育て等に参加するため必要と思うこと ---------- 119
４．介護・看護を要する方の同居有無 ---------- 122
５．自身が介護を要する状態になった場合 ---------- 124
６．介護希望者 ---------- 126
７．男女共同参画社会推進に力をいれていくべきこと ---------- 128
８．「ことがら」や「ことば」の認知状況 ---------- 133
**【６】吹田市立男女共同参画センターデュオについて** ---------- 138
１．吹田市立男女共同参画センターデュオの認知状況 ---------- 138
２．吹田市立男女共同参画センターデュオの利用経験 ---------- 140
３．未利用理由 ---------- 141
４．興味のあるテーマ ---------- 143
**【７】自由意見記述について** ---------- 144

**資　料** ---------- 153
**調査票** ---------- 153

# Ⅰ　調査の概要

**【調査目的】**

本市では、平成 14 年（2002 年）10 月に男女共同参画社会の実現に向けて、行政と市民、事業者が協働するための基盤となる「吹田市男女共同参画推進条例」を制定し、条例の実現を図るために平成 15 年（2003 年）3 月、「第 2 次すいた男女共同参画プラン」を策定した。

この「第 2 次すいた男女共同参画プラン」は、平成 24 年度 （2012 年度）で計画期間が終了することから、市民の男女共同参画に関する取り組みの実態や意識等を調査し、次期プランの策定に向けて、施策を検討する上での基礎資料とすることを目的として実施した。

**【調査対象】**

平成 22 年（2010 年）7 月 31 日現在吹田市に居住する 20 歳～84 歳の市民

**【標本抽出方法】**

住民基本台帳から系統抽出法により無作為抽出

**【調査方法】**

郵送配布、郵送回収（ハガキによる督促 1 回）

**【調査期間】**

平成 22 年（2010 年）9 月 1 日（水）～9 月 15 日（水）

**【回収結果】**

配布数 --------- 2,000 件
有効回収数 ------- 896 件
有効回収率 -------44.8%

◆回収票の性別・年齢構成◆（上段：回答件数、下段：構成比%）

| | 合計 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | 896 | 80 | 167 | 159 | 119 | 193 | 168 |
| | 100.0 | 8.9 | 18.6 | 17.7 | 13.3 | 21.5 | 18.8 |
| 女性 | 531 | 50 | 111 | 100 | 73 | 112 | 85 |
| | 100.0 | 9.4 | 20.9 | 18.8 | 13.7 | 21.1 | 16.0 |
| 男性 | 354 | 30 | 56 | 59 | 46 | 81 | 82 |
| | 100.0 | 8.5 | 15.8 | 16.7 | 13.0 | 22.9 | 23.2 |

（設問／問2の回答結果、無回答を除く）

◆母集団の年齢構成◆（上段：人数、下段：構成比%）

| | 合計 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | 280,839 | 39,071 | 55,102 | 51,944 | 40,024 | 47,424 | 47,274 |
| | 100.0 | 13.9 | 19.6 | 18.5 | 14.3 | 16.9 | 16.8 |
| 女性 | 147,302 | 19,321 | 28,209 | 26,000 | 20,840 | 25,157 | 27,775 |
| | 100.0 | 13.1 | 19.2 | 17.7 | 14.1 | 17.1 | 18.9 |
| 男性 | 133,537 | 19,750 | 26,893 | 25,944 | 19,184 | 22,267 | 19,499 |
| | 100.0 | 14.8 | 20.1 | 19.4 | 14.4 | 16.7 | 14.6 |

資料：平成22年(2010年）7月31日現在／住民基本台帳人口

## 【標本誤差】

今回の調査の回答結果から、調査対象となる母集団全体（本市の 20 歳以上の男女）の比率を推定するため、単純無作為抽出の場合の標本誤差の＜算出式＞と＜早見表＞を次に示す。

統計学上の標本誤差は、比率算出の基数（回答サンプル数）及び回答の比率によって誤差幅が異なる。今回調査の誤差幅は全体で最大±3.4%以内となる。

＜参考／算出式＞

$$\text{標本誤差} = \pm 2\sqrt{\frac{N_1 - n}{N_1 - 1} \times \frac{p\,(1-p)}{n_1}}$$

$N_1$＝母集団数（本市の 20 歳以上の男女）
$n_1$＝比率算出の基数（回答サンプル数）
$p$＝回答の比率（$0 \leqq p \leqq 1$）

◆標本誤差早見表（信頼度：95%）◆

| 区分 | | 実回答数 N(n) | 標本誤差（%） 10 または 90 | 20 または 80 | 30 または 70 | 40 または 60 | 50 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | | 876 | 2.0 | 2.7 | 3.1 | 3.3 | 3.4 |
| 性別 | 女性 | 531 | 2.6 | 3.5 | 4.0 | 4.3 | 4.3 |
| | 男性 | 354 | 3.2 | 4.3 | 4.9 | 5.2 | 5.3 |

＜表の見方＞

「標本誤差」とは、今回のように全体（母集団）から一部の標本を抽出して行う標本調査と、全体を対象に行う調査とを比べた時に生じる調査結果上の誤差のことであり、計算式に今回の調査をあてはめて算出したものが上記の表である。見方としては、例えば「女性（n=531）の、ある設問中の選択肢（例：「そう思う」）の回答比率が 10.0%であった場合、母集団におけるその回答比率の誤差の範囲は±2.6%の範囲内（母集団で「そう思う」と回答する人の比率は 7.4%～12.6%）である、と 95%の確率でいえる」とみることができる。95%とは、100 回同じ調査を行って、95 回同じ結果（同じ誤差範囲）が出ると想定される、という意味である。

## 【報告書の見方について】

（1）集計は小数点以下第２位を四捨五入している。従って回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合がある。

（2）２つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は 100%を超える場合がある。

（3）数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。全標本数ベースを示す「全体」を「N」、該当数ベースを「n」で標記している。

（4）図表中における年齢別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者（例えば、年齢別でクロス集計する場合における年齢の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。

（5）図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%、0.1%など）は図中表記から割愛している場合がある。

（6）前回調査との比較や、内閣府や大阪府との比較においては、選択肢が一致していない場合があり、図表等に完全な比較を表せない設問もある。

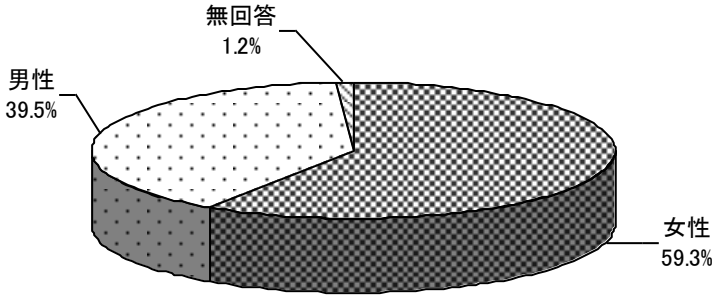
（7）この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

# Ⅱ　回答者の属性

## １．性別

性別構成比は、女性 59.3%、男性 39.5%と女性が 6 割を占める。

問１．性別（%）
全体(N=896)

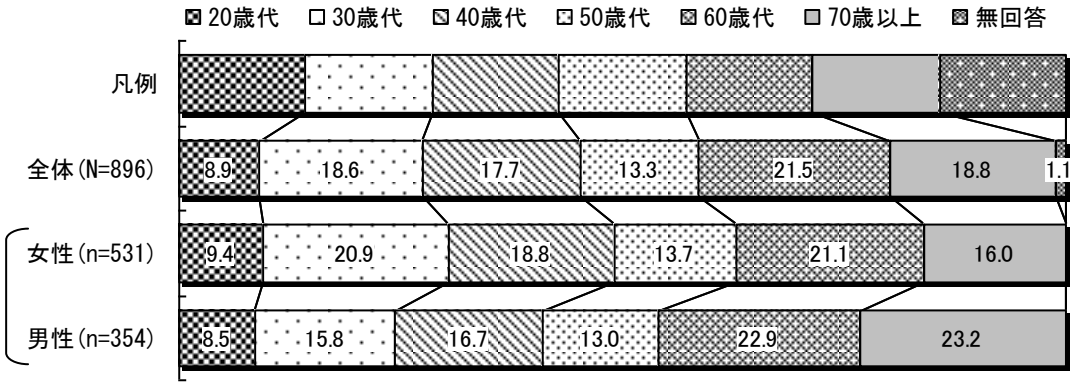



## ２．年齢別構成

年齢別構成は、「60 歳代」が 21.5%で最も多く、次いで「70 歳以上」(18.8%)、「30 歳代」(18.6%)の順となっている。

性別では、女性に比べて男性で 50 歳以上の占める割合が多くなっている。

問２．年齢（%）

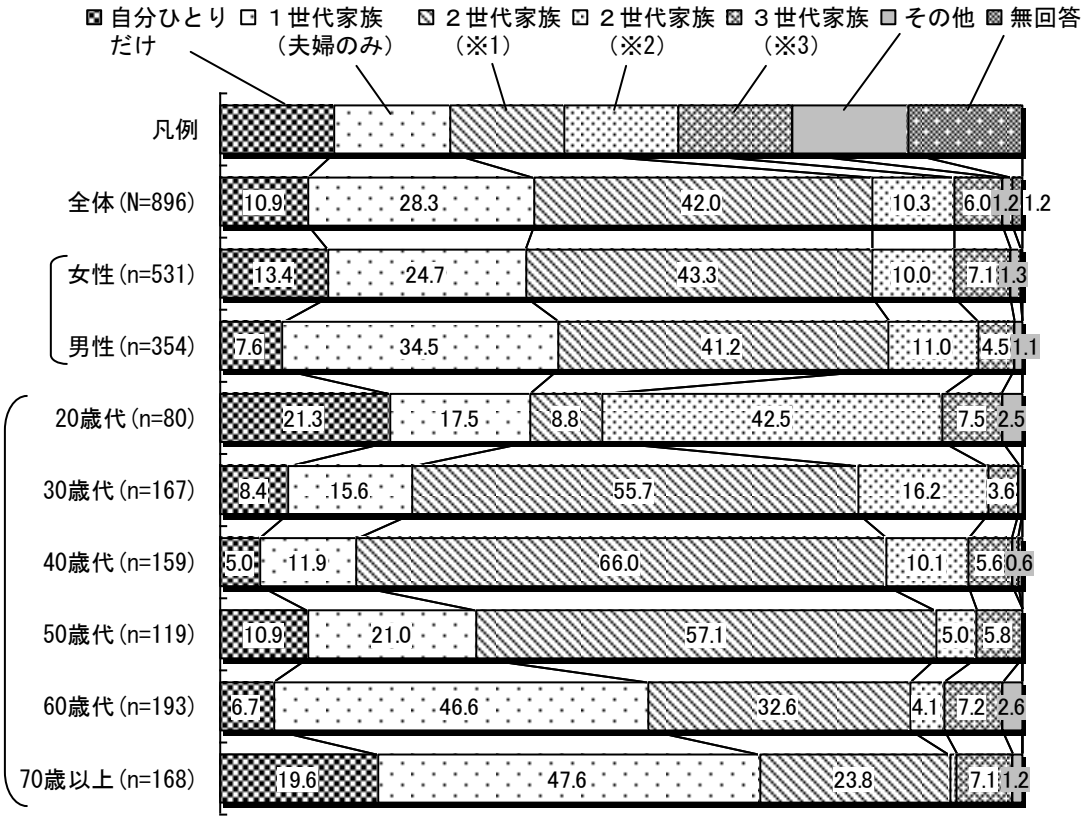


## ３．同居家族構成

同居家族構成は、「２世代家族（本人（配偶者）と子ども）」が 42.0%と最も多く、次いで「１世代家族（夫婦のみ）」(28.3%)、「自分ひとりだけ」(10.9%)、「２世代家族（親と本人（配偶者））」（10.3%）の順となっている。

性別では、男性に比べ女性で「自分ひとりだけ」がやや多く、年齢別では 20 歳代及び 70 歳以上で「自分ひとりだけ」が多くなっている。また、20 歳代では「２世代家族（親と本人（配偶者））」、30～50 歳代では「２世代家族（本人（配偶者）と子ども）」がそれぞれ多く、50 歳代から年齢が上がるほど「１世代家族（夫婦のみ）」が多くなる傾向にある。

問３．同居家族構成（%）
性別、年齢別




※1 本人（配偶者）と子ども
※2 親と本人（配偶者）
※3「祖父母と親と本人（配偶者）」「親と本人（配偶者）と子ども」「本人（配偶者）と子どもと孫」の合計

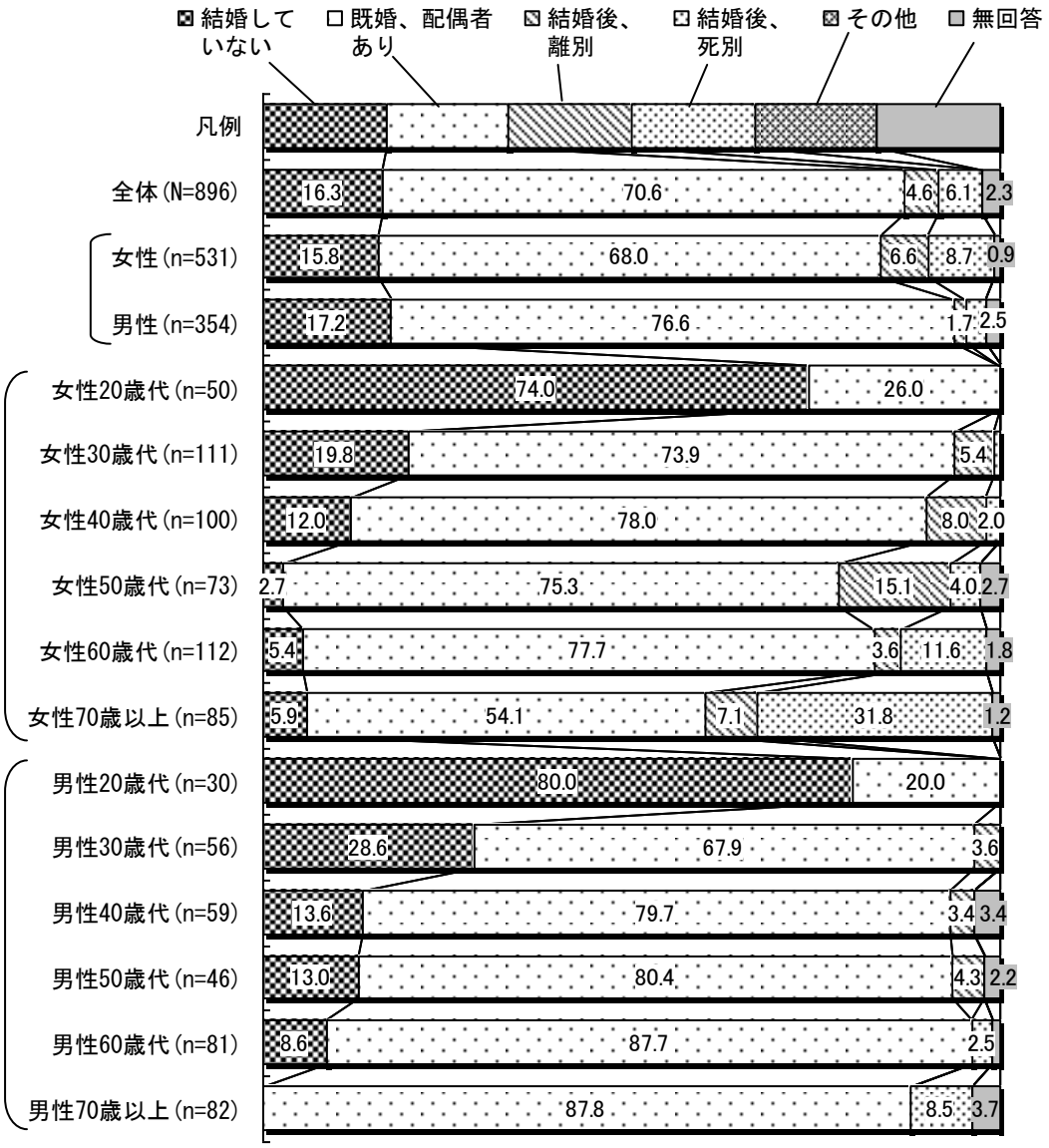
## ４．未既婚

未既婚をみると、「結婚していない（未婚）」が 16.3%、「既婚、配偶者あり」が 70.6%、「結婚後、離別」が 4.6%、「結婚後、死別」が 6.1%の内訳で、「既婚者」は合計で８割（81.3%）を占める。

性別では、女性で「結婚後、離別」「結婚後、死別」がやや多いが、大きな差はみられない。

性・年齢別では、男女ともに 20 歳代は「結婚していない（未婚）」が主となっている。女性では年齢が上がるほど「結婚後、死別」が多くなる傾向にあり、女性 50 歳代では「結婚後、離別」も他の年齢層に比べ多くなっている。

問４．未既婚（%）
性別、性・年齢別



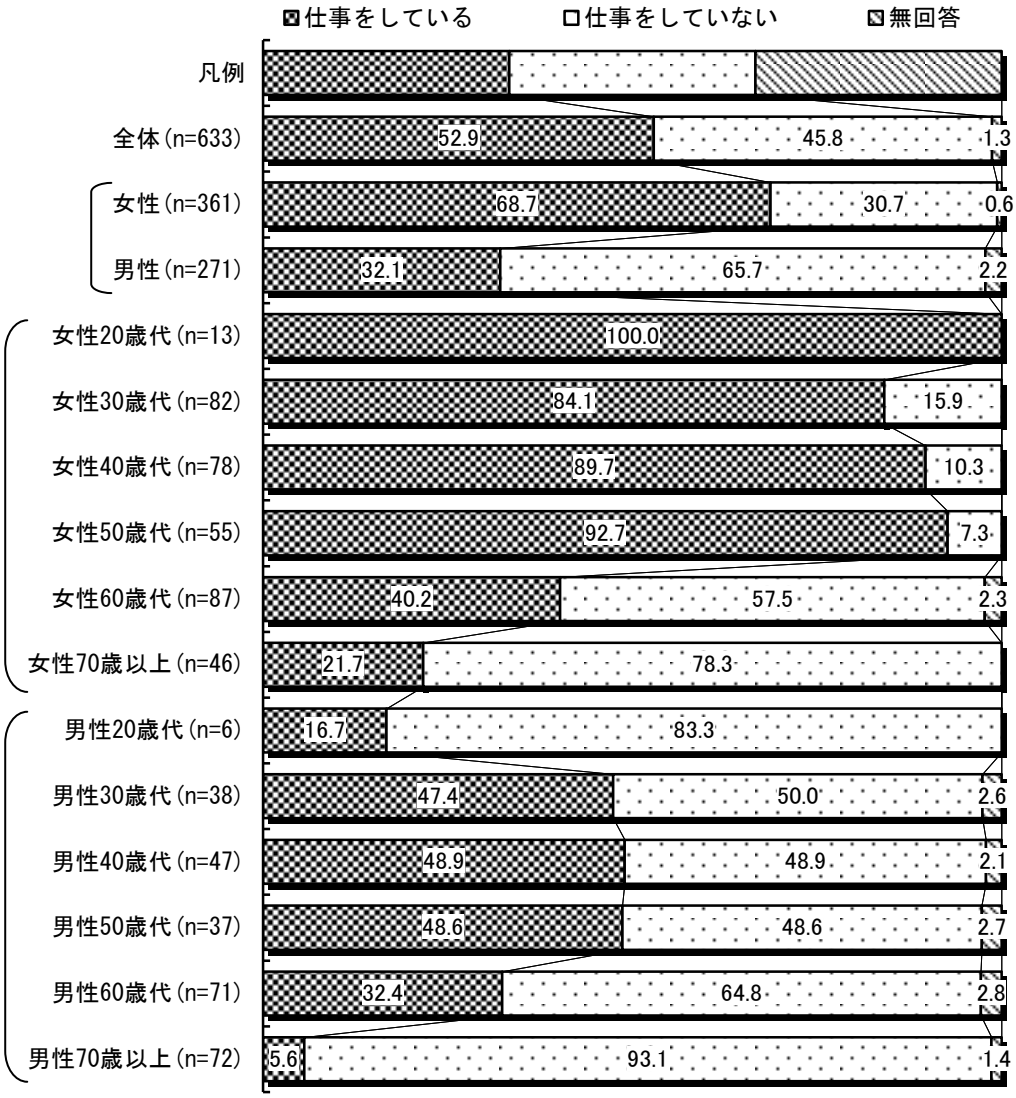
## ５．配偶者の有職状況

配偶者の有職状況をみると、「仕事をしている」が過半数（52.9%）を占め、「仕事をしていない」は 45.8%となっている。

性別では、女性で「(その配偶者が）仕事をしている」が、男性を大きく上回る。

性・年齢別では、女性の 60 歳以上を除く幅広い年齢層で「(その配偶者が）仕事をしている」が大半を占めており、男性の各年齢層との差が大きい。

問４－１．配偶者の有職状況（%）
性別、性・年齢別



## ６．末子の学齢

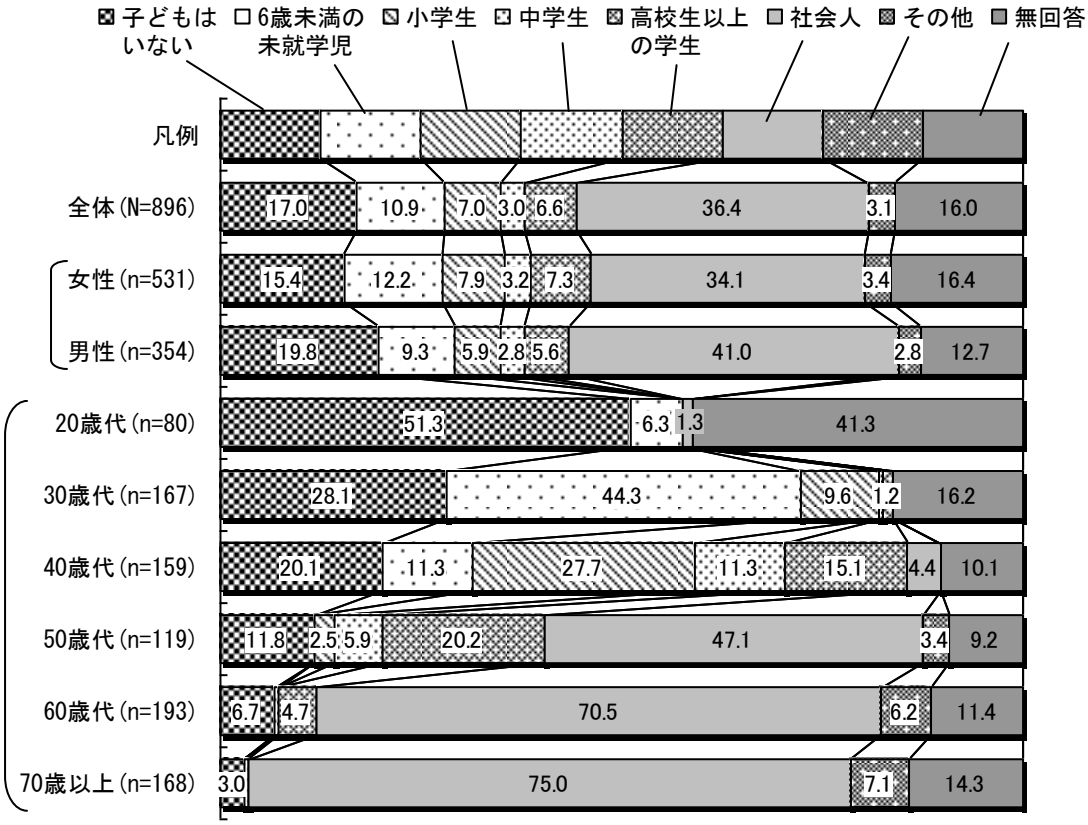
末子の学齢については、「社会人」が 36.4％と最も多く、次いで「6 歳未満の未就学児」（10.9％）、「小学生」（7.0％）、「高校生以上の学生」（6.6％）の順となっている。

「子どもはいない」は 17.0％である。

性別では、男性で「子どもはいない」及び「社会人」がやや多いが、大きな男女差はみられない。

年齢別では、20 歳代では「子どもはいない」が多くを占めており、30 歳代では「6 歳未満の未就学児」、40 歳代では「小学生」、50 歳代では「高校生以上の学生」がそれぞれ他の年齢層に比べ多くなっている。また、60 歳以上の大半で「社会人」が主となっている。

問５．末子の学齢（％）
性別、年齢別



# Ⅲ　調査結果

## 【１】男女共同参画について

### １．性別役割分担意識

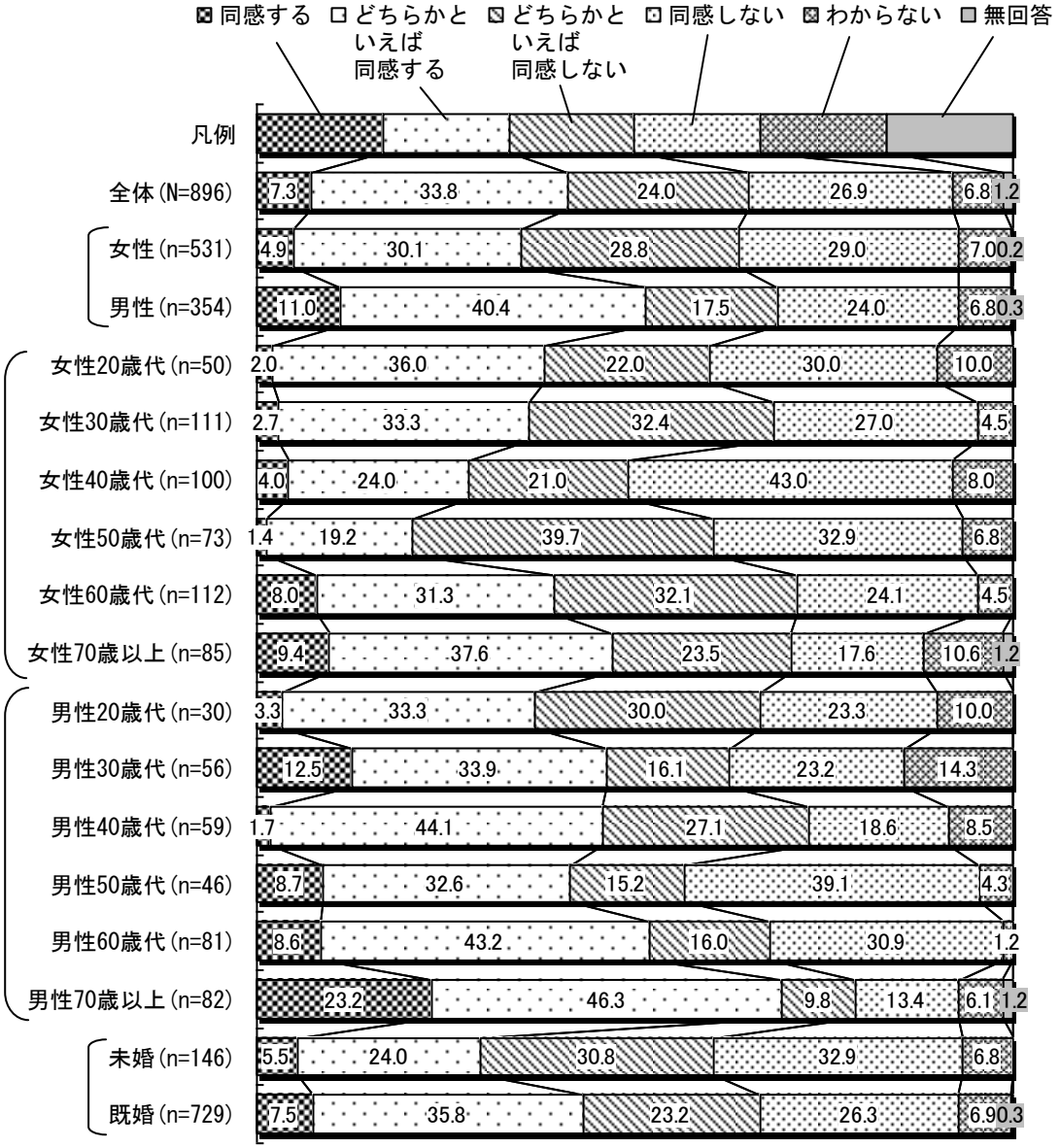
問６.「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどう思いますか。（○は１つ）

性別役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」という考え方）については、「同感する」が 7.3%、「どちらかといえば同感する」が 33.8%で、合計 41.1%が賛同している。一方、「どちらかといえば同感しない」は 24.0%、「同感しない」が 26.9%で、合計すると過半数（50.9%）が否定的であり、賛同意識を上回っている。

性別では、女性で否定的意識が多く、性・年齢別では、女性の 40～50 歳代において否定的意識が多くみられる。男性は 70 歳以上において賛同意識が他の年齢層に比べ多くみられる。

未既婚別では、未婚者ほど否定的意識が多くなっている。

問６．「男は仕事、女は家庭」という考え方について（%）
性別、性・年齢別、未既婚別



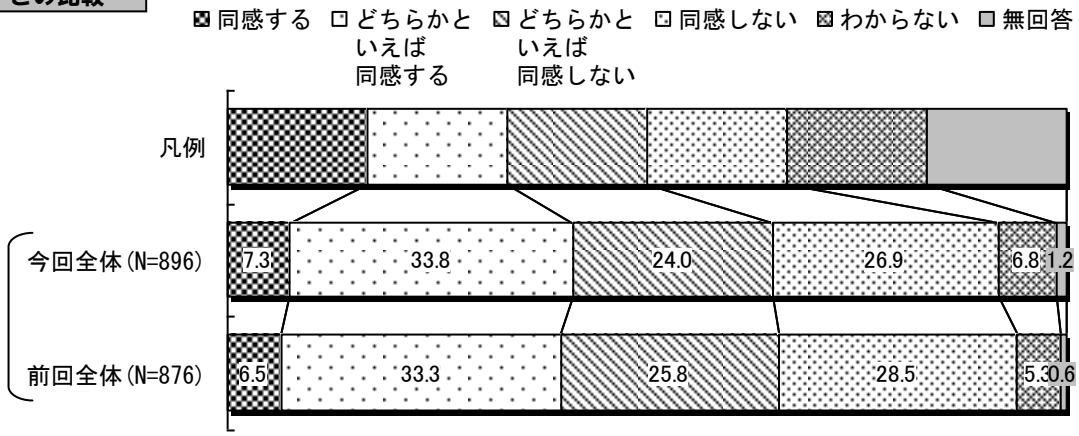
【前回調査との比較】

平成 17 年度に本市で実施した調査（以下「前回」と表記）との比較をみると、「同感する」が前回から 0.8%、「どちらかといえば同感する」が 0.5%の増加、「どちらかといえば同感しない」が 1.8%、「同感しない」が 1.6%の減少となっているが、大きな変動はない。

女性は、前回よりも賛同意識がやや増えている。

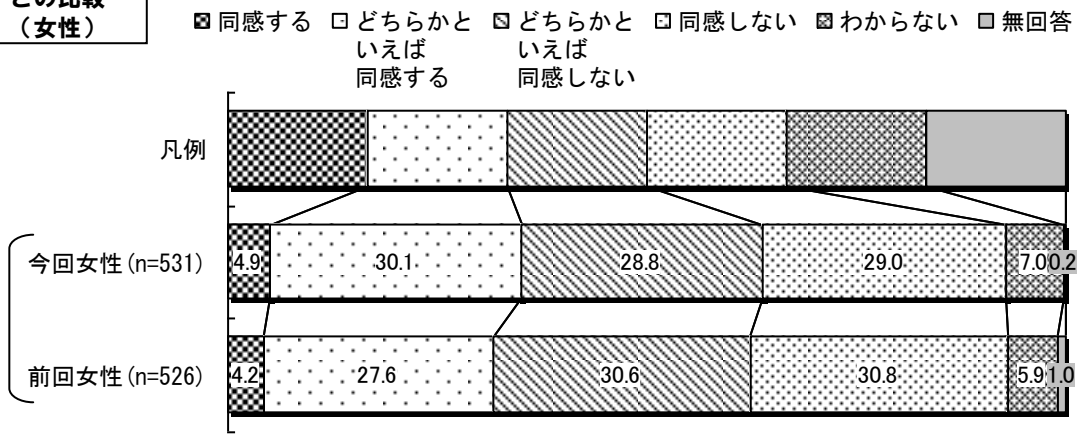
**参考／前回調査との比較**

問６．「男は仕事、女は家庭」という考え方について（%）



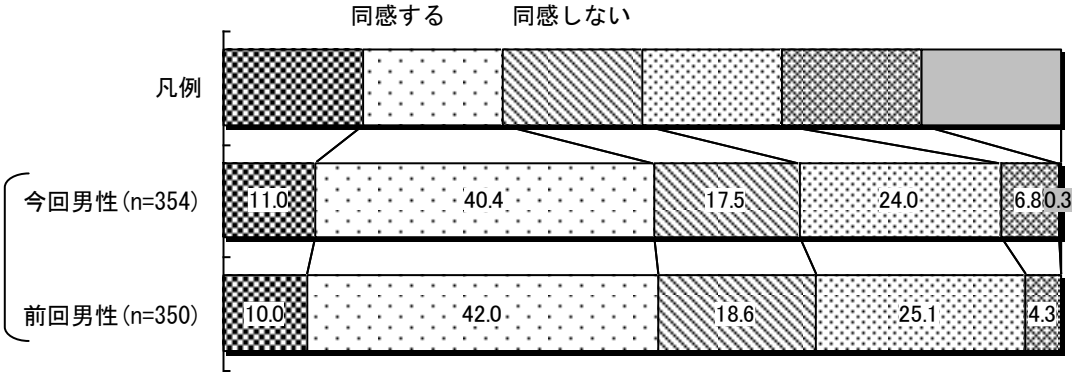

**参考／前回調査との比較（女性）**

問６．「男は仕事、女は家庭」という考え方について（%）



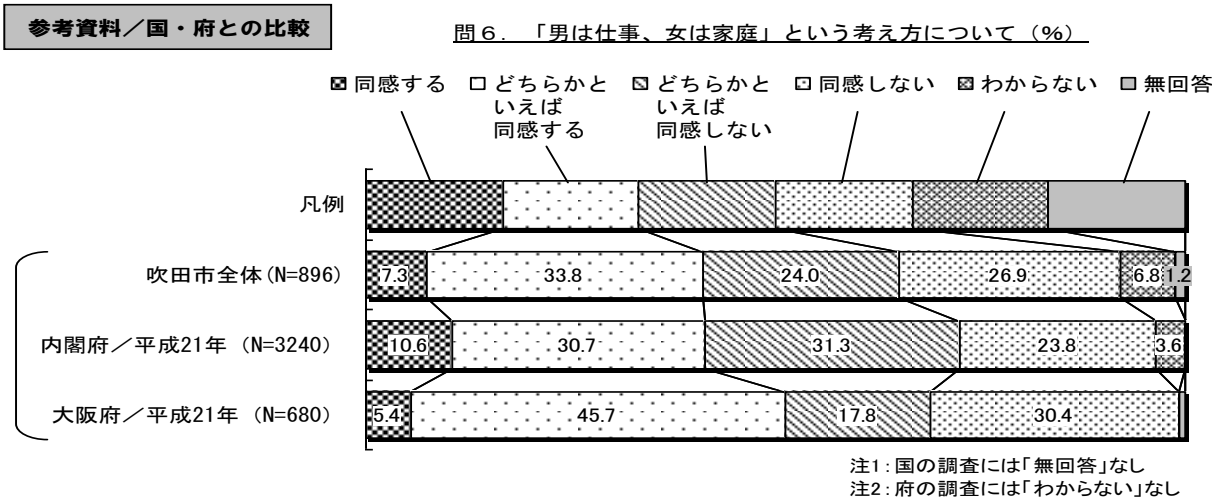

**参考／前回調査との比較（男性）**

問６．「男は仕事、女は家庭」という考え方について（%）

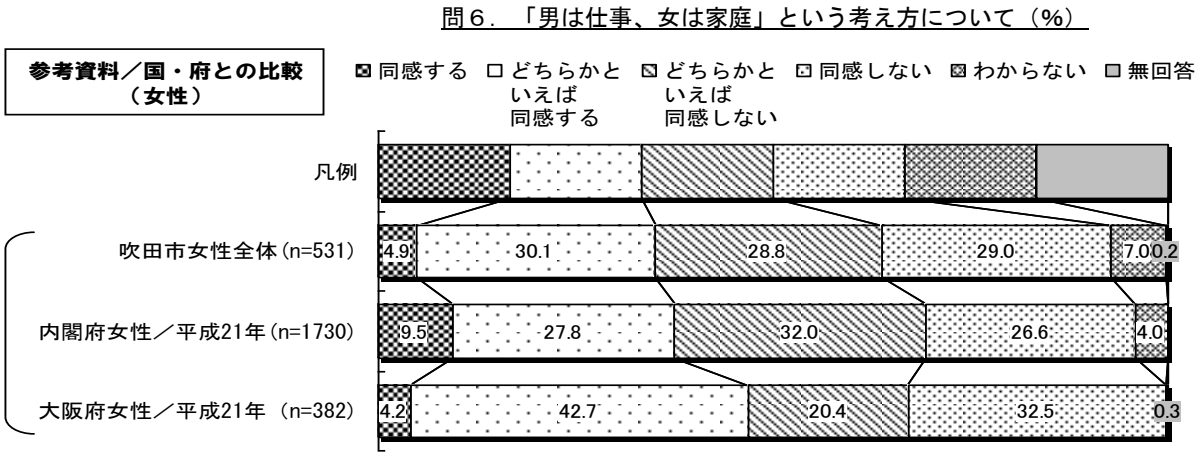


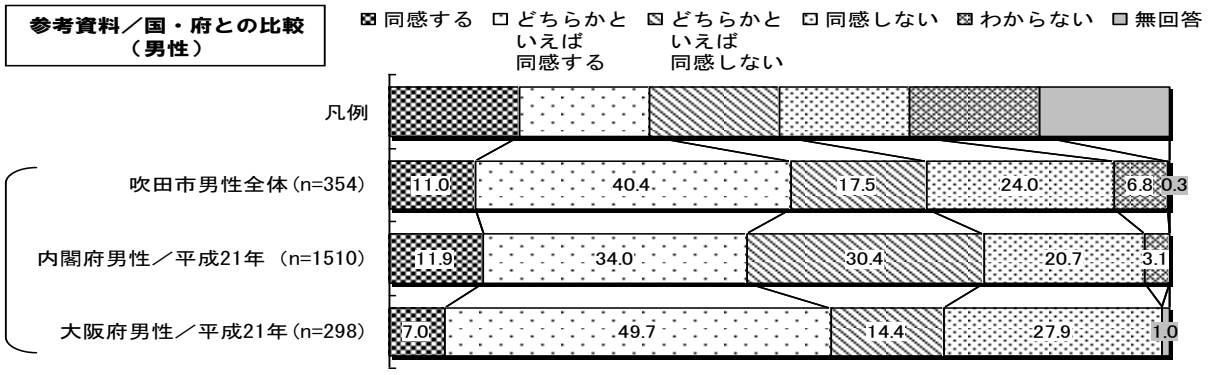
【内閣府・大阪府調査との比較】

平成 21 年（2009 年）に実施された内閣府の「男女共同参画に関する世論調査」（以下「内閣府」と表記）、及び大阪府の「男女共同参画にかかる府民意識調査」（以下「大阪府」と表記）との比較をみると、内閣府では「同感する」、及び「どちらかといえば同感しない」が本市をやや上回っているが、それぞれを合計した賛同意識と否定的意識に大きな差はみられない。大阪府では賛同意識が本市を上回っている（ただし、選択肢が全く同一ではないため参考にとどめる）。




女性は、内閣府に比べ賛同意識がやや少ないが、男性は多くなっている。



## ２．女性が職業を持つことについて

**問７．一般に、女性が職業を持つことについて、次のどれが望ましいと思いますか。（○は１つ）**

女性が職業を持つことについては、「結婚や出産を機にいったん退職し、育児終了後、再び職業を持つ」（再就職型）が半数近く（49.7%）を占め最も多く、次いで「職業を持ち、結婚や出産に関わらず仕事を続ける」（就業継続型）が 25.4%で続く。「出産を機に退職し、後は職業を持たない」は 6.3%、「結婚を機に退職し、後は職業を持たない」は 3.8%とそれぞれ回答は少ない。

性別では、女性で「職業を持ち、結婚や出産に関わらず仕事を続ける」が男性をやや上回っている。

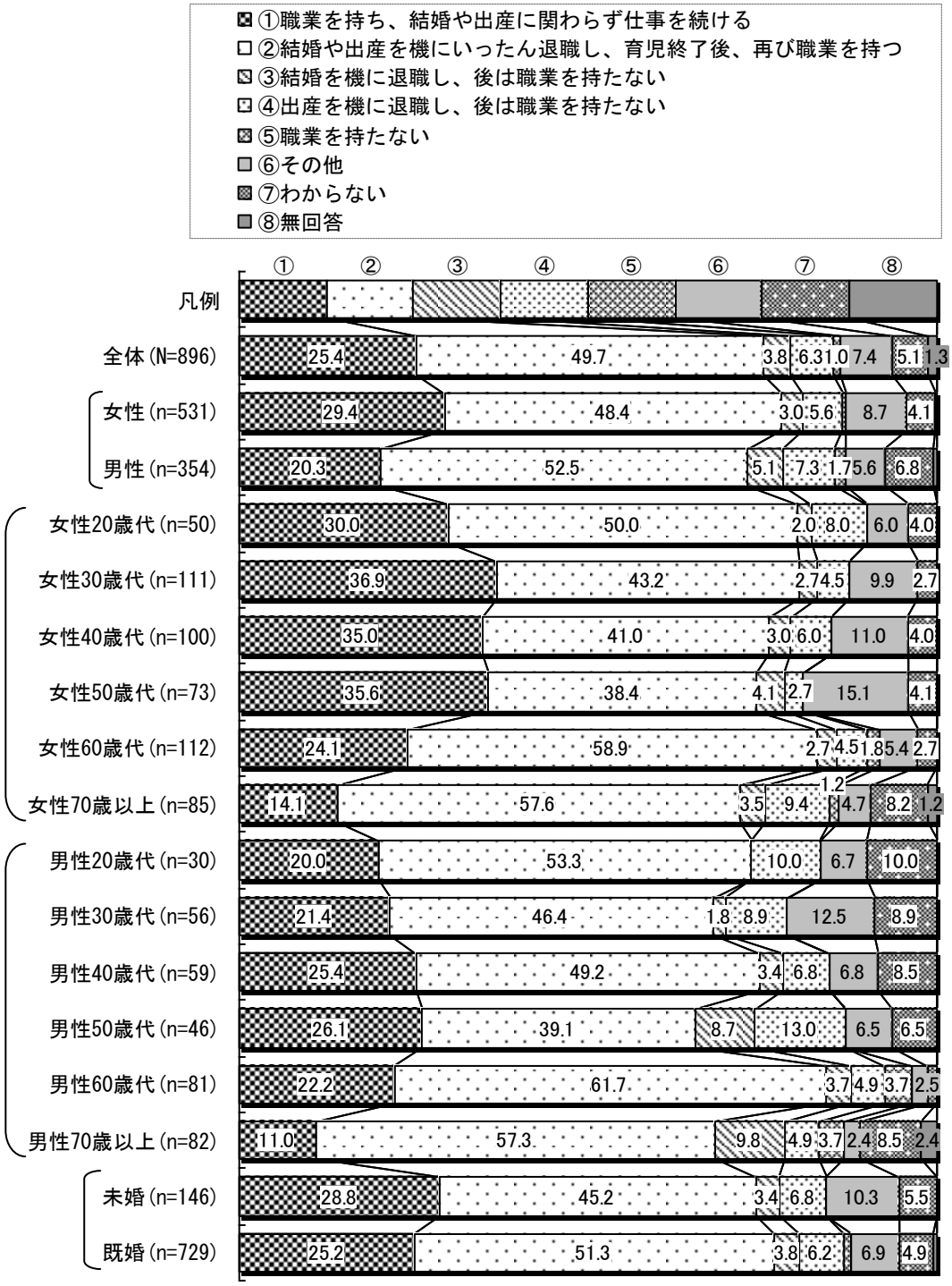
性・年齢別では、特に女性の 30～50 歳代において「職業を持ち、結婚や出産に関わらず仕事を続ける」が多く、男女ともに 60 歳を超えると「結婚や出産を機にいったん退職し、育児終了後、再び職業を持つ」が多くなっている。

未既婚別では、未婚者において「職業を持ち、結婚や出産に関わらず仕事を続ける」がやや多いが、大きな差はみられない。

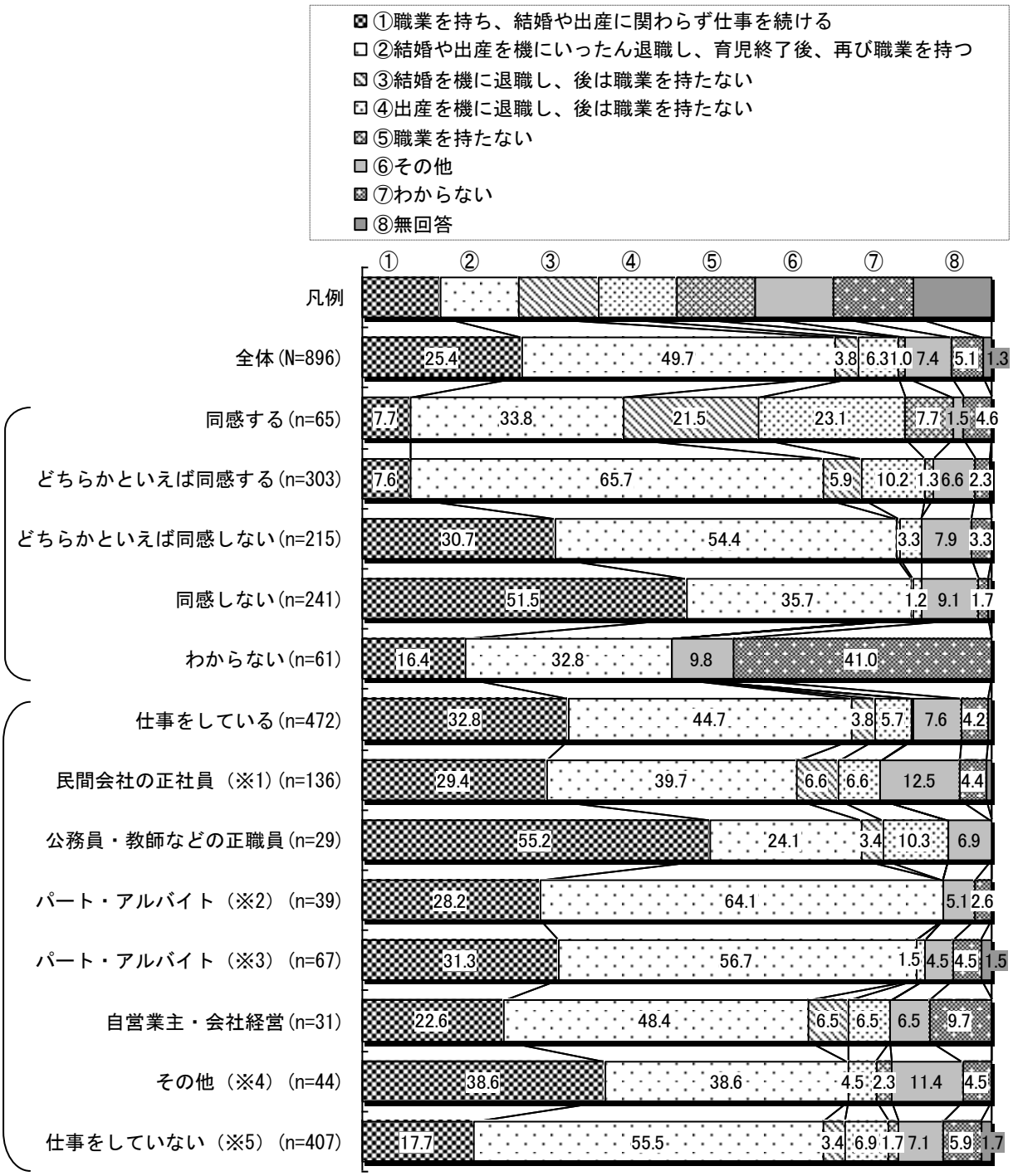
性別役割分担意識別では、特に、どちらかといえば同感する層において「結婚や出産を機にいったん退職し、育児終了後、再び職業を持つ」が多く、同感しない層で「職業を持ち、結婚や出産に関わらず仕事を続ける」が多くなっている。

職業別では、公務員・教師などの正職員において「職業を持ち、結婚や出産に関わらず仕事を続ける」、パート・アルバイトや仕事をしていない層において「結婚や出産を機にいったん退職し、育児終了後、再び職業を持つ」が多くなっている。

問７．女性が職業を持つことについて（%）
性別、性・年齢別、未既婚別



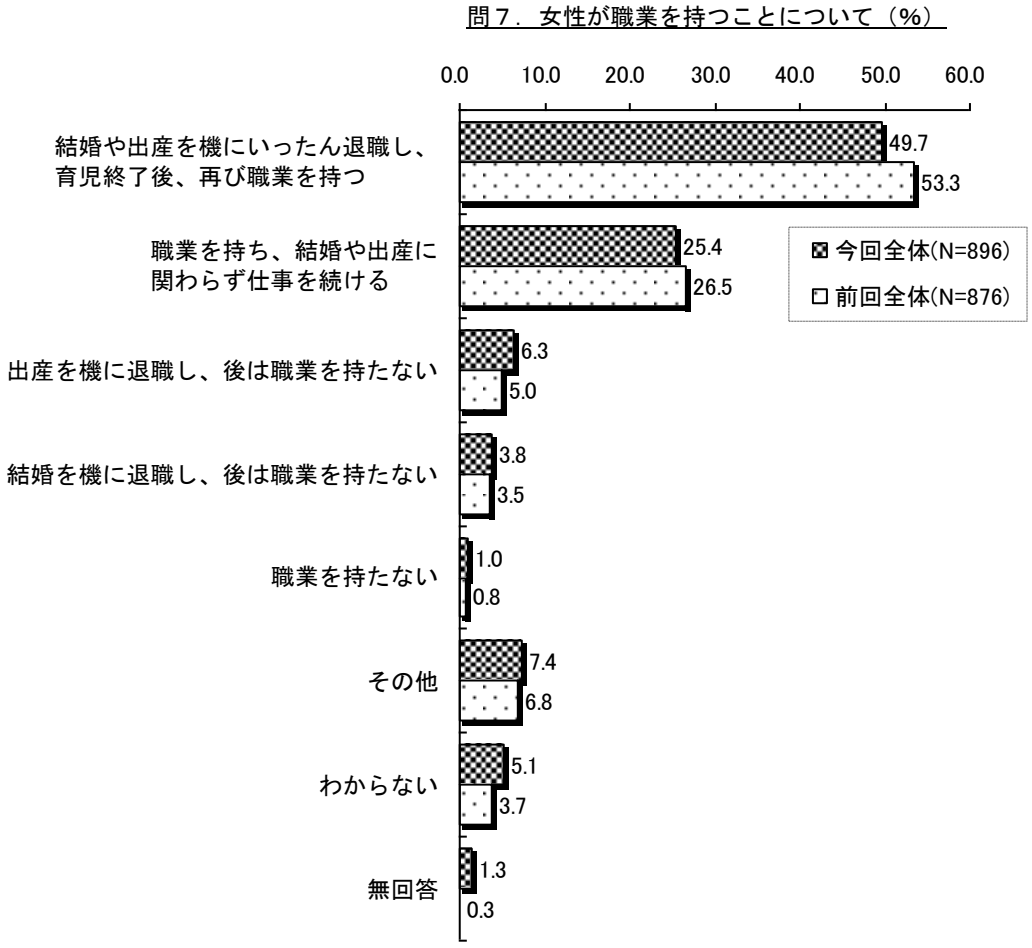
問７．女性が職業を持つことについて（%）
性別役割分担意識別、職業別



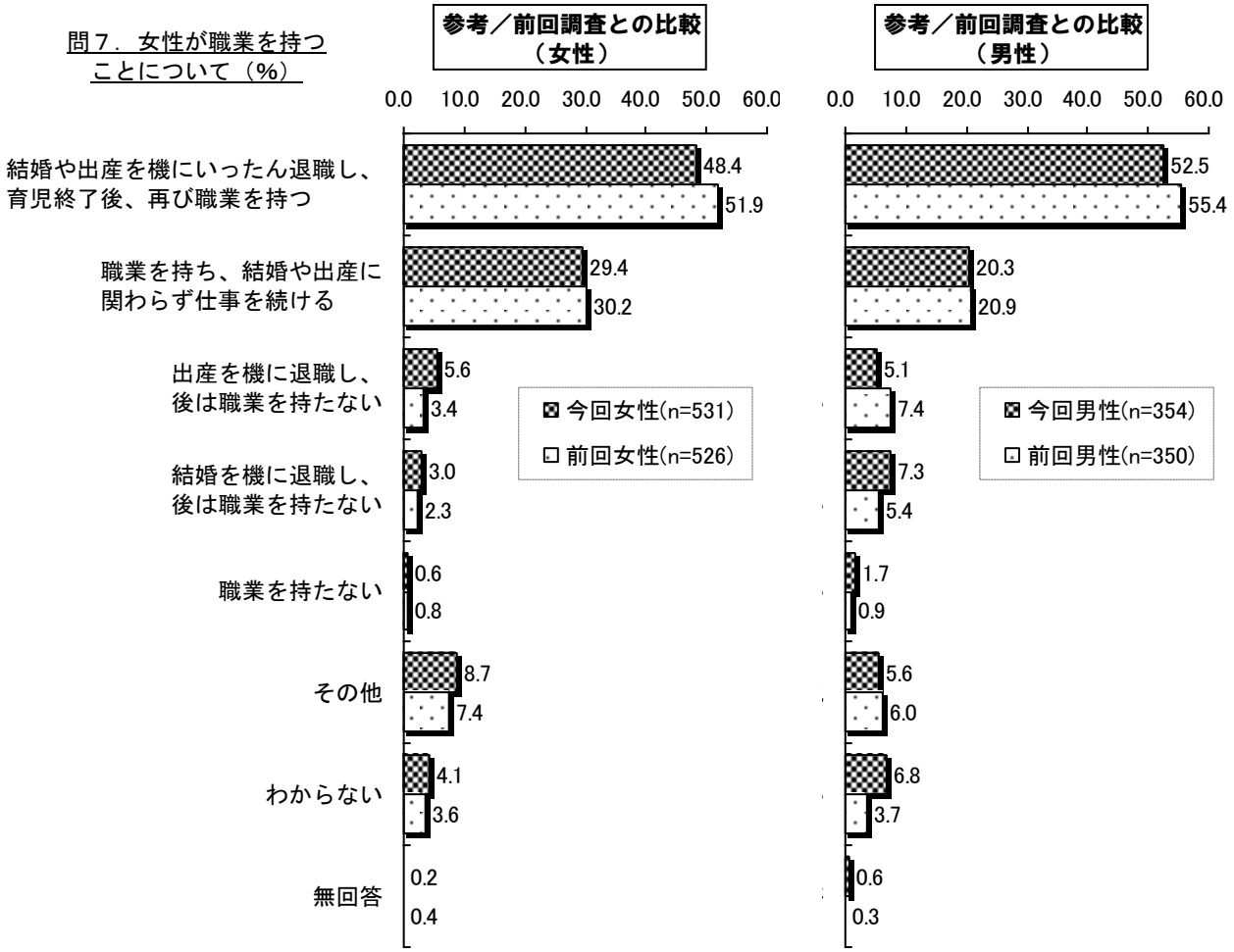

※1 フルタイム
※2 常勤なみ
※3 短時間
※4 「自家営業手伝い(家族従事者)」「契約・派遣社員」「内職・在宅勤務・自由業」「その他」の合計
※5 アルバイトをしている学生を含む

【前回調査との比較】

前回との比較をみると、多少の回答割合の変動はあるものの、ほぼ同傾向であり、大きな変化はみられない。

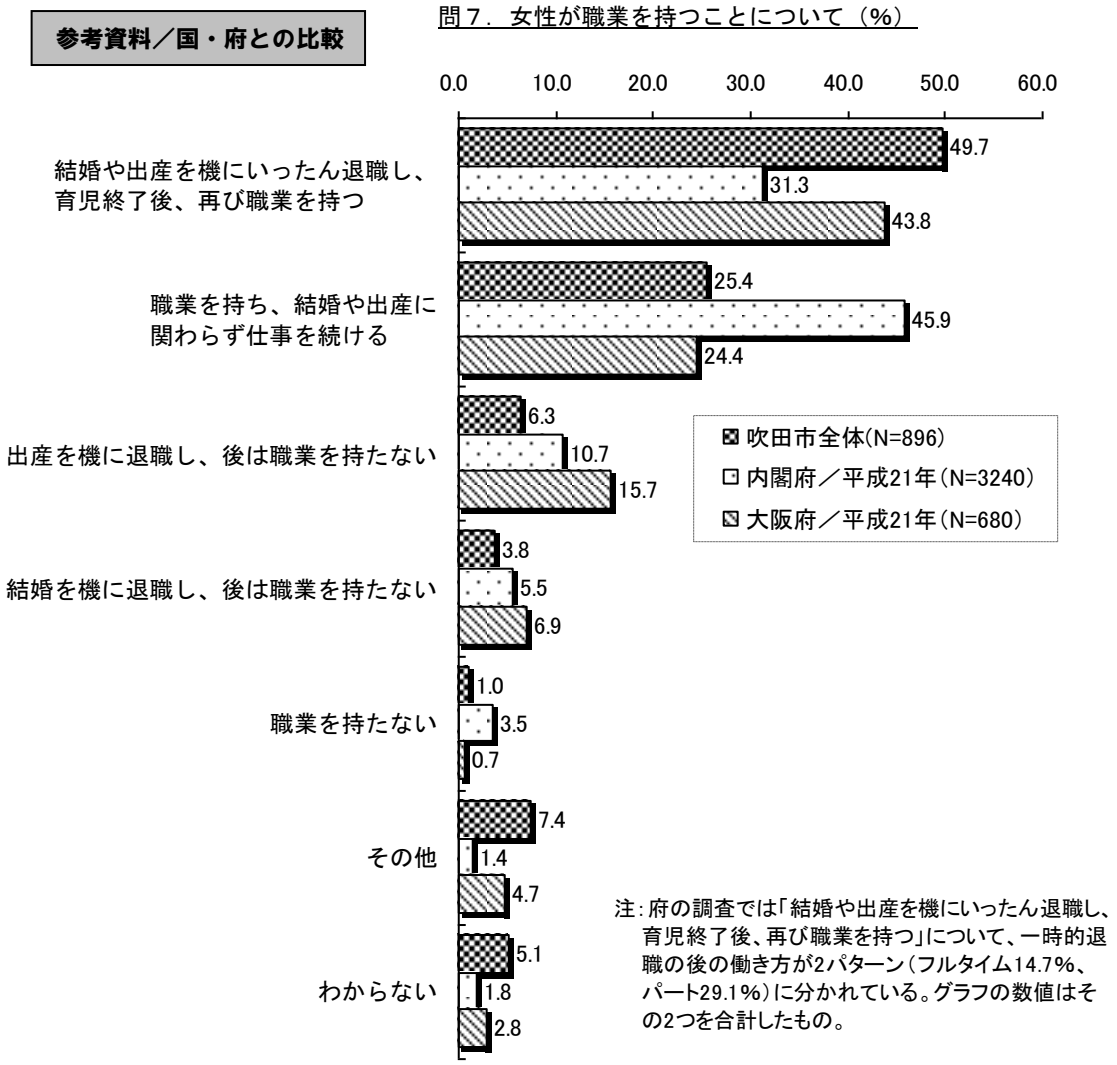


男女ともに、前回調査から「結婚や出産を機にいったん退職し、育児終了後、再び職業を持つ」がやや減少しているが、大きな変化はみられない。

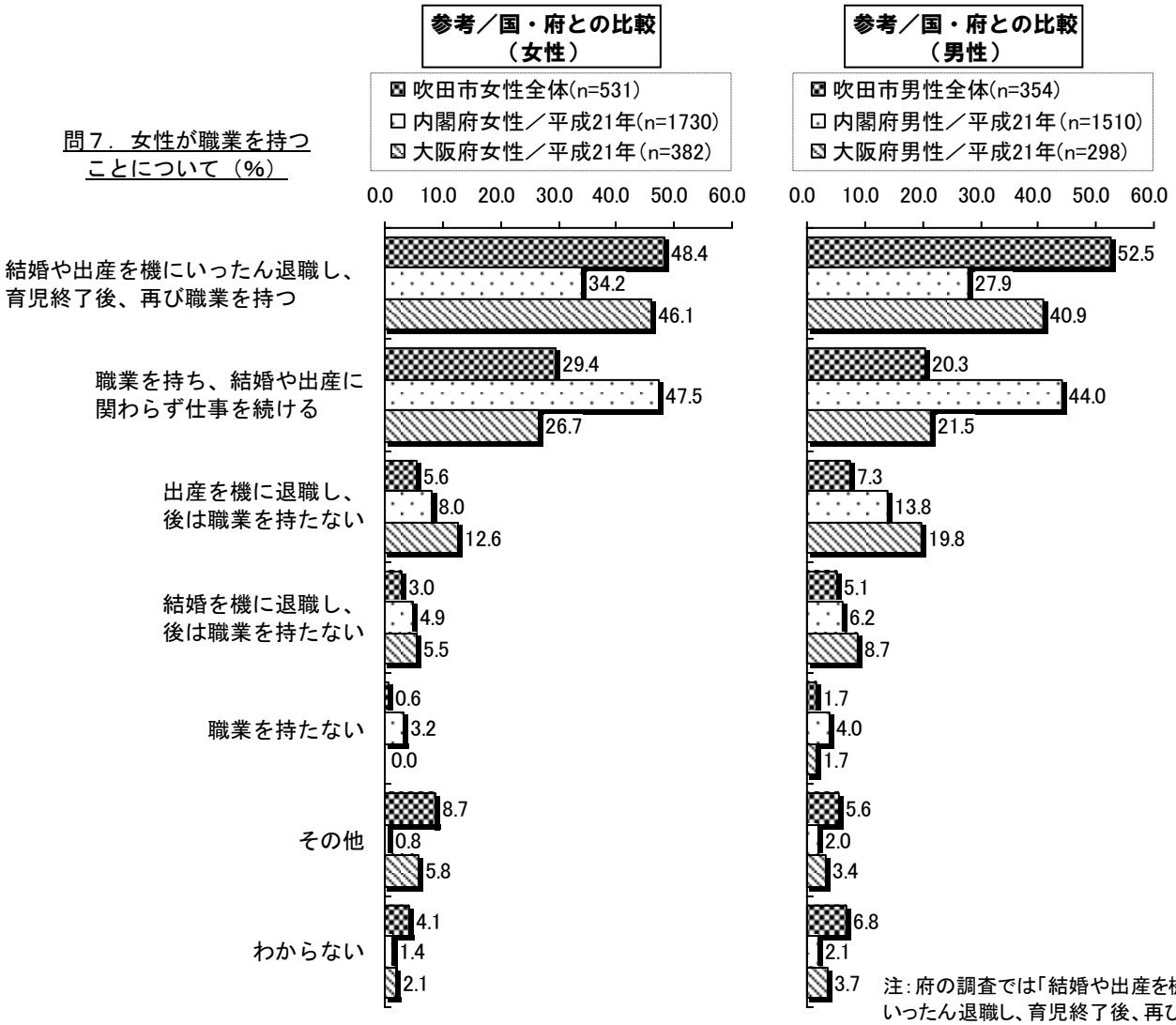


【内閣府・大阪府調査との比較】

本市では「結婚や出産を機にいったん退職し、育児終了後、再び職業を持つ」（再就職型）が多く、特に内閣府との差が大きい（大阪府との比較では、選択肢が同一でないため参考にとどめる）。一方、「職業を持ち、結婚や出産に関わらず仕事を続ける」については大阪府とほぼ同割合であるが、内閣府を大きく下回る。



男女ともに「結婚や出産を機にいったん退職し、育児終了後、再び職業を持つ」（再就職型）が内閣府を大きく上回っている。一方、「職業を持ち、結婚や出産に関わらず仕事を続ける」については、内閣府を大きく下回っている。



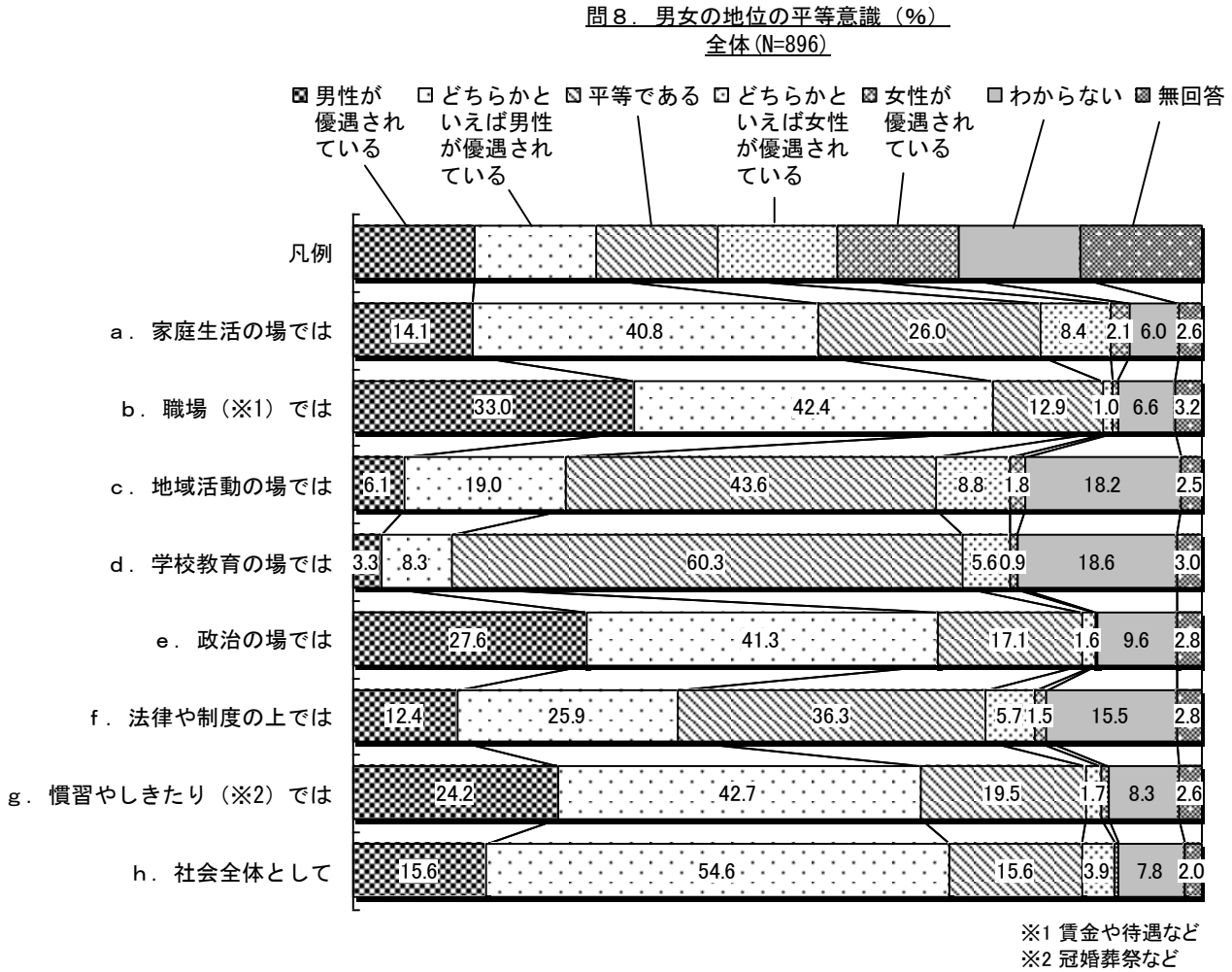

注：府の調査では「結婚や出産を機にいったん退職し、育児終了後、再び職業を持つ」について、一時的退職の後の働き方が2パターン（フルタイム、パート）に分かれている。グラフの数値はその2つを合計したもの。

## ３．男女の地位の平等意識

問８．次の各分野において男女の地位は、平等になっていると思いますか。
（○はそれぞれ１つずつ）

男女の地位の平等意識について、「平等である」への回答をみると、「ｄ．学校教育の場では」が 60.3%を占め最も多く、次いで「ｃ．地域活動の場では」（43.6%）、「ｆ．法律や制度の上では」（36.3%）と続く。しかし、全体的に男性優遇意識が女性優遇意識を上回っている項目が目立ち、特に「ｂ．職場では」「ｅ．政治の場では」「ｇ．慣習やしきたりでは」といった項目では「男性が優遇されている」が多くなっている。

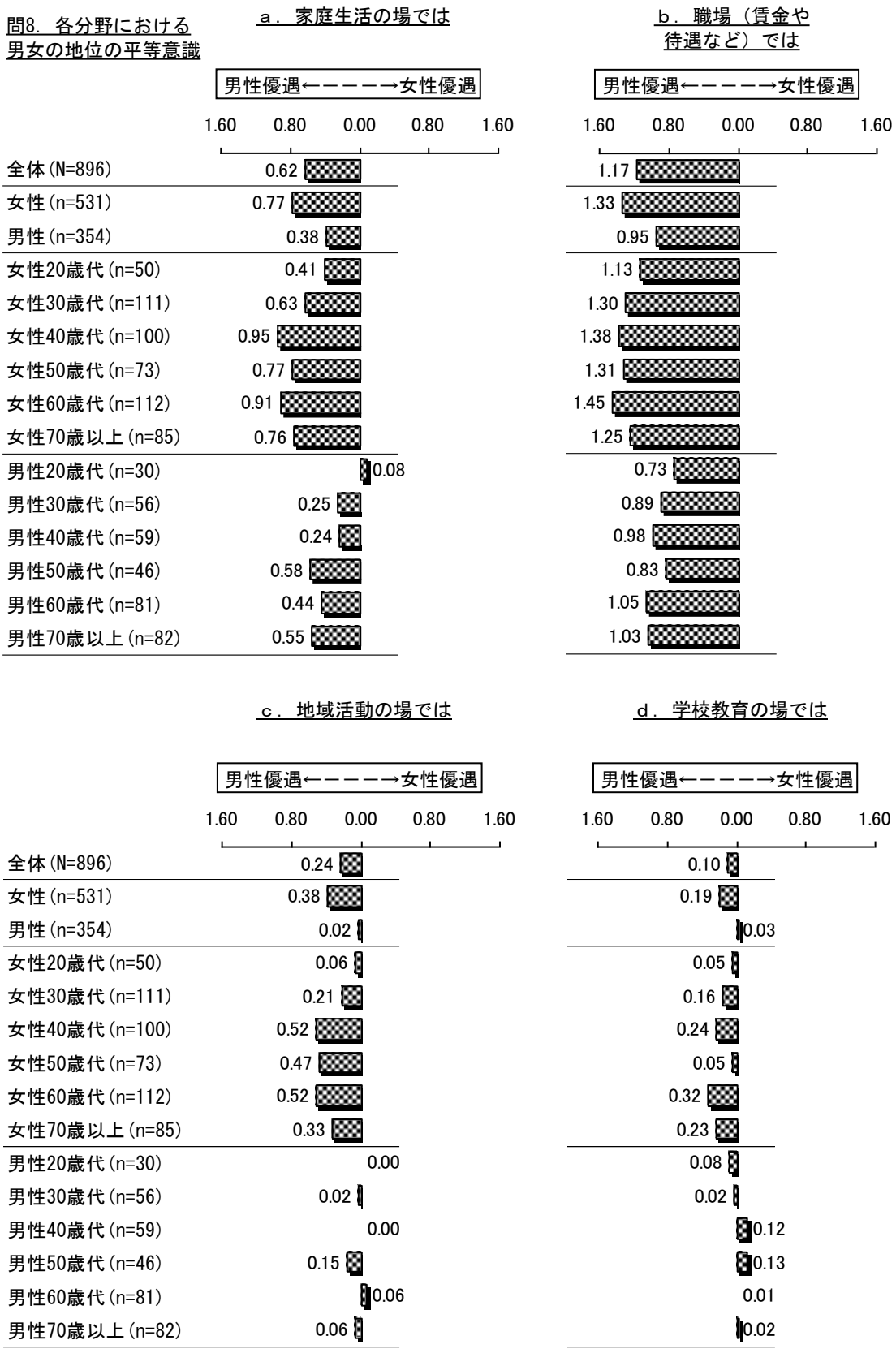
各項目を性別でみると、全般的に女性の方が「男性優遇」の意識が強く、特に「ｂ．職場では」「ｅ．政治の場では」「ｇ．慣習やしきたりでは」などで多くなっている。また、女性の 40 歳代及び 60 歳代で「男性優遇」の意識が多くなっているが、「ｅ．政治の場では」「ｇ．慣習やしきたりでは」については女性の 30～40 歳代で「男性優遇」意識が他の年齢層に比べ多くなっている。



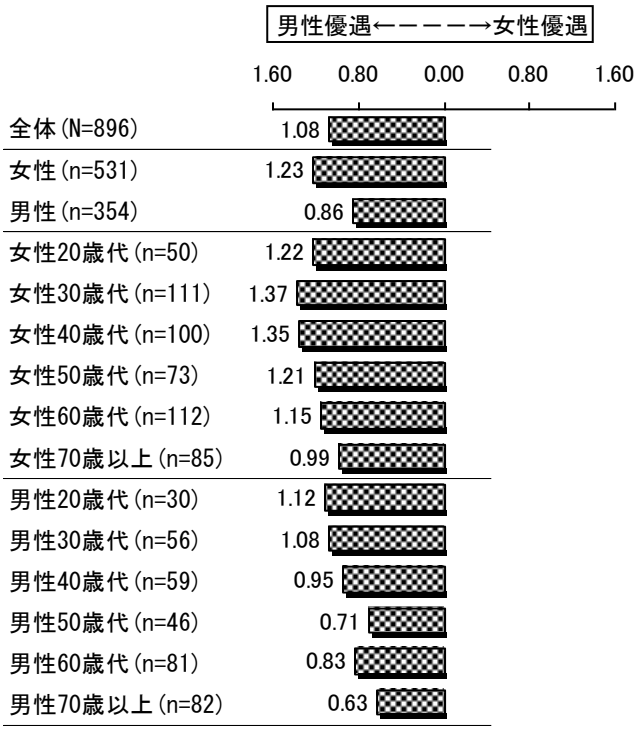

※1 賃金や待遇など
※2 冠婚葬祭など

※以下の属性別グラフの数値は「加重平均値」です。「加重平均値」とは「男性が優遇されている」の回答件数に「－2 点」、「どちらかといえば男性が優遇されている」に「－1 点」、「平等である」に「0 点」、「どちらかといえば女性が優遇されている」に「＋1 点」、「女性が優遇されている」に「2 点」のウエイトを乗じ、加重平均して算出したもので、図表中左側に近いほど「男性優遇」、右側に近いほど「女性優遇」、中心に近いほど「平等」を示す「分析用の便宜的な指標」です。

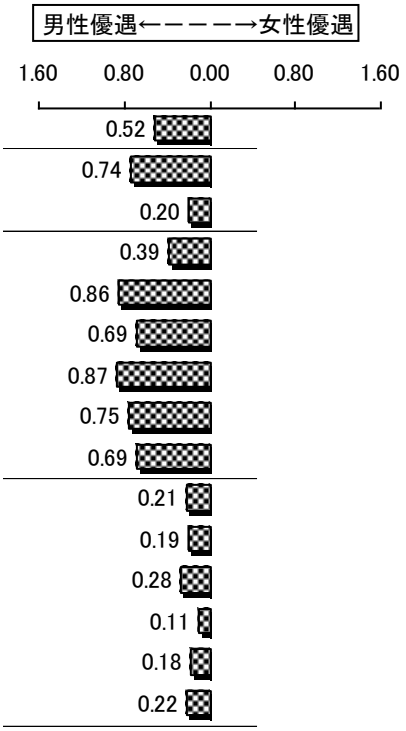
問8. 各分野における男女の地位の平等意識



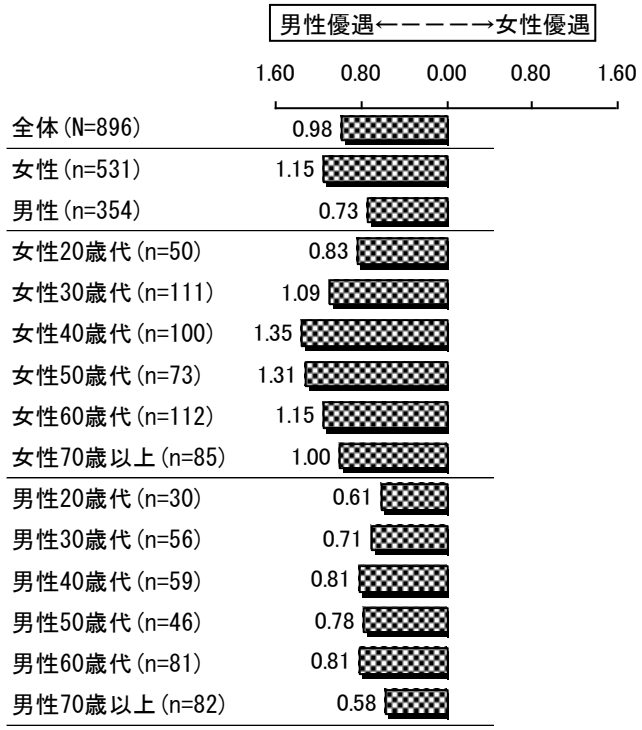
ｅ．政治の場では



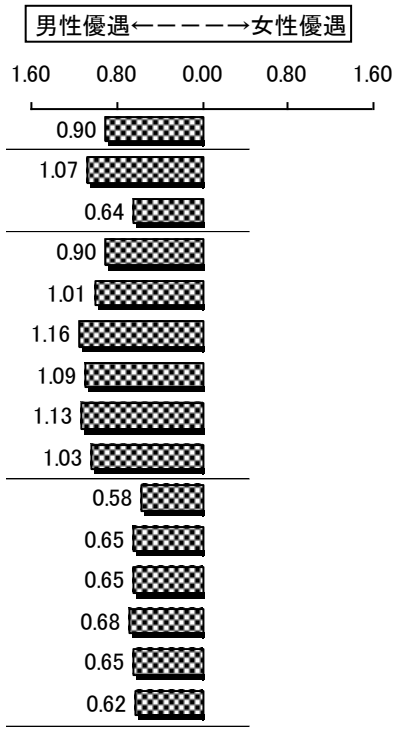

ｆ．法律や制度の上では




ｇ．慣習やしきたり
（冠婚葬祭など）では

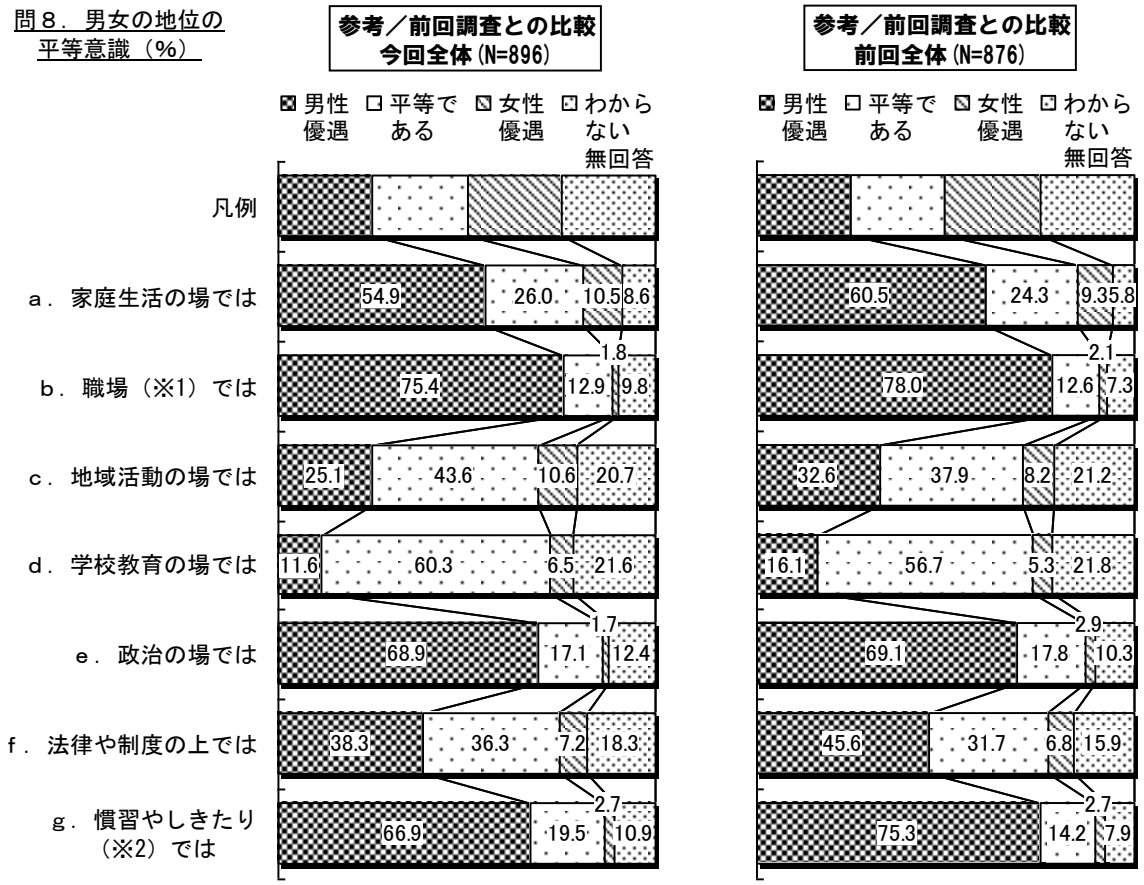



ｈ．社会全体として



【前回調査との比較】

前回との比較をみると、「男性優遇意識(注 1)」は「ｃ．地域活動の場では」「ｆ．法律や制度の上では」「ｇ．慣習やしきたりでは」などでやや減少している。「女性優遇意識(注 2)」は大きな変動はない。また「平等である」は「ｃ．地域活動の場では」「ｆ．法律や制度の上では」「ｇ．慣習やしきたりでは」などでやや増加している。

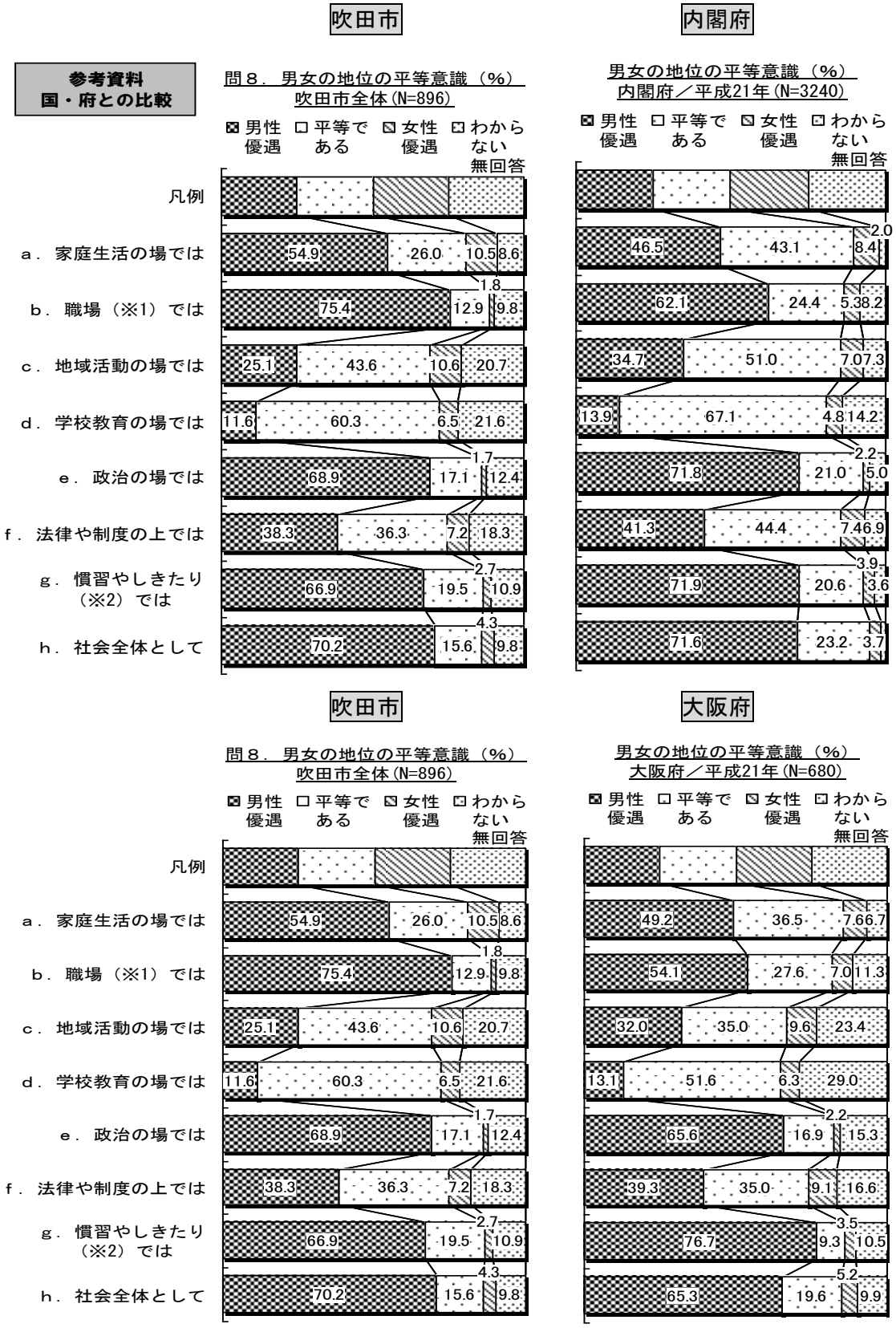



※1 賃金や待遇など
※2 冠婚葬祭など

注 1:「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計。
注 2:「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計。

【内閣府・大阪府調査との比較】

「ａ．家庭生活の場では」「ｂ．職場では」において、内閣府や大阪府に比べ本市では「男性優遇」意識が多い。




※1 賃金や待遇など
※2 冠婚葬祭など

## 【２】家庭生活や仕事について

### １．望ましい家庭内の仕事の分担

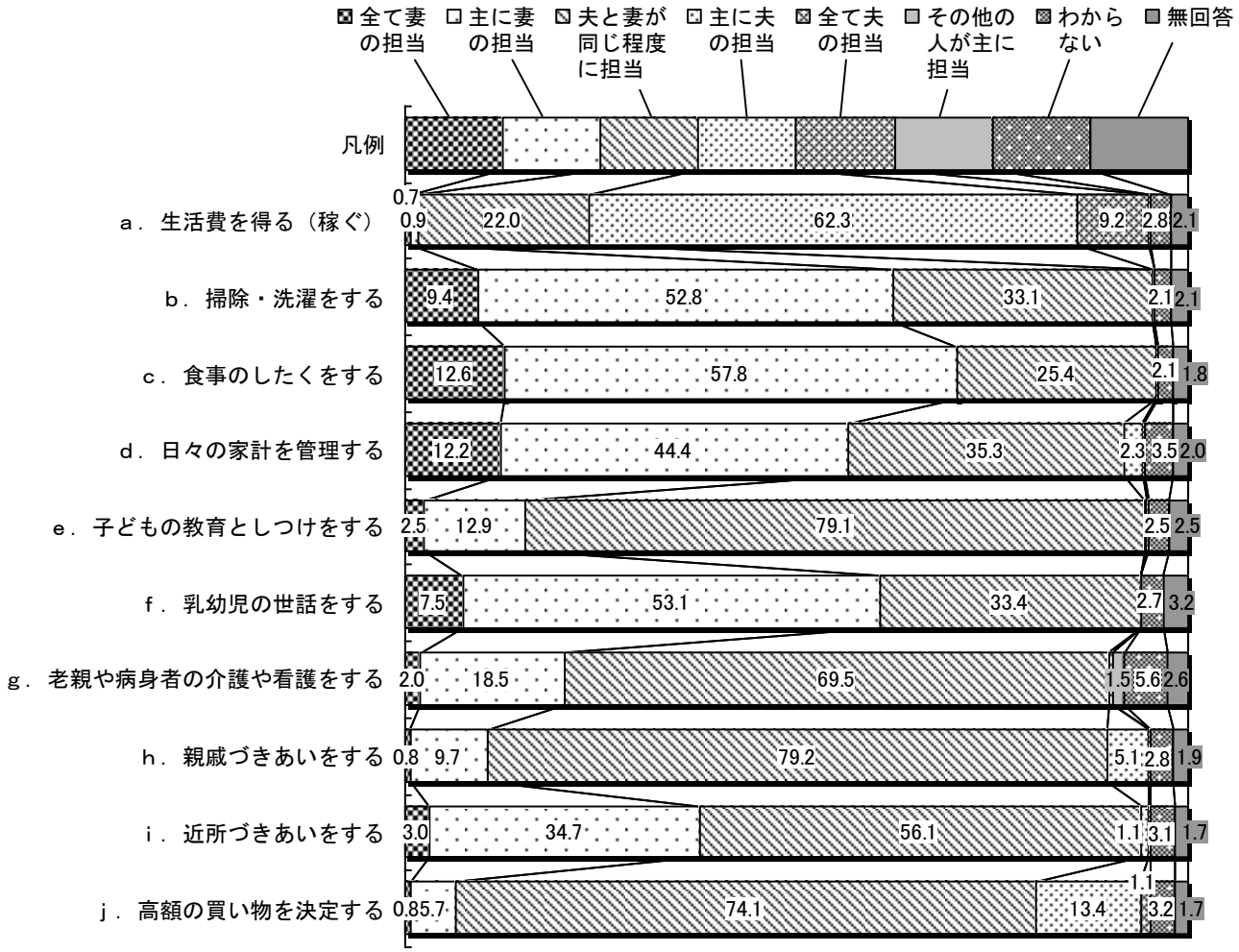
問９．あなたは、次の家庭内の仕事について、どのように担当するのが望ましいとお考えですか。あてはまる番号に○をつけてください。配偶者のおられない方もお答えください。（○はそれぞれ１つずつ）

望ましい家庭内の仕事の分担については、「夫と妻が同じ程度に担当」をみると「ｅ．子どもの教育としつけをする」(79.1%) が最も多く、次いで「ｈ．親戚づきあいをする」(79.2%)、「ｊ．高額の買い物を決定する」(74.1%)、「ｇ．老親や病身者の介護や看護をする」(69.5%) の順となっている。

一方、「全て妻の担当」「主に妻の担当」の合計割合をみると、「ｃ．食事のしたくをする」が70.4%と最も多く、次いで「ｂ．掃除・洗濯をする」(62.2%)、「ｆ．乳幼児の世話をする」(60.6%)、「ｄ．日々の家計を管理する」(56.6%) の順となっている。また、「主に夫の担当」「全て夫の担当」の合計割合をみると、「ａ．生活費を得る（稼ぐ）」(71.5%)、「ｊ．高額の買い物を決定する」(14.5%) などが多くみられる。

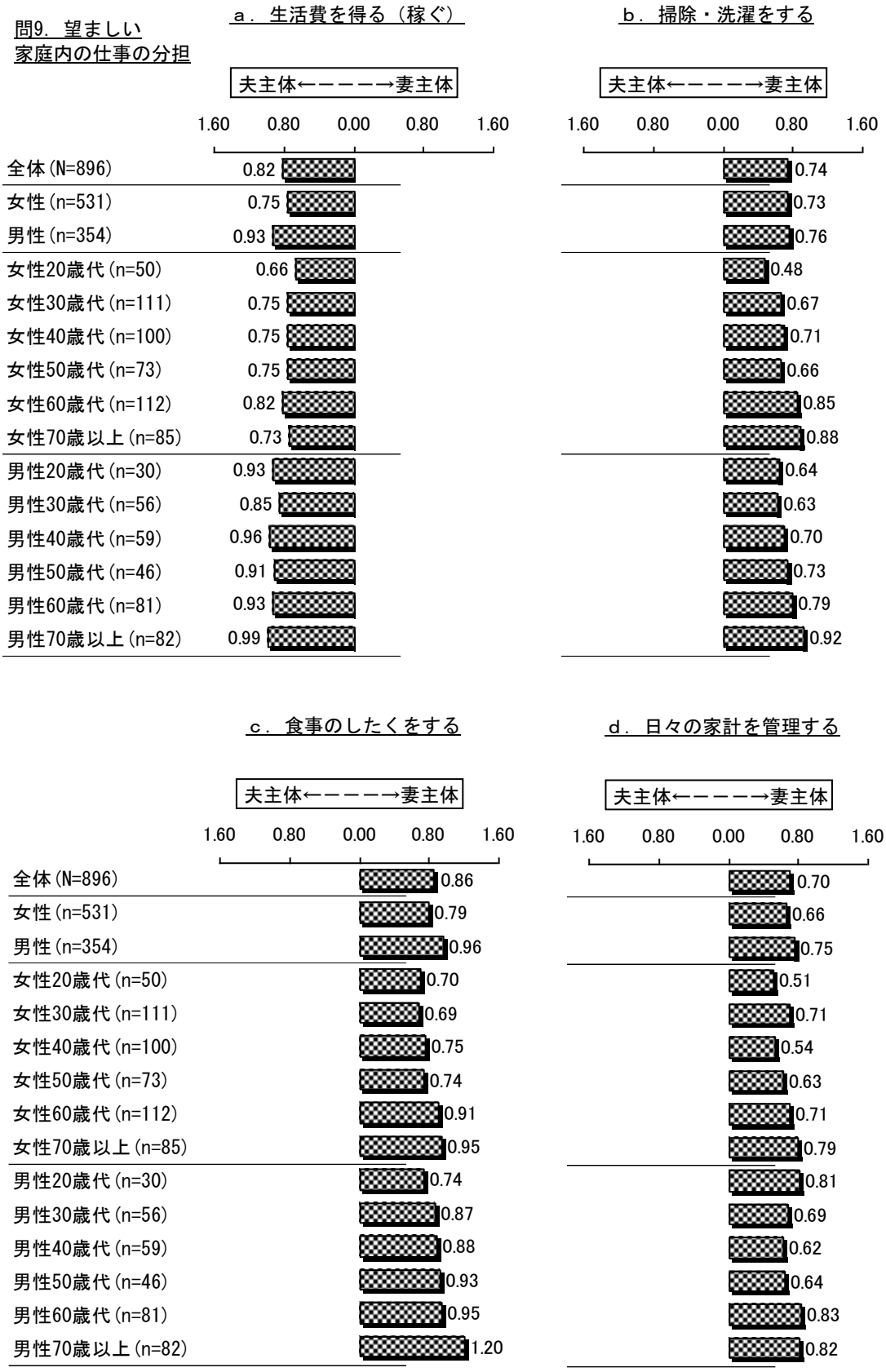
属性別では、男女ともに年齢が上がるほど「妻主体」が多い傾向にあり、特に「ｂ．掃除・洗濯をする」「ｃ．食事のしたくをする」「ｄ．日々の家計を管理する」「ｆ．乳幼児の世話をする」などが該当する。

問９．望ましい家庭内の仕事の分担（%）
全体(N=896)

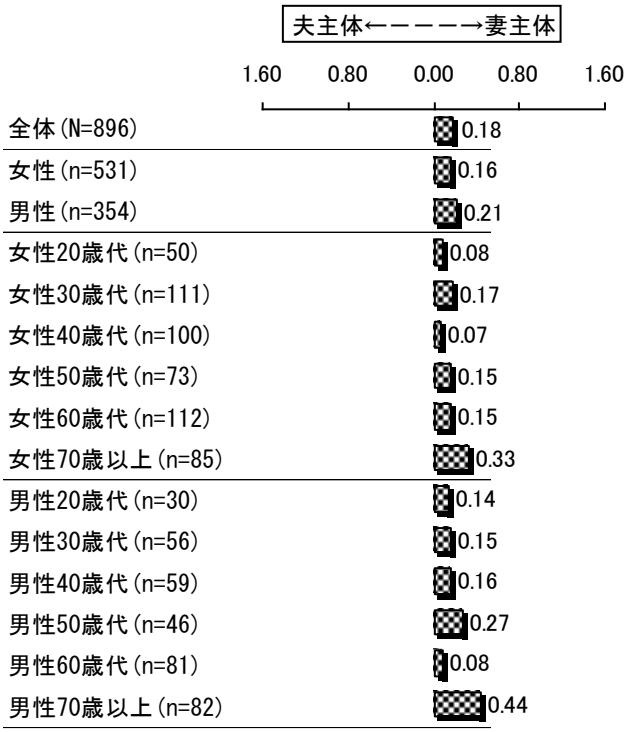


※数値は「加重平均値」です。

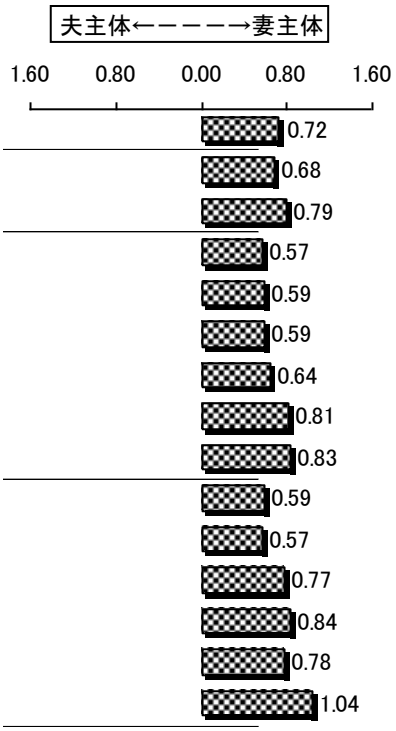
問9. 望ましい
家庭内の仕事の分担



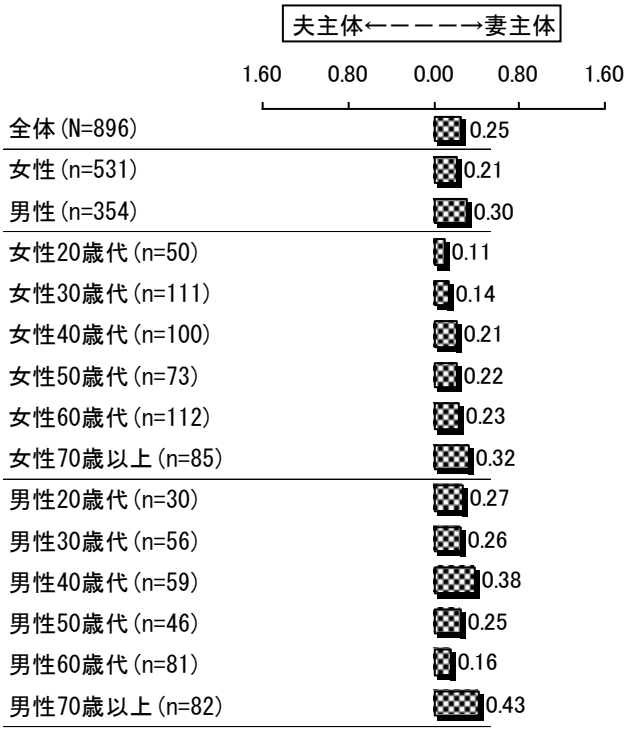
ｅ．子どもの教育としつけをする



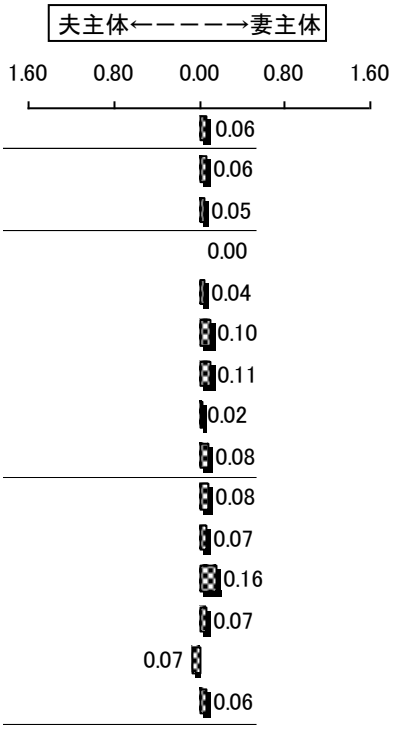

ｆ．乳幼児の世話をする

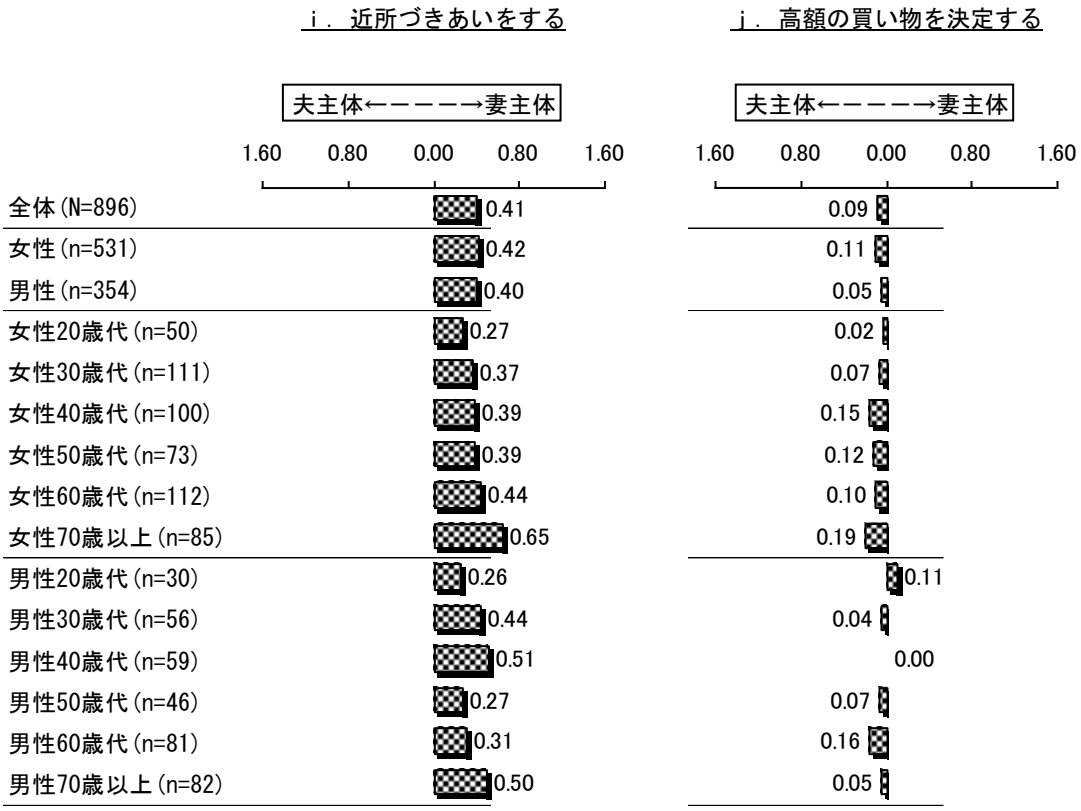



ｇ．老親や病身者の介護や看護をする



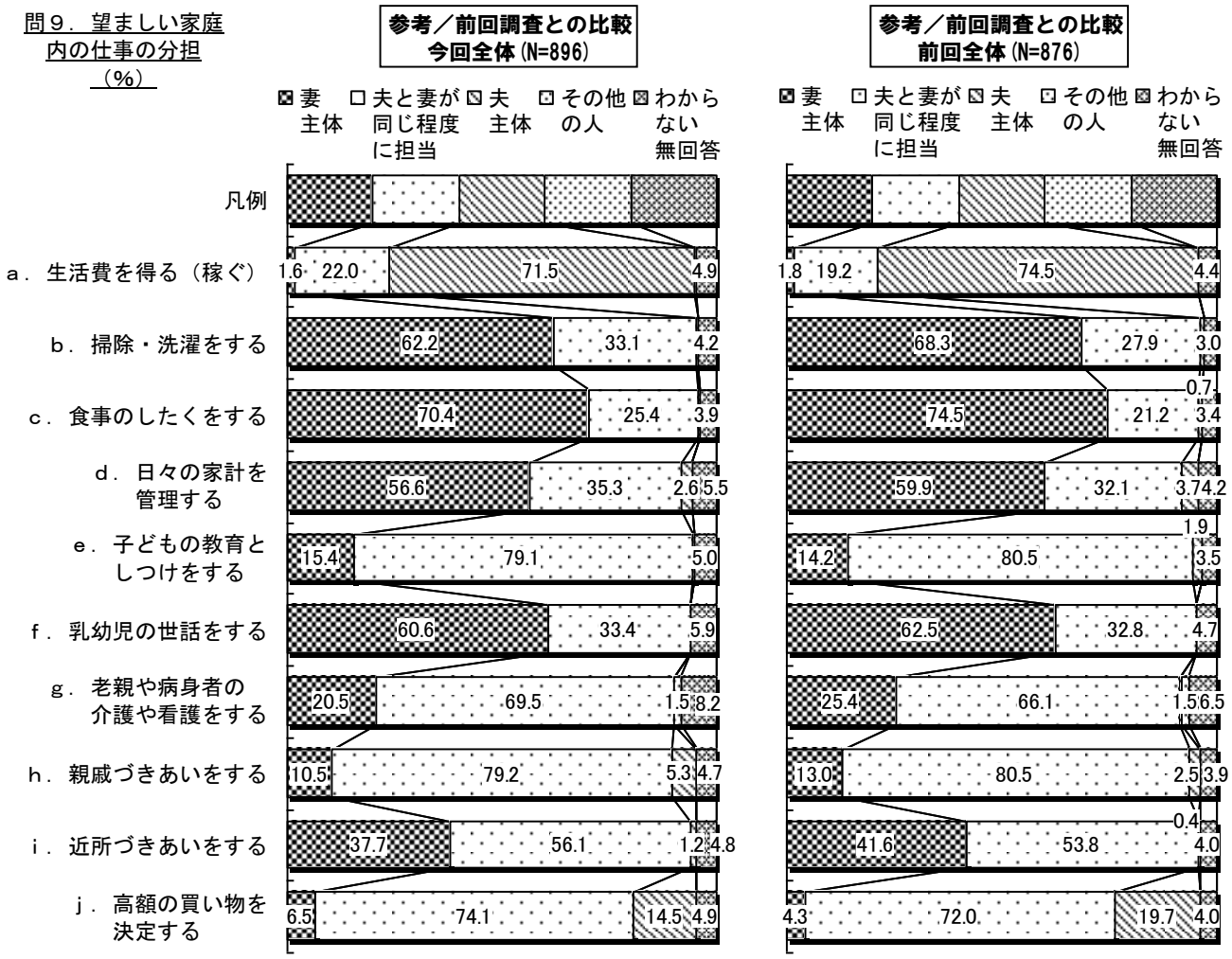

ｈ．親戚づきあいをする




ｉ．近所づきあいをする
ｊ．高額の買い物を決定する
夫主体←－－－－→妻主体
1.60 0.80 0.00 0.80 1.60
全体(N=896)
女性(n=531)
男性(n=354)
女性20歳代(n=50)
女性30歳代(n=111)
女性40歳代(n=100)
女性50歳代(n=73)
女性60歳代(n=112)
女性70歳以上(n=85)
男性20歳代(n=30)
男性30歳代(n=56)
男性40歳代(n=59)
男性50歳代(n=46)
男性60歳代(n=81)
男性70歳以上(n=82)
0.41
0.42
0.40
0.27
0.37
0.39
0.39
0.44
0.65
0.26
0.44
0.51
0.27
0.31
0.50
0.09
0.11
0.05
0.02
0.07
0.15
0.12
0.10
0.19
0.11
0.04
0.00
0.07
0.16
0.05

【前回調査との比較】

前回との比較をみると、「ｂ．掃除・洗濯をする」「ｃ．食事のしたくをする」「ｇ．老親や病身者の介護や看護をする」などで「妻主体(注 1)」がやや減少しており、「ｊ．高額の買い物を決定する」「ａ．生活費を得る（稼ぐ）」などで「夫主体(注 2)」がやや減少しているが、大きな変化はみられない。




注 1:「全て妻の担当」「主に妻の担当」の合計。
注 2:「全て夫の担当」「主に夫の担当」の合計。

## ２．実際の家庭内の仕事の分担

配偶者がおられる方におたずねします。配偶者がおられない方は問 11 へ
問 10．また、あなたのご家庭では、実際には夫と妻のうち、どなたが主に担当されていますか。あてはまる番号に○をつけてください。（○はそれぞれ１つずつ）

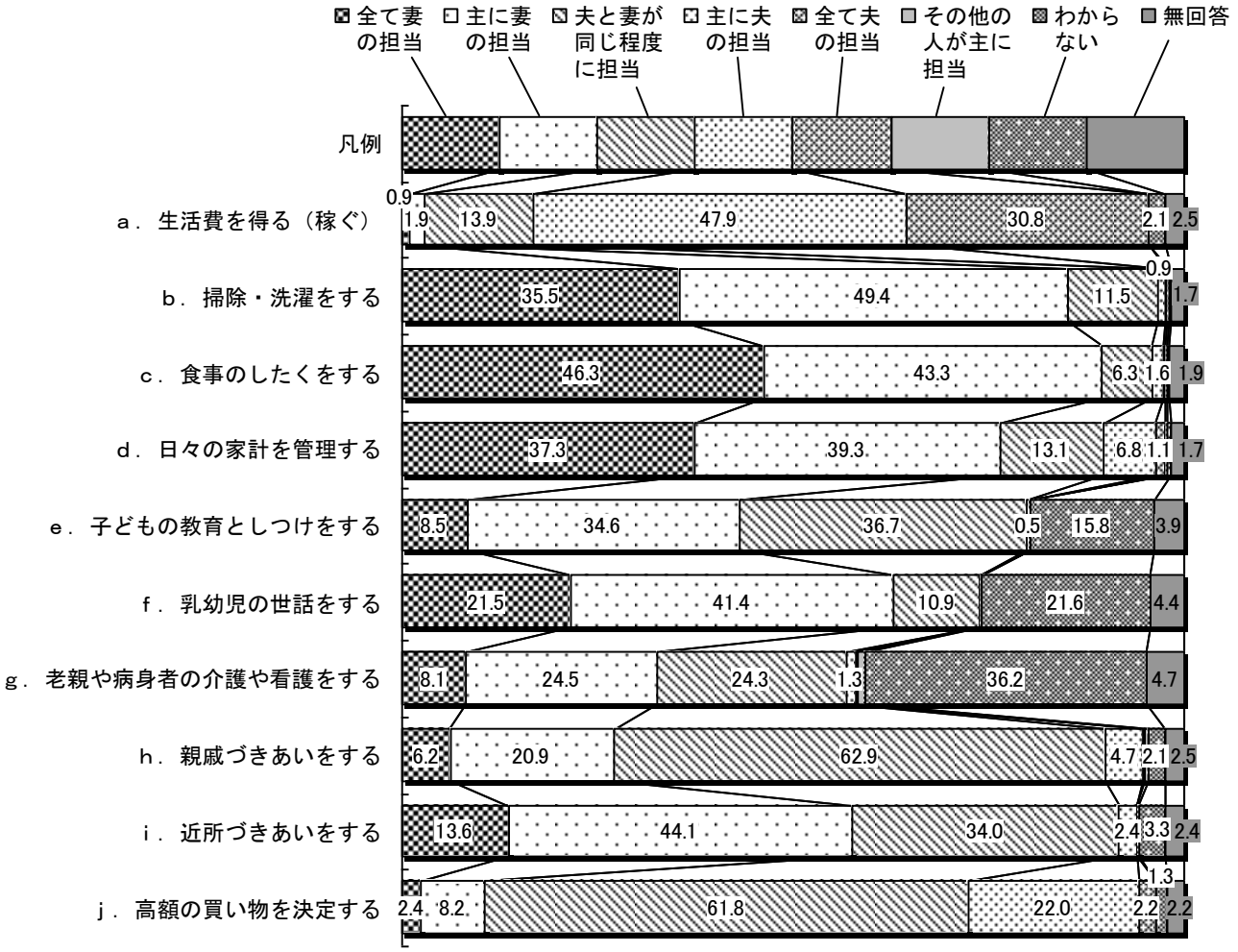
実際の家庭内の仕事の分担については、「全て妻の担当」「主に妻の担当」の合計割合をみると、「ｃ．食事のしたくをする」が 89.6%と最も多く、次いで「ｂ．掃除・洗濯をする」（84.9%）、「ｄ．日々の家計を管理する」（76.6%）、「ｆ．乳幼児の世話をする」（62.9%）の順となっている。一方、「主に夫の担当」「全て夫の担当」の合計割合をみると、「ａ．生活費を得る（稼ぐ）」（78.7%）、「ｊ．高額の買い物を決定する」（24.2%）などが多くみられる。

「夫と妻が同じ程度に担当」をみると「ｈ．親戚づきあいをする」（62.9%）、「ｊ．高額の買い物をする」（61.8%）などが 6 割を超え多くなっている。

性別では女性において「ｂ．掃除・洗濯をする」「ｃ．食事のしたくをする」などで、「妻主体」意識が多くなっている。

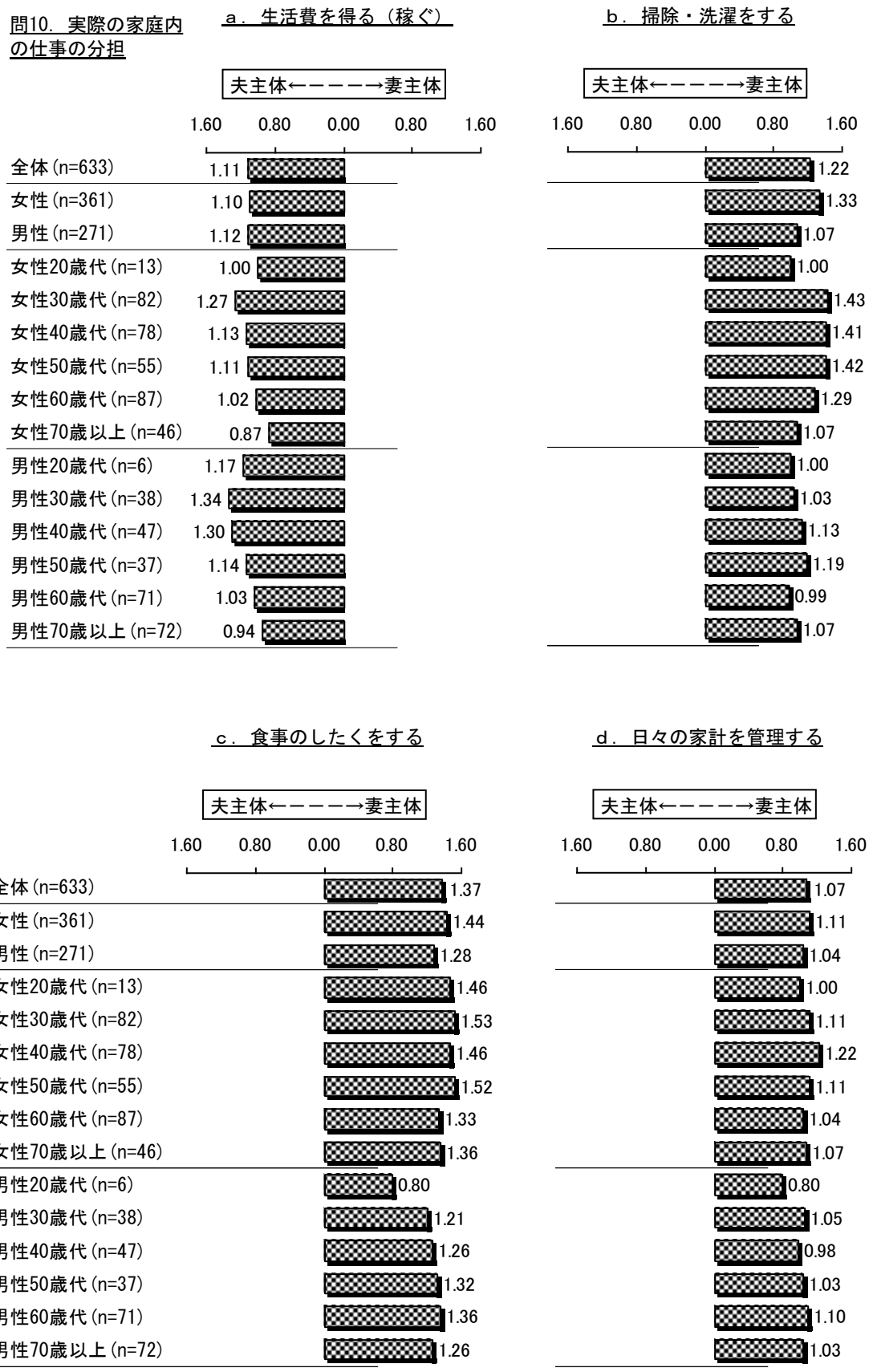
性・年齢別では、特に女性の 30～50 歳代において「ｂ．掃除・洗濯をする」「ｃ．食事のしたくをする」「ｄ．日々の家計を管理する」「ｉ．近所づきあいをする」などで「妻主体」意識が多くなっている。また、男性の 30～40 歳代では「ａ．生活費を得る（稼ぐ）」を「夫主体」とする意識が、他の年齢層に比べ多くなっている。

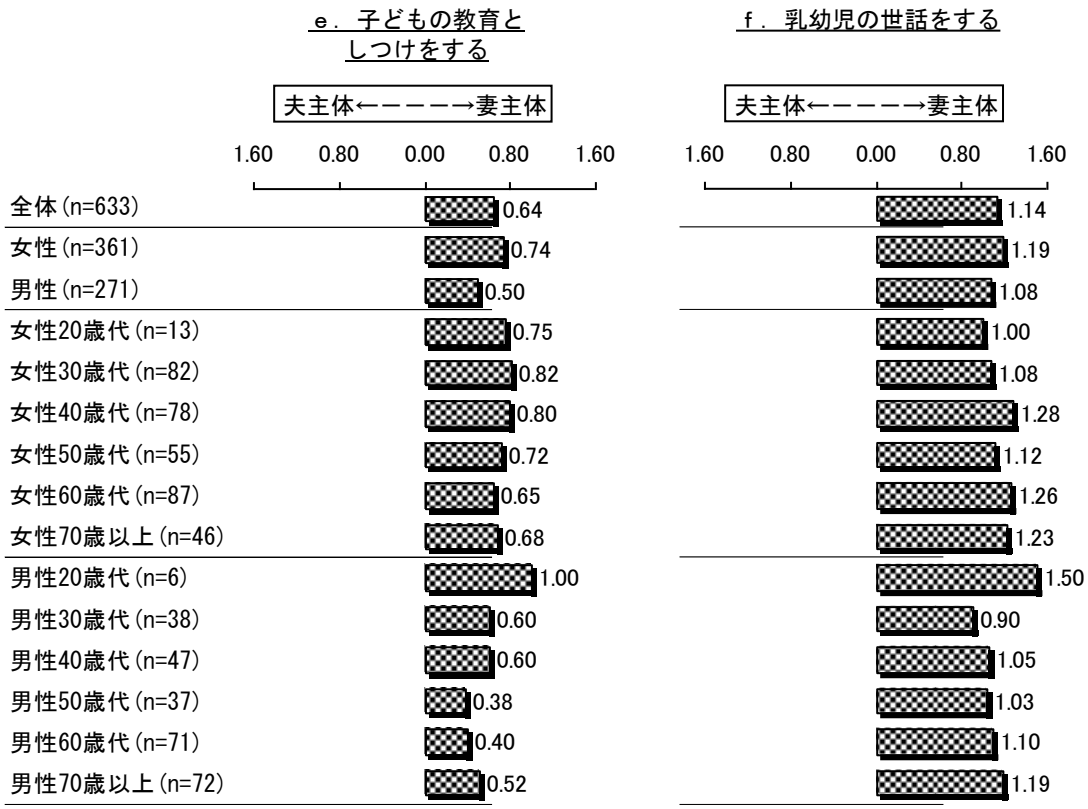
問10．実際の家庭内の仕事の分担（%）
有配偶者全体(n=633)

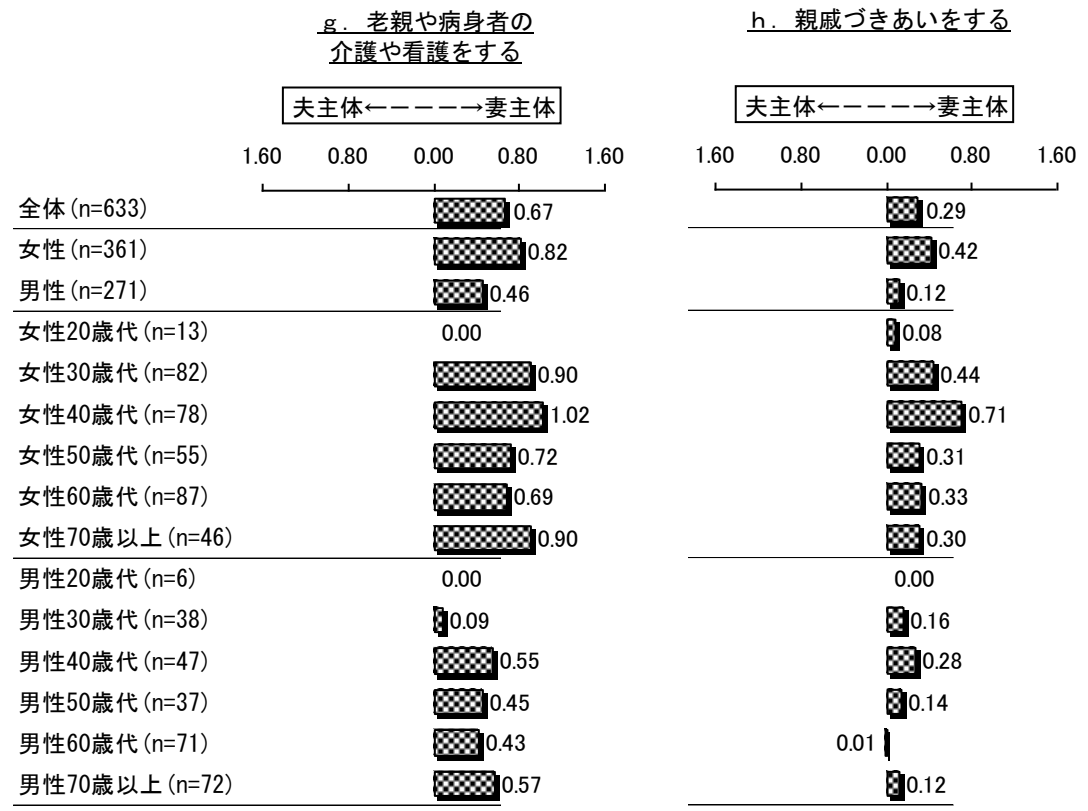


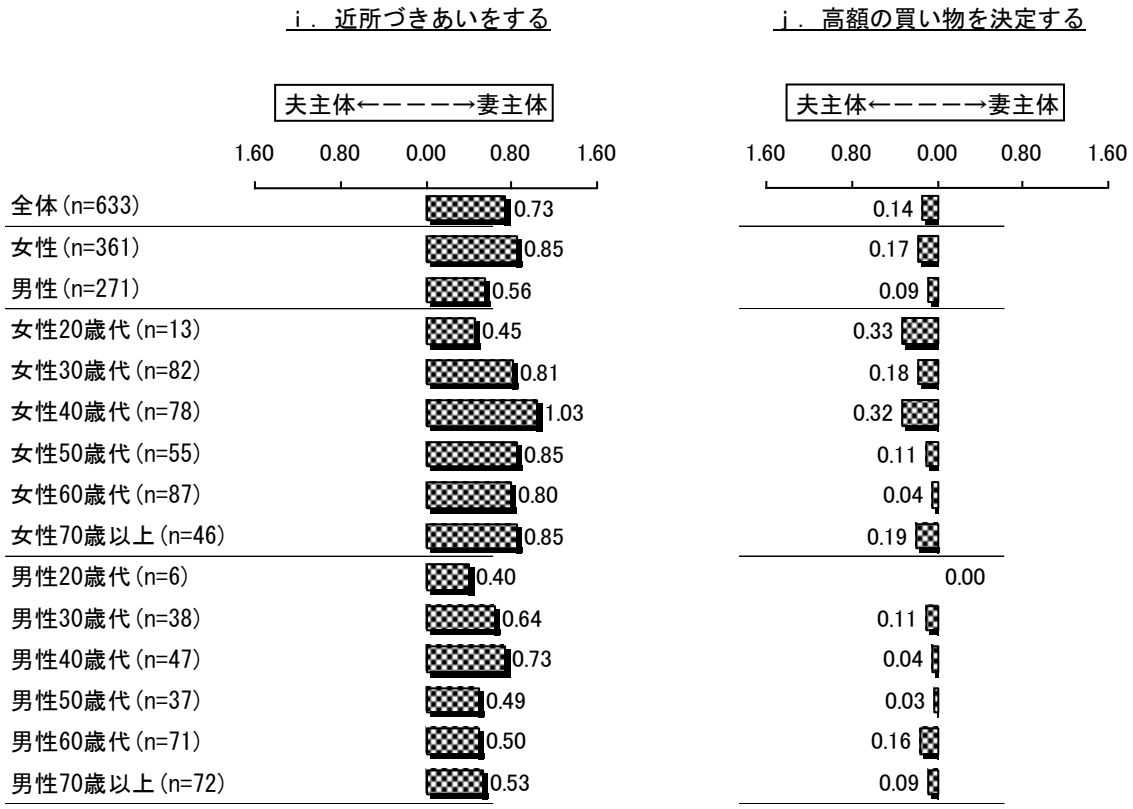
※数値は「加重平均値」です。

問10. 実際の家庭内の仕事の分担

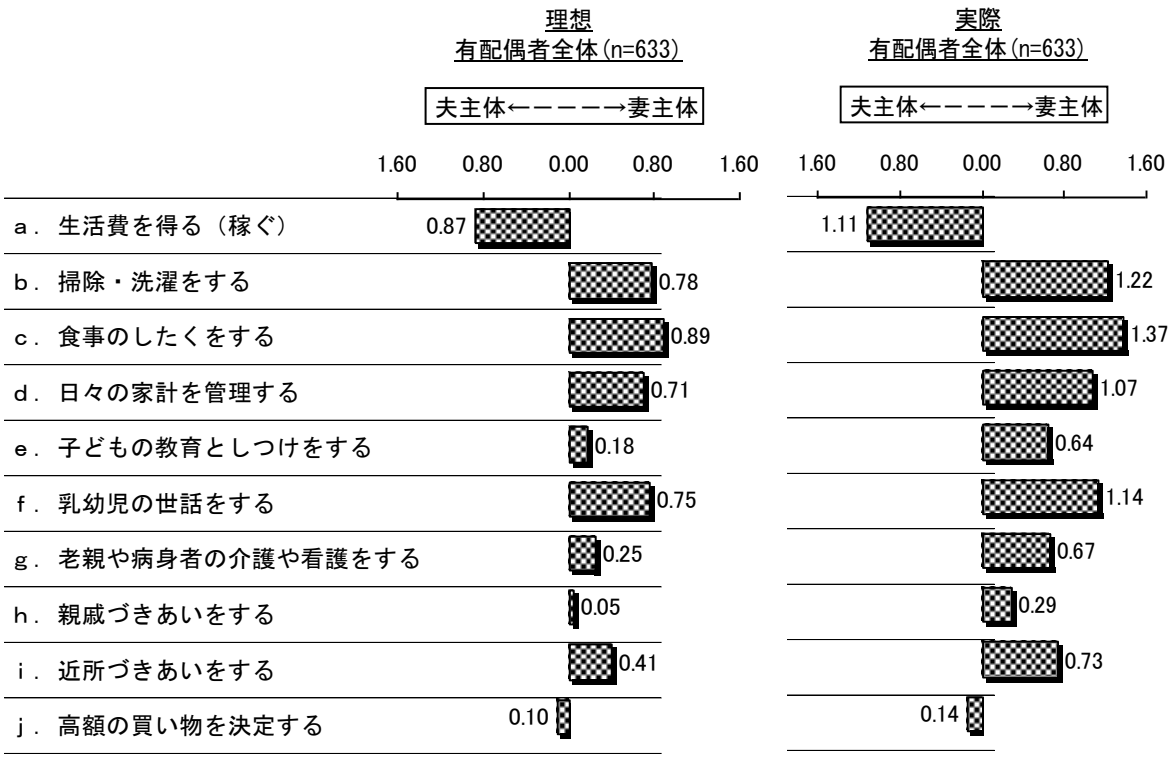



e．子どもの教育としつけをする
夫主体←－－－－→妻主体
1.60 0.80 0.00 0.80 1.60
全体(n=633) 0.64
女性(n=361) 0.74
男性(n=271) 0.50
女性20歳代(n=13) 0.75
女性30歳代(n=82) 0.82
女性40歳代(n=78) 0.80
女性50歳代(n=55) 0.72
女性60歳代(n=87) 0.65
女性70歳以上(n=46) 0.68
男性20歳代(n=6) 1.00
男性30歳代(n=38) 0.60
男性40歳代(n=47) 0.60
男性50歳代(n=37) 0.38
男性60歳代(n=71) 0.40
男性70歳以上(n=72) 0.52
f．乳幼児の世話をする
夫主体←－－－－→妻主体
1.60 0.80 0.00 0.80 1.60
1.14
1.19
1.08
1.00
1.08
1.28
1.12
1.26
1.23
1.50
0.90
1.05
1.03
1.10
1.19


g．老親や病身者の介護や看護をする
夫主体←－－－－→妻主体
1.60 0.80 0.00 0.80 1.60
全体(n=633) 0.67
女性(n=361) 0.82
男性(n=271) 0.46
女性20歳代(n=13) 0.00
女性30歳代(n=82) 0.90
女性40歳代(n=78) 1.02
女性50歳代(n=55) 0.72
女性60歳代(n=87) 0.69
女性70歳以上(n=46) 0.90
男性20歳代(n=6) 0.00
男性30歳代(n=38) 0.09
男性40歳代(n=47) 0.55
男性50歳代(n=37) 0.45
男性60歳代(n=71) 0.43
男性70歳以上(n=72) 0.57
h．親戚づきあいをする
夫主体←－－－－→妻主体
1.60 0.80 0.00 0.80 1.60
0.29
0.42
0.12
0.08
0.44
0.71
0.31
0.33
0.30
0.00
0.16
0.28
0.14
0.01
0.12

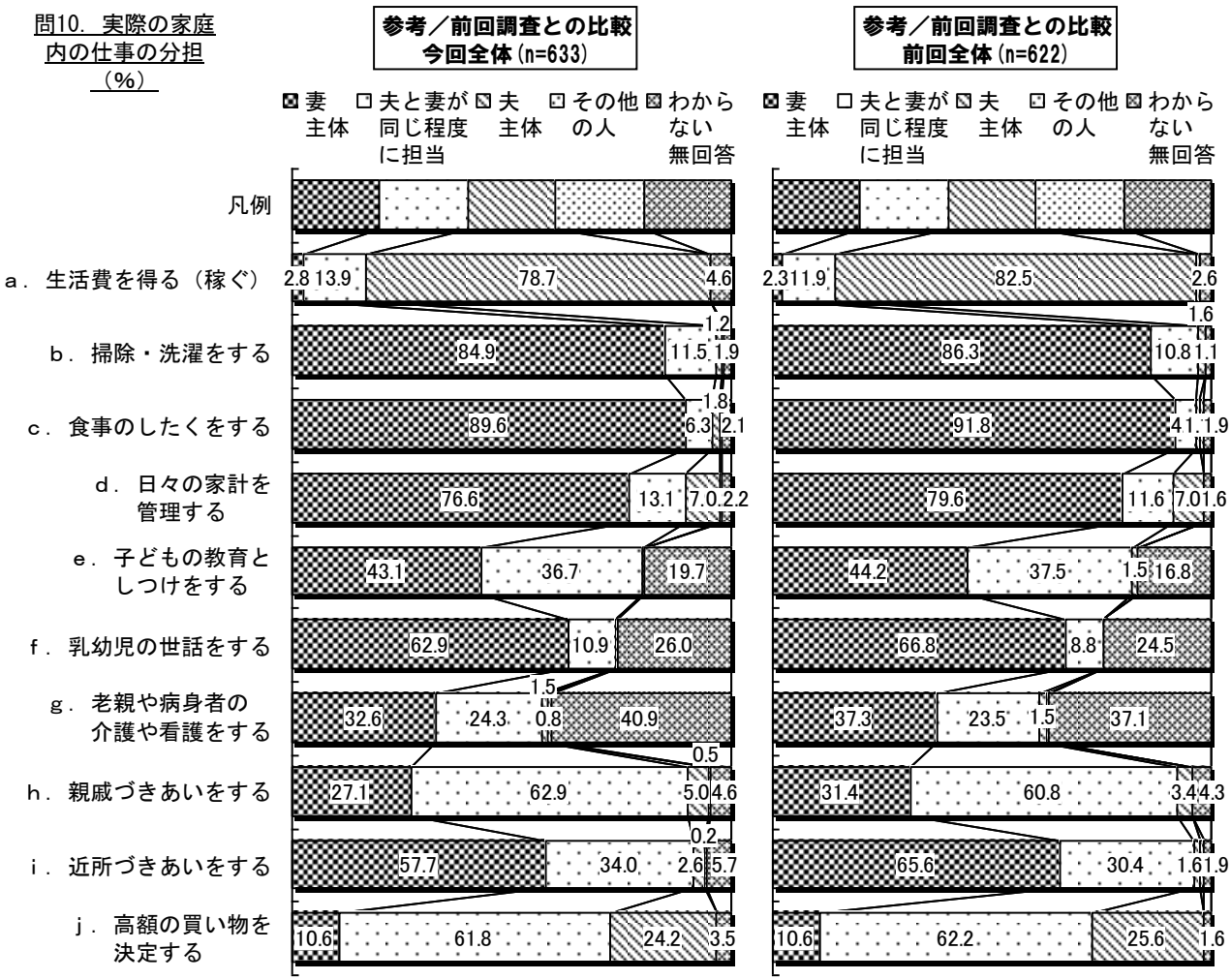



また、理想（問９）と実際（問 10）について、配偶者がいる方を対象に比較してみると、全体的な傾向は同じであるが、理想に対して実際の数値がすべて上回っており、特に「ｃ．食事のしたくをする」「ｅ．子どもの教育としつけをする」「ｂ．掃除・洗濯をする」「ｇ．老親や病身者の介護や看護をする」「ｆ．乳幼児の世話をする」などで差がみられる。



【前回調査との比較】

前回との比較をみると、「ｇ．老親や病身者の介護や看護をする」「ｈ．親戚づきあいをする」「ｉ．近所づきあいをする」などで「妻主体」がやや減少しており、「ｉ．近所づきあいをする」「ｈ．親戚づきあいをする」「ｆ．乳幼児の世話をする」などで「夫主体」がやや減少している。



## ３．結婚についての考え方

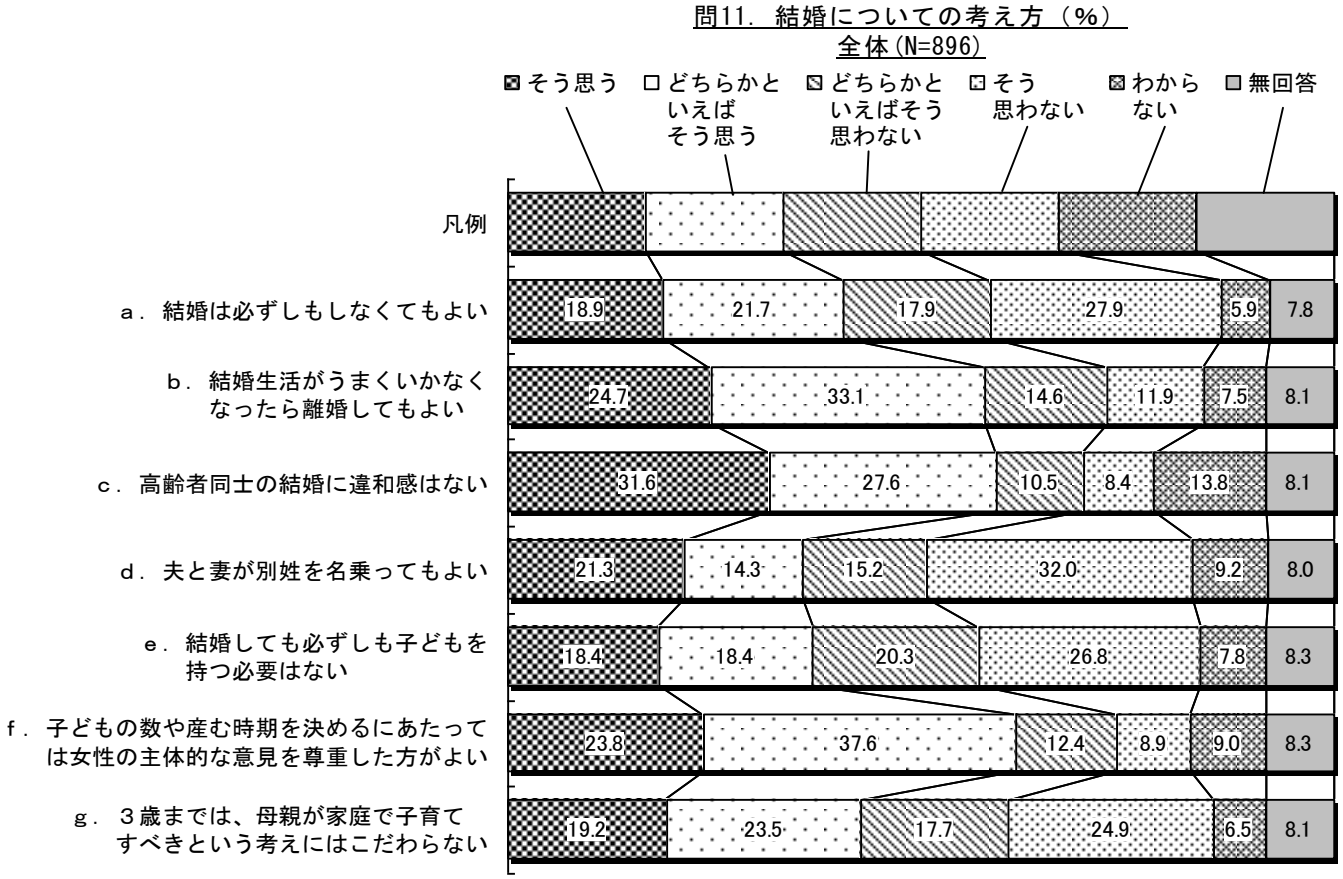
問 11．あなたは、次のような結婚・育児についての意見をどう思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。（○はそれぞれ１つずつ）

結婚についての考え方について、まず「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計数値（賛同意識）の高い項目をみると、「ｆ．子どもの数や産む時期を決めるにあたっては、女性の主体的な意見を尊重した方がよい」が 61.4%で最も多く、次いで「ｃ．高齢者同士の結婚に違和感はない」（59.2%）、「ｂ．結婚生活がうまくいかなくなったら離婚してもよい」（57.8%）などの順となっている。一方「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計数値（否定的意識）では、「ｄ．夫と妻が別姓を名乗ってもよい」（47.2%）、「ｅ．結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」（47.1%）、「ａ．結婚は必ずしもしなくてもよい」（45.8%）などの順となっている。

性別では、男性において否定的意識が多い項目として「ａ．結婚は必ずしもしなくてもよい」「ｄ．夫と妻が別姓を名乗ってもよい」「ｅ．結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」があげられ、一方、女性において賛同意識が多い項目として「ｂ．結婚生活がうまくいかなくなったら離婚してもよい」があげられる。

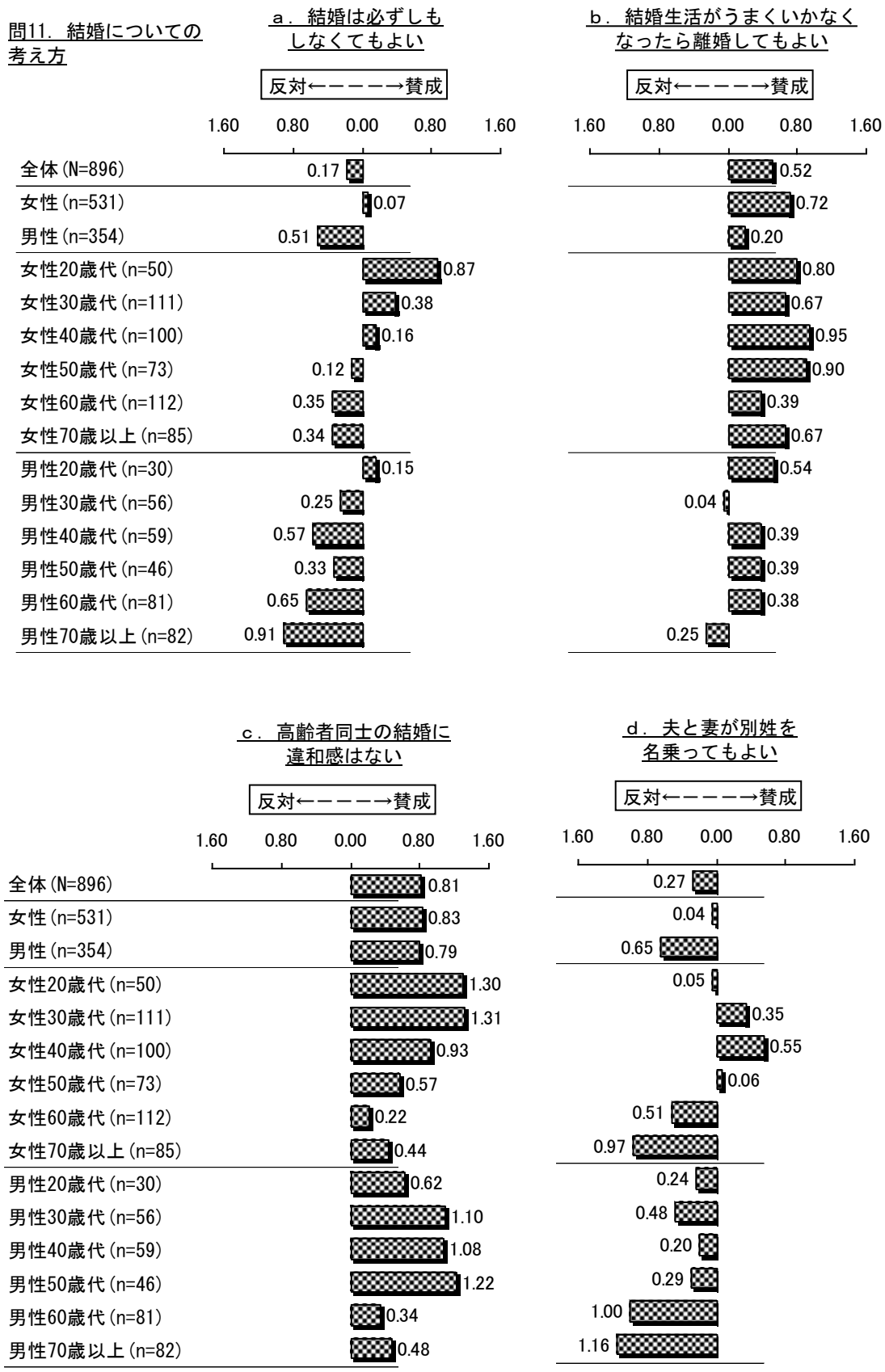
性・年齢別では、男女ともに年齢の若い層ほど賛同意識が多く、年齢が上がるにつれ否定的意識が多い項目として「ａ．結婚は必ずしもしなくてもよい」「ｄ．夫と妻が別姓を名乗ってもよい」「ｅ．結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」「ｇ．３歳までは、母親が家庭で子育てすべきという考えにはこだわらない」があげられる。

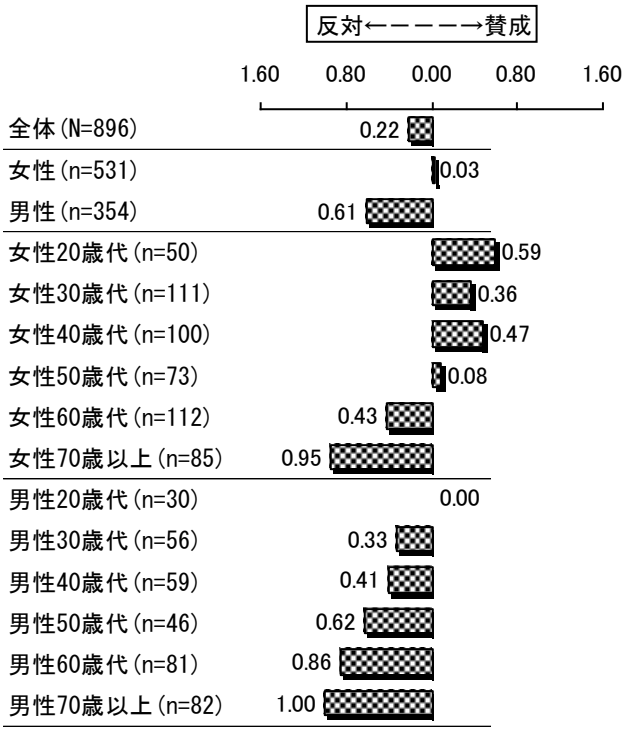
また、女性の 40～50 歳代では「ｂ．結婚生活がうまくいかなくなったら離婚してもよい」に賛同する意識が他の年齢層に比べ多くみられる。

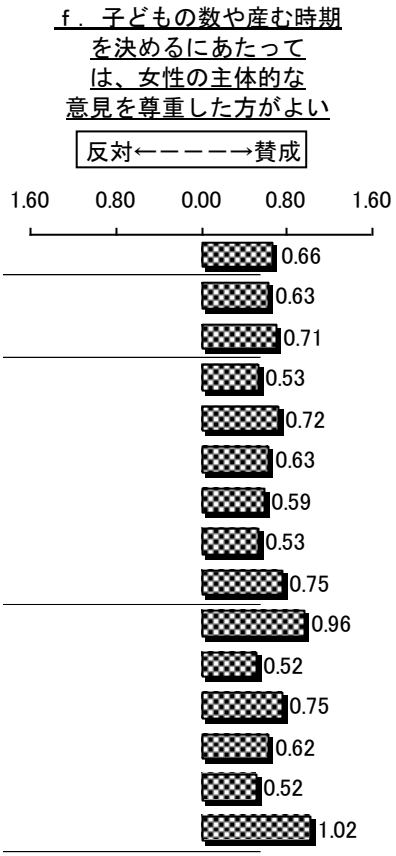


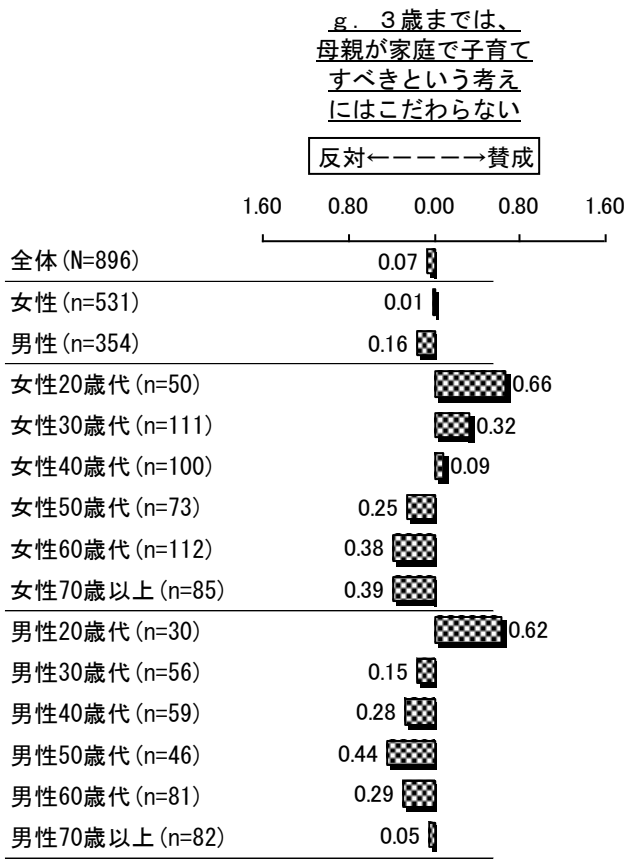
※数値は「加重平均値」です。

問11. 結婚についての考え方



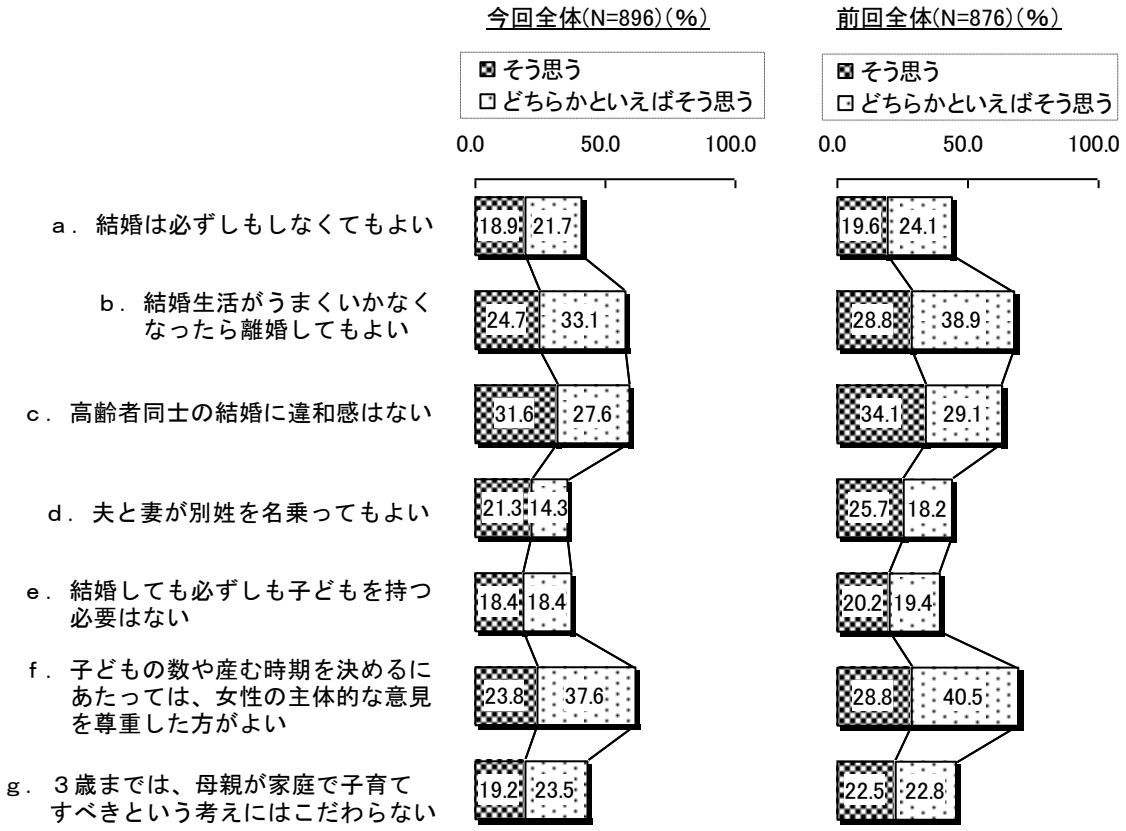

ｅ．結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない
反対←－－－－→賛成
1.60 0.80 0.00 0.80 1.60
全体(N=896) 0.22
女性(n=531) 0.03
男性(n=354) 0.61
女性20歳代(n=50) 0.59
女性30歳代(n=111) 0.36
女性40歳代(n=100) 0.47
女性50歳代(n=73) 0.08
女性60歳代(n=112) 0.43
女性70歳以上(n=85) 0.95
男性20歳代(n=30) 0.00
男性30歳代(n=56) 0.33
男性40歳代(n=59) 0.41
男性50歳代(n=46) 0.62
男性60歳代(n=81) 0.86
男性70歳以上(n=82) 1.00


ｆ．子どもの数や産む時期を決めるにあたっては、女性の主体的な意見を尊重した方がよい
反対←－－－－→賛成
1.60 0.80 0.00 0.80 1.60
0.66
0.63
0.71
0.53
0.72
0.63
0.59
0.53
0.75
0.96
0.52
0.75
0.62
0.52
1.02


ｇ．３歳までは、母親が家庭で子育てすべきという考えにはこだわらない
反対←－－－－→賛成
1.60 0.80 0.00 0.80 1.60
全体(N=896) 0.07
女性(n=531) 0.01
男性(n=354) 0.16
女性20歳代(n=50) 0.66
女性30歳代(n=111) 0.32
女性40歳代(n=100) 0.09
女性50歳代(n=73) 0.25
女性60歳代(n=112) 0.38
女性70歳以上(n=85) 0.39
男性20歳代(n=30) 0.62
男性30歳代(n=56) 0.15
男性40歳代(n=59) 0.28
男性50歳代(n=46) 0.44
男性60歳代(n=81) 0.29
男性70歳以上(n=82) 0.05

【前回調査との比較】

前回との比較をみると、多少の回答割合の変動はあるものの、ほぼ同傾向であり、大きな変化はみられない。




【内閣府・大阪府調査との比較】

内閣府、大阪府に比べ、本市では「ａ．結婚は必ずしもしなくてもよい」「ｅ．結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」への賛同割合が低い。

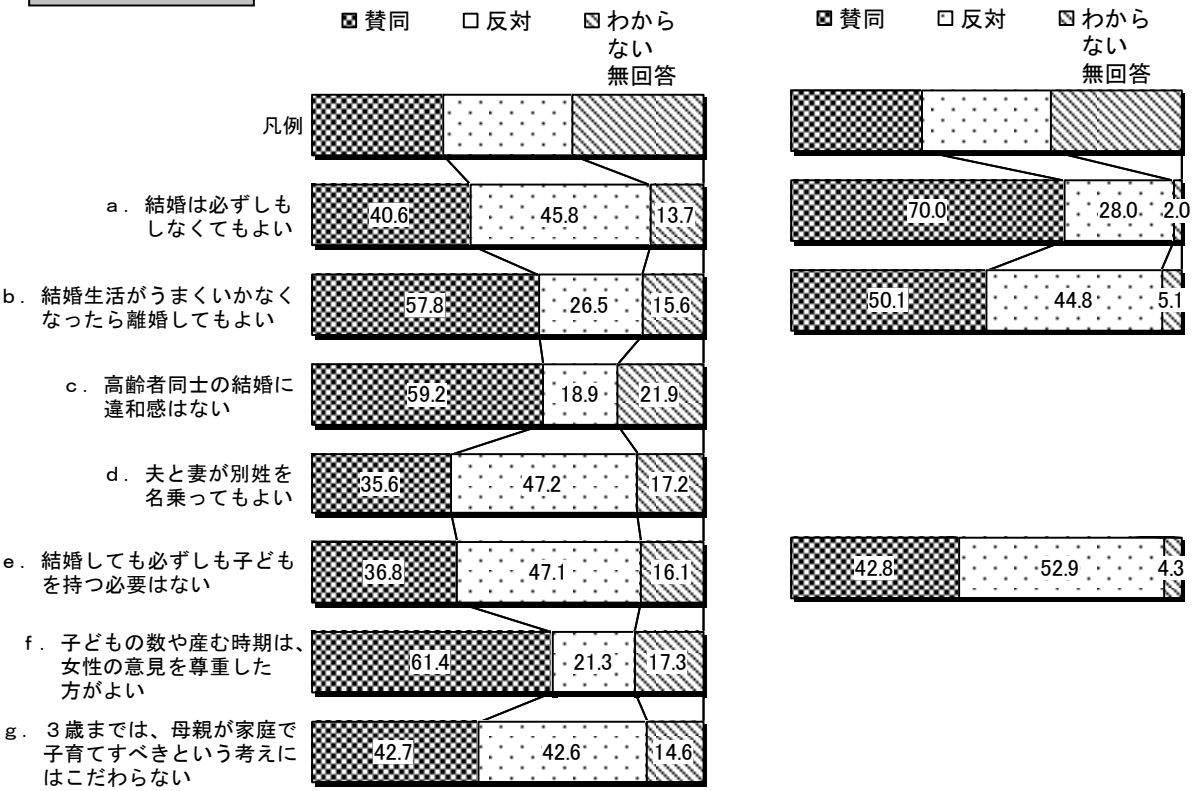
**参考資料**
**国・府との比較**

吹田市

問11. 結婚についての考え方（%）
吹田市全体(N=896)

内閣府

結婚についての考え方（%）
内閣府／平成21年（N=3240）



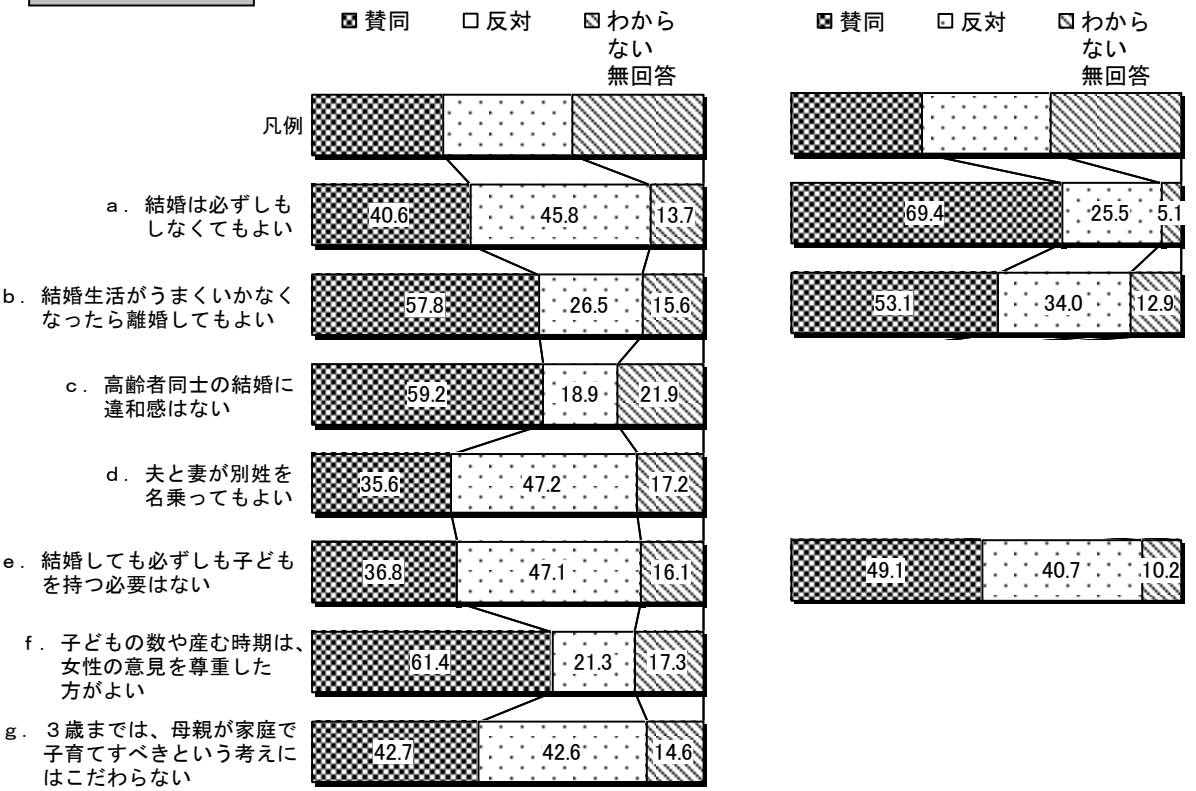

**参考資料**
**国・府との比較**

吹田市

問11. 結婚についての考え方（%）
吹田市全体(N=896)

大阪府

結婚についての考え方（%）
大阪府／平成21年（N=680）



## ４．就労の状況

### （１）就労の有無

問 12. あなたは現在、仕事をしていますか。（○は１つ）

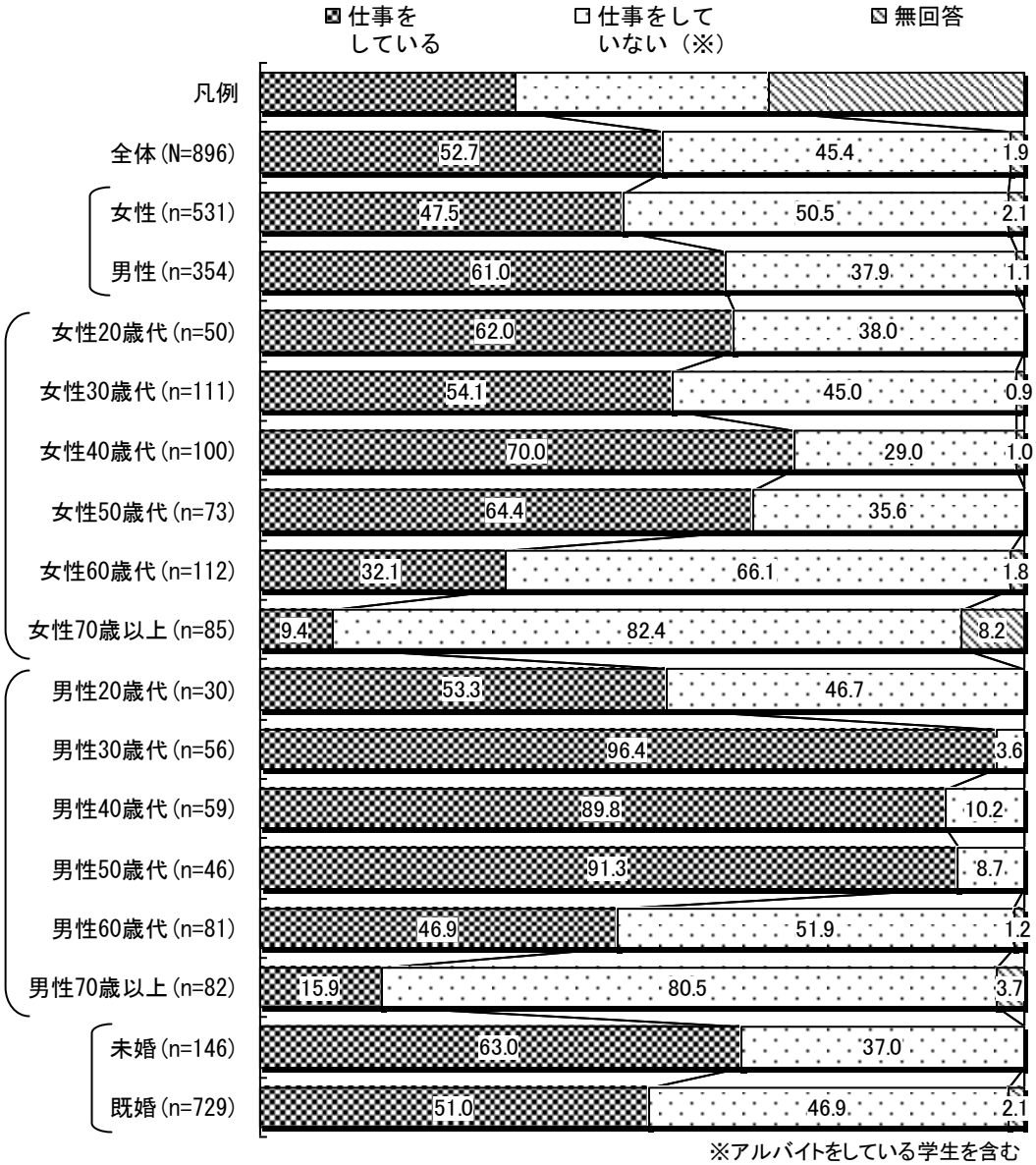
就労の有無については、「仕事をしている」が 52.7%、「仕事をしていない」が 45.4%となっている。

性別では男性で「仕事をしている」が女性を大きく上回っている。

性・年齢別では、男性は 30～50 歳代は大半が就業しているが、女性の場合は同年代で 50～70%程度となっており、差がみられる。

未既婚別では、未婚者で就業者が多くなっている。

問12. 就労の有無（%）
性別、性・年齢別、未既婚別



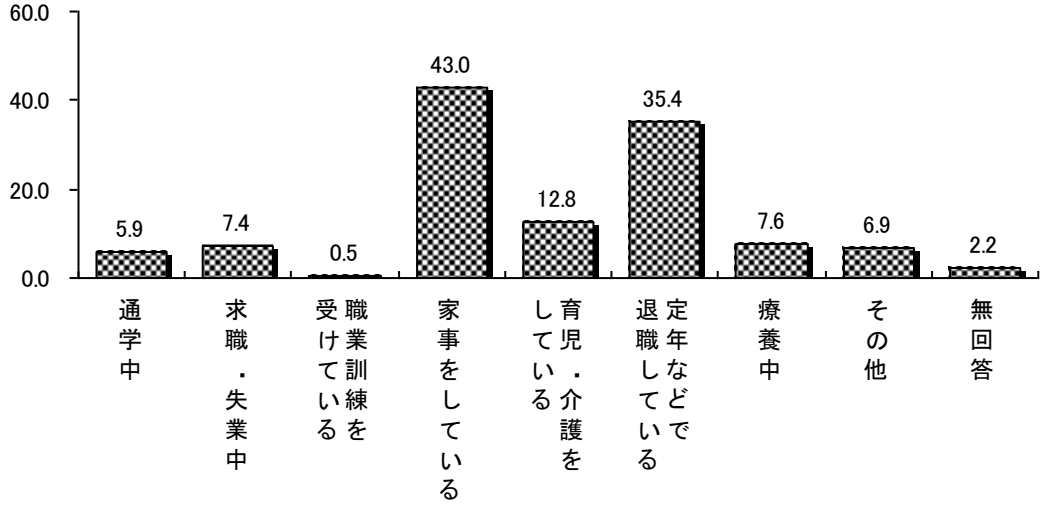

※アルバイトをしている学生を含む

（２）未就労者／仕事をしていない場合の状況

| |
|---|
| 問 12. で、「2. 仕事をしていない」と答えた方におたずねします。仕事をしている方は問 13. へ◆問 12-1. 現在、何をされていますか。（○はいくつでも） |

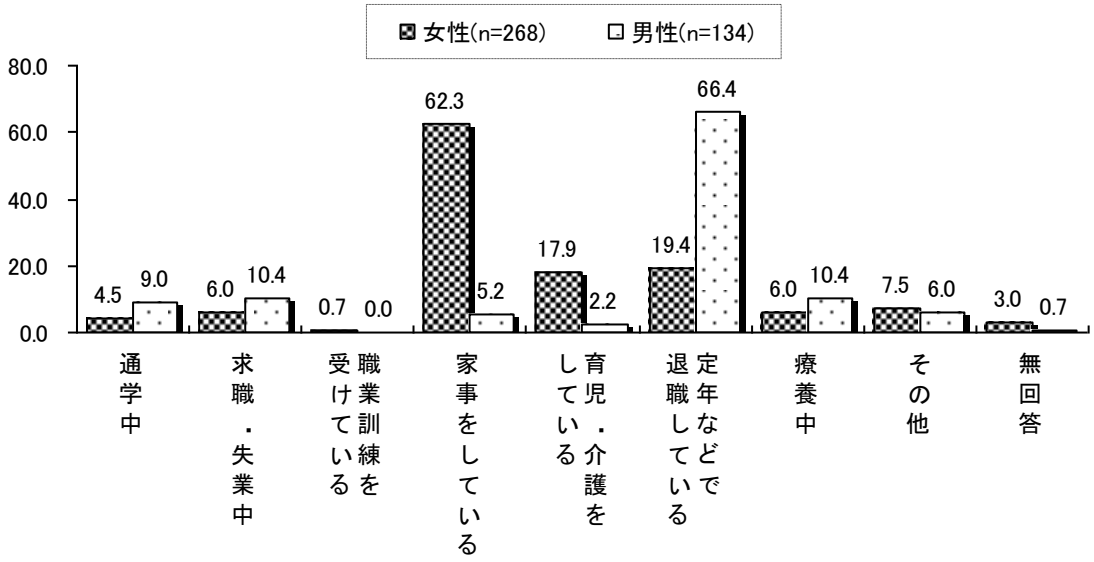
仕事をしていない場合の状況については、「家事をしている」が 43.0%と最も多く、次いで「定年などで退職している」（35.4%）、「育児・介護をしている」（12.8%）の順となっている。

問12－１．仕事をしていない場合の状況（%）
全体(n=407)




性別では、女性の場合「家事をしている」、男性は「定年などで退職している」がそれぞれ主となっている。

問12－１．仕事をしていない場合の状況（%）性別



（３）未就労者／今後の就労希望

◆問 12-2. 今後、仕事をしたいと思いますか。（○は１つ）

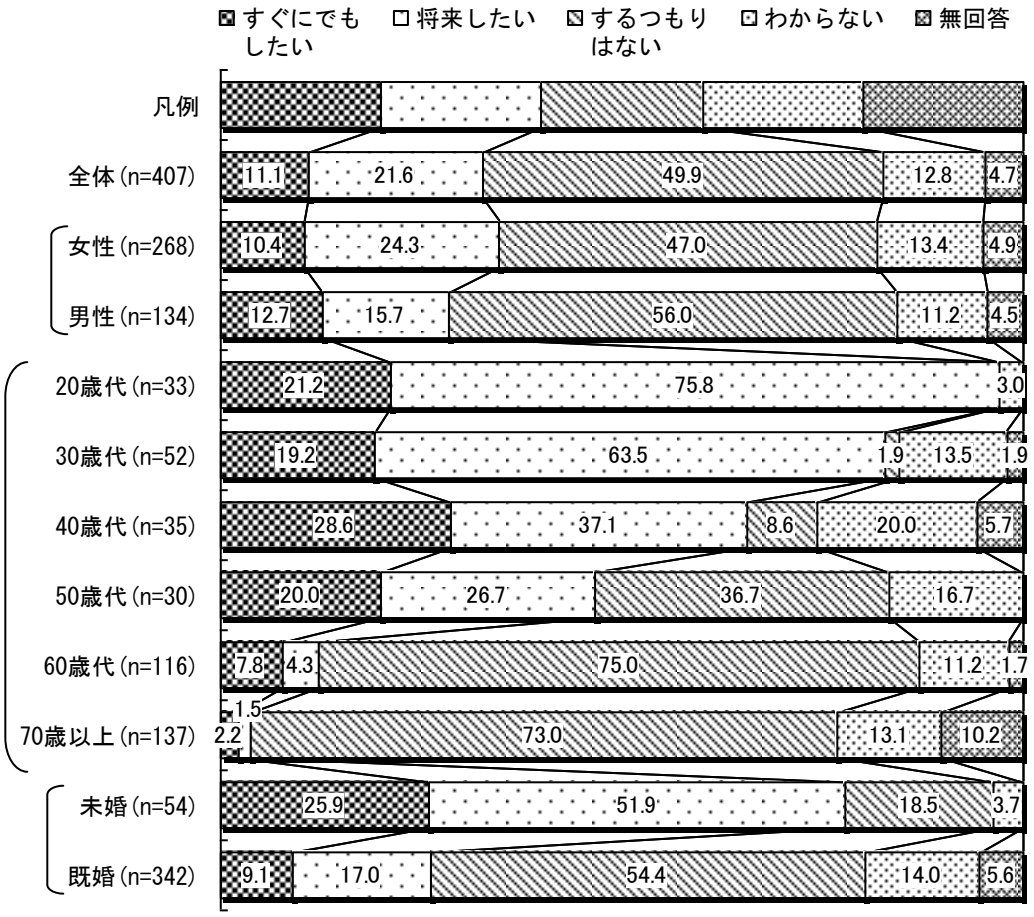
今後の就労希望については、「すぐにでもしたい」が 11.1%、「将来したい」が 21.6%で、合計 32.7%が今後の就労を希望している。

性別では、女性で就労希望者がやや多いが、大きな男女差はみられない。

年齢別では、40 歳代で「すぐにでもしたい」が他の年齢層を大きく上回っている。また年齢が若い層ほど「将来したい」、年齢が上がるにつれ「するつもりはない」が多くなる傾向にある。

未既婚別では、未婚者が「すぐにでもしたい」が 25.9%と多くなっている。

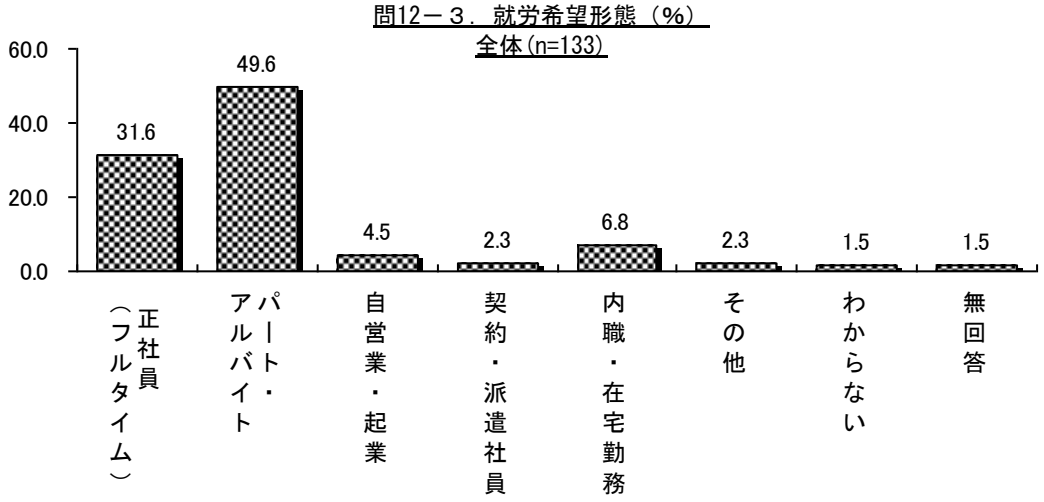
問12－２．今後の就労希望（%）
性別、年齢別、未既婚別



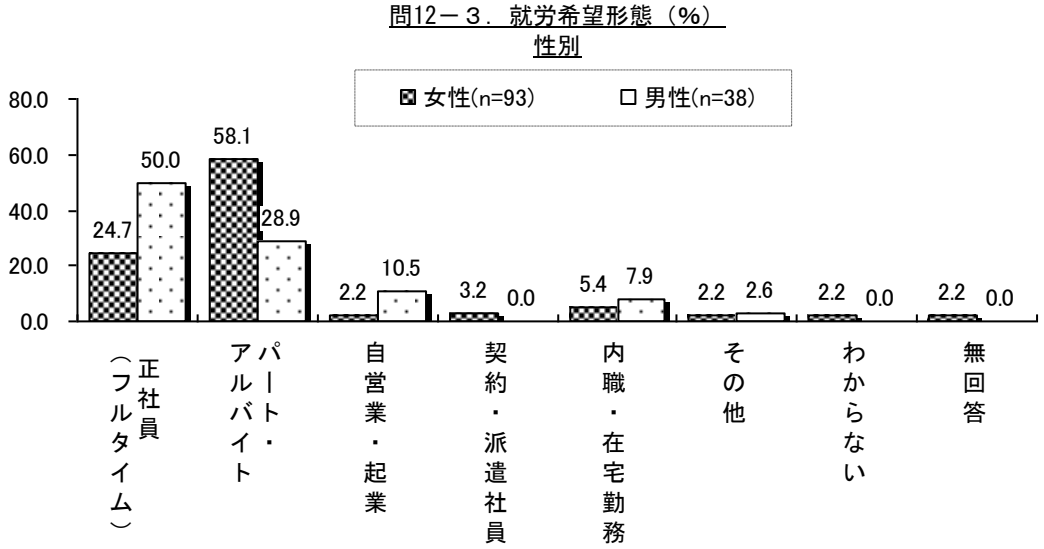
（４）未就労者／就労希望形態

問 12-2. で「1. または 2.」と答えた方のみにおたずねします。
◆問 12-3. 仕事をする場合、どのような形で働きたいですか。（○は１つ）

就労希望形態については、「パート・アルバイト」が 49.6%と半数近くを占め最も多く、「正社員（フルタイム)」が 31.6%で続き、両者で大半を占めている。




性別でみると、女性の場合、男性に比べ「パート・アルバイト」が多く、「正社員（フルタイム)」は男性で多くなっており、差がみられる。

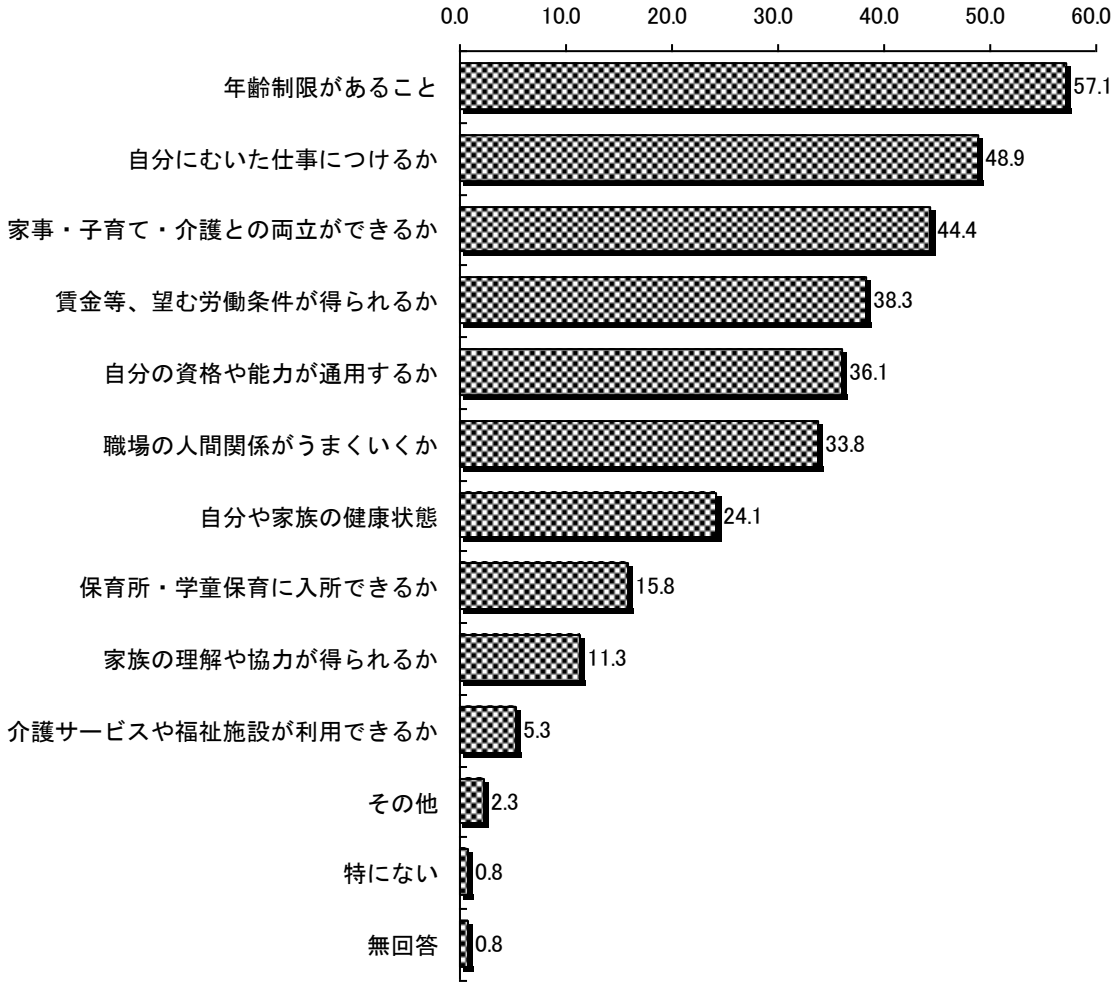


（５）未就労者／就労についての不安や心配なこと

◆問 12-4. これから仕事をしようと思ったとき、不安になること、心配なことはなんですか。（○はいくつでも）

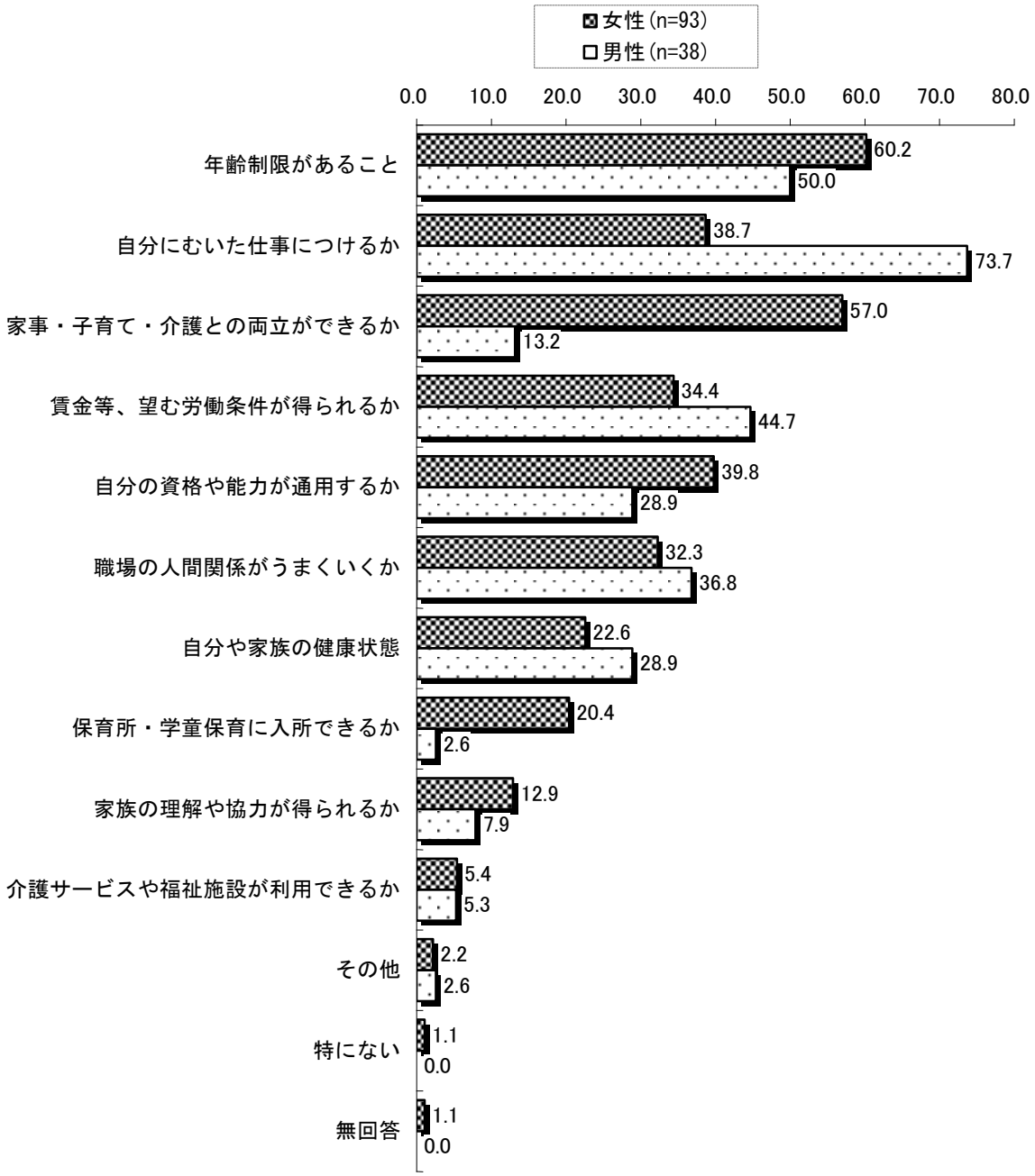
就労についての不安や心配なことについては、「年齢制限があること」が 57.1%と最も多く、次いで「自分にむいた仕事につけるか」（48.9%）、「家事・子育て・介護との両立ができるか」（44.4%）、「賃金等、望む労働条件が得られるか」（38.3%）、「自分の資格や能力が通用するか」（36.1%）、「職場の人間関係がうまくいくか」（33.8%）の順となっている。

問12－４．就労についての不安や心配なこと（%）
全体(n=133)



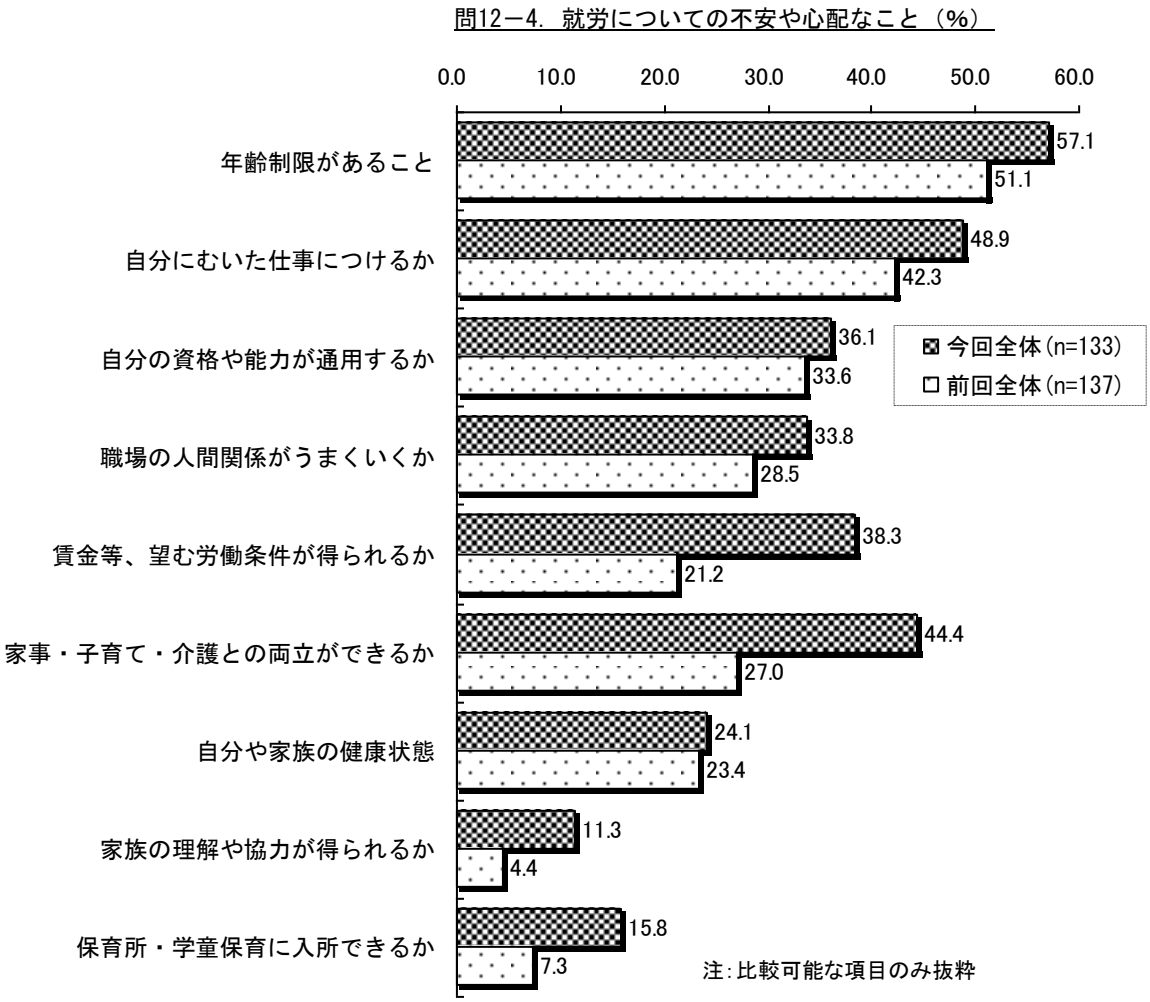
性別では、男女差がみられる項目が多く、女性が男性を大きく上回っている不安や心配として「家事・子育て・介護との両立ができるか」「保育所・学童保育に入所できるか」「自分の資格や能力が通用するか」「年齢制限があること」があげられる。一方、男性が女性を大きく上回っている項目としては「自分にむいた仕事につけるか」「賃金等、望む労働条件が得られるか」があげられる。

問12－４．就労についての不安や心配なこと（%）性別



【前回調査との比較】

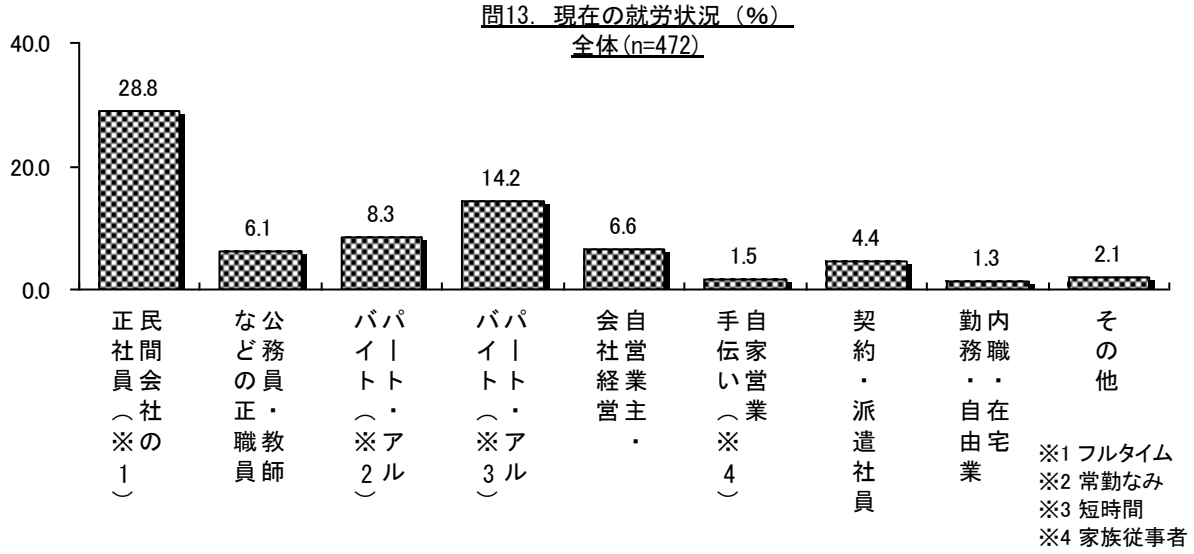
前回との比較では、「家事・子育て・介護との両立ができるか」「賃金等、望む労働条件が得られるか」「保育所・学童保育に入所できるか」において、今回大きく増加している。



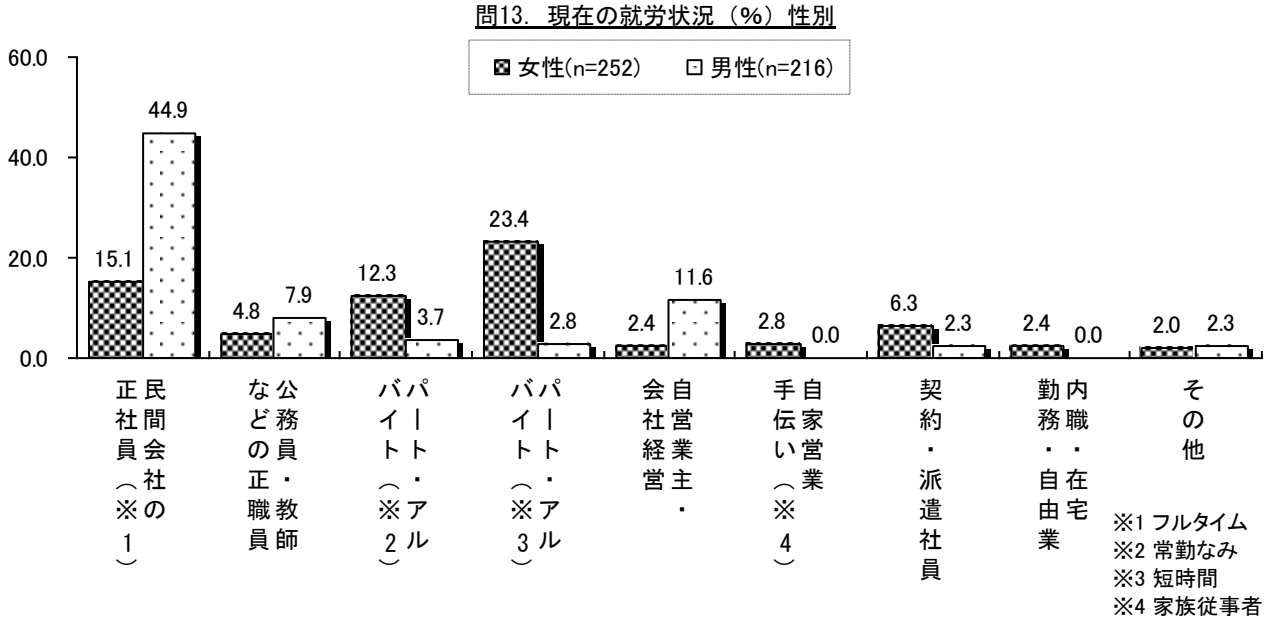
（６）就労者／現在の就労状況

| |
|---|
| 問 12. で、「1. 仕事をしている」と答えた方におたずねします。<br>問 13.　あなたは現在、どのような働き方をしていますか。（○は１つ） |

現在の就労状況については、「民間会社の正社員（フルタイム）」が 28.8%と最も多く、次いで「パート・アルバイト（短時間）」（14.2%）、「パート・アルバイト（常勤なみ）」（8.3%）の順となっている。




性別では、女性が男性を上回っている就労状況として「パート・アルバイト（短時間）」「パート・アルバイト（常勤なみ）」、男性が女性を上回っている項目として「民間会社の正社員（フルタイム）」「自営業主・会社経営」があげられる。



性・年齢別でみると、女性の場合年齢が若い層ほど「民間会社の正社員（フルタイム）」が多く、30 歳代では「契約・派遣社員」も多い。また 60 歳代では「パート・アルバイト（常勤なみ及び短時間）」が他の年齢層に比べ多くなっている。

男性は 20～50 歳代の半数程度が「民間会社の正社員（フルタイム）」で、30 歳代では「パート・アルバイト（常勤なみ）」もみられる。また 60 歳代では「パート・アルバイト（短時間）」、年齢が上がるにつれ「自営業主・会社経営」が多い。

問13. 現在の就労状況（%）性・年齢別

| | 民間会社の正社員（フルタイム） | 公務員・教師などの正職員 | パート・アルバイト（常勤なみ） | パート・アルバイト（短時間） | 自営業主・会社経営 | 自家営業手伝い（家族従事者） | 契約・派遣社員 | 内職・在宅勤務・自由業 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体(n=472) | 28.8 | 6.1 | 8.3 | 14.2 | 6.6 | 1.5 | 4.4 | 1.3 | 2.1 |
| 女性20歳代(n=31) | 32.3 | 9.7 | 9.7 | 12.9 | 0.0 | 0.0 | 3.2 | 0.0 | 3.2 |
| 女性30歳代(n=60) | 16.7 | 3.3 | 13.3 | 16.7 | 3.3 | 1.7 | 11.7 | 1.7 | 0.0 |
| 女性40歳代(n=70) | 14.3 | 7.1 | 7.1 | 30.0 | 0.0 | 1.4 | 7.1 | 2.9 | 2.9 |
| 女性50歳代(n=47) | 10.6 | 4.3 | 14.9 | 23.4 | 4.3 | 6.4 | 6.4 | 2.1 | 2.1 |
| 女性60歳代(n=36) | 8.3 | 0.0 | 22.2 | 36.1 | 2.8 | 2.8 | 0.0 | 5.6 | 0.0 |
| 女性70歳以上(n=8) | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 12.5 | 12.5 | 0.0 | 0.0 | 12.5 |
| 男性20歳代(n=16) | 56.3 | 12.5 | 0.0 | 0.0 | 6.3 | 0.0 | 6.3 | 0.0 | 0.0 |
| 男性30歳代(n=54) | 50.0 | 9.3 | 11.1 | 0.0 | 1.9 | 0.0 | 3.7 | 0.0 | 0.0 |
| 男性40歳代(n=53) | 54.7 | 5.7 | 0.0 | 1.9 | 7.5 | 0.0 | 3.8 | 0.0 | 0.0 |
| 男性50歳代(n=42) | 47.6 | 16.7 | 0.0 | 0.0 | 7.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 男性60歳代(n=38) | 31.6 | 0.0 | 5.3 | 13.2 | 21.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 7.9 |
| 男性70歳以上(n=13) | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 61.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 15.4 |

注：表中の「網掛け」は、各クロス集計（性別、年齢別など）において最も高い割合を示しています。
（例／性別の場合、男性と女性を比べて高い方に網掛け。）
但し、回答割合が10%未満の項目、及びn数が10未満の項目については網掛けは除外しています。
また「無回答」は表記から除外しています。
本報告書においては、以下同様とします。

（７）就労者／１週間あたりの平均労働時間

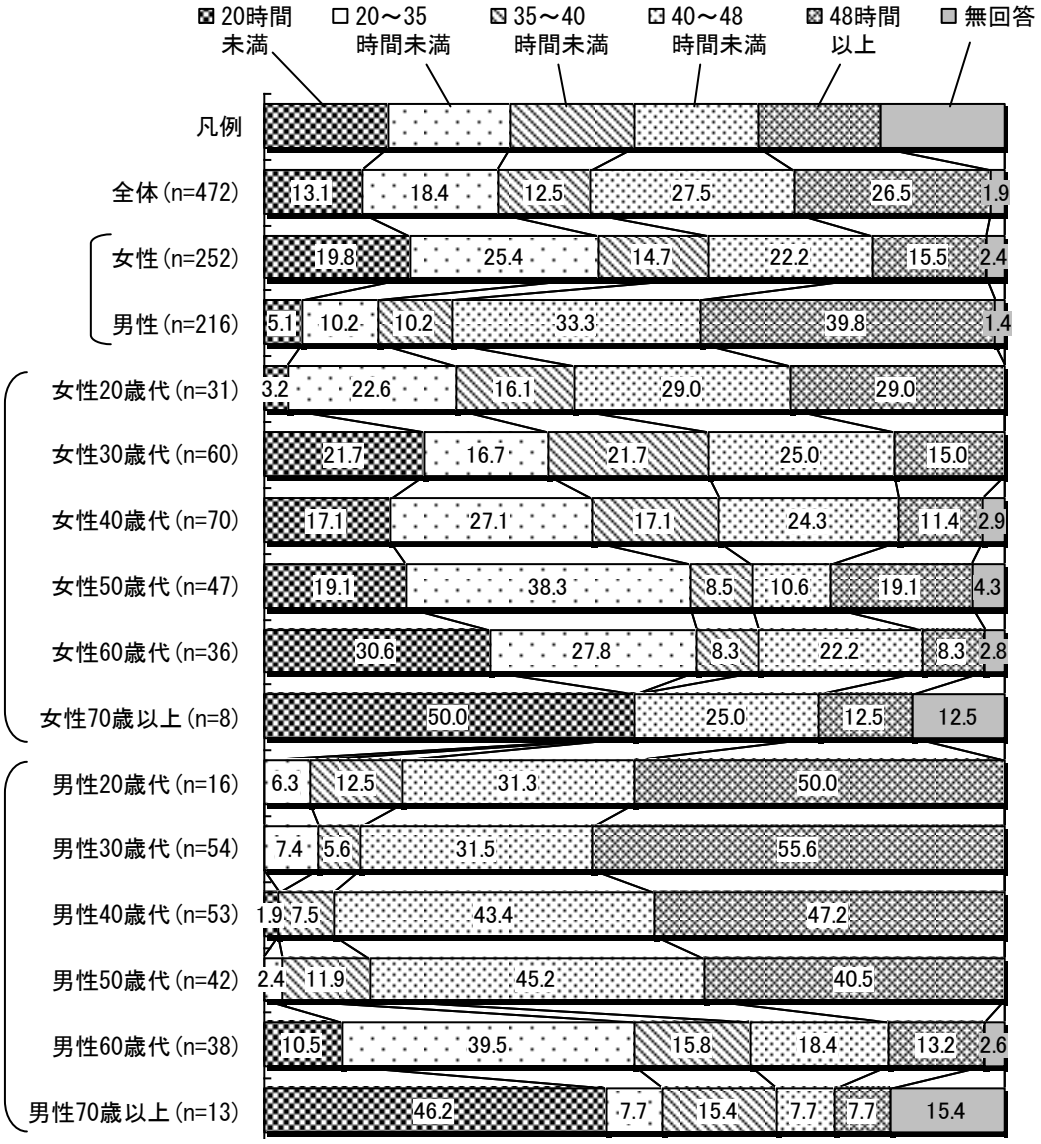
◆問 13-1．あなたの１週間あたりの平均労働時間は。（○は１つ）

１週間あたりの平均労働時間については、「40～48 時間未満」が 27.5%で最も多く、ほぼ並んで「48 時間以上」（26.5%）が続き、次いで「20～35 時間未満」（18.4%）の順となっている。「40 時間以上（合計）」で全体の過半数（54.0%）を占めている。

男性は「40 時間以上（合計）」が大半を占める一方、女性は「40 時間未満（合計）」で多くを占めており差がみられる。

男性は 20～50 歳代まではほぼ同傾向で「40 時間以上（合計）」が大半を占める。女性は 20 歳代で「40 時間以上（合計）」が多いが、30 歳以降では年齢が上がるにつれ労働時間は相対的に短くなっていく傾向にある。

問13－１．１週間あたりの平均労働時間（%）
性別、性・年齢別

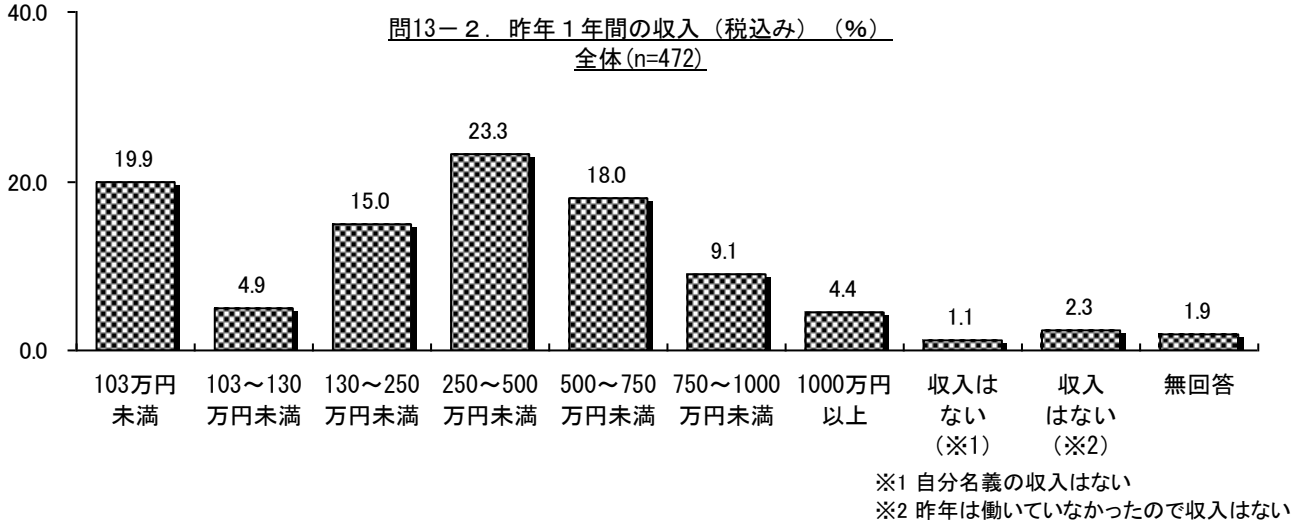



注:「女性70歳以上」は該当件数(n=)が少ないため、参考値として参照してください。

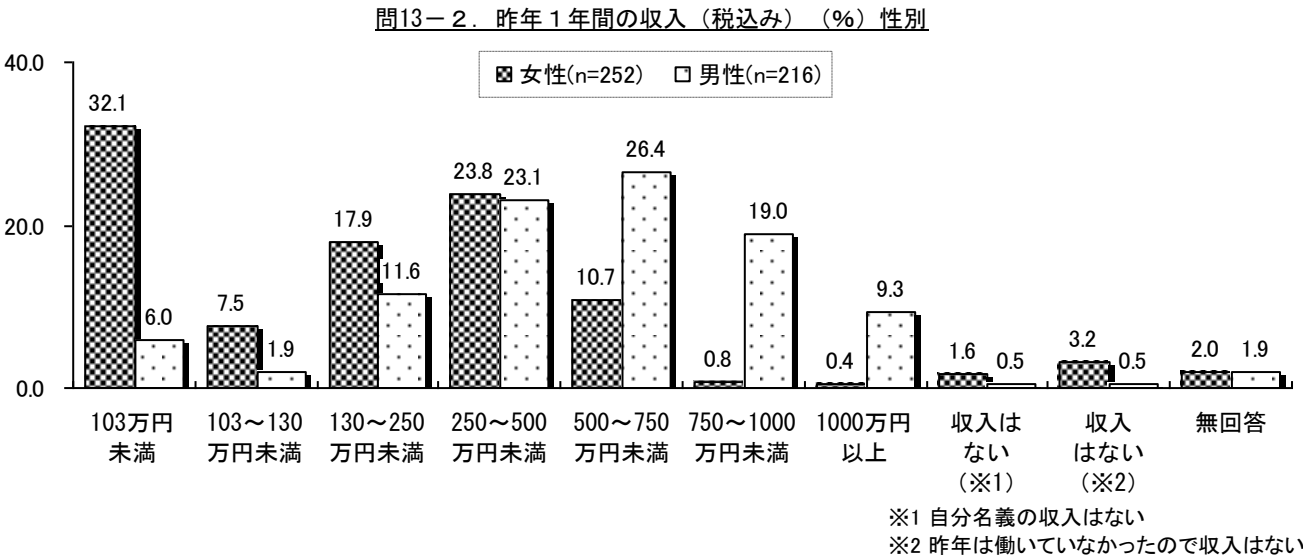
（８）就労者／昨年１年間の収入（税込み）

◆問 13-2. あなたの昨年１年間の収入（税込み）は。（○は１つ）

昨年１年間の収入（税込み）については、「250 万円～500 万円未満」が 23.3%と最も多く、次いで「103 万円未満」（19.9%）、「500 万円～750 万円未満」（18.0%）、「130 万円～250 万円未満」（15.0%）の順となっている。




性別では、女性は男性に比べ特に「103 万円未満」が多く、男性は「500 万円～750 万円未満」「750 万円～1000 万円未満」「1000 万円以上」が多くなっている。



性・年齢別でみると、女性の場合 20 歳代で「130 万円～250 万円未満」「250～500 万円未満」が多く、30～40 歳代では「500～750 万円未満」、60 歳代では「103 万円未満」がそれぞれ他の年齢層に比べ多くなっている。

男性では、20 歳代では「250～500 万円未満」、50 歳代では「750 万円～1000 万円未満」「1000 万円以上」がそれぞれ他の年齢層に比べ多くなっている。

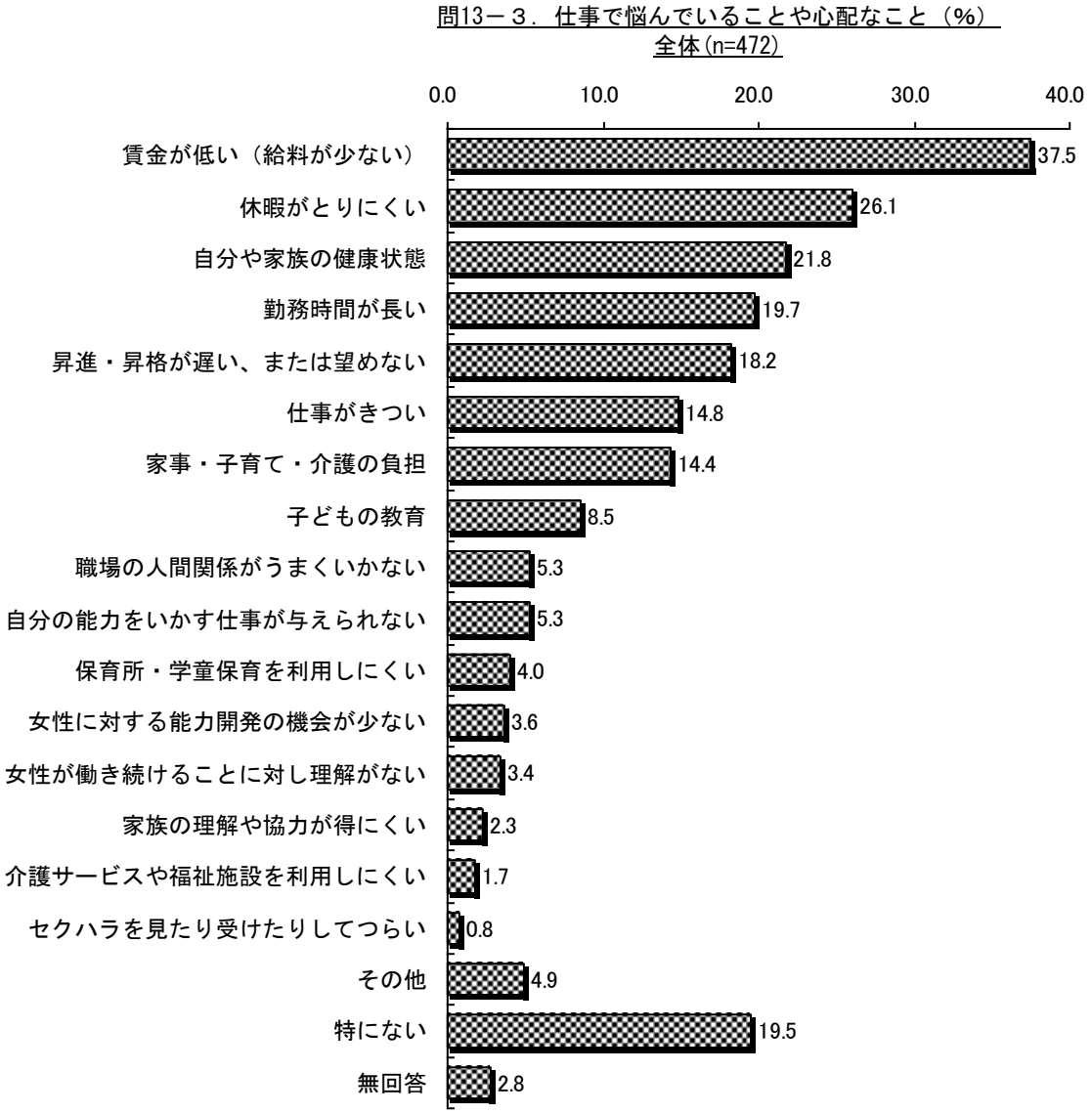
問13－２．昨年１年間の収入（税込み）（%）性・年齢別

| | 103万円未満 | 103万円～130万円未満 | 130万円～250万円未満 | 250万円～500万円未満 | 500万円～750万円未満 | 750万円～1000万円未満 | 1000万円以上 | 自分名義の収入はない | 昨年は働いていなかったので収入はない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体(n=472) | 19.9 | 4.9 | 15.0 | 23.3 | 18.0 | 9.1 | 4.4 | 1.1 | 2.3 |
| 女性20歳代(n=31) | 6.5 | 3.2 | 32.3 | 41.9 | 3.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 9.7 |
| 女性30歳代(n=60) | 26.7 | 8.3 | 20.0 | 23.3 | 16.7 | 0.0 | 0.0 | 1.7 | 3.3 |
| 女性40歳代(n=70) | 38.6 | 7.1 | 10.0 | 24.3 | 15.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 2.9 |
| 女性50歳代(n=47) | 27.7 | 10.6 | 21.3 | 23.4 | 6.4 | 4.3 | 0.0 | 2.1 | 0.0 |
| 女性60歳代(n=36) | 58.3 | 8.3 | 8.3 | 13.9 | 2.8 | 0.0 | 2.8 | 2.8 | 2.8 |
| 女性70歳以上(n=8) | 25.0 | 0.0 | 37.5 | 0.0 | 12.5 | 0.0 | 0.0 | 12.5 | 0.0 |
| 男性20歳代(n=16) | 12.5 | 0.0 | 12.5 | 62.5 | 6.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 6.3 |
| 男性30歳代(n=54) | 1.9 | 3.7 | 11.1 | 29.6 | 35.2 | 16.7 | 1.9 | 0.0 | 0.0 |
| 男性40歳代(n=53) | 0.0 | 1.9 | 9.4 | 15.1 | 30.2 | 30.2 | 11.3 | 0.0 | 0.0 |
| 男性50歳代(n=42) | 2.4 | 0.0 | 2.4 | 16.7 | 28.6 | 31.0 | 19.0 | 0.0 | 0.0 |
| 男性60歳代(n=38) | 18.4 | 2.6 | 21.1 | 18.4 | 23.7 | 2.6 | 10.5 | 0.0 | 0.0 |
| 男性70歳以上(n=13) | 15.4 | 0.0 | 23.1 | 15.4 | 0.0 | 15.4 | 7.7 | 7.7 | 0.0 |

（９）就労者／仕事で悩んでいることや心配なこと

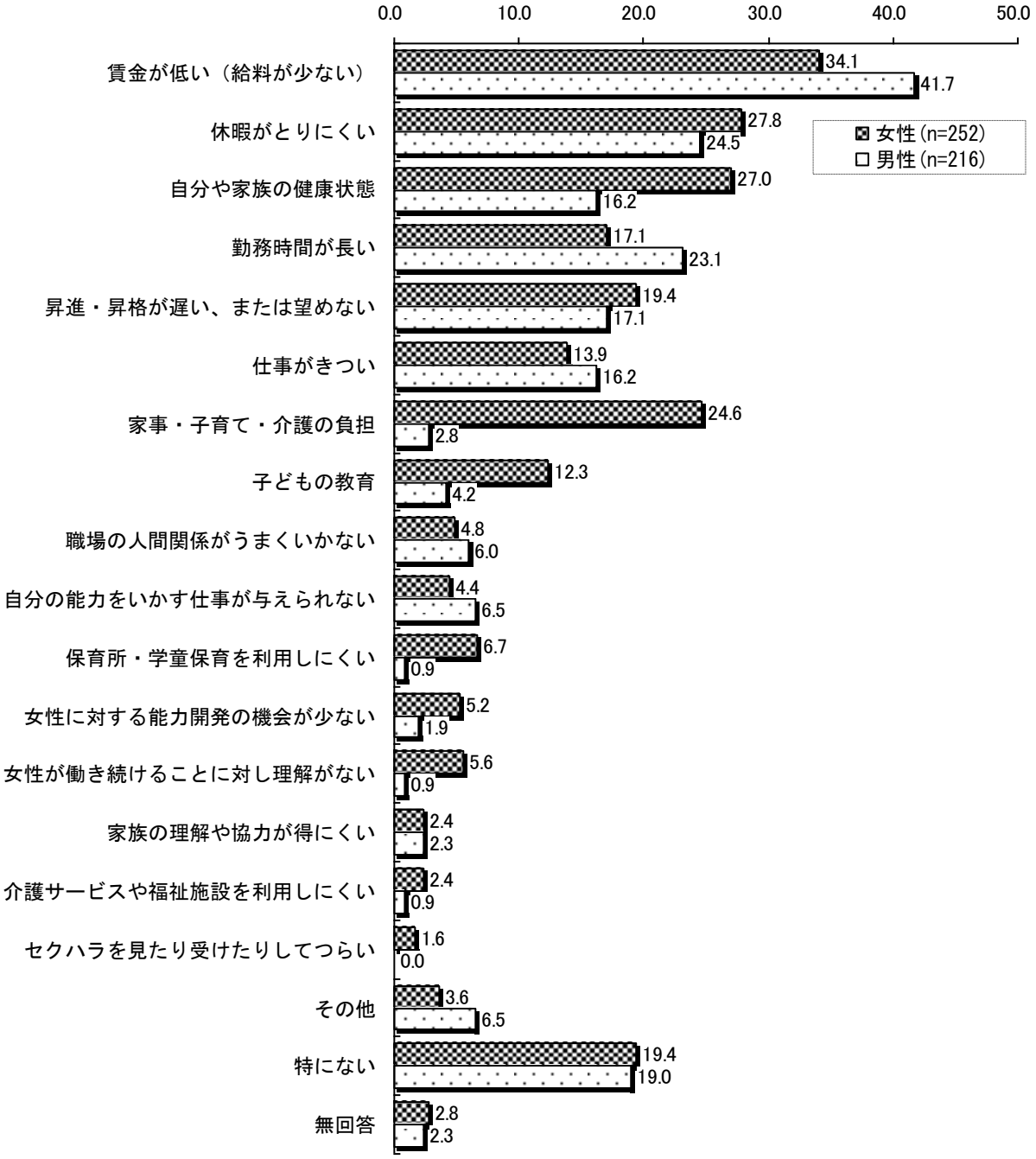
◆問 13-3. 仕事を続けていくにあたって、悩んでいること、心配なことはなんですか。
（○はいくつでも）

仕事で悩んでいることや心配なことについては、「賃金が低い（給料が少ない）」が 37.5％と最も多く、次いで「休暇がとりにくい」（26.1％）、「自分や家族の健康状態」（21.8％）、「勤務時間が長い」（19.7％）、「昇進・昇格が遅い、または望めない」（18.2％）の順となっている。



性別でみると、特に女性で多い項目として「家事・子育て・介護の負担」「自分や家族の健康状態」「子どもの教育」があげられる。一方、男性では「賃金が低い（給料が少ない）」「勤務時間が長い」などが多くなっている。

問13－３．仕事で悩んでいることや心配なこと（%）性別



性・年齢別でみると、女性は20歳代で「昇進・昇格が遅い、または望めない」「賃金が低い（給料が少ない）」、30歳代で「家事・子育て・介護の負担」「保育所・学童保育を利用しにくい」、40歳代で「子どもの教育」などがそれぞれ他の年齢層を上回って多くなっている。男性では、年齢の若い層ほど、特に20歳代で「賃金が低い（給料が少ない）」「仕事がきつい」「勤務時間が長い」「休暇がとりにくい」、30～40歳代で「昇進・昇格が遅い、または望めない」などがそれぞれ他の年齢層より多くみられる。

問13－３．仕事で悩んでいることや心配なこと（%）性・年齢別

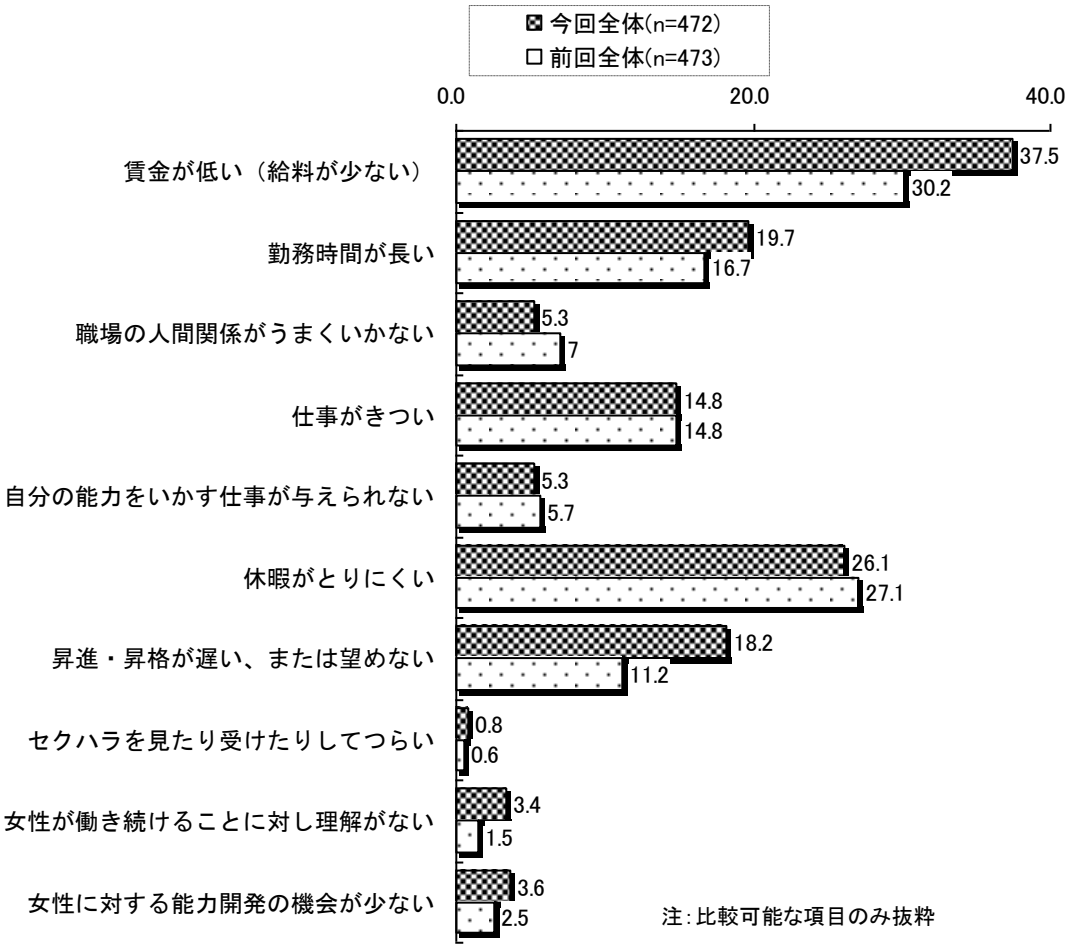
| | 賃金が低い（給料が少ない） | 勤務時間が長い | 職場の人間関係がうまくいかない | 仕事がきつい | 自分の能力をいかす仕事が与えられない | 休暇がとりにくい | 昇進・昇格が遅い、または望めない | セクハラを見たり受けたりしてつらい | 女性が働き続けることに対し理解がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体(n=472) | 37.5 | 19.7 | 5.3 | 14.8 | 5.3 | 26.1 | 18.2 | 0.8 | 3.4 |
| 女性20歳代(n=31) | 45.2 | 25.8 | 19.4 | 19.4 | 3.2 | 22.6 | 38.7 | 0.0 | 9.7 |
| 女性30歳代(n=60) | 41.7 | 21.7 | 3.3 | 6.7 | 10.0 | 35.0 | 23.3 | 5.0 | 13.3 |
| 女性40歳代(n=70) | 37.1 | 17.1 | 4.3 | 18.6 | 1.4 | 31.4 | 15.7 | 0.0 | 2.9 |
| 女性50歳代(n=47) | 23.4 | 12.8 | 0.0 | 12.8 | 6.4 | 21.3 | 14.9 | 0.0 | 0.0 |
| 女性60歳代(n=36) | 27.8 | 11.1 | 2.8 | 13.9 | 0.0 | 27.8 | 13.9 | 2.8 | 2.8 |
| 女性70歳以上(n=8) | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 12.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 男性20歳代(n=16) | 56.3 | 37.5 | 18.8 | 31.3 | 12.5 | 37.5 | 18.8 | 0.0 | 6.3 |
| 男性30歳代(n=54) | 46.3 | 31.5 | 3.7 | 16.7 | 3.7 | 27.8 | 24.1 | 0.0 | 0.0 |
| 男性40歳代(n=53) | 45.3 | 32.1 | 3.8 | 20.8 | 9.4 | 32.1 | 28.3 | 0.0 | 0.0 |
| 男性50歳代(n=42) | 40.5 | 14.3 | 9.5 | 16.7 | 4.8 | 23.8 | 11.9 | 0.0 | 0.0 |
| 男性60歳代(n=38) | 39.5 | 7.9 | 5.3 | 7.9 | 7.9 | 10.5 | 2.6 | 0.0 | 2.6 |
| 男性70歳以上(n=13) | 0.0 | 7.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 7.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

| | 女性に対する能力開発の機会が少ない | 家事・子育て・介護の負担 | 自分や家族の健康状態 | 家族の理解や協力が得にくい | 子どもの教育 | 保育所・学童保育を利用しにくい | 介護サービスや福祉施設を利用しにくい | その他 | 特にない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体(n=472) | 3.6 | 14.4 | 21.8 | 2.3 | 8.5 | 4.0 | 1.7 | 4.9 | 19.5 |
| 女性20歳代(n=31) | 6.5 | 16.1 | 16.1 | 0.0 | 3.2 | 9.7 | 3.2 | 6.5 | 19.4 |
| 女性30歳代(n=60) | 15.0 | 43.3 | 28.3 | 6.7 | 18.3 | 21.7 | 1.7 | 5.0 | 8.3 |
| 女性40歳代(n=70) | 1.4 | 30.0 | 27.1 | 2.9 | 27.1 | 1.4 | 1.4 | 4.3 | 18.6 |
| 女性50歳代(n=47) | 0.0 | 19.1 | 29.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 4.3 | 0.0 | 27.7 |
| 女性60歳代(n=36) | 2.8 | 2.8 | 33.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 2.8 | 0.0 | 22.2 |
| 女性70歳以上(n=8) | 0.0 | 0.0 | 12.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 12.5 | 50.0 |
| 男性20歳代(n=16) | 12.5 | 6.3 | 12.5 | 12.5 | 12.5 | 12.5 | 6.3 | 6.3 | 6.3 |
| 男性30歳代(n=54) | 0.0 | 5.6 | 13.0 | 1.9 | 3.7 | 0.0 | 1.9 | 3.7 | 16.7 |
| 男性40歳代(n=53) | 0.0 | 1.9 | 15.1 | 3.8 | 5.7 | 0.0 | 0.0 | 13.2 | 3.8 |
| 男性50歳代(n=42) | 0.0 | 0.0 | 16.7 | 0.0 | 4.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 33.3 |
| 男性60歳代(n=38) | 5.3 | 2.6 | 18.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 5.3 | 31.6 |
| 男性70歳以上(n=13) | 0.0 | 0.0 | 30.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 15.4 | 23.1 |

【前回調査との比較】

前回との比較では、「賃金が低い（給料が少ない)」「昇進・昇格が遅い、または望めない」が前回からやや増加している。

問13－３．仕事で悩んでいることや心配なこと（%）



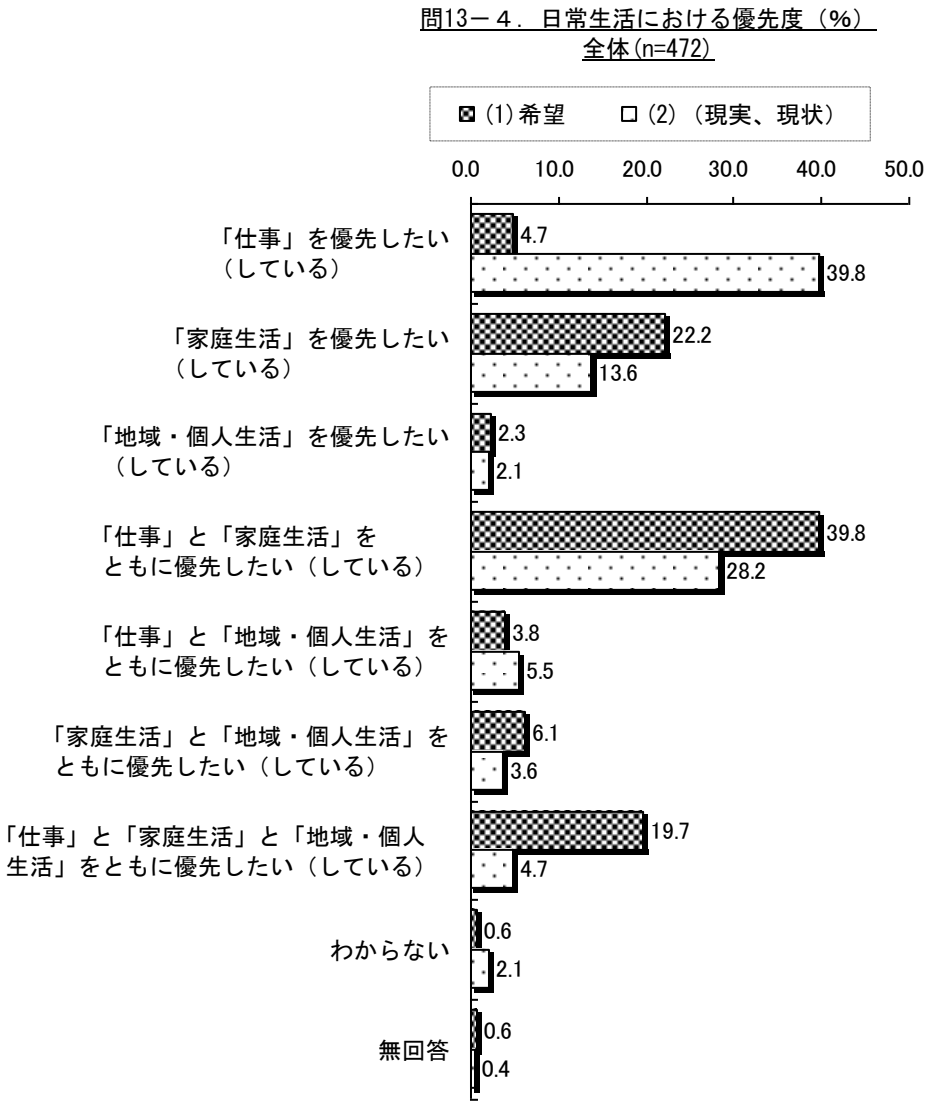
(10) 就労者／日常生活における優先度

◆問 13-4. 生活の中での「仕事」 「家庭生活」 「地域・個人生活」の優先度についてお答えください。
（１） まず、あなたの希望に最も近いものはどれですか。（○は１つ）
（２） では、あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。（○は１つ）

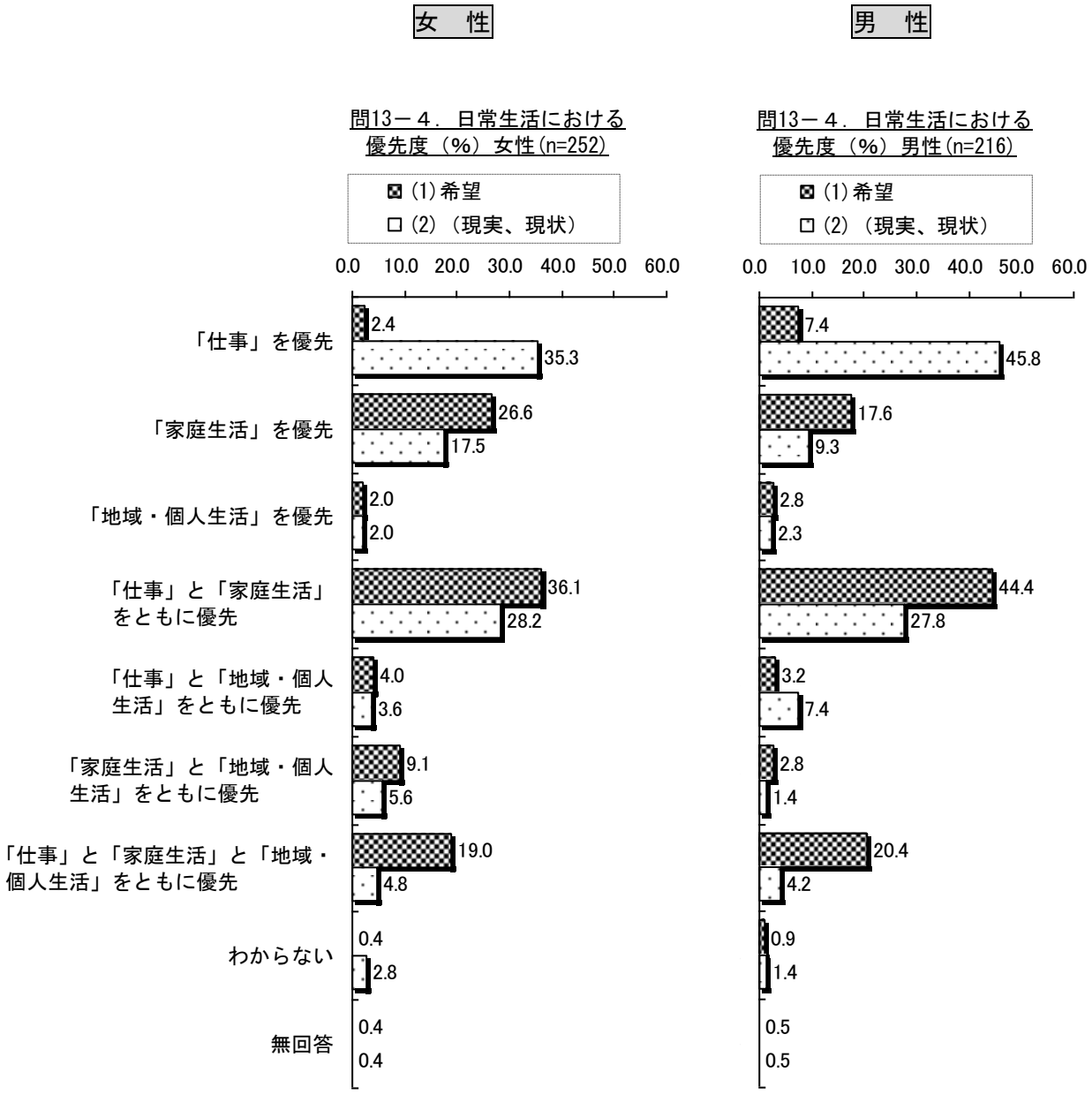
日常生活における優先度について、まず『希望』をみると、「仕事と家庭生活をともに優先したい」が 39.8%と最も多く、次いで「家庭生活を優先したい」(22.2%)、「仕事と家庭生活と地域・個人生活をともに優先したい」(19.7%) の順となっている。

一方、『現実、現状』については、「仕事を優先している」が 39.8%と最も多く、次いで「仕事と家庭生活をともに優先している」(28.2%)、「家庭生活を優先している」(13.6%) の順となっている。

希望が現実を大きく上回って差が大きい項目は「仕事と家庭生活と地域・個人生活をともに優先したい」、「仕事と家庭生活をともに優先したい」「家庭生活を優先したい」であり、現実が希望を大きく上回っている項目として「仕事を優先している」があげられる。

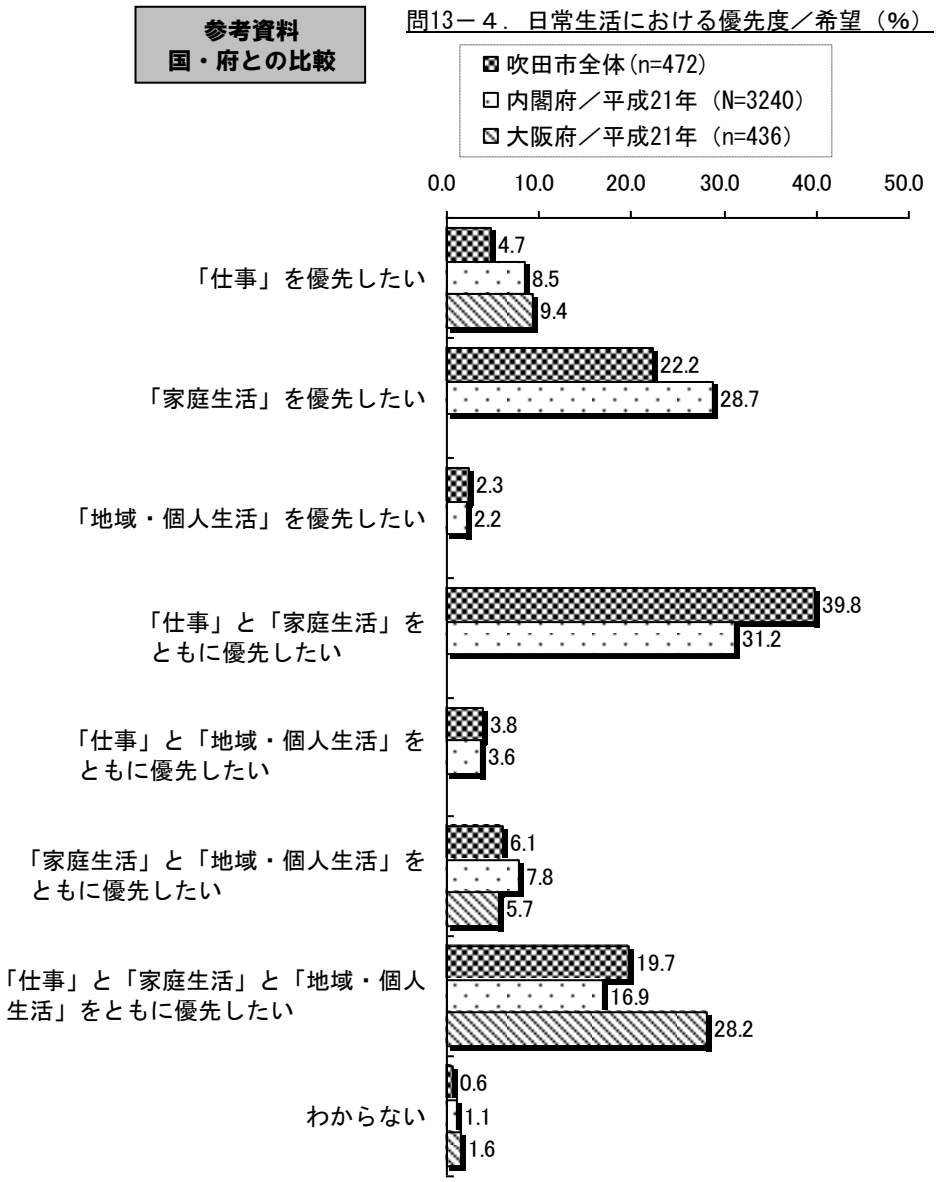


性別でみると、男女ともに「仕事と家庭生活をともに優先」「仕事と家庭生活と地域・個人生活をともに優先」を希望しているものの、現実は「仕事を優先」している意識が多く、女性は「家庭生活を優先」も男性に比べ多くみられる。

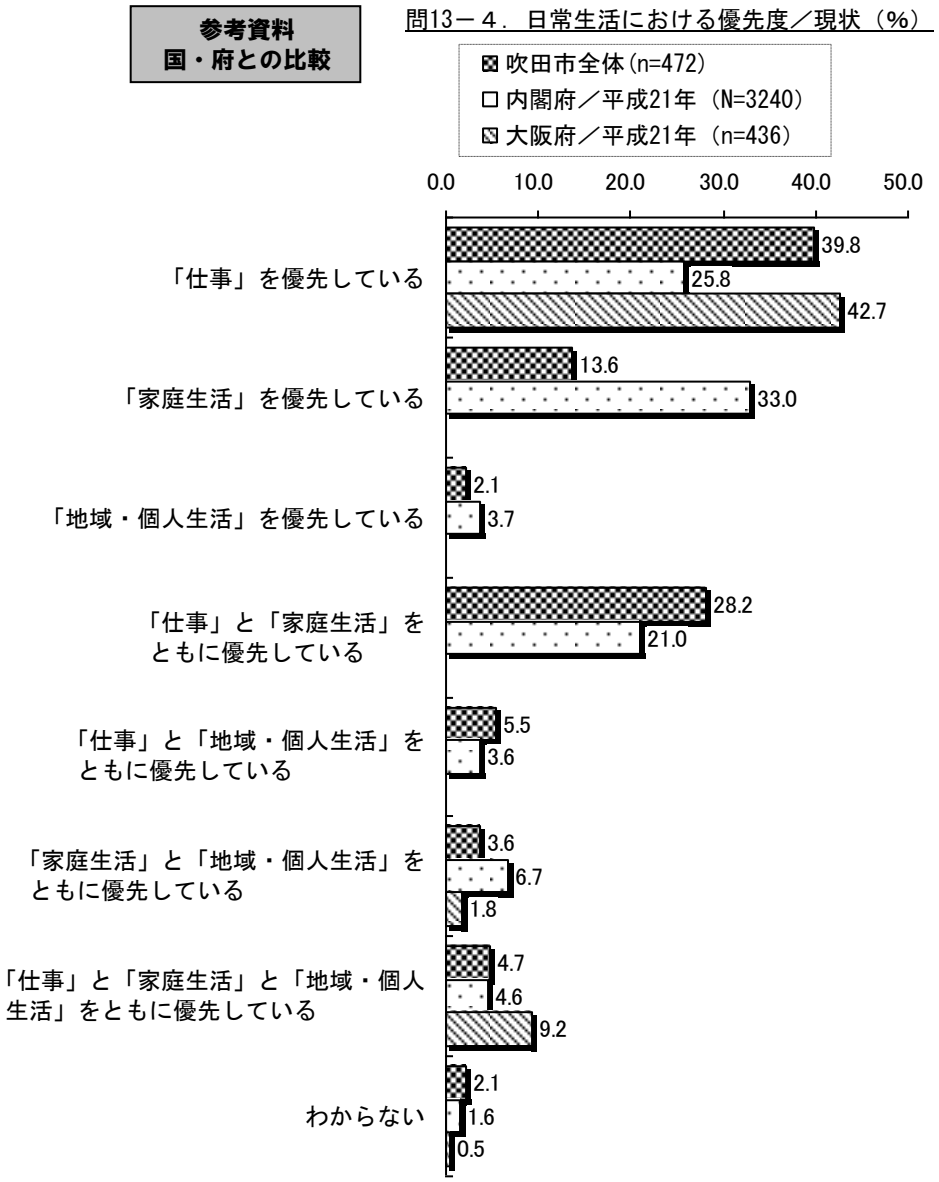


【内閣府・大阪府調査との比較】

「希望」については、本市では内閣府に比べ「仕事と家庭生活をともに優先したい」が上回り、「家庭生活を優先したい」が下回っている。大阪府は比較対象が少ないため参考にとどめる。



「現状」については、本市では内閣府に比べ「仕事を優先している」が大きく上回り、「家庭生活を優先している」が大きく下回っている。大阪府は比較対象が少ないため参考にとどめる。



## 【３】子育てについて

### １．子育てについての考え方

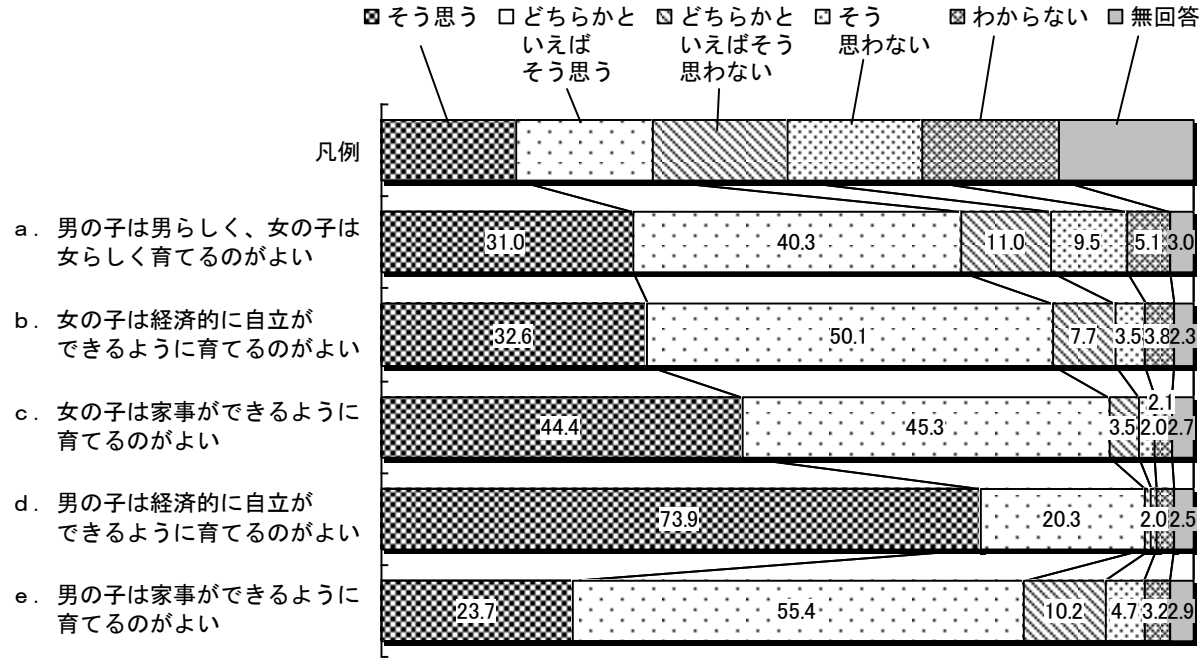
問 14．子育てについて、あなたのご意見をおたずねします。次の各項目について、あなたのお考えに最も近いものを選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

子育てについての考え方について、「そう思う」への回答をみると、「ｄ．男の子は経済的に自立ができるように育てるのがよい」が 73.9％で最も多く、次いで「ｃ．女の子は家事ができるように育てるのがよい」（44.4％）、「ｂ．女の子は経済的に自立ができるように育てるのがよい」（32.6％）、「ａ．男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」（31.0％）の順となっている。

性別では、女性で多い考え方として「ｂ．女の子は経済的に自立ができるように育てるのがよい」「ｅ．男の子は家事ができるように育てるのがよい」があげられ、男性では「ａ．男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」が多い点で差がみられる。

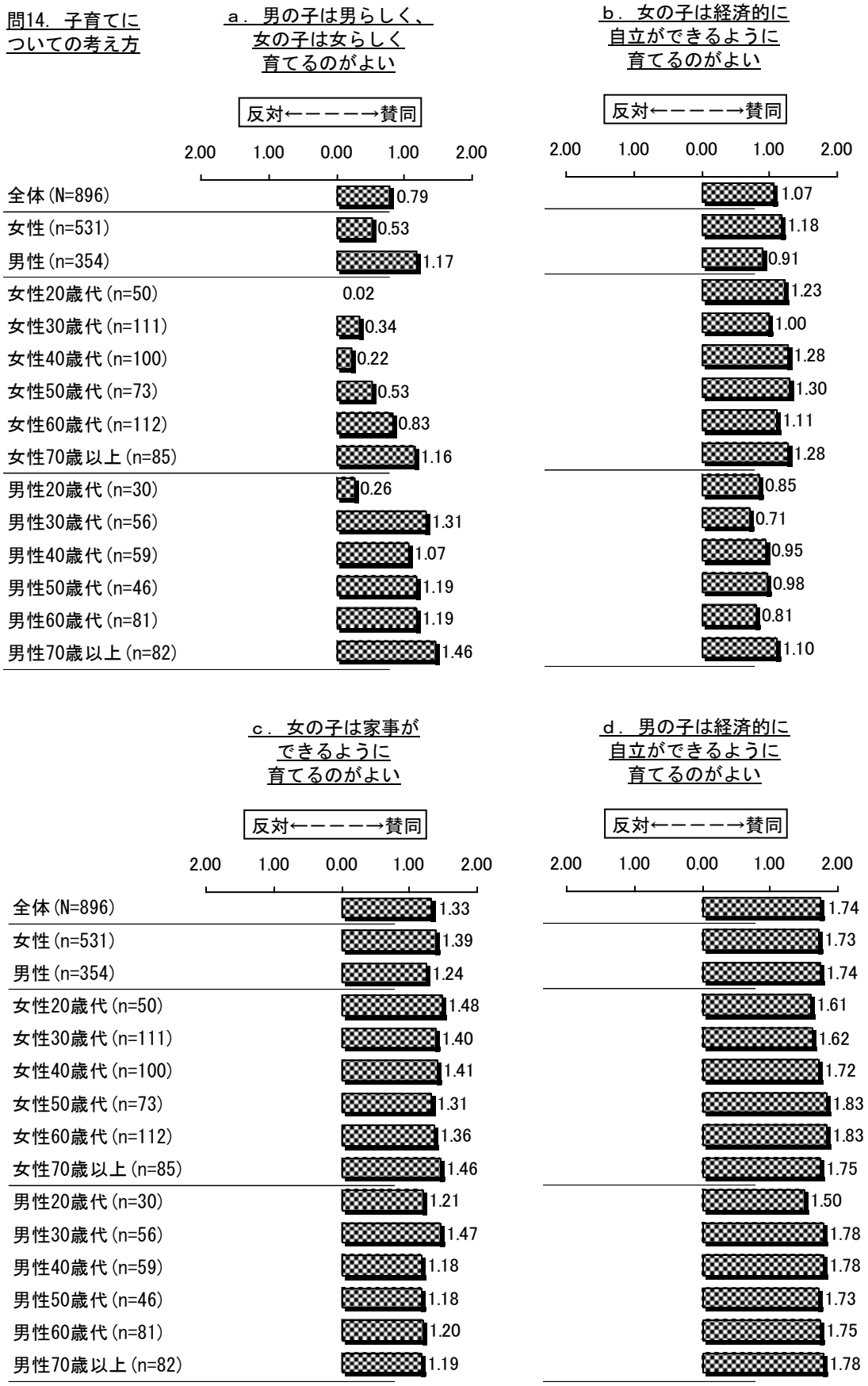
性・年齢別では、女性で年齢が上がるにつれ「ａ．男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」、男性は同じ項目で 20 歳代を除く全ての年齢層で賛同者が多い。また、男性の 40 歳以上で年齢が上がるほど「ｅ．男の子は家事ができるように育てるのがよい」が少なくなっている。

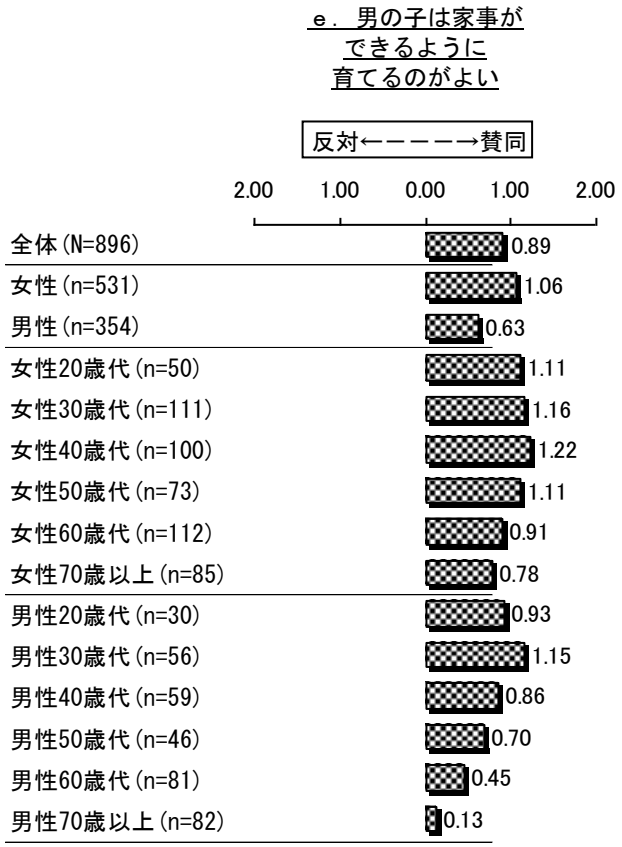
問14．子育てについての考え方（％）
全体(N=896)



※数値は「加重平均値」です。

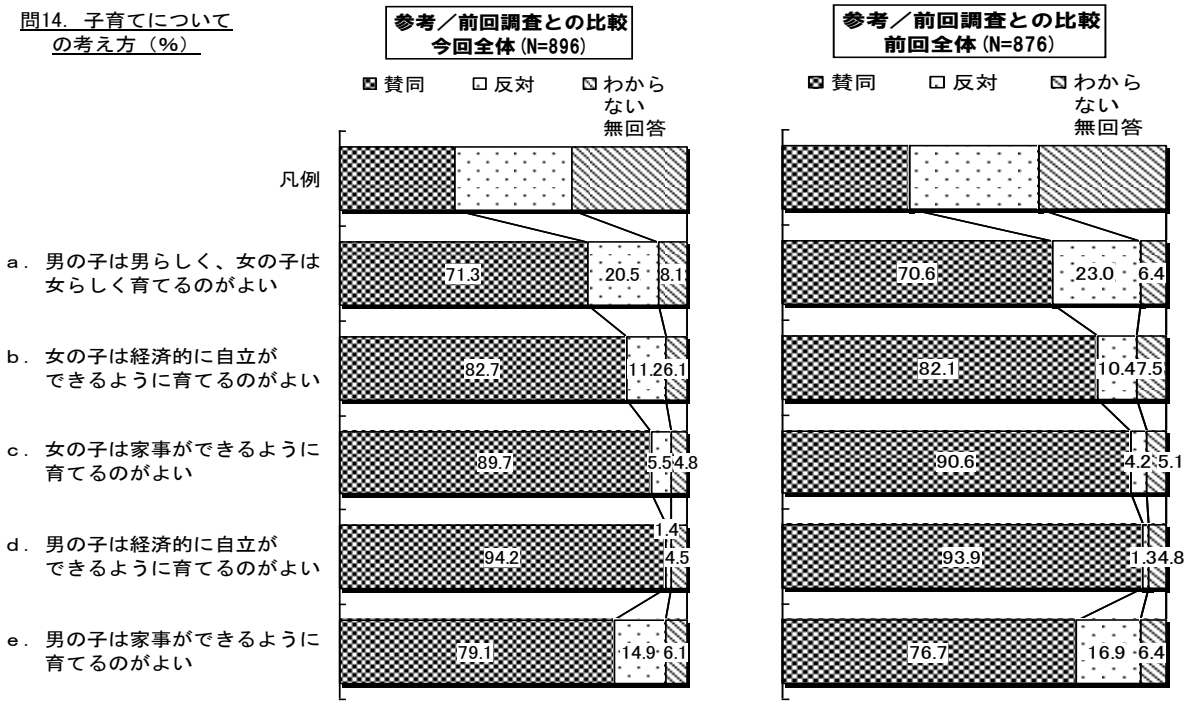
問14. 子育てについての考え方






## 【前回調査との比較】

前回との比較をみると、「賛同(注 1)」「反対(注 2)」ともに大きな変化はみられない。

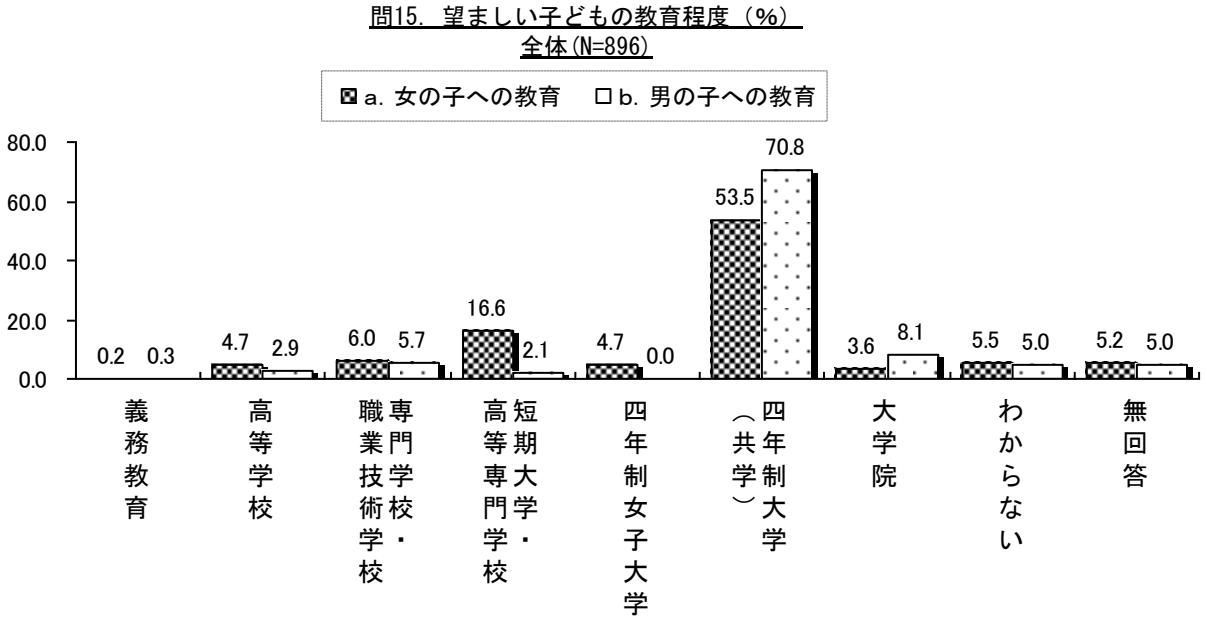



注 1:「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計。
注 2:「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計。

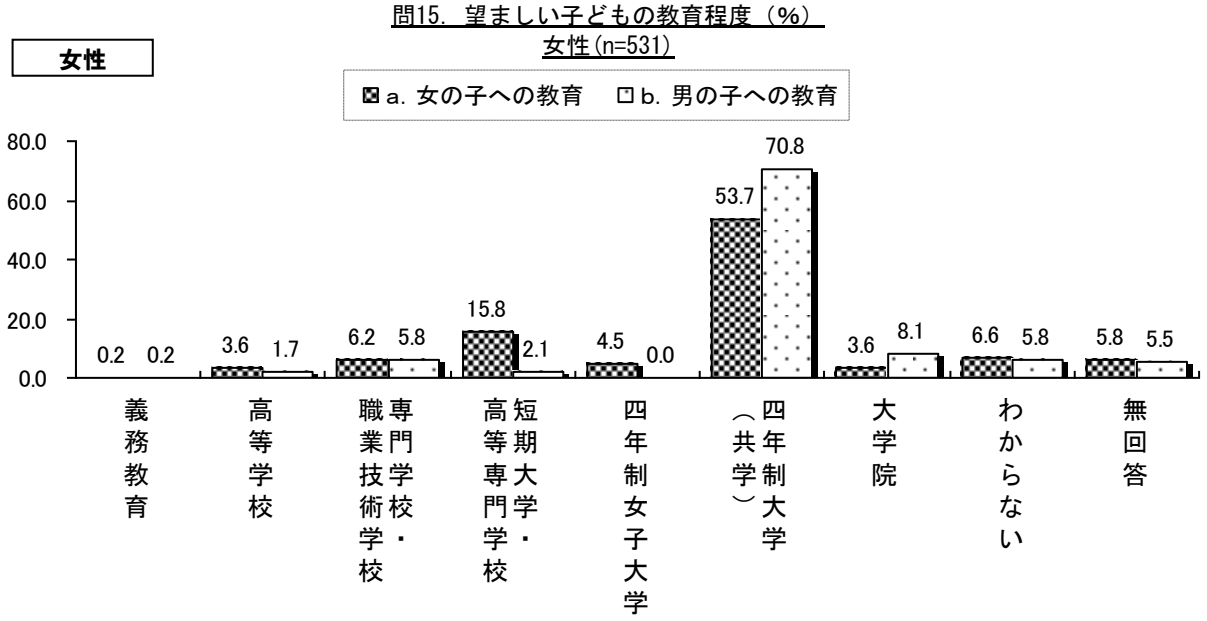
## ２．望ましい子どもの教育程度

問 15. あなたは、子どもにどの程度の教育を受けさせたいと思いますか。女の子と男の子のそれぞれについて番号に○をつけてください。（○は男女、それぞれ１つずつ）
（子どもがいない方・子どもが社会人になった方も、あなたのお考えをお答えください）

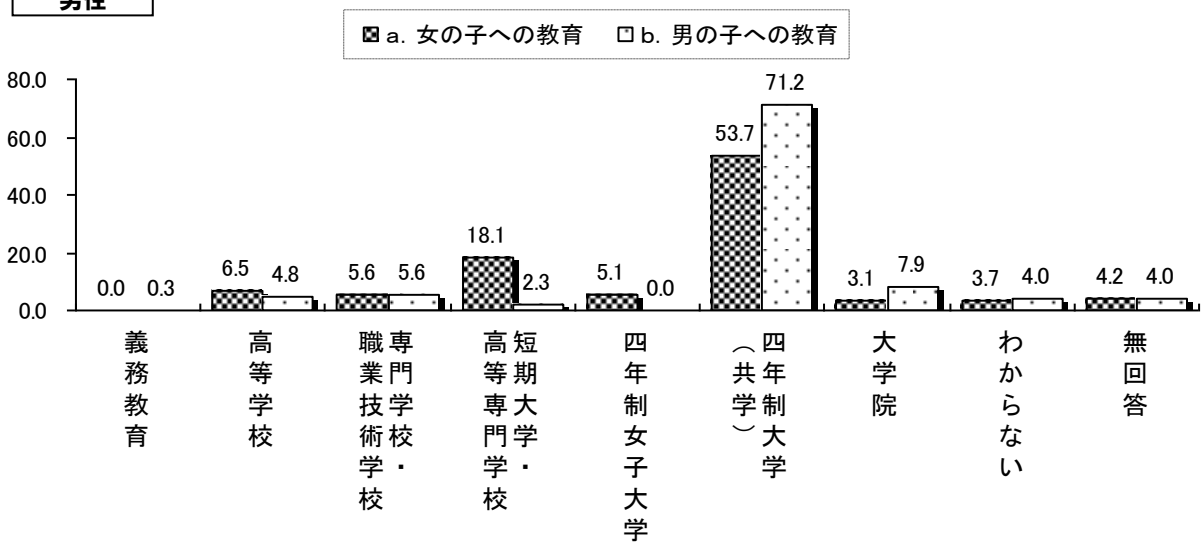
望ましい子どもの教育程度について、まず『女の子への教育』をみると、「四年制大学（共学)」が 53.5%で最も多く、次いで「短期大学・高等専門学校」(16.6%)、「専門学校・職業技術学校」（6.0%）の順となっている。『男の子への教育』は「四年制大学（共学)」で 70.8%と多くを占めている。男の子へは「四年制大学（共学)」、女の子へは「四年制大学（共学)」と「短期大学・高等専門学校」が望まれている点で差がみられる。




この傾向は、性別でみても大きな差はみられない。



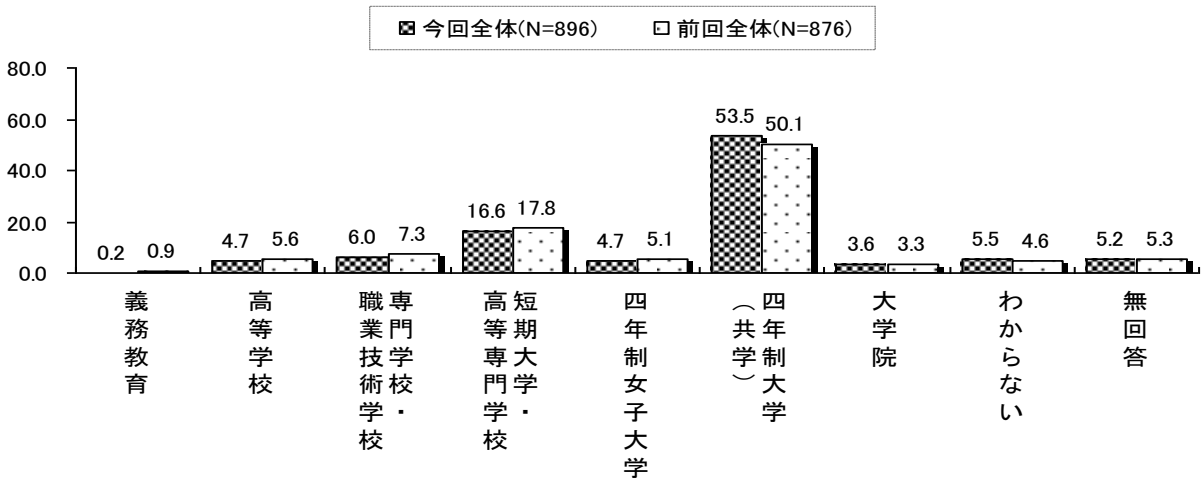
問15. 望ましい子どもの教育程度（%）
男性(n=354)



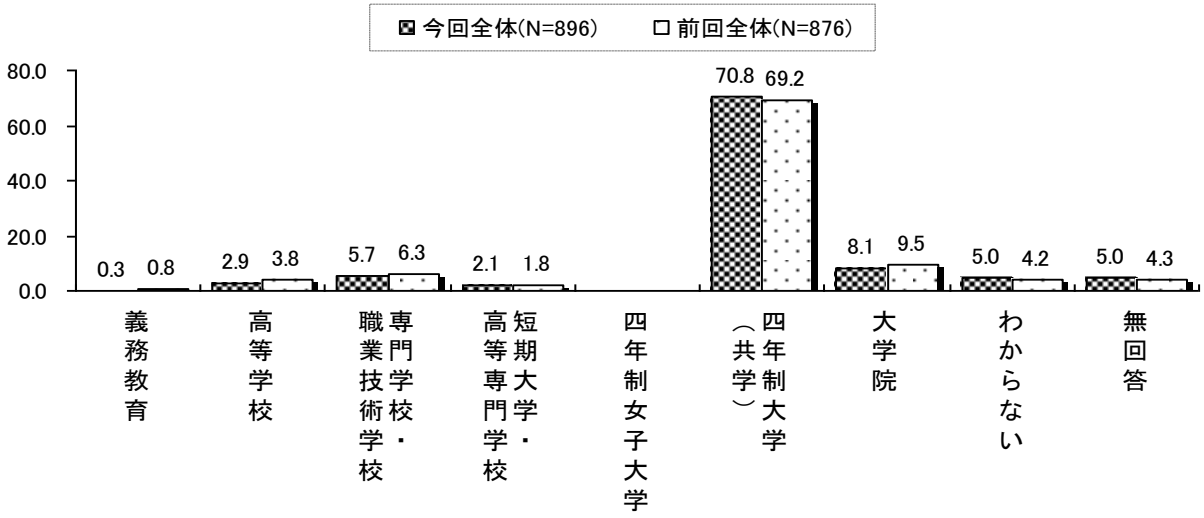

【前回調査との比較】

女の子、男の子、ともに前回から大きな変動はみられない。

問15. 望ましい子どもの教育程度（%）
a. 女の子への教育

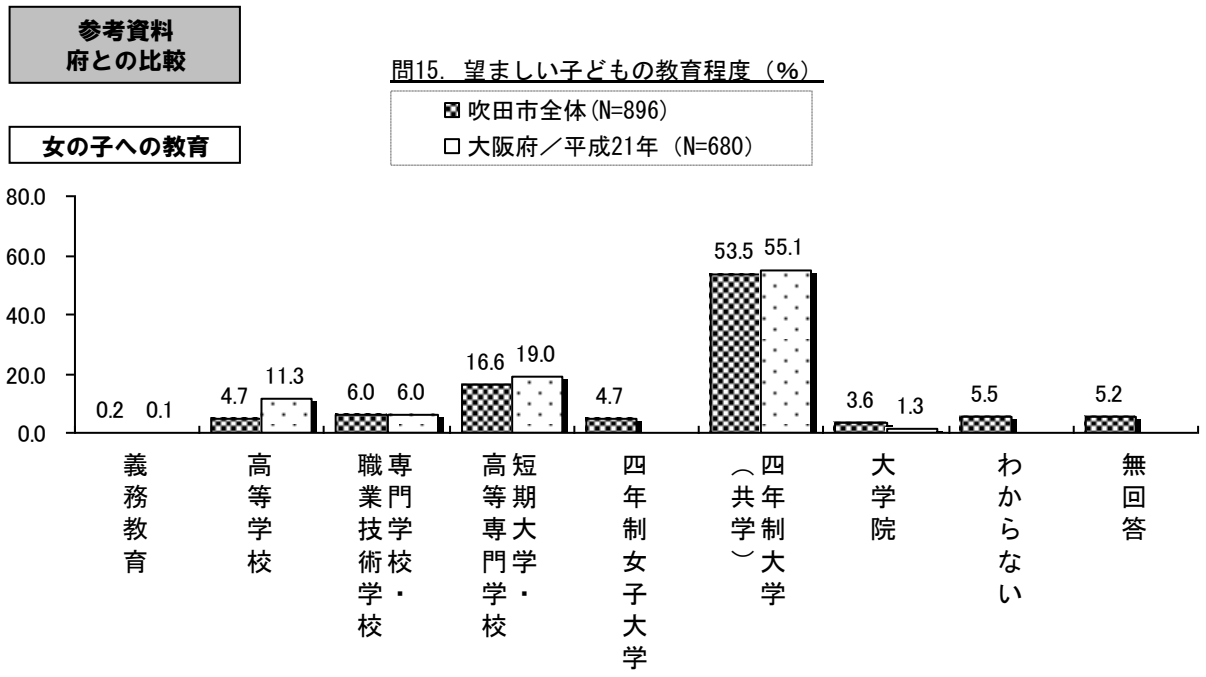


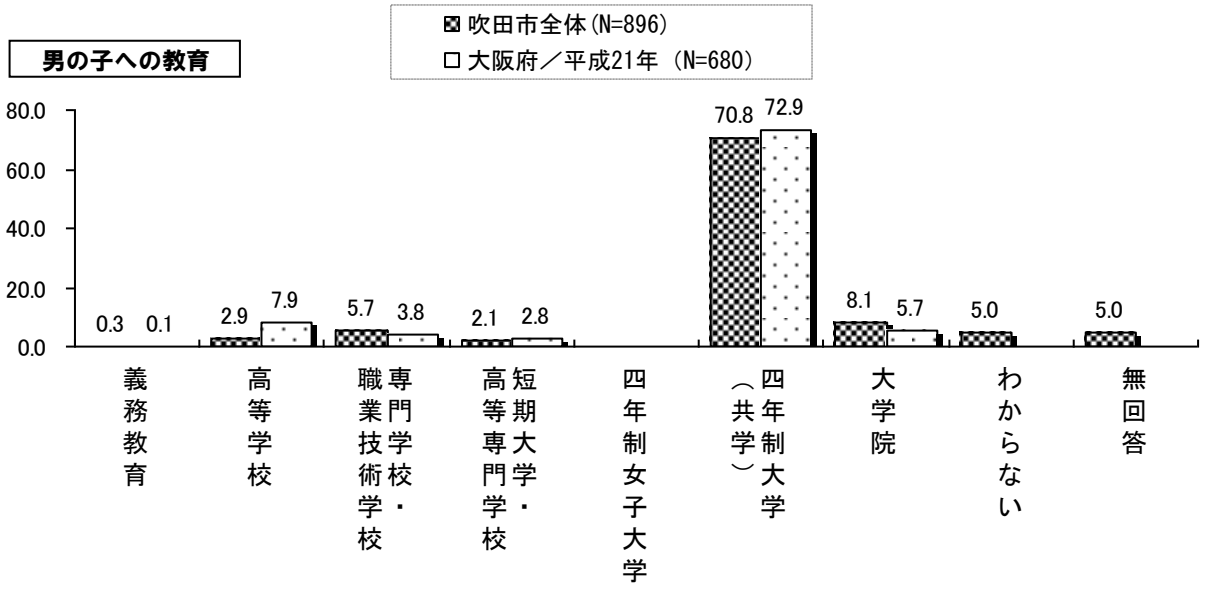

b. 男の子への教育



【大阪府調査との比較】

大阪府との比較においては、女の子、男の子ともに「高等学校」が大阪府をやや下回るものの、全体的に大きな傾向差はみられない。

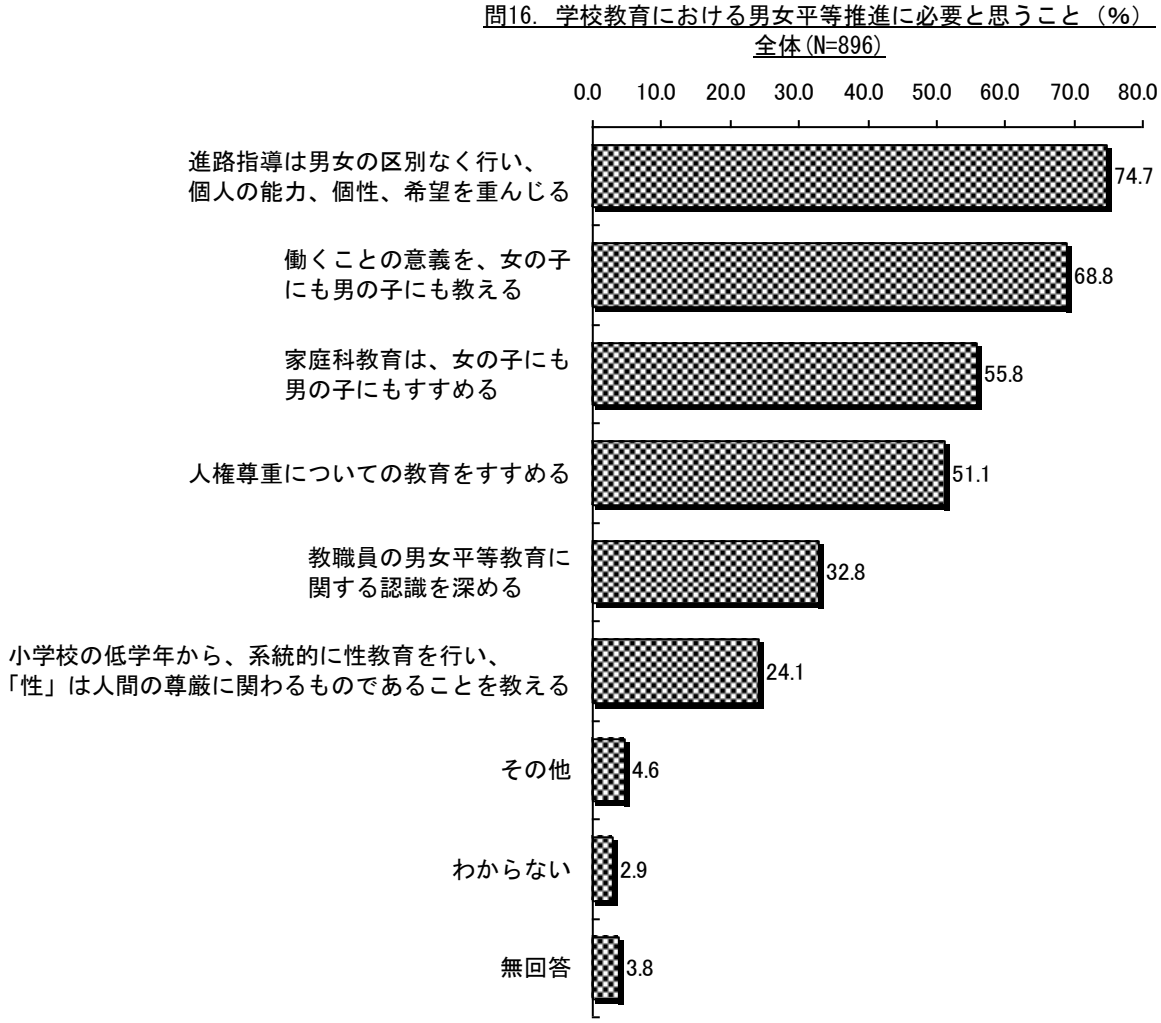


## ３．学校教育における男女平等推進に必要と思うこと

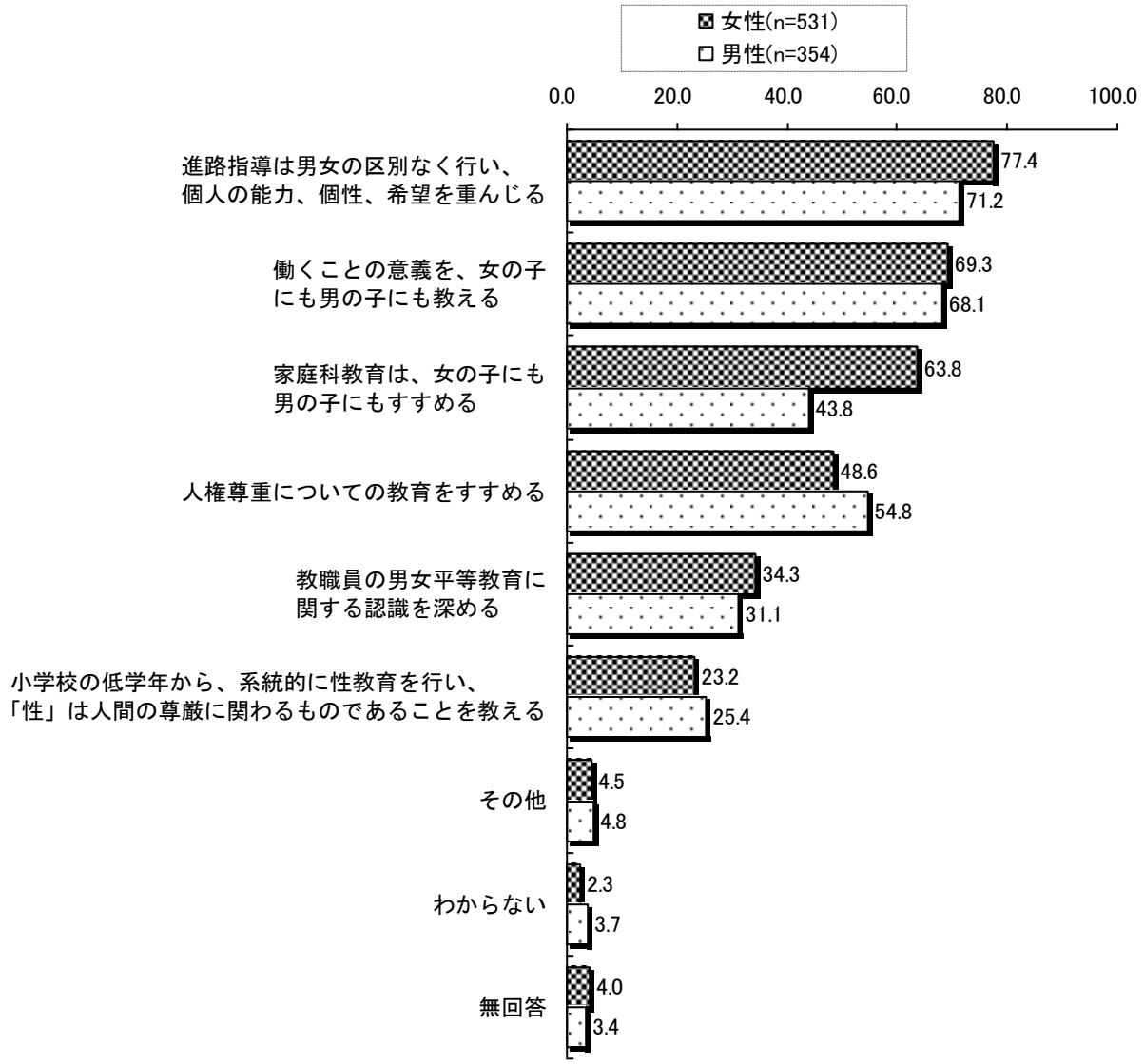
問 16. 学校教育において男女平等をすすめるために、どのようなことが必要だと思いますか。
（○はいくつでも）

学校教育における男女平等推進に必要と思うことについては、「進路指導は男女の区別なく行い、個人の能力、個性、希望を重んじる」が 74.7%と最も多く、次いで「働くことの意義を、女の子にも男の子にも教える」(68.8%)、「家庭科教育は、女の子にも男の子にもすすめる」(55.8%)、「人権尊重についての教育をすすめる」(51.1%)、「教職員の男女平等教育に関する認識を深める」（32.8%）の順となっている。



性別では、女性で「家庭科教育は、女の子にも男の子にもすすめる」が男性を上回っているが、この他は大きな男女差はみられない。

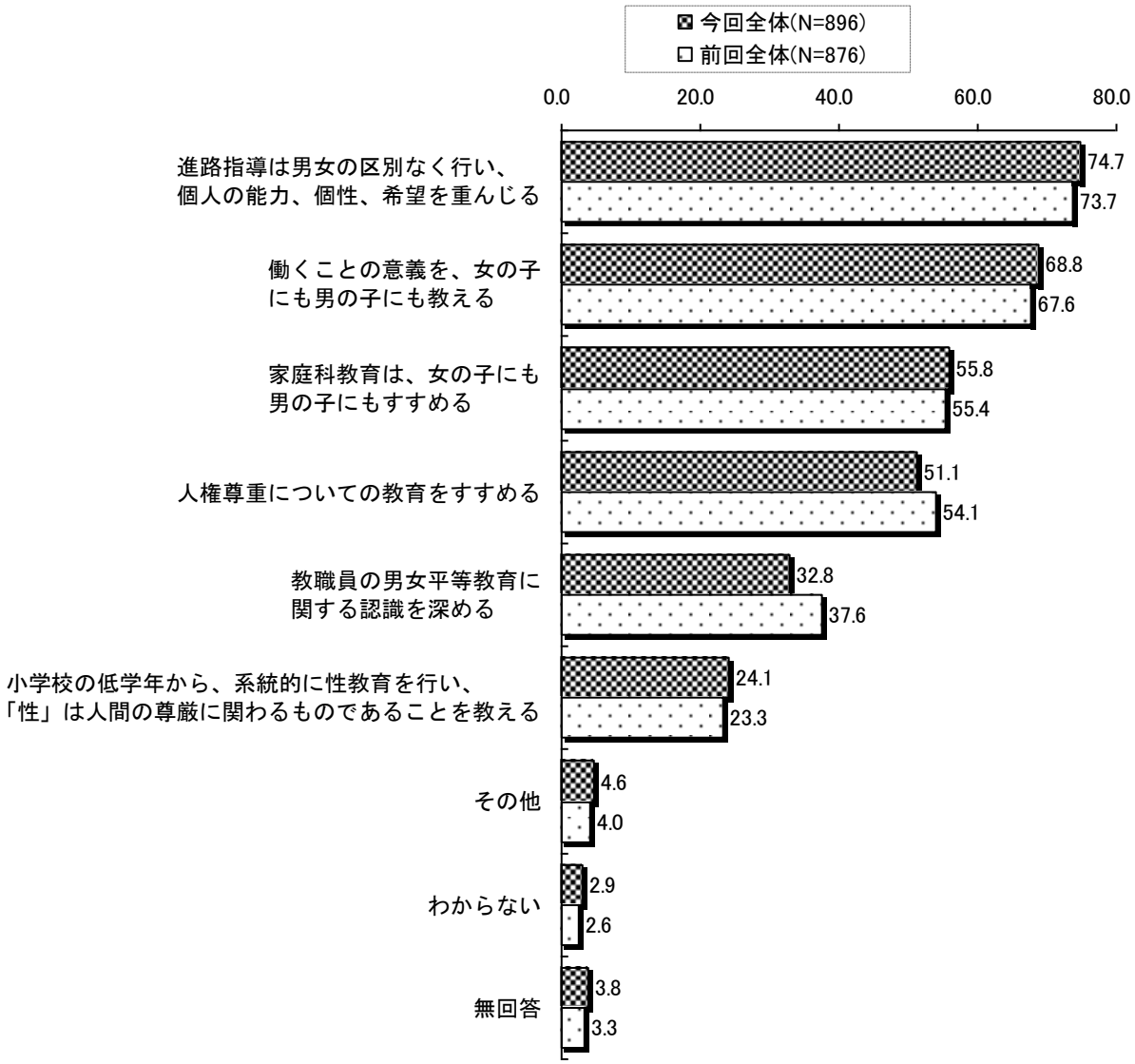
問16. 学校教育における男女平等推進に必要と思うこと（%）



【前回調査との比較】

前回から「教職員の男女平等教育に関する認識を深める」「人権尊重についての教育をすすめる」がやや減少しているものの、大きな変化はみられない。

問16. 学校教育における男女平等推進に必要と思うこと（%）

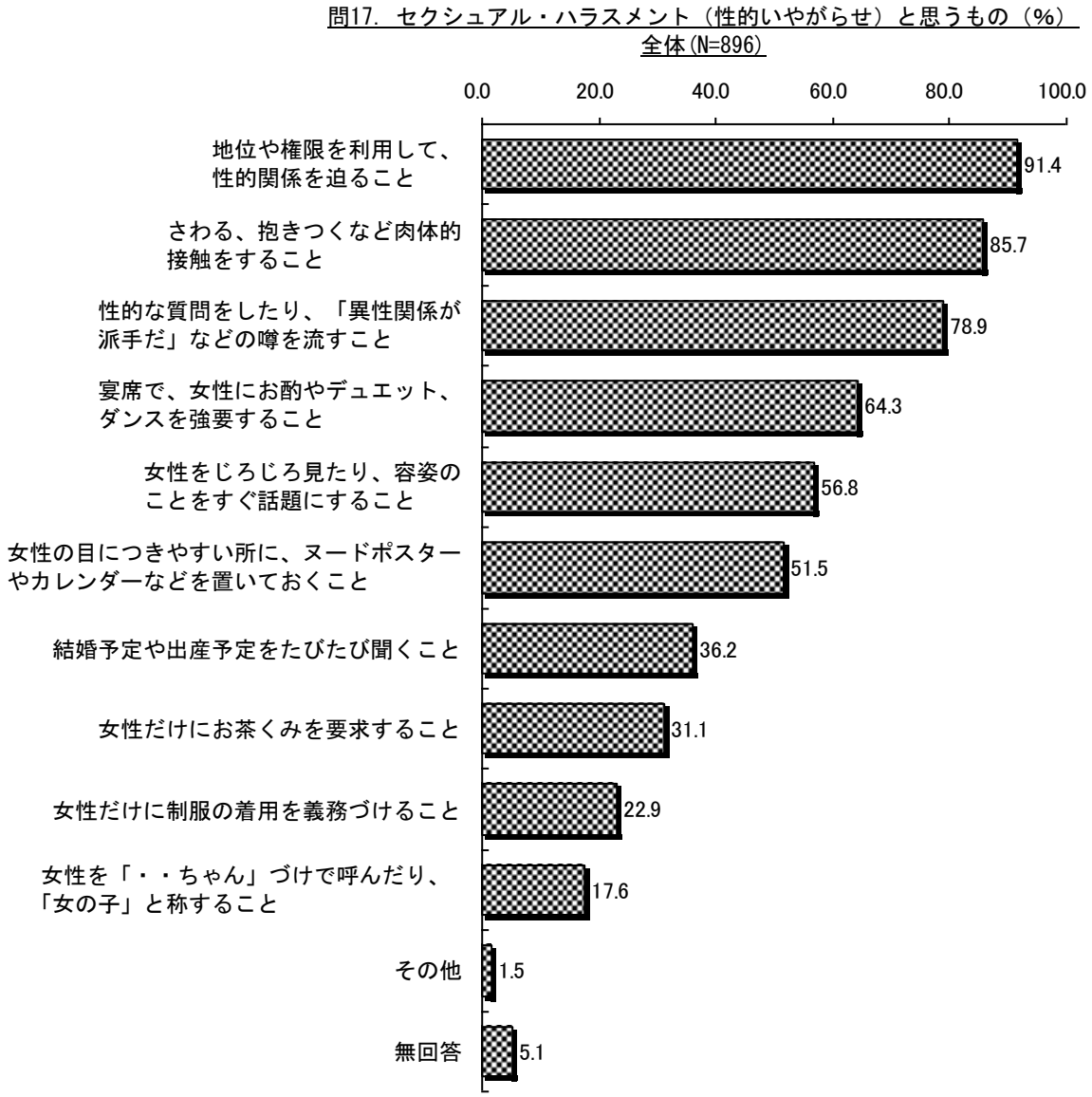


## 【４】女性の人権と配偶者等からの暴力について

### １．セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）と思うもの

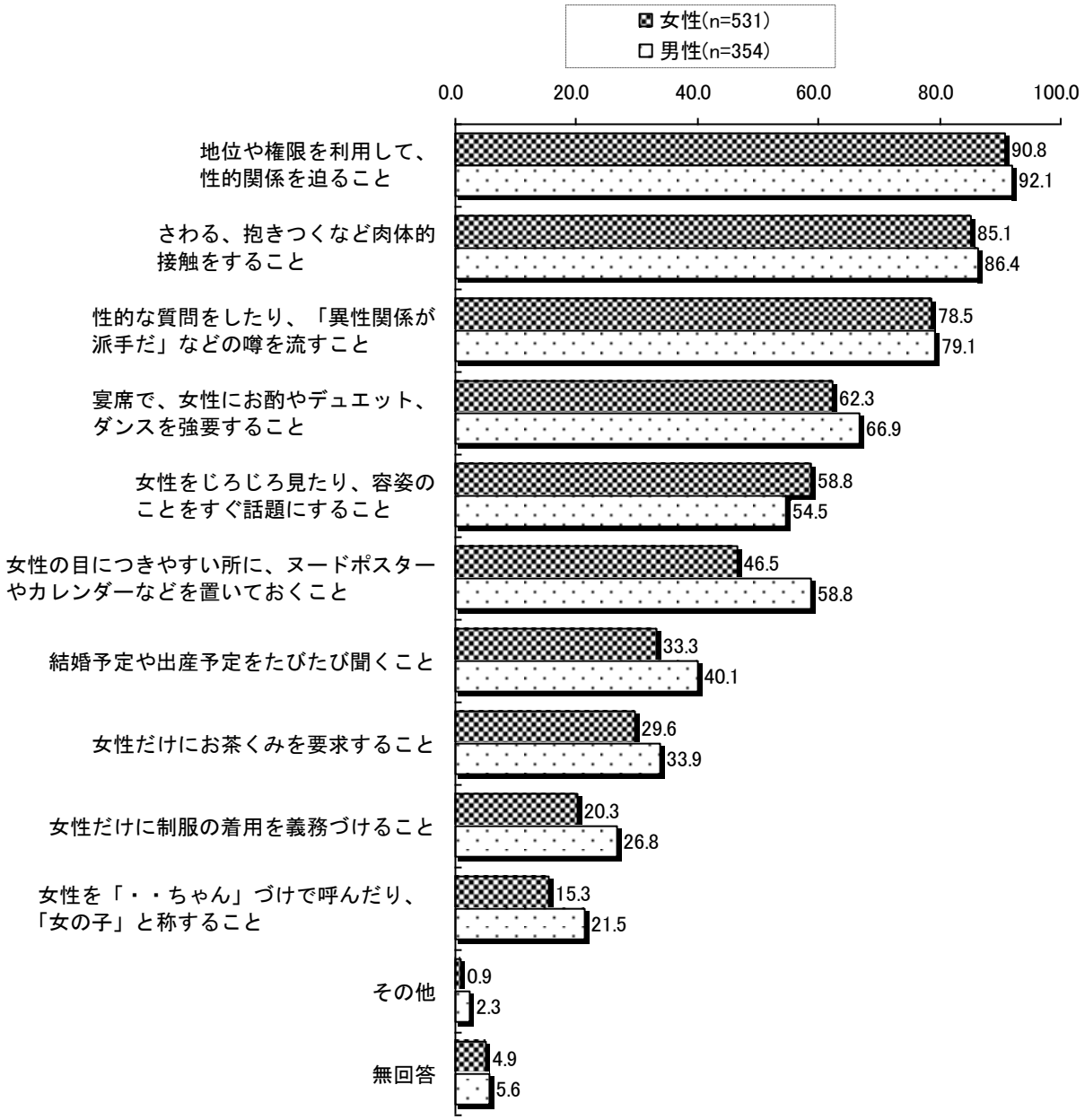
問 17. 次のうち、あなたがセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）だと思うものは、どれですか。（○はいくつでも）

セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）と思うものについては、「地位や権限を利用して、性的関係を迫ること」が 91.4%と大半が回答しており最も多くなっている。次いで「さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること」（85.7%）、「性的な質問をしたり、「異性関係が派手だ」などの噂を流すこと」（78.9%）、「宴席で、女性にお酌やデュエット、ダンスを強要すること」（64.3%）、「女性をじろじろ見たり、容姿のことをすぐ話題にすること」（56.8%）、「女性の目につきやすい所に、ヌードポスターやカレンダーなどを置いておくこと」（51.5%）の順となっている。



性別では、男性で「女性の目につきやすい所に、ヌードポスターやカレンダーなどを置いておくこと」「結婚予定や出産予定をたびたび聞くこと」「女性だけに制服の着用を義務づけること」は男女差がみられるものの、全体的に大きな違いはみられない。

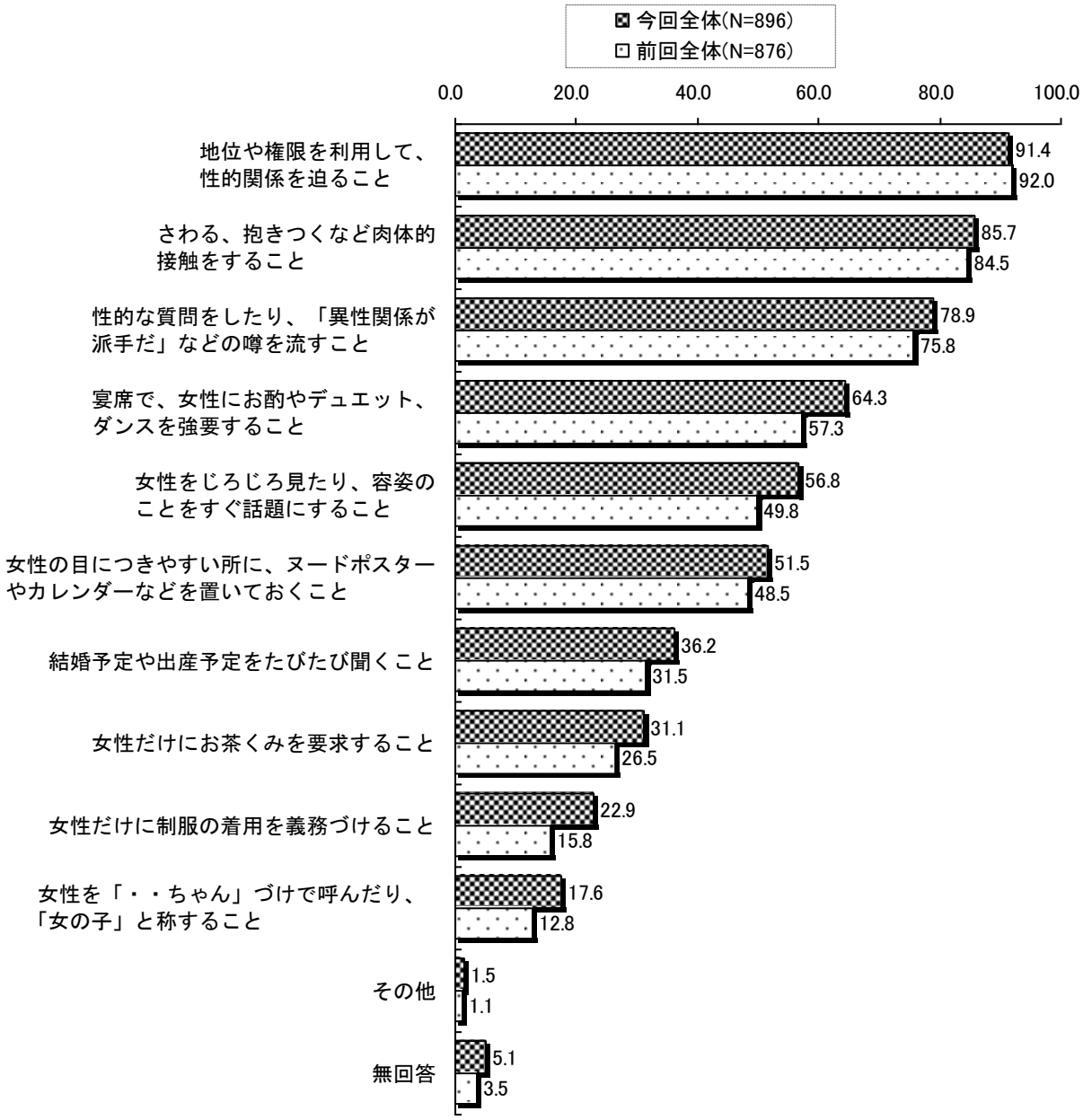
問17. セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）と思うもの（%）



【前回調査との比較】

前回から「女性だけに制服の着用を義務づけること」「宴席で、女性にお酌やデュエット、ダンスを強要すること」「女性をじろじろ見たり、容姿のことをすぐ話題にすること」がやや増加しているものの、全体的に大きな変化はみられない。

問17. セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）と思うもの（%）



## ２．セクシュアル・ハラスメントの体験

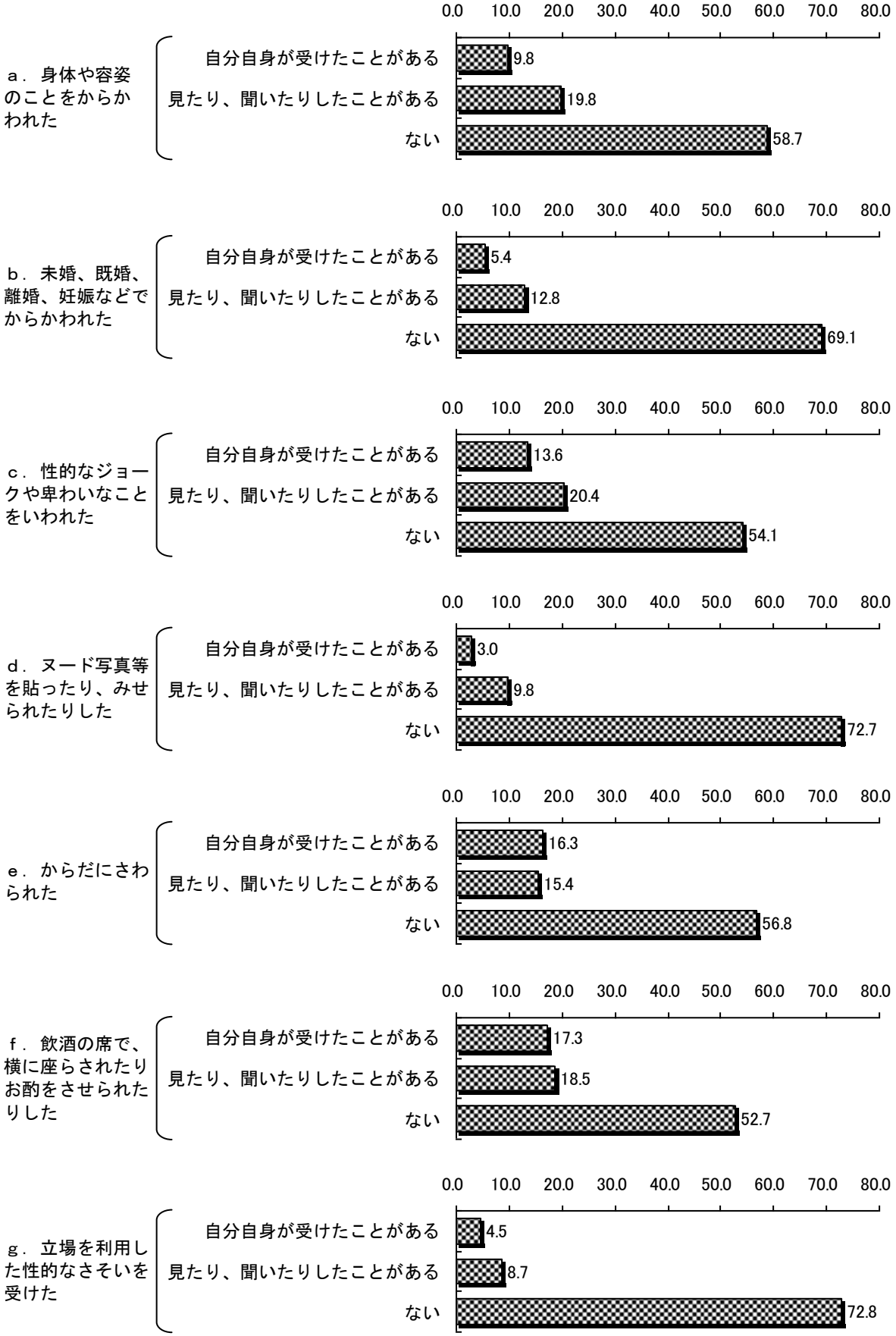
問 18. あなたは、身近でセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）を見たり、聞いたり、あるいは自分自身が受けたりした事がありますか。また、それはどのような内容でしたか。それぞれについてどれかに○をつけてください。（○はいくつでも）

セクシュアル・ハラスメントの体験について、「自分自身が受けたことがある」への回答をみると「ｆ．飲酒の席で、横に座らされたりお酌をさせられたりした」が 17.3%と最も多く、次いで「ｅ．からだにさわられた」(16.3%)、「ｃ．性的なジョークや卑わいなことをいわれた」(13.6%)の順となっている。「見たり、聞いたりしたことがある」については「ｃ．性的なジョークや卑わいなことをいわれた」が 20.4%で最も多く、ほぼ並んで「ａ．身体や容姿のことをからかわれた」(19.8%)、「ｆ．飲酒の席で、横に座らされたりお酌をさせられたりした」(18.5%)、次いで「ｅ．からだにさわられた」(15.4%）の順となっており、「飲酒の席」のことが多いと思われる。

性別でみると、「自分自身が受けたことがある」への回答では、ほとんどの項目で女性が男性を大きく上回っており、特に「ｆ．飲酒の席で、横に座らされたりお酌をさせられたりした」「ｅ．からだにさわられた」「ｃ．性的なジョークや卑わいなことをいわれた」などが上回っている。

性・年齢別では、多くの項目で、女性 30 歳代の体験割合が多くなっていることが特徴的である。

問18. セクシュアルハラスメントの体験（%）
全体(N=896)




注：図表では「無回答」は表示していません。

問18. セクシュアルハラスメントを受けた経験（%）性別、性・年齢別

| 自分自身が受けたことがある | a 身体や容姿のことをからかわれた | b 未婚、既婚、離婚、妊娠などでからかわれた | c 性的なジョークや卑わいなことをいわれた | d ヌード写真等を貼ったり、みせられたりした | e からだにさわられた | f 飲酒の席で、横に座らされたりお酌をさせられたりした | g 立場を利用した性的なそいを受けた | h その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体(N=896) | 9.8 | 5.4 | 13.6 | 3.0 | 16.3 | 17.3 | 4.5 | 1.0 |
| 女性(n=531) | 12.6 | 7.5 | 21.1 | 3.8 | 25.0 | 28.1 | 6.8 | 1.5 |
| 男性(n=354) | 5.9 | 2.3 | 2.8 | 2.0 | 3.4 | 1.7 | 1.1 | 0.3 |
| 女性20歳代(n=50) | 12.0 | 6.0 | 22.0 | 4.0 | 22.0 | 24.0 | 2.0 | 2.0 |
| 女性30歳代(n=111) | 27.9 | 17.1 | 37.8 | 9.0 | 34.2 | 50.5 | 9.0 | 1.8 |
| 女性40歳代(n=100) | 15.0 | 11.0 | 29.0 | 4.0 | 34.0 | 39.0 | 14.0 | 2.0 |
| 女性50歳代(n=73) | 11.0 | 4.1 | 20.5 | 1.4 | 26.0 | 21.9 | 6.8 | 2.7 |
| 女性60歳代(n=112) | 2.7 | 1.8 | 8.0 | 0.9 | 17.9 | 17.9 | 3.6 | 0.0 |
| 女性70歳以上(n=85) | 4.7 | 2.4 | 7.1 | 2.4 | 12.9 | 7.1 | 2.4 | 1.2 |
| 男性20歳代(n=30) | 6.7 | 3.3 | 6.7 | 3.3 | 3.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 男性30歳代(n=56) | 10.7 | 3.6 | 5.4 | 1.8 | 7.1 | 1.8 | 1.8 | 0.0 |
| 男性40歳代(n=59) | 11.9 | 1.7 | 6.8 | 5.1 | 6.8 | 5.1 | 0.0 | 0.0 |
| 男性50歳代(n=46) | 6.5 | 2.2 | 2.2 | 2.2 | 4.3 | 2.2 | 4.3 | 0.0 |
| 男性60歳代(n=81) | 2.5 | 3.7 | 0.0 | 1.2 | 0.0 | 0.0 | 1.2 | 1.2 |
| 男性70歳以上(n=82) | 1.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.2 | 1.2 | 0.0 | 0.0 |

| 見たり、聞いたりしたことがある | a 身体や容姿のことをからかわれた | b 未婚、既婚、離婚、妊娠などでからかわれた | c 性的なジョークや卑わいなことをいわれた | d ヌード写真等を貼ったり、みせられたりした | e からだにさわられた | f 飲酒の席で、横に座らされたりお酌をさせられたりした | g 立場を利用した性的なそいを受けた | h その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体(N=896) | 19.8 | 12.8 | 20.4 | 9.8 | 15.4 | 18.5 | 8.7 | 0.4 |
| 女性(n=531) | 18.3 | 12.4 | 18.6 | 10.0 | 15.6 | 16.2 | 8.9 | 0.4 |
| 男性(n=354) | 22.0 | 13.3 | 22.9 | 9.3 | 14.7 | 21.2 | 8.5 | 0.6 |
| 女性20歳代(n=50) | 30.0 | 12.0 | 24.0 | 4.0 | 10.0 | 14.0 | 6.0 | 0.0 |
| 女性30歳代(n=111) | 21.6 | 17.1 | 13.5 | 9.0 | 18.0 | 16.2 | 10.8 | 0.0 |
| 女性40歳代(n=100) | 21.0 | 16.0 | 29.0 | 15.0 | 21.0 | 20.0 | 11.0 | 2.0 |
| 女性50歳代(n=73) | 12.3 | 8.2 | 17.8 | 11.0 | 13.7 | 11.0 | 2.7 | 0.0 |
| 女性60歳代(n=112) | 20.5 | 14.3 | 20.5 | 11.6 | 17.0 | 22.3 | 12.5 | 0.0 |
| 女性70歳以上(n=85) | 5.9 | 3.5 | 8.2 | 5.9 | 9.4 | 9.4 | 5.9 | 0.0 |
| 男性20歳代(n=30) | 23.3 | 10.0 | 23.3 | 3.3 | 13.3 | 13.3 | 0.0 | 0.0 |
| 男性30歳代(n=56) | 33.9 | 19.6 | 35.7 | 10.7 | 25.0 | 23.2 | 7.1 | 0.0 |
| 男性40歳代(n=59) | 27.1 | 20.3 | 27.1 | 5.1 | 16.9 | 30.5 | 11.9 | 0.0 |
| 男性50歳代(n=46) | 19.6 | 8.7 | 19.6 | 4.3 | 10.9 | 17.4 | 8.7 | 0.0 |
| 男性60歳代(n=81) | 21.0 | 11.1 | 23.5 | 11.1 | 14.8 | 25.9 | 12.3 | 1.2 |
| 男性70歳以上(n=82) | 12.2 | 9.8 | 12.2 | 14.6 | 8.5 | 13.4 | 6.1 | 1.2 |

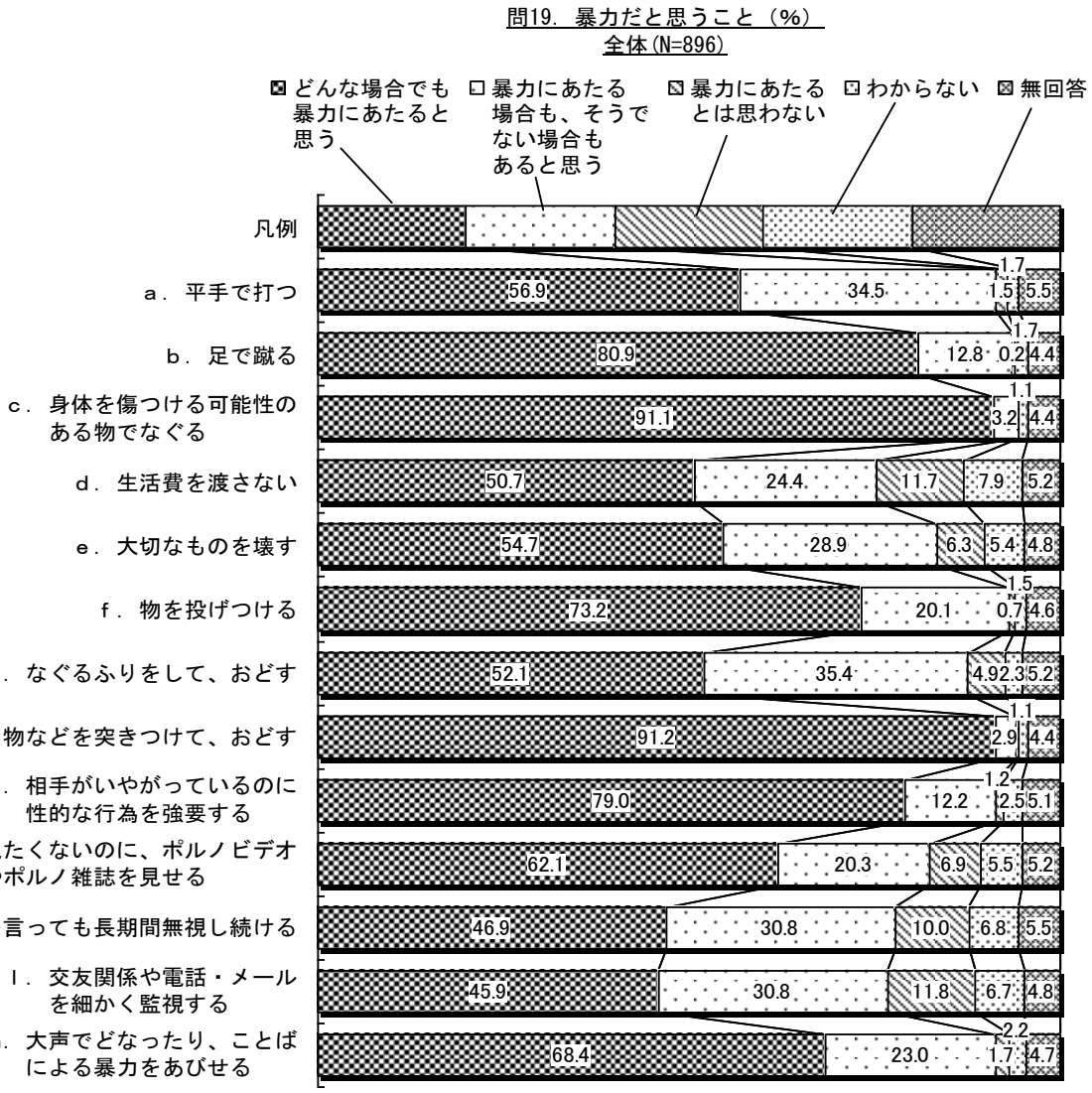
## ３．暴力だと思うこと

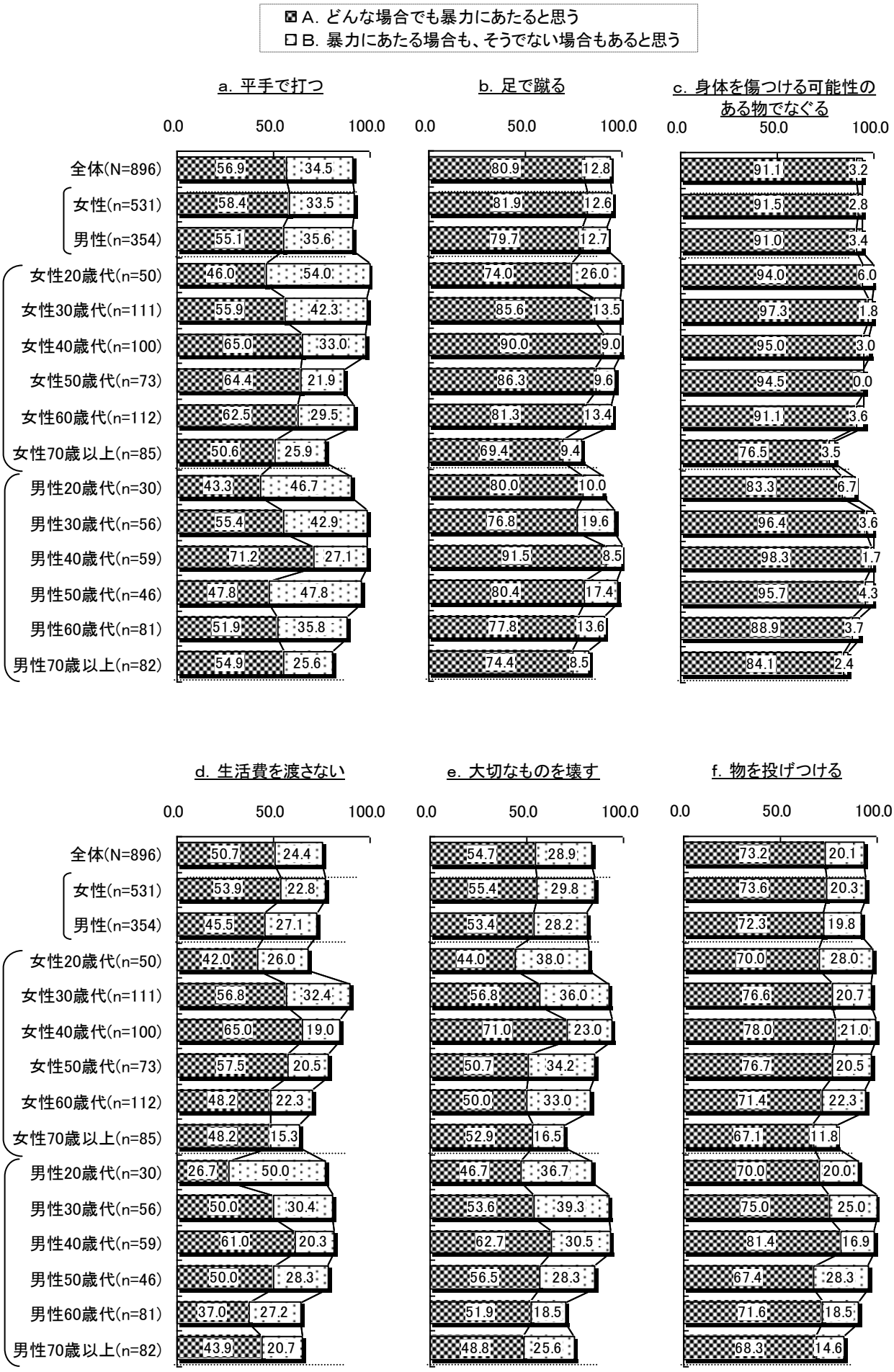
問 19. あなたは、次のようなことが夫と妻（事実婚や別居中を含む）、恋人、同棲中の男女間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。それぞれについて、あなたの考えに近いものに○をつけてください。（○はそれぞれ１つずつ）

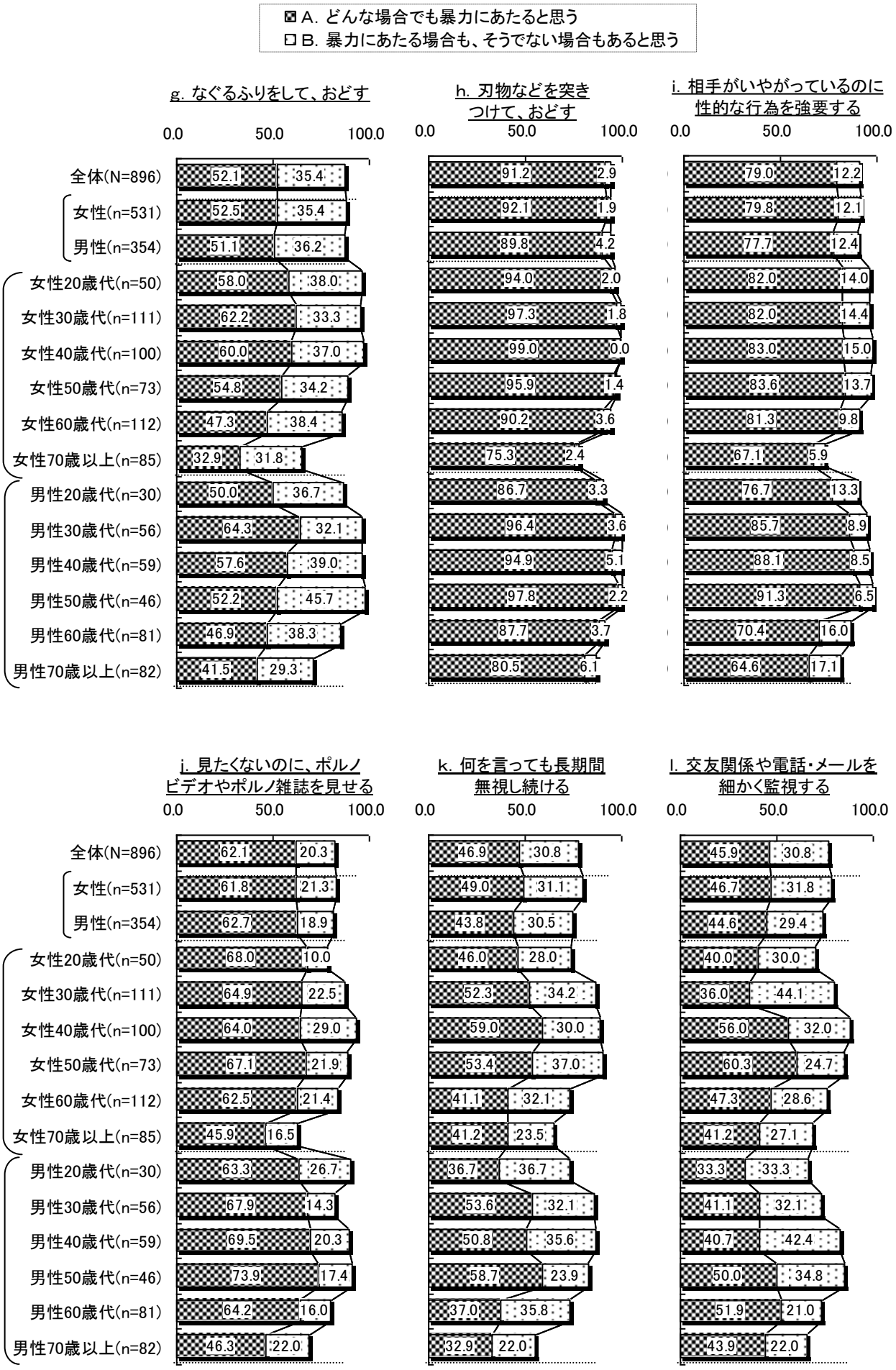
暴力だと思うことについて「どんな場合でも暴力にあたると思う」への回答をみると、「ｈ．刃物などを突きつけて､おどす」(91.2%)､「ｃ.身体を傷つける可能性のある物でなぐる」(91.1%)がいずれも 9 割を超えて最も高くなっている。次いで「ｂ．足で蹴る」（80.9%）、「ｉ．相手がいやがっているのに性的な行為を強要する」（79.0%）、「ｆ．物を投げつける」（73.2%）の順となっている。一方で「暴力にあたるとは思わない」が比較的多い項目として「ｌ．交友関係や電話・メールを細かく監視する」（11.8%）、「ｄ．生活費を渡さない」（11.7%）、「ｋ．何を言っても長期間無視し続ける」（10.0%）などがあげられる。

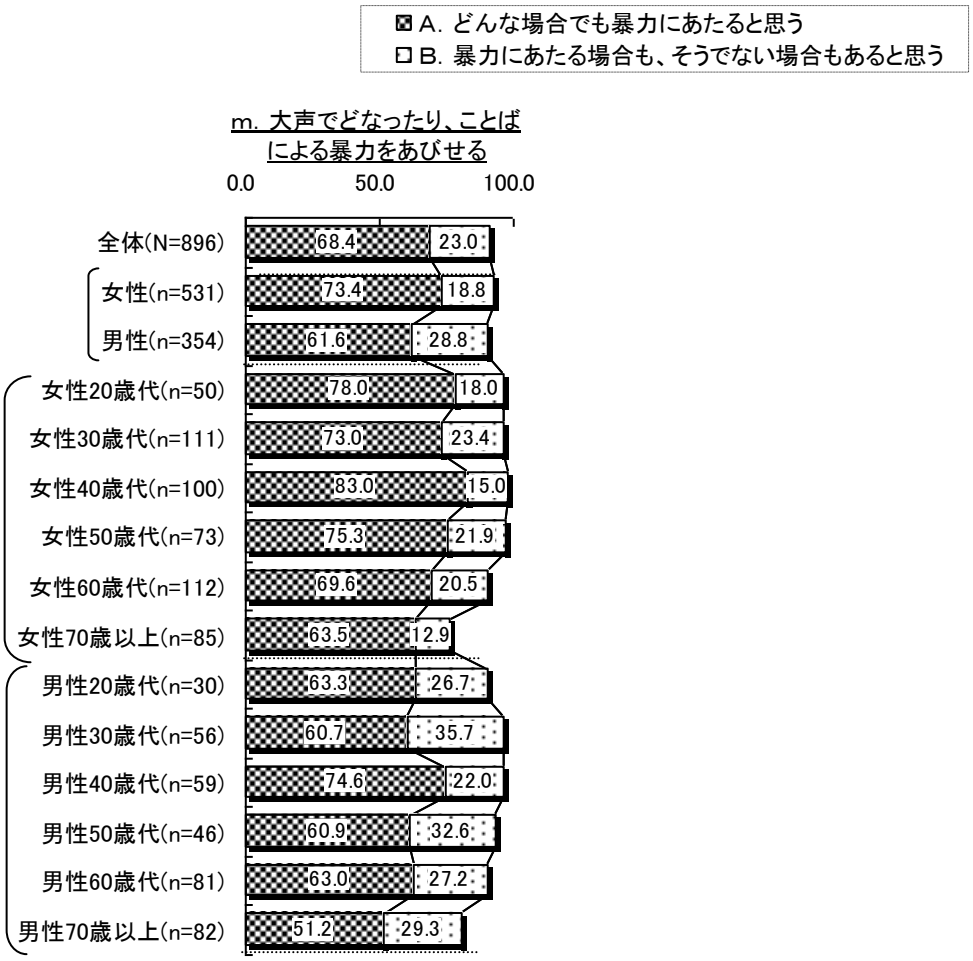
性別では、大きな男女差は目立たない。

性・年齢別では、男性の 40 歳代で「ｂ．足で蹴る」「ｃ．身体を傷つける可能性のある物でなぐる」「ｆ．物を投げつける」などにおいて他の年齢層に比べ多くなっている。また男女ともに 40 歳代は他の年齢層に比べて「どんな場合にも暴力だと思う」と感じている割合がほとんどの項目で多くなっている。さらに、女性の 40～50 歳代では「ｉ．相手がいやがっているのに性的な行為を強要する」が他の年齢層に比べ多くみられる。



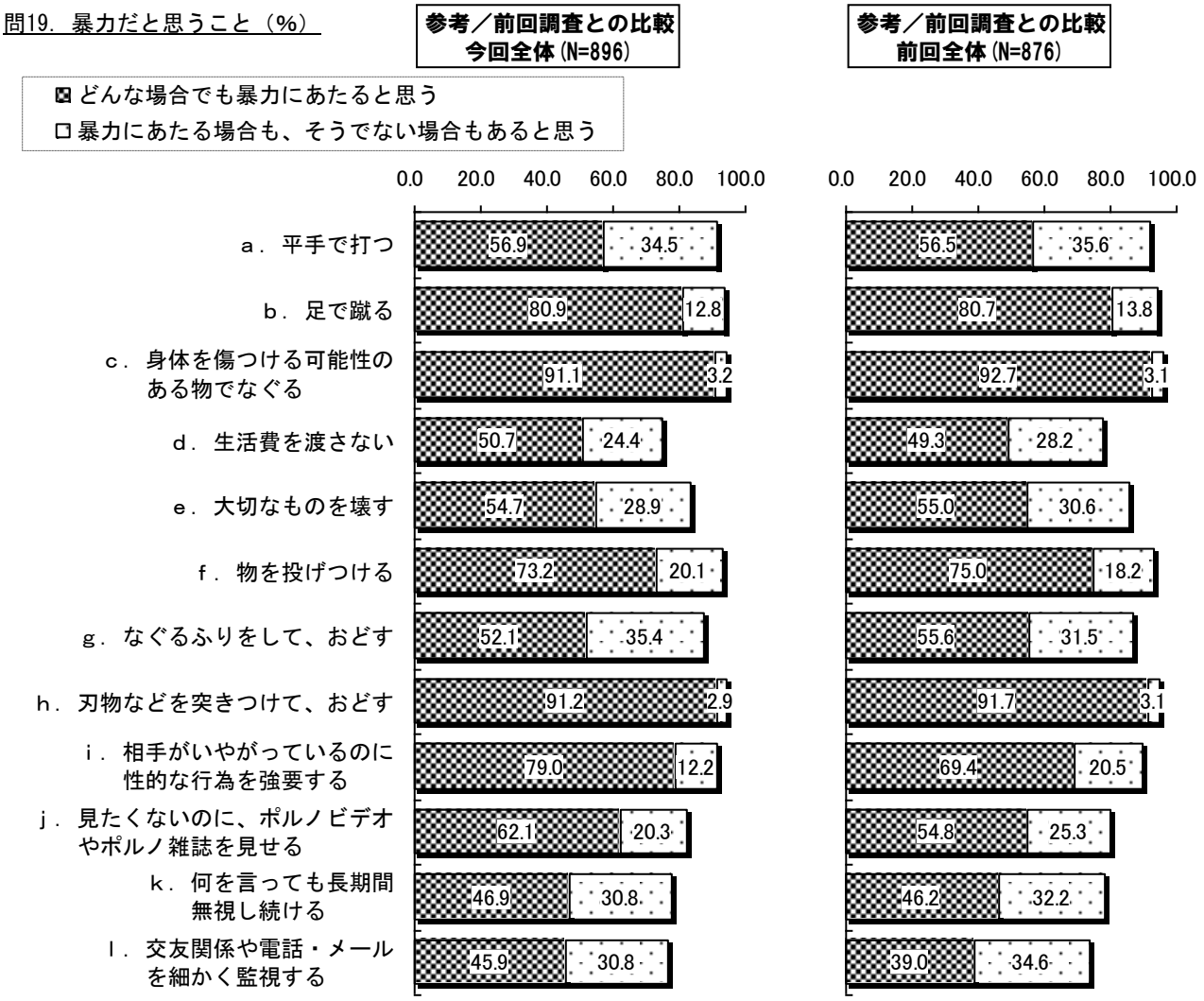

A. どんな場合でも暴力にあたると思う
B. 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
a. 平手で打つ
b. 足で蹴る
c. 身体を傷つける可能性のある物でなぐる
d. 生活費を渡さない
e. 大切なものを壊す
f. 物を投げつける
0.0
50.0
100.0
全体(N=896)
女性(n=531)
男性(n=354)
女性20歳代(n=50)
女性30歳代(n=111)
女性40歳代(n=100)
女性50歳代(n=73)
女性60歳代(n=112)
女性70歳以上(n=85)
男性20歳代(n=30)
男性30歳代(n=56)
男性40歳代(n=59)
男性50歳代(n=46)
男性60歳代(n=81)
男性70歳以上(n=82)
56.9 34.5
58.4 33.5
55.1 35.6
46.0 54.0
55.9 42.3
65.0 33.0
64.4 21.9
62.5 29.5
50.6 25.9
43.3 46.7
55.4 42.9
71.2 27.1
47.8 47.8
51.9 35.8
54.9 25.6
80.9 12.8
81.9 12.6
79.7 12.7
74.0 26.0
85.6 13.5
90.0 9.0
86.3 9.6
81.3 13.4
69.4 9.4
80.0 10.0
76.8 19.6
91.5 8.5
80.4 17.4
77.8 13.6
74.4 8.5
91.1 3.2
91.5 2.8
91.0 3.4
94.0 6.0
97.3 1.8
95.0 3.0
94.5 0.0
91.1 3.6
76.5 3.5
83.3 6.7
96.4 3.6
98.3 1.7
95.7 4.3
88.9 3.7
84.1 2.4
50.7 24.4
53.9 22.8
45.5 27.1
42.0 26.0
56.8 32.4
65.0 19.0
57.5 20.5
48.2 22.3
48.2 15.3
26.7 50.0
50.0 30.4
61.0 20.3
50.0 28.3
37.0 27.2
43.9 20.7
54.7 28.9
55.4 29.8
53.4 28.2
44.0 38.0
56.8 36.0
71.0 23.0
50.7 34.2
50.0 33.0
52.9 16.5
46.7 36.7
53.6 39.3
62.7 30.5
56.5 28.3
51.9 18.5
48.8 25.6
73.2 20.1
73.6 20.3
72.3 19.8
70.0 28.0
76.6 20.7
78.0 21.0
76.7 20.5
71.4 22.3
67.1 11.8
70.0 20.0
75.0 25.0
81.4 16.9
67.4 28.3
71.6 18.5
68.3 14.6


A. どんな場合でも暴力にあたると思う
B. 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
g. なぐるふりをして、おどす
h. 刃物などを突きつけて、おどす
i. 相手がいやがっているのに性的な行為を強要する
j. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる
k. 何を言っても長期間無視し続ける
l. 交友関係や電話・メールを細かく監視する
0.0
50.0
100.0
全体(N=896)
女性(n=531)
男性(n=354)
女性20歳代(n=50)
女性30歳代(n=111)
女性40歳代(n=100)
女性50歳代(n=73)
女性60歳代(n=112)
女性70歳以上(n=85)
男性20歳代(n=30)
男性30歳代(n=56)
男性40歳代(n=59)
男性50歳代(n=46)
男性60歳代(n=81)
男性70歳以上(n=82)
52.1 35.4
52.5 35.4
51.1 36.2
58.0 38.0
62.2 33.3
60.0 37.0
54.8 34.2
47.3 38.4
32.9 31.8
50.0 36.7
64.3 32.1
57.6 39.0
52.2 45.7
46.9 38.3
41.5 29.3
91.2 2.9
92.1 1.9
89.8 4.2
94.0 2.0
97.3 1.8
99.0 0.0
95.9 1.4
90.2 3.6
75.3 2.4
86.7 3.3
96.4 3.6
94.9 5.1
97.8 2.2
87.7 3.7
80.5 6.1
79.0 12.2
79.8 12.1
77.7 12.4
82.0 14.0
82.0 14.4
83.0 15.0
83.6 13.7
81.3 9.8
67.1 5.9
76.7 13.3
85.7 8.9
88.1 8.5
91.3 6.5
70.4 16.0
64.6 17.1
62.1 20.3
61.8 21.3
62.7 18.9
68.0 10.0
64.9 22.5
64.0 29.0
67.1 21.9
62.5 21.4
45.9 16.5
63.3 26.7
67.9 14.3
69.5 20.3
73.9 17.4
64.2 16.0
46.3 22.0
46.9 30.8
49.0 31.1
43.8 30.5
46.0 28.0
52.3 34.2
59.0 30.0
53.4 37.0
41.1 32.1
41.2 23.5
36.7 36.7
53.6 32.1
50.8 35.6
58.7 23.9
37.0 35.8
32.9 22.0
45.9 30.8
46.7 31.8
44.6 29.4
40.0 30.0
36.0 44.1
56.0 32.0
60.3 24.7
47.3 28.6
41.2 27.1
33.3 33.3
41.1 32.1
40.7 42.4
50.0 34.8
51.9 21.0
43.9 22.0


A. どんな場合でも暴力にあたると思う
B. 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
m. 大声でどなったり、ことばによる暴力をあびせる
0.0
50.0
100.0
全体(N=896) 68.4 23.0
女性(n=531) 73.4 18.8
男性(n=354) 61.6 28.8
女性20歳代(n=50) 78.0 18.0
女性30歳代(n=111) 73.0 23.4
女性40歳代(n=100) 83.0 15.0
女性50歳代(n=73) 75.3 21.9
女性60歳代(n=112) 69.6 20.5
女性70歳以上(n=85) 63.5 12.9
男性20歳代(n=30) 63.3 26.7
男性30歳代(n=56) 60.7 35.7
男性40歳代(n=59) 74.6 22.0
男性50歳代(n=46) 60.9 32.6
男性60歳代(n=81) 63.0 27.2
男性70歳以上(n=82) 51.2 29.3

【前回調査との比較】

前回との比較をみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」については「ｉ．相手がいやがっているのに性的な行為を強要する」「ｊ．見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」「ｌ．交友関係や電話・メールを細かく監視する」などで前回より増加がみられる。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」については、「ｉ．相手がいやがっているのに性的な行為を強要する」「ｊ．見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」などで減少している。

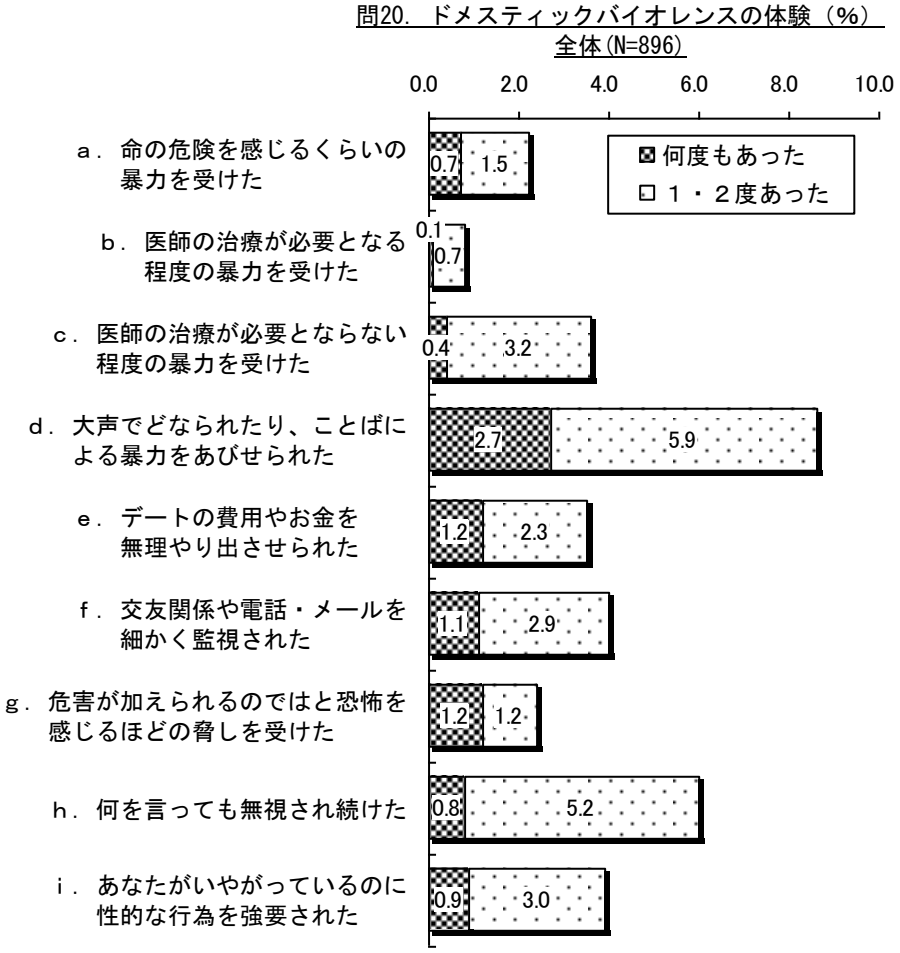


## ４．ドメスティックバイオレンスの体験（10 歳代から 20 歳代に交際相手のいる（いた）方）

10 歳代から 20 歳代に交際相手のいる（いた）方におたずねします。結婚している（したことのある）方は、結婚前についてお答えください。交際相手のいない（いなかった）方は問 21.へ

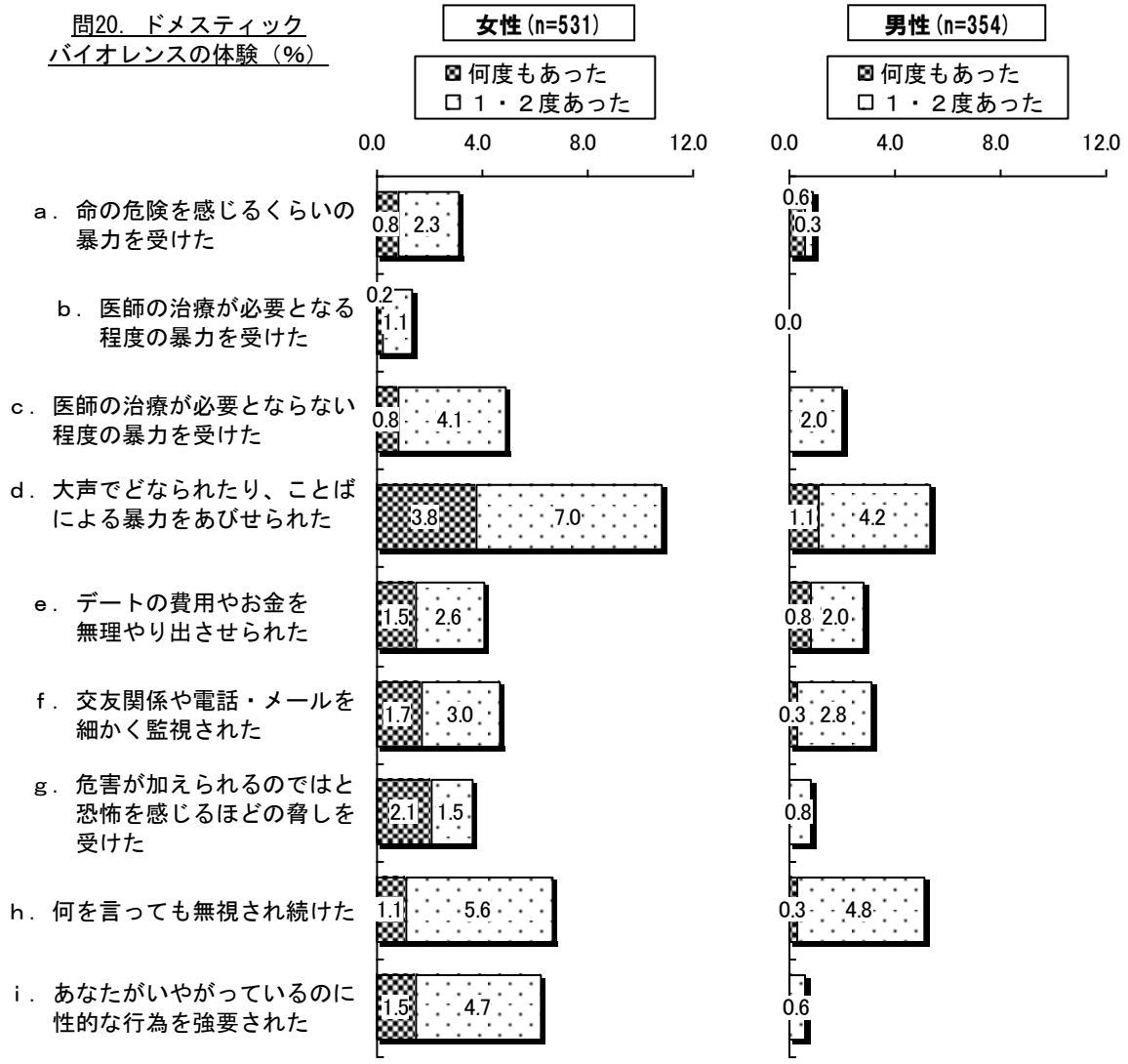
問 20. あなたは 10 歳代、20 歳代に、交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。それぞれについて、１、２、３のどれかに○をつけてください。
（○はそれぞれ１つずつ）

ドメスティックバイオレンスの体験について「何度もあった」への回答をみると、「ｄ．大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた」（2.7%）、「ｅ．デートの費用やお金を無理やり出させられた」（1.2%）、「ｇ．危害が加えられるのではと恐怖を感じるほどの脅しを受けた」（1.2%）などがあがっている。「１・２度あった」との合計でみると「ｄ．大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた」や「ｈ．何を言っても無視され続けた」が多くなっている。

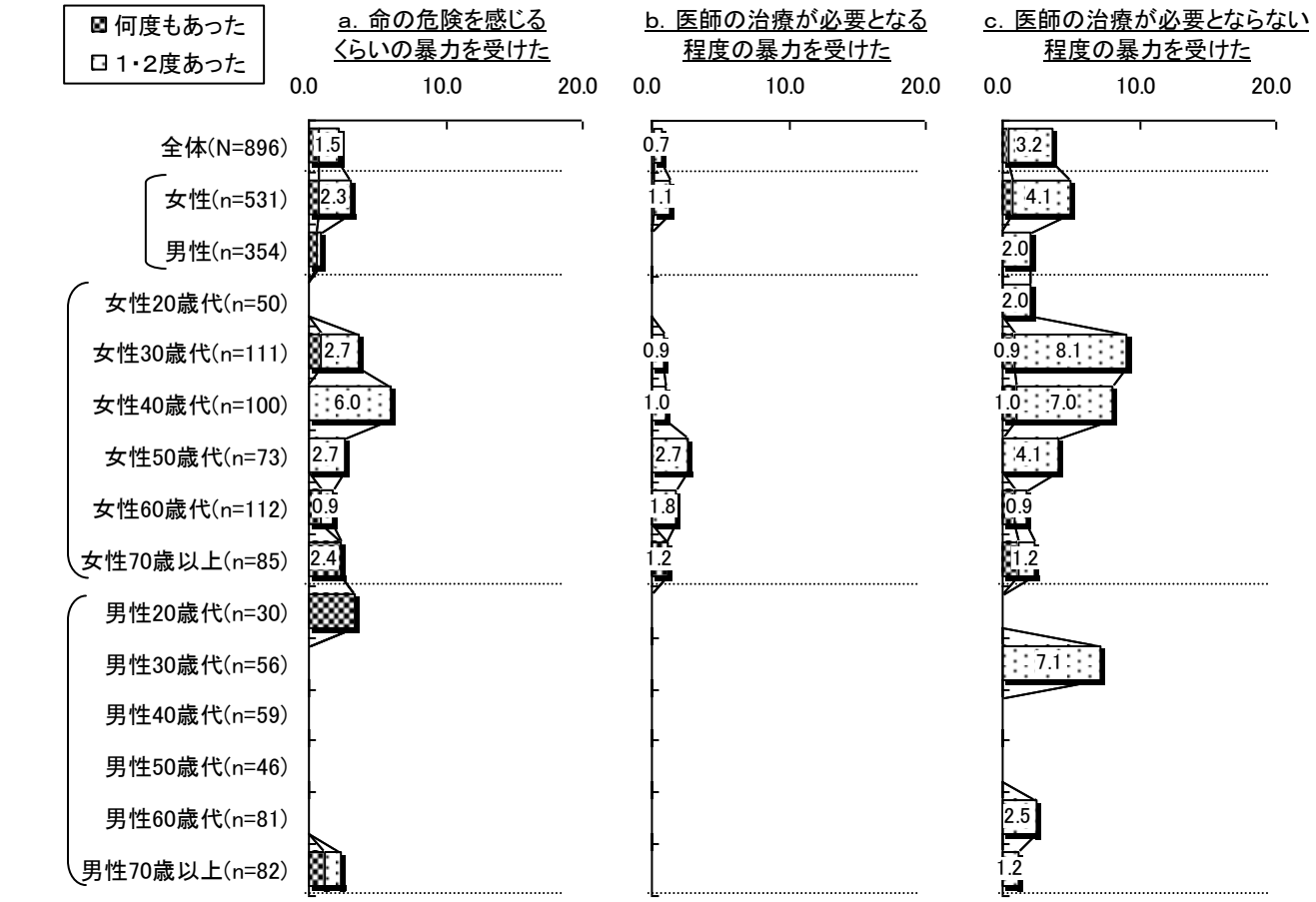


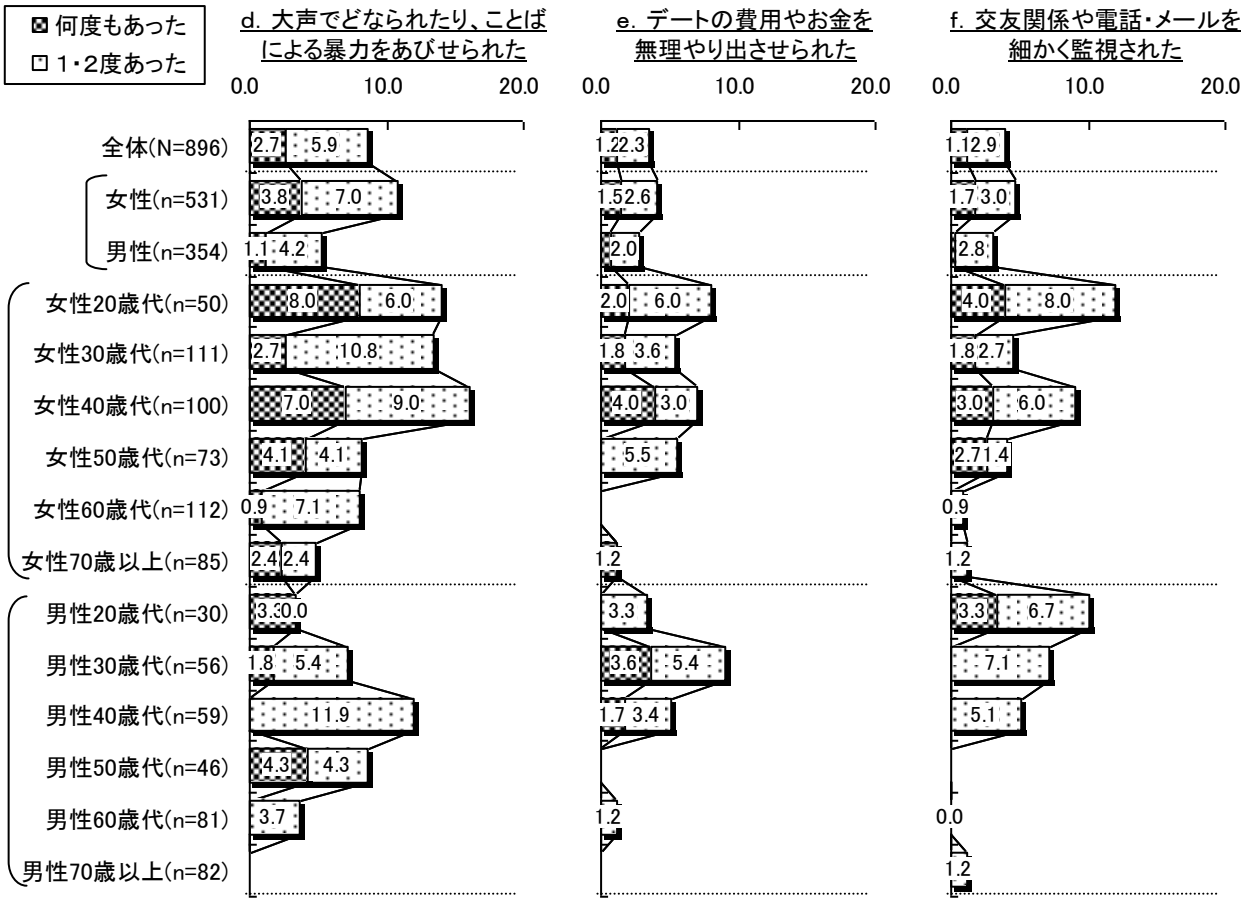
性別でみると、女性では「ｄ．大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた」「ｇ．危害が加えられるのではと恐怖を感じるほどの脅しを受けた」「ｆ．交友関係や電話・メールを細かく監視された」などで「何度もあった」が多くみられる。「１・２度あった」を合計すると「ｄ．大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた」が最も多くなっている。

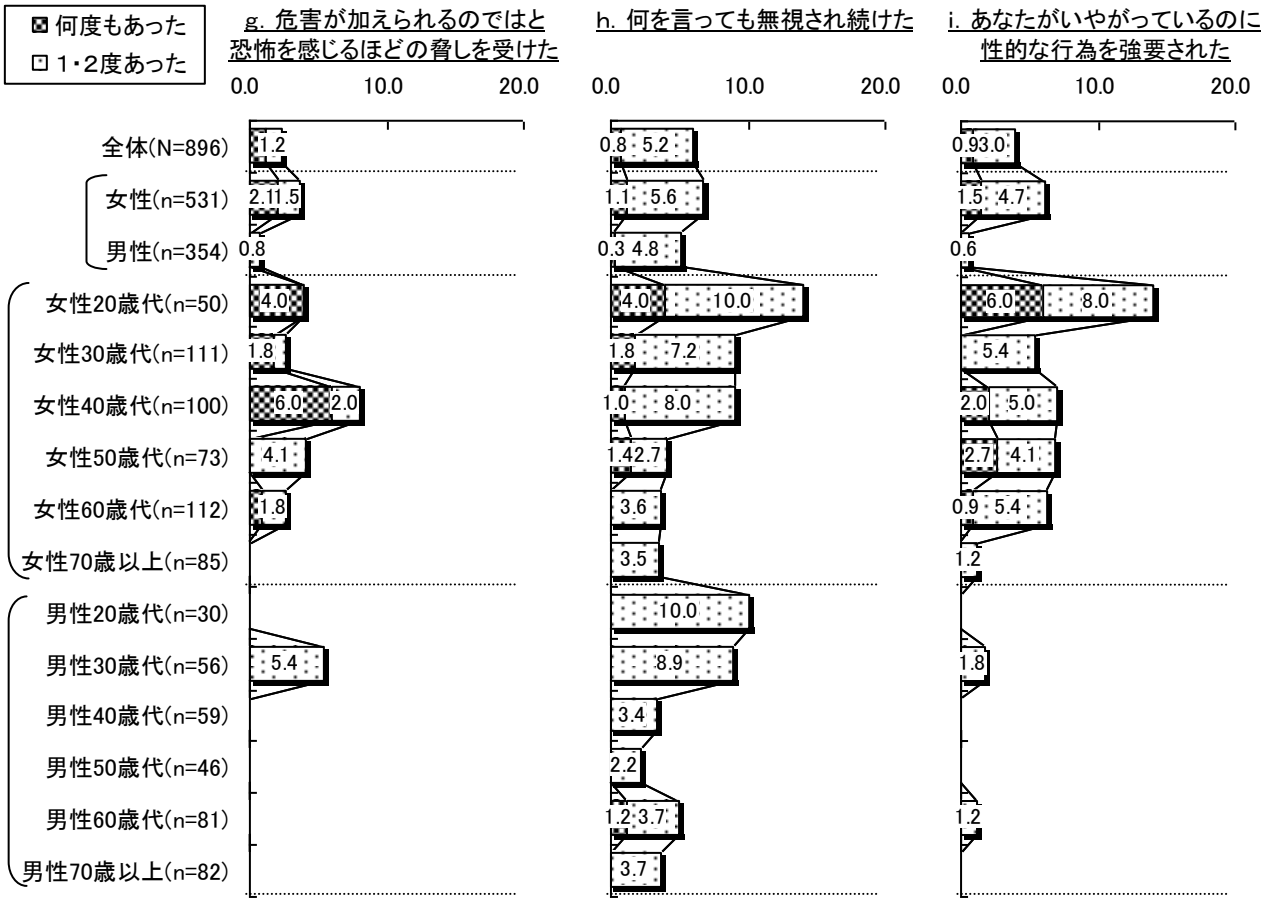
性・年齢別では、女性の 20 歳代で「何度もあった」「１・２度あった」ともに多い項目として、特に「ｄ．大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた」「ｆ．交友関係や電話・メールを細かく監視された」「ｈ．何を言っても無視され続けた」「ｉ．あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」があげられる。また、女性の 40 歳代でも「ｄ．大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた」が多くなっている。



問20. ドメスティックバイオレンスの体験（%）



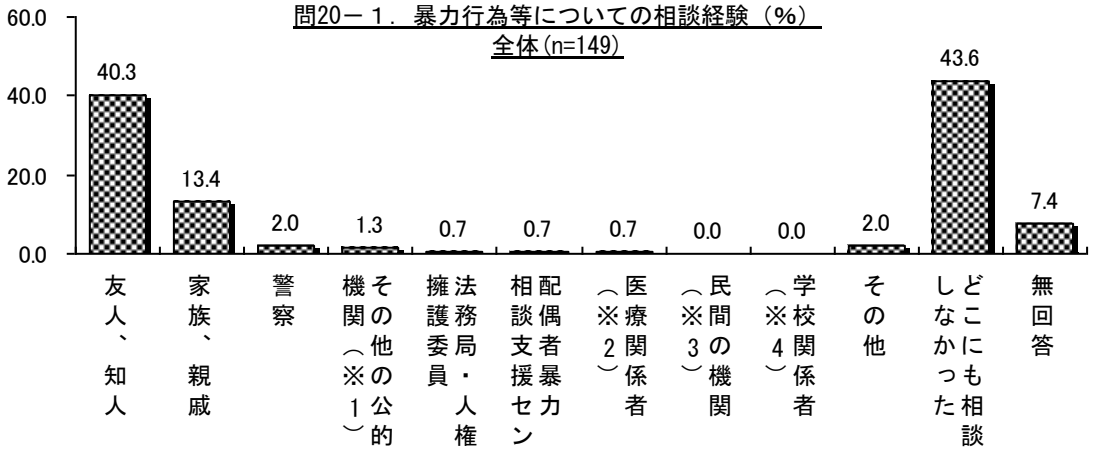




何度もあった
1・2度あった
g. 危害が加えられるのではと恐怖を感じるほどの脅しを受けた
h. 何を言っても無視され続けた
i. あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された
0.0
10.0
20.0
全体(N=896)
女性(n=531)
男性(n=354)
女性20歳代(n=50)
女性30歳代(n=111)
女性40歳代(n=100)
女性50歳代(n=73)
女性60歳代(n=112)
女性70歳以上(n=85)
男性20歳代(n=30)
男性30歳代(n=56)
男性40歳代(n=59)
男性50歳代(n=46)
男性60歳代(n=81)
男性70歳以上(n=82)

## ５．暴力行為等についての相談経験（10 歳代から 20 歳代に交際相手のいる（いた）方）

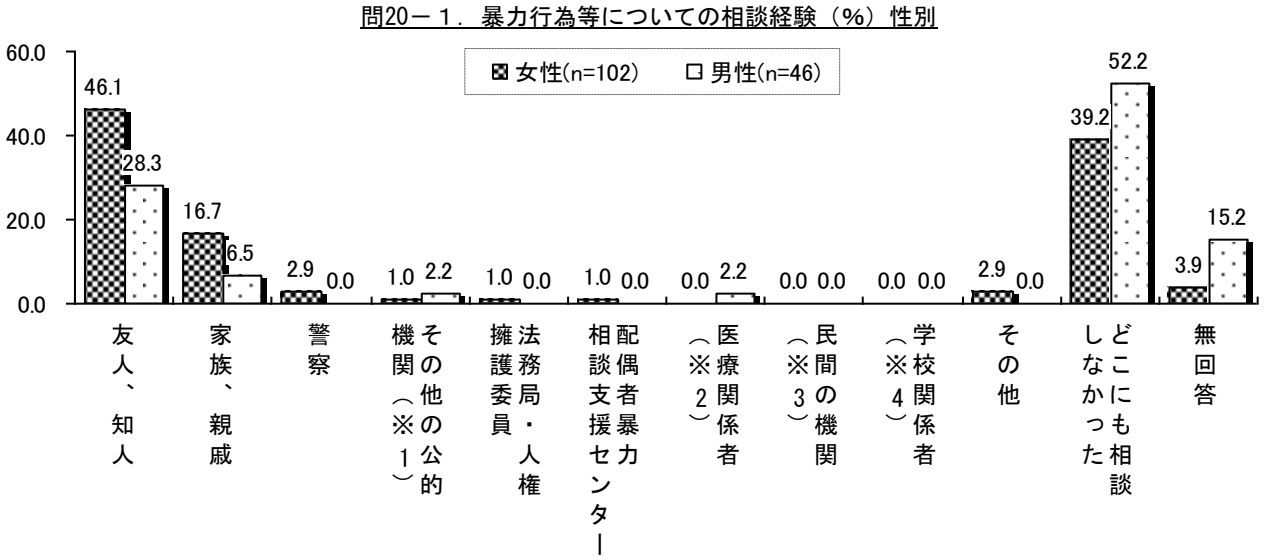
問 20. で、「何度もあった」または「１・２度あった」と答えた方におたずねします。
◆問 20-1. あなたは、これまでに問 20 であげたような行為について、誰かにうち明けたり、相談したりしましたか。（○はいくつでも）→　11. 以外を答えた方は問 21. へ

暴力行為等についての相談経験については、「どこにも相談しなかった」が 43.6%であることから、おおむね半数に相談の経験があるとみられる。相談先は「友人、知人」が 40.3%と最も多く、「家族、親戚」が 13.4%で続くが、その他への回答はいずれも少ない。




※1 市役所、男女共同参画センターなど
※2 医師、看護師など
※3 支援グループなど
※4 教員、スクールカウンセラーなど

性別では、女性で「友人・知人」「家族・親戚」がともに男性を大きく上回るとともに、「警察」への相談もみられる。

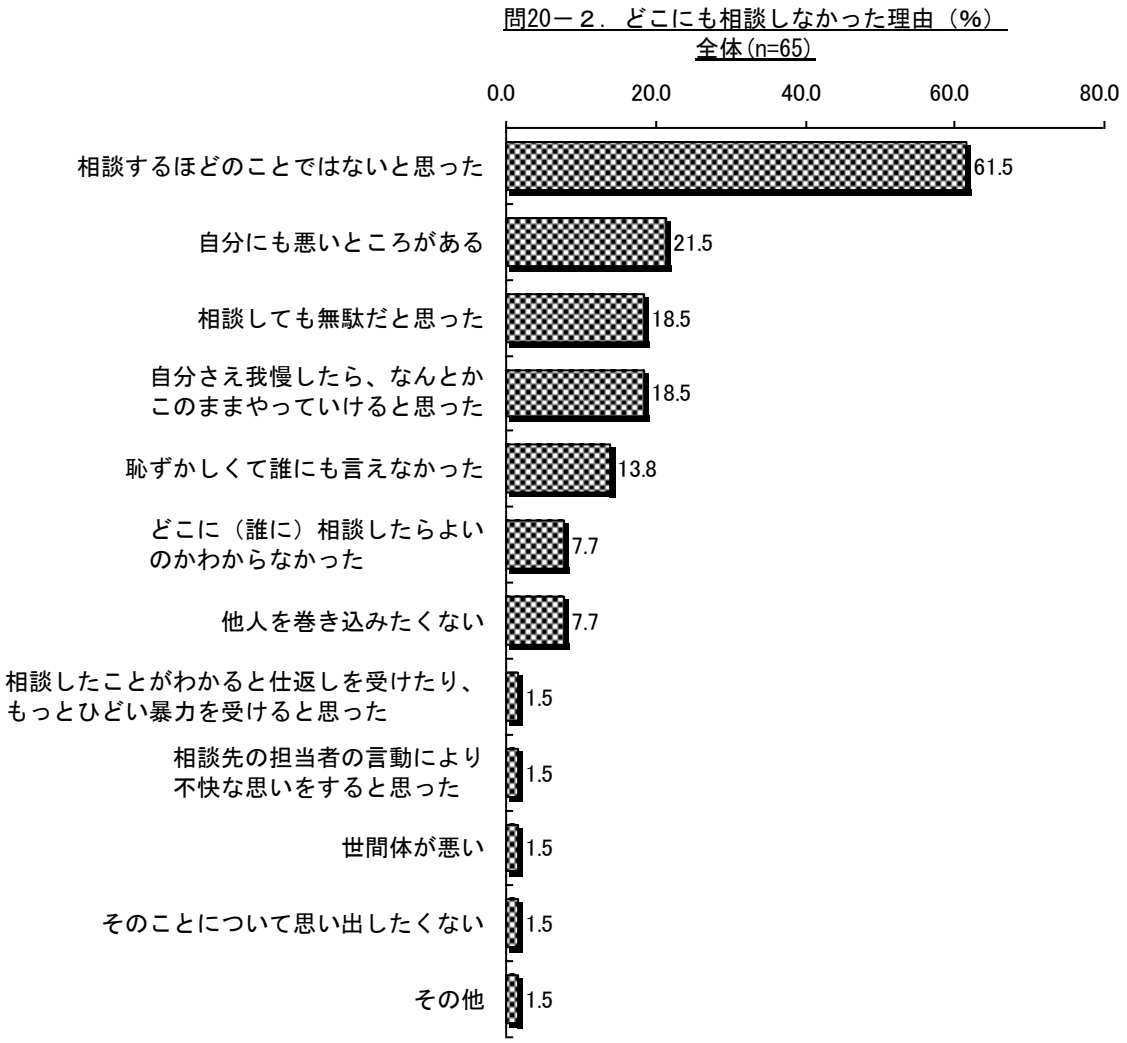



※1 市役所、男女共同参画センターなど
※2 医師、看護師など
※3 支援グループなど
※4 教員、スクールカウンセラーなど

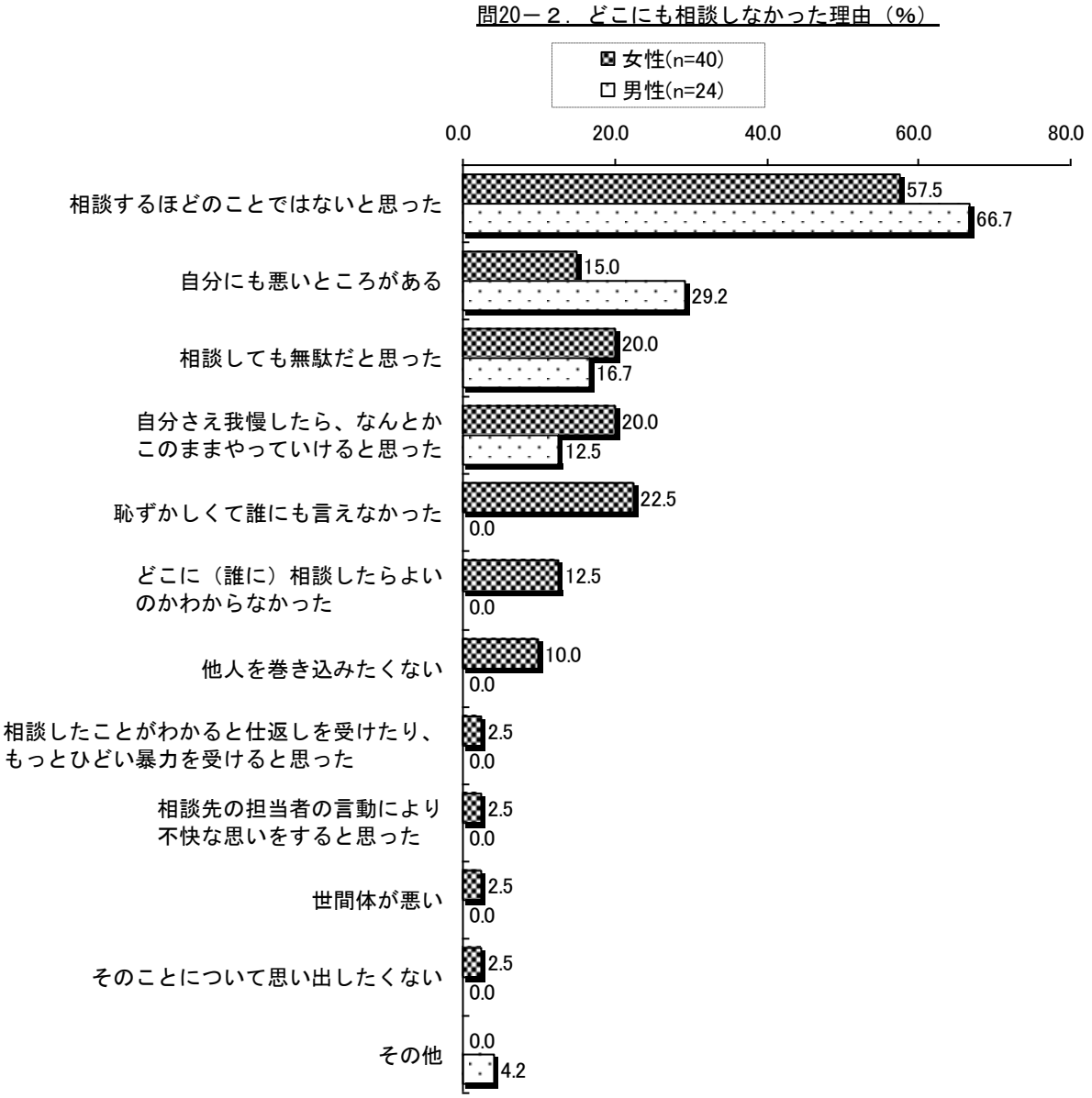
## ６．どこにも相談しなかった理由（10 歳代から 20 歳代に交際相手のいる（いた）方）

問 20-1. で、「11. どこにも相談しなかった」と答えた方におたずねします。
◆問 20-2. どこにも相談しなかったのはなぜですか。（○はいくつでも）

どこにも相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思った」が 61.5%で突出して最も多くなっている。以下「自分にも悪いところがある」（21.5%）、「相談しても無駄だと思った」「自分さえ我慢したら、なんとかこのままやっていけると思った」（いずれも 18.5%）、「恥ずかしくて誰にも言えなかった」（13.8%）の順となっている。



性別では、特に女性が男性を大きく上回っている項目として「恥ずかしくて誰にも言えなかった」「どこに（誰に）相談したらよいのかわからなかった」「他人を巻き込みたくない」「自分さえ我慢したら、なんとかこのままやっていけると思った」などとなっている。男性は「自分にも悪いところがある」「相談するほどのことではないと思った」が女性を上回る。

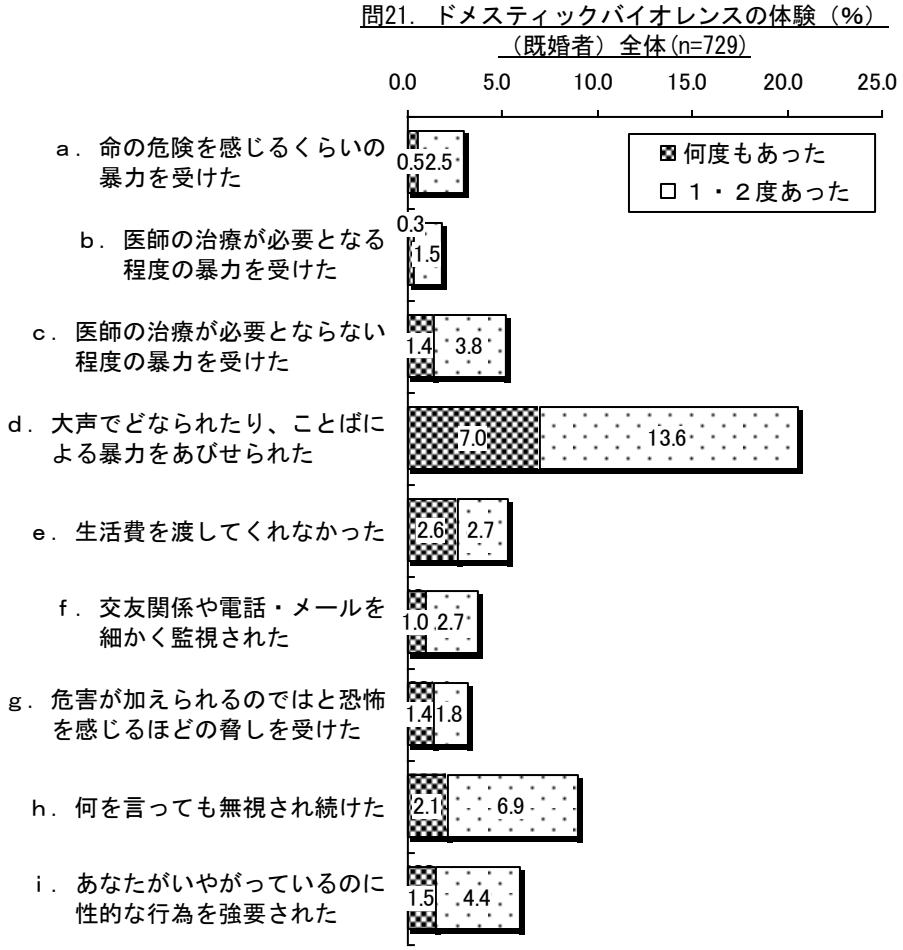


## ７．ドメスティックバイオレンスの体験（結婚（事実婚や別居中を含む）している（したことのある）方）

結婚（事実婚や別居中を含む）している（したことのある）方におたずねします
結婚していない方は問 22.へ

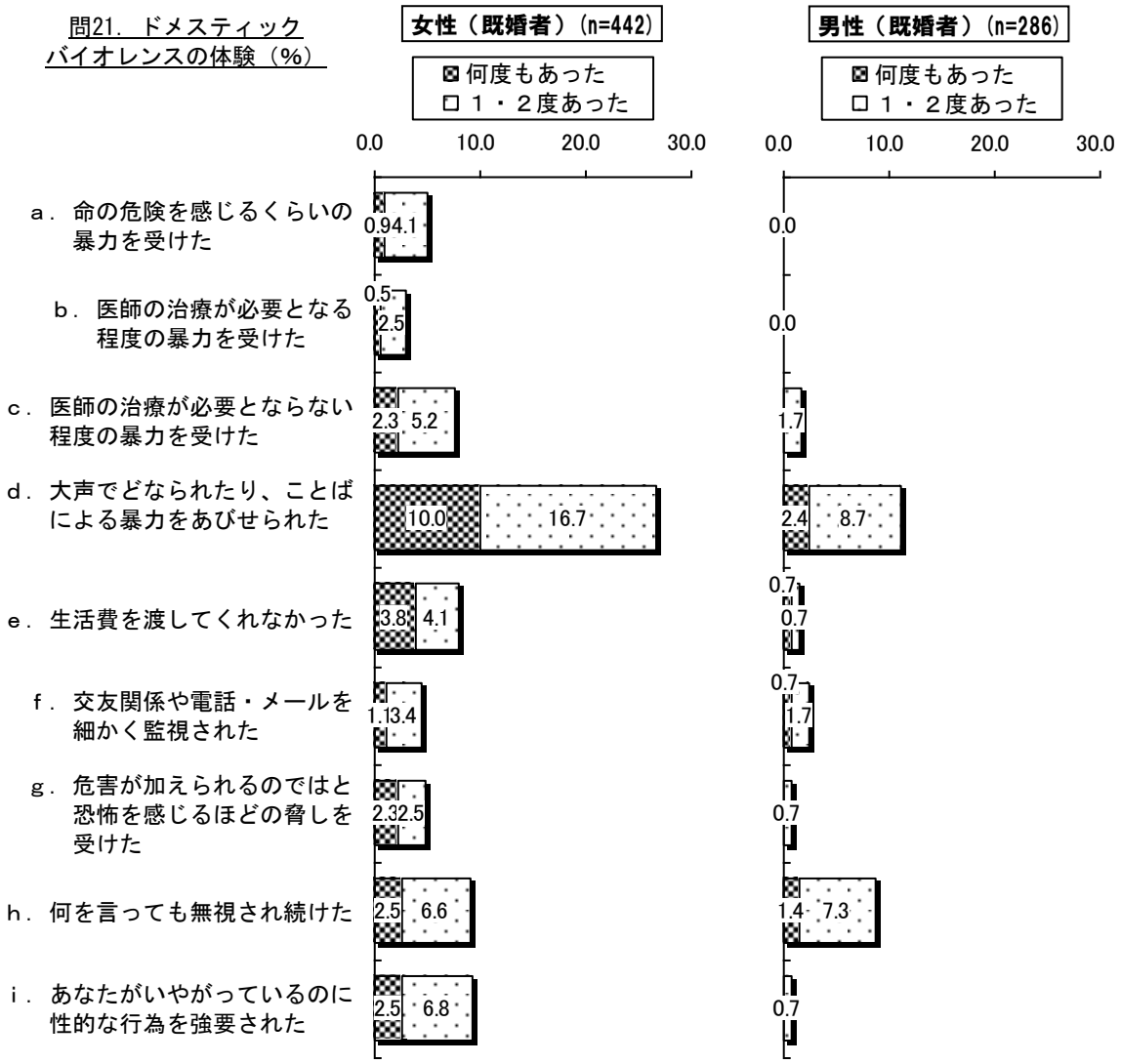
問 21．あなたはこれまでに、夫から、または妻から、次のようなことをされたことがありますか。それぞれについて、１、２、３のどれかに○をつけてください。
（○はそれぞれ１つずつ）

ドメスティックバイオレンスの体験について「何度もあった」への回答をみると、「ｄ．大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた」（7.0%）、「ｅ．生活費を渡してくれなかった」（2.6%）、「ｈ．何を言っても無視され続けた」（2.1%）、「ｉ．あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」(1.5%) などがあがっている。「１・２度あった」との合計でみると「ｄ．大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた」や「ｈ．何を言っても無視され続けた」が多くなっている。

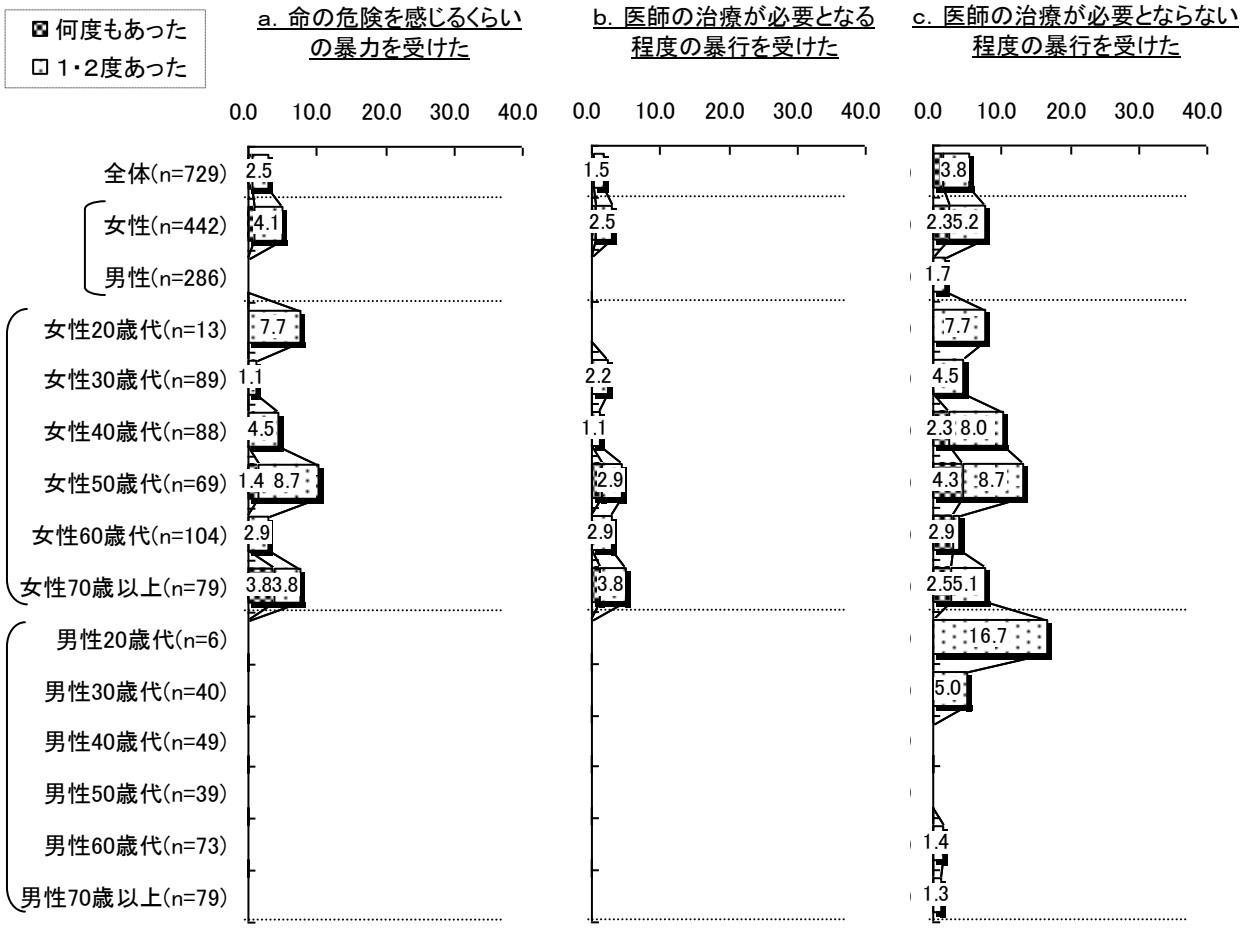


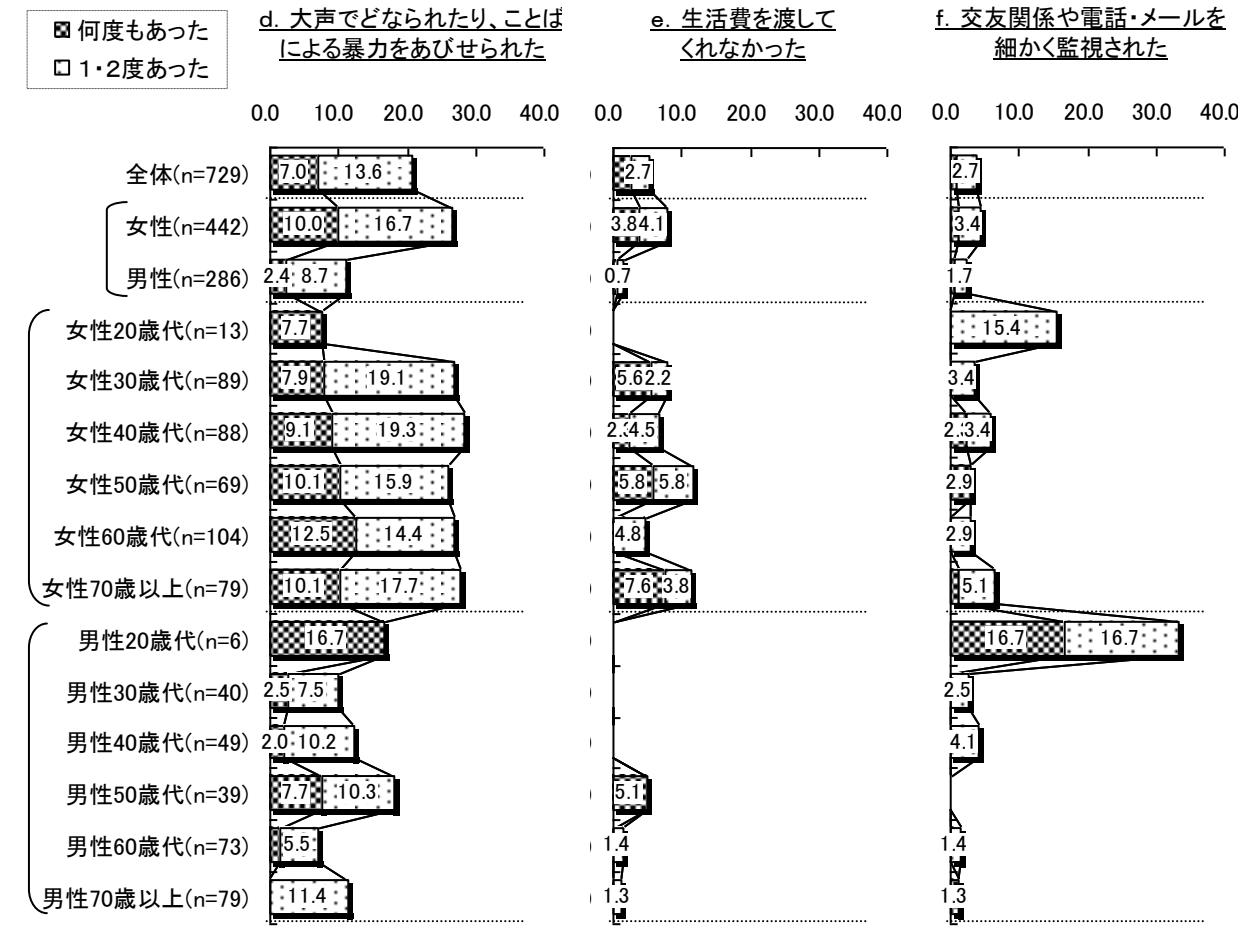
性別でみると、女性では「ｄ．大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた」「ｅ．生活費を渡してくれなかった」などで「何度もあった」が多くみられる。「１・２度あった」を合計すると「ｄ．大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた」が最も多くなっている。

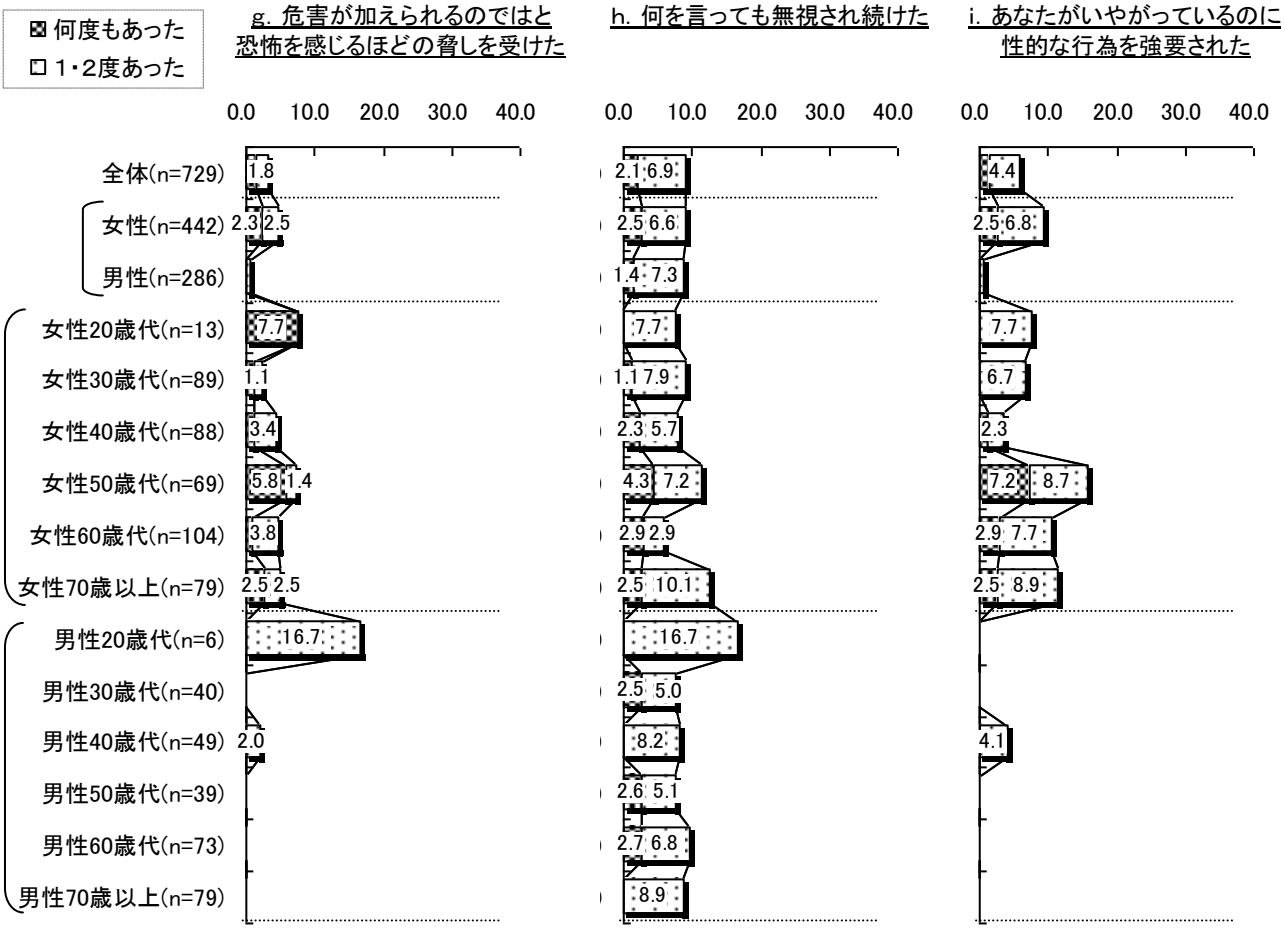
性・年齢別では、女性の 50 歳代で「何度もあった」「１・２度あった」ともに多い項目が目立ち、特に「ａ．命の危険を感じるくらいの暴力を受けた」「ｃ．医師の治療が必要とならない程度の暴力を受けた」「ｈ．何を言っても無視され続けた」「ｉ．あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」があげられる。



問21. ドメスティックバイオレンスの体験（%）



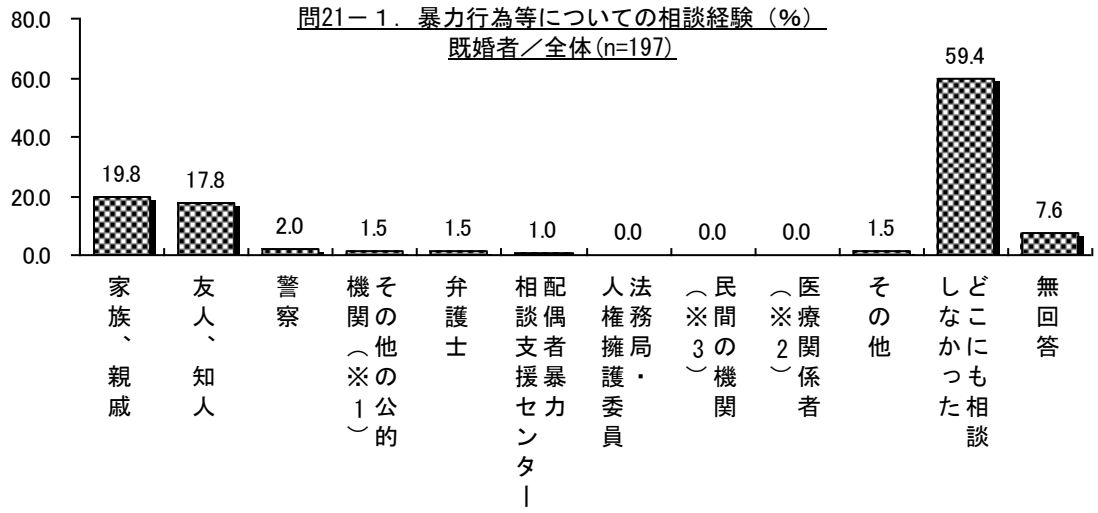



注：男性 20 歳代は該当件数(n=)が少ないため、参考値として参照してください。

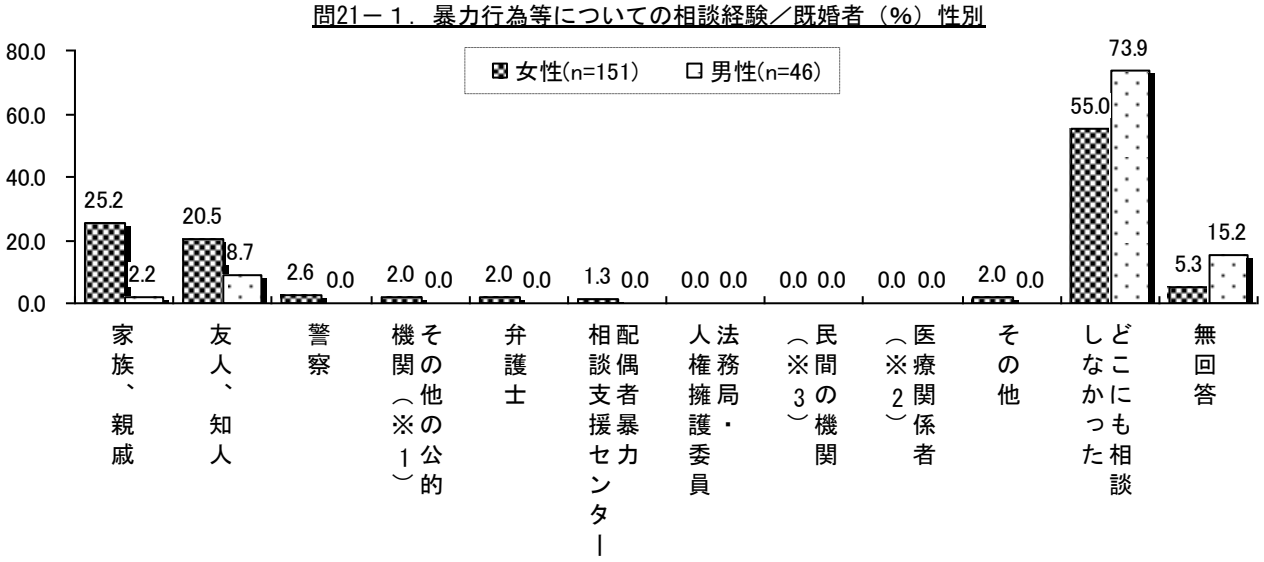
## ８．暴力行為等についての相談経験（結婚（事実婚や別居中を含む）している（したことのある）方）

問 21. で、「何度もあった」または「１・２度あった」と答えた方におたずねします。
◆問 21-1. あなたは、これまでに問 21 であげたような行為について、誰かにうち明けたり、相談したりしましたか。（○はいくつでも）　→　11. 以外を答えた方は問 22. へ

暴力行為等についての相談経験については、「どこにも相談しなかった」が 59.4%であることから、おおむね 4 割程度に相談の経験があるとみられる。相談先は「家族、親戚」が 19.8%と最も多く、「友人、知人」が 17.8%で続くが、その他への回答はいずれも少ない。




性別では、女性で「家族・親戚」「友人・知人」がともに男性を大きく上回るとともに、「警察」や「その他の公的機関」「弁護士」などへの相談も少ないながらみられる。

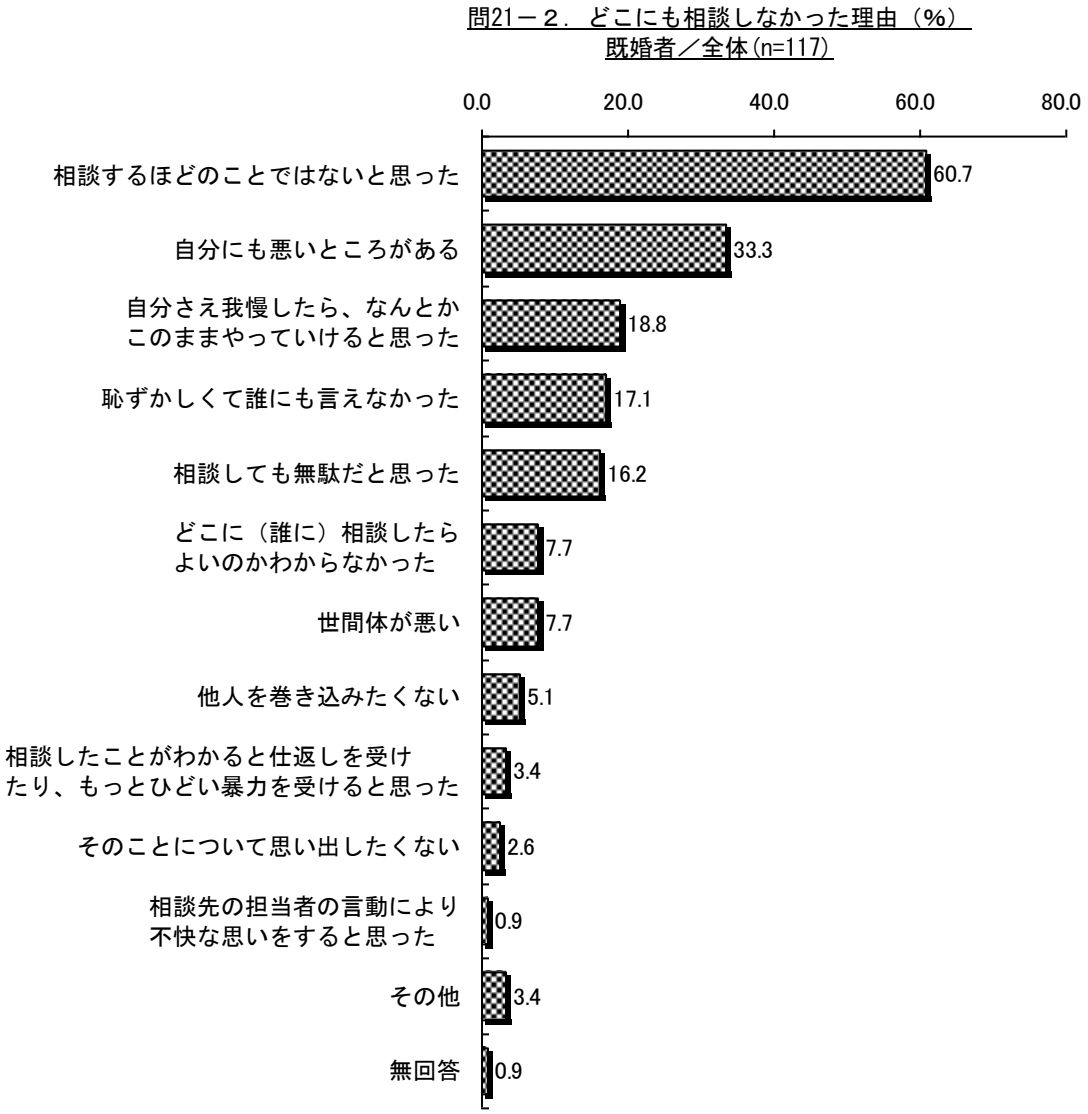



※1 市役所、男女共同参画センターなど
※2 医師、看護師など
※3 支援グループなど

## ９．どこにも相談しなかった理由（結婚（事実婚や別居中を含む）している（したことのある）方）

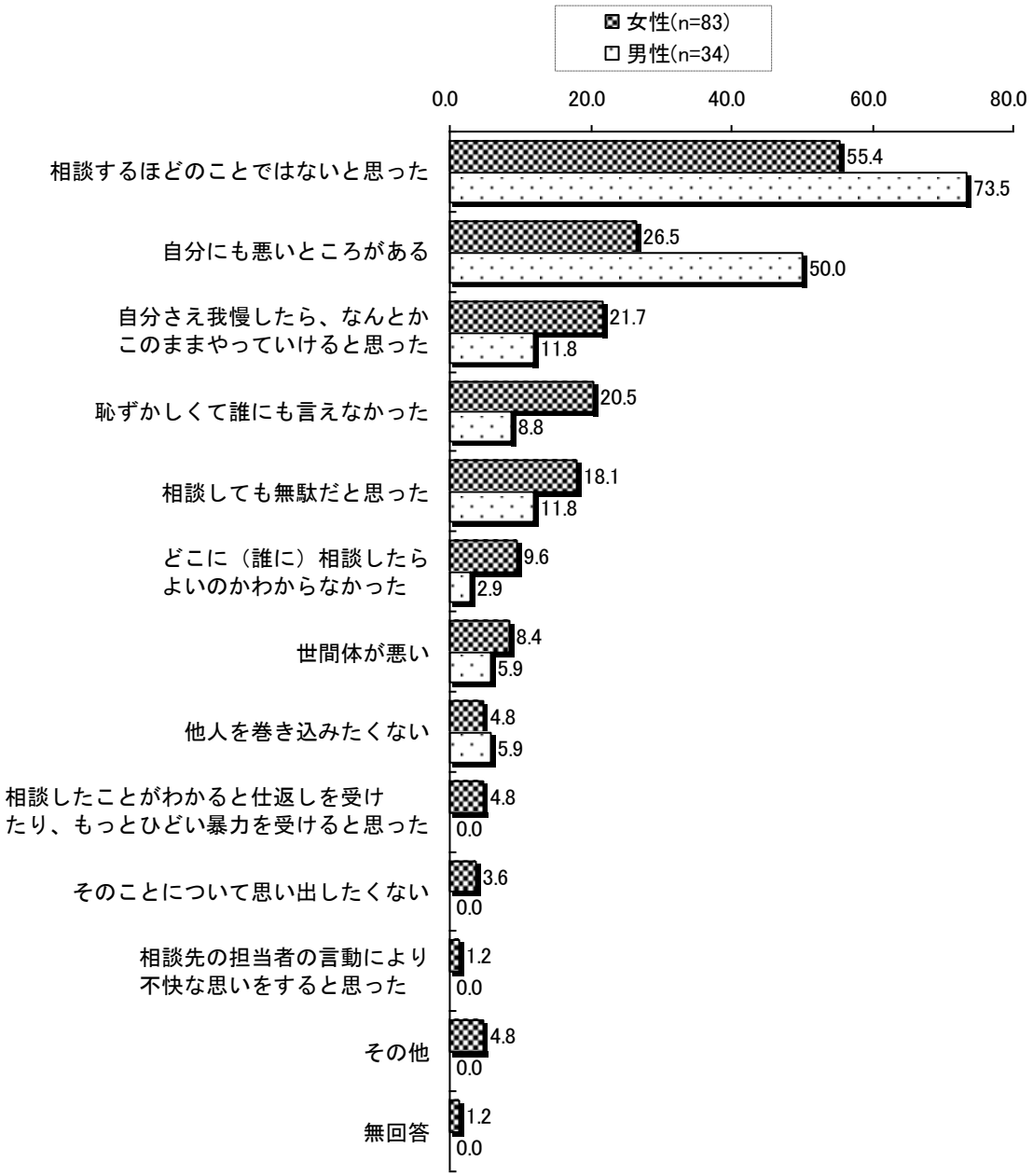
問 21-1. で、「11. どこにも相談しなかった」と答えた方におたずねします。
◆問 21-2. どこにも相談しなかったのはなぜですか。（○はいくつでも）

どこにも相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思った」が 60.7%で突出して最も多くなっている。以下「自分にも悪いところがある」（33.3%）、「自分さえ我慢したら、なんとかこのままやっていけると思った」（18.8%）、「恥ずかしくて誰にも言えなかった」（17.1%）、「相談しても無駄だと思った」（16.2%）の順となっている。



性別では、特に女性が男性を大きく上回っている項目として「恥ずかしくて誰にも言えなかった」「自分さえ我慢したら、なんとかこのままやっていけると思った」などで差が大きい。男性は「自分にも悪いところがある」「相談するほどのことではないと思った」などが女性を上回る。

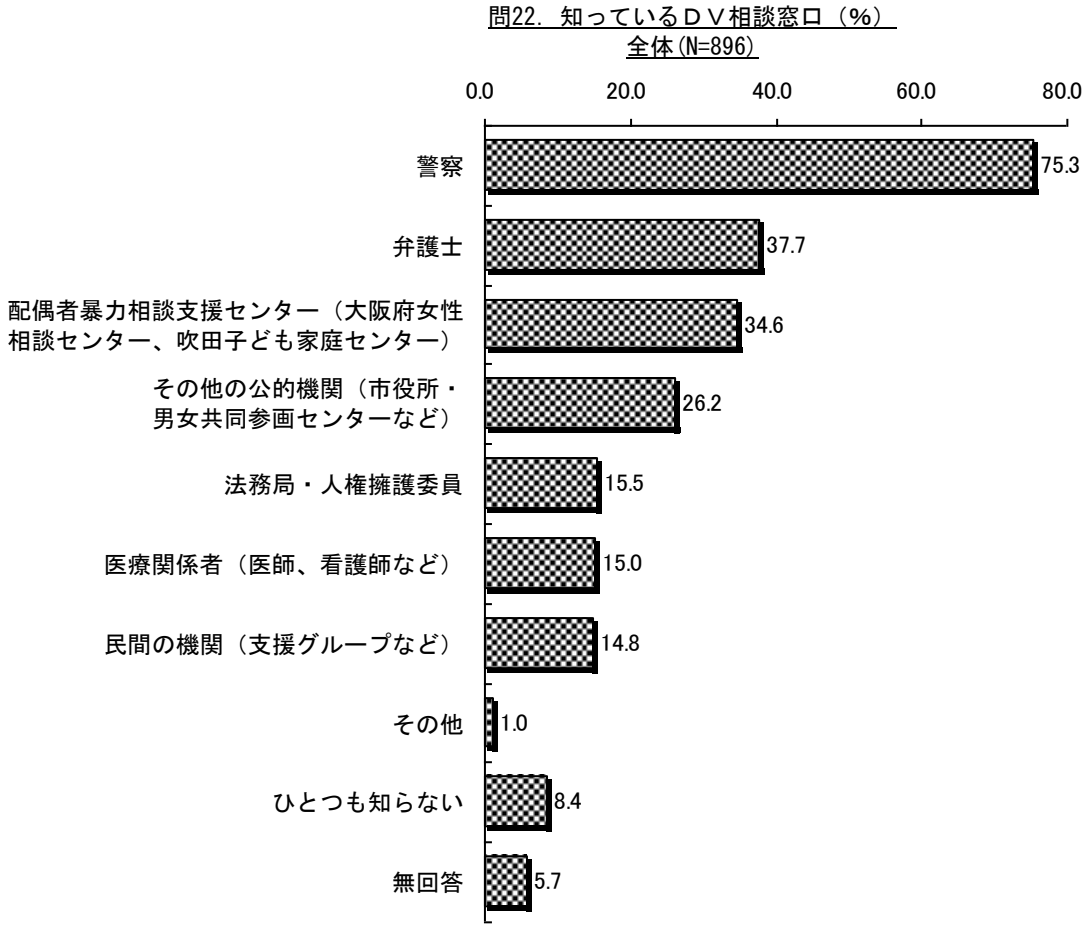
問20－２．どこにも相談しなかった理由（%）既婚者



## 10. 知っているＤＶ相談窓口

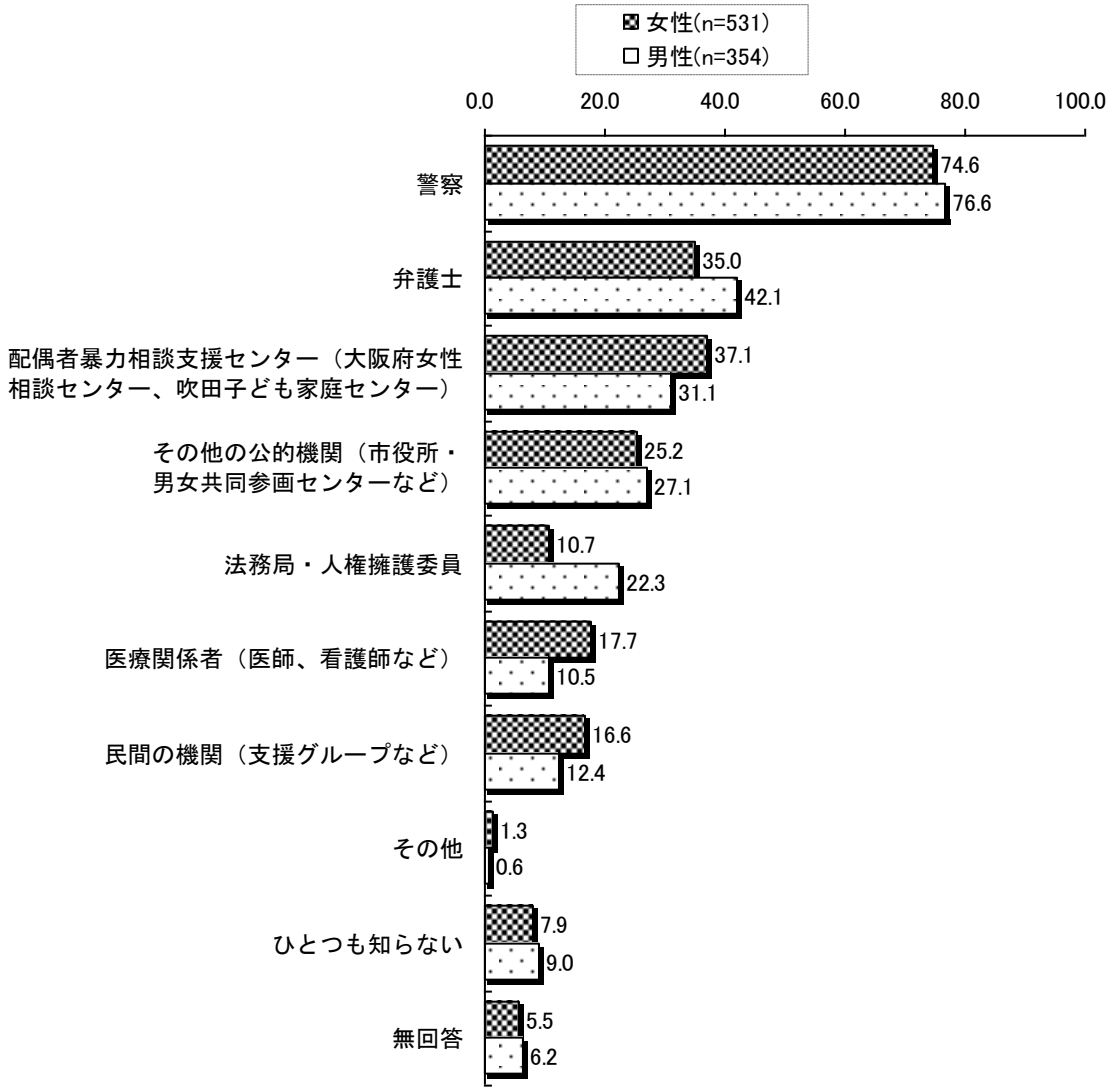
問 22. ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ：配偶者や恋人など親しい人からの暴力）について、あなたが相談できる窓口としてどのようなものを知っていますか。
（○はいくつでも）

知っているＤＶ相談窓口については、「警察」が 75.3%と突出して最も多くなっている。以下「弁護士」(37.7%)、「配偶者暴力相談支援センター（大阪府女性相談センター、吹田子ども家庭センター)」(34.6%)、「その他の公的機関（市役所・男女共同参画センターなど)」(26.2%)、「法務局・人権擁護委員」（15.5%）の順となっている。



性別でみると、女性が男性を上回っている窓口として「医療関係者（医師、看護師など)」「配偶者暴力相談支援センター（大阪府女性相談センター、吹田子ども家庭センター)」があげられ、男性では「弁護士」「法務局・人権擁護委員」などが女性よりも多くなっている。

問22. 知っているＤＶ相談窓口（%）性別



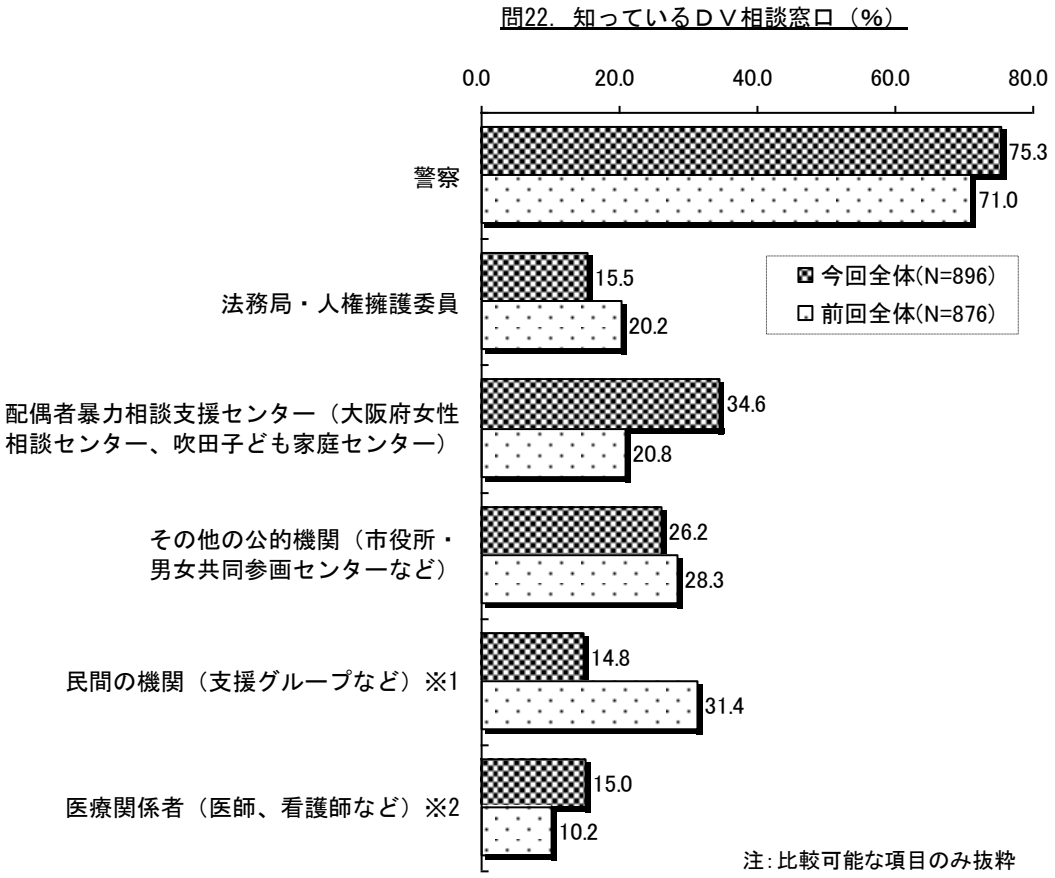
性・年齢別でみると、女性の 20 歳代で「医療関係者（医師、看護師など)」、女性の 40 歳代で「警察」「配偶者暴力相談支援センター（大阪府女性相談センター、吹田子ども家庭センター)」「民間の機関（支援グループなど)」、女性 60 歳代では「弁護士」などがそれぞれ他の年齢層を上回って多くなっている。また、女性は 20～30 歳代で「ひとつも知らない」が 1 割程度みられる。

問22. ＤＶ相談窓口認知状況（%）性別、性・年齢別

| | 警察 | 法務局・人権擁護委員 | 配偶者暴力相談支援センター（大阪府女性相談センター、吹田子ども家庭センター） | その他の公的機関（市役所・男女共同参画センターなど） | 弁護士 | 民間の機関（支援グループなど） | 医療関係者（医師、看護師など） | その他 | ひとつも知らない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体(N=896) | 75.3 | 15.5 | 34.6 | 26.2 | 37.7 | 14.8 | 15.0 | 1.0 | 8.4 |
| 女性(n=531) | 74.6 | 10.7 | 37.1 | 25.2 | 35.0 | 16.6 | 17.7 | 1.3 | 7.9 |
| 男性(n=354) | 76.6 | 22.3 | 31.1 | 27.1 | 42.1 | 12.4 | 10.5 | 0.6 | 9.0 |
| 女性20歳代(n=50) | 80.0 | 4.0 | 18.0 | 22.0 | 38.0 | 14.0 | 28.0 | 2.0 | 12.0 |
| 女性30歳代(n=111) | 73.0 | 1.8 | 37.8 | 19.8 | 33.3 | 20.7 | 12.6 | 2.7 | 10.8 |
| 女性40歳代(n=100) | 85.0 | 7.0 | 45.0 | 29.0 | 31.0 | 22.0 | 23.0 | 0.0 | 5.0 |
| 女性50歳代(n=73) | 75.3 | 5.5 | 38.4 | 20.5 | 32.9 | 12.3 | 17.8 | 1.4 | 6.8 |
| 女性60歳代(n=112) | 78.6 | 20.5 | 40.2 | 29.5 | 44.6 | 13.4 | 13.4 | 0.9 | 6.3 |
| 女性70歳以上(n=85) | 55.3 | 22.4 | 32.9 | 28.2 | 29.4 | 14.1 | 17.6 | 1.2 | 8.2 |
| 男性20歳代(n=30) | 70.0 | 6.7 | 16.7 | 36.7 | 36.7 | 10.0 | 16.7 | 0.0 | 13.3 |
| 男性30歳代(n=56) | 83.9 | 5.4 | 25.0 | 26.8 | 37.5 | 19.6 | 8.9 | 0.0 | 8.9 |
| 男性40歳代(n=59) | 86.4 | 11.9 | 25.4 | 15.3 | 49.2 | 20.3 | 22.0 | 1.7 | 3.4 |
| 男性50歳代(n=46) | 82.6 | 21.7 | 39.1 | 32.6 | 56.5 | 8.7 | 6.5 | 2.2 | 6.5 |
| 男性60歳代(n=81) | 81.5 | 33.3 | 37.0 | 33.3 | 48.1 | 14.8 | 7.4 | 0.0 | 7.4 |
| 男性70歳以上(n=82) | 58.5 | 36.6 | 34.1 | 23.2 | 28.0 | 2.4 | 6.1 | 0.0 | 14.6 |

【前回調査との比較】

前回に比べ「配偶者暴力相談支援センター（大阪府女性相談センター、吹田子ども家庭センター)」が大きく増加した。「民間の機関」は減少がみられるが、前回と選択肢が同一でないため参考値にとどめる。

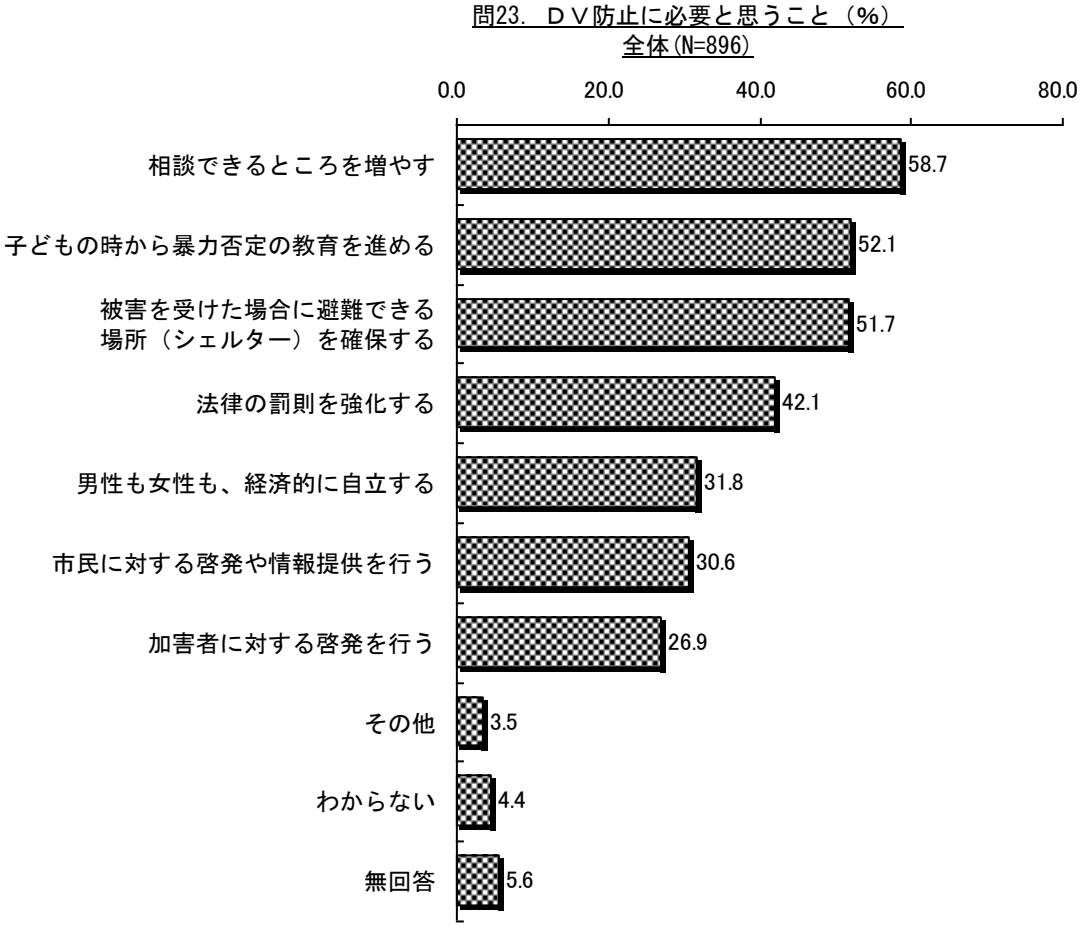



※1 前回は「民間の機関（弁護士会や支援グループなど）」
※2 前回は「医者」

## 11. ＤＶ防止に必要と思うこと

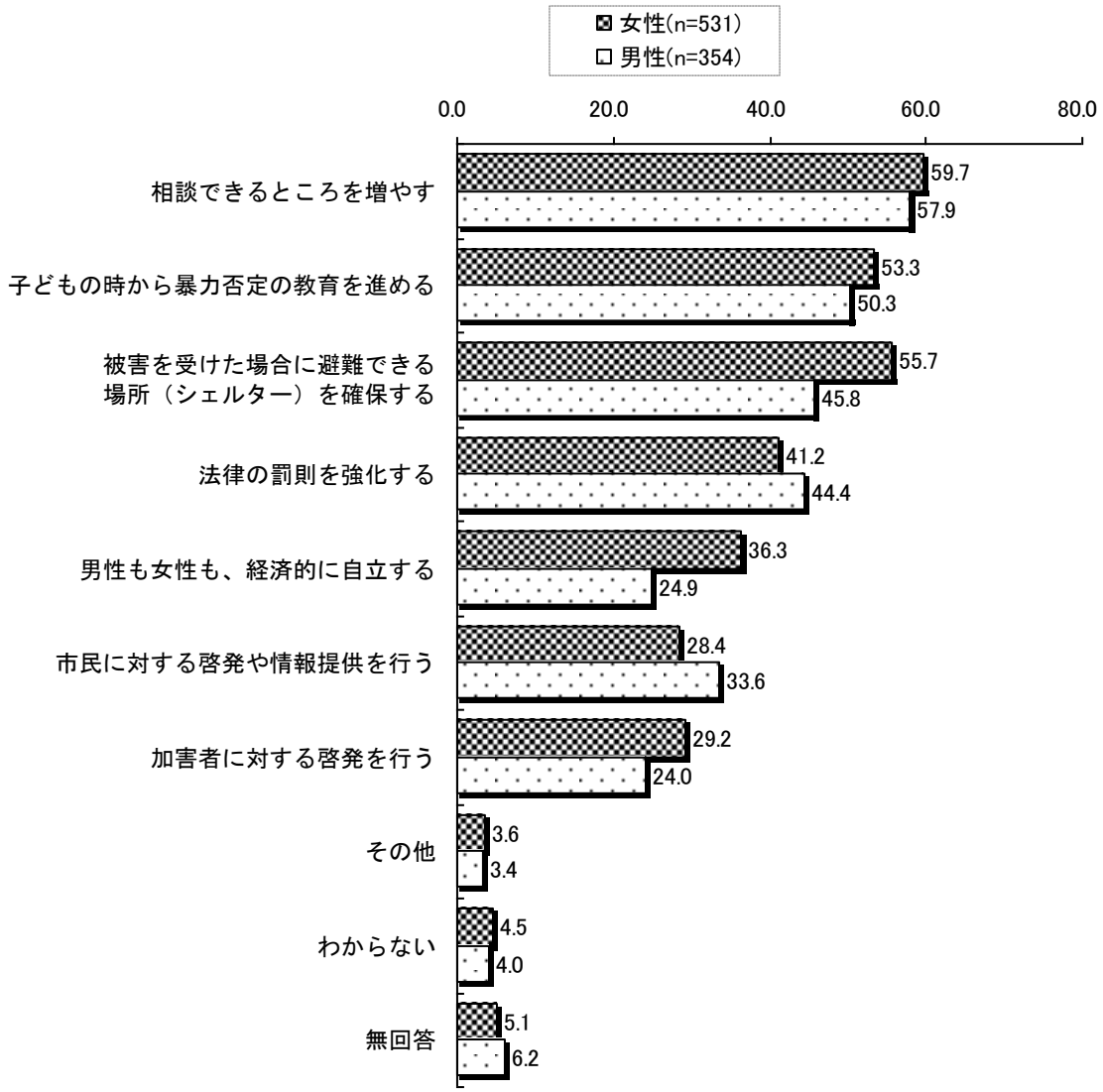
問 23. ドメスティック・バイオレンスを防ぐためには何が必要だと思いますか。
（○はいくつでも）

ＤＶ防止に必要と思うことについては、「相談できるところを増やす」が 58.7%で最も多く、次いで「子どもの時から暴力否定の教育を進める」（52.1%）、「被害を受けた場合に避難できる場所（シェルター）を確保する」（51.7%）が続き、これらはすべて５割を超えている。以下「法律の罰則を強化する」（42.1%）、「男性も女性も、経済的に自立する」（31.8%）の順となっている。



性別でみると、女性で「男性も女性も、経済的に自立する」「被害を受けた場合に避難できる場所（シェルター）を確保する」が男性を上回っているが、その他は大きな差はみられない。

問23. ＤＶ防止に必要と思うこと（%）性別



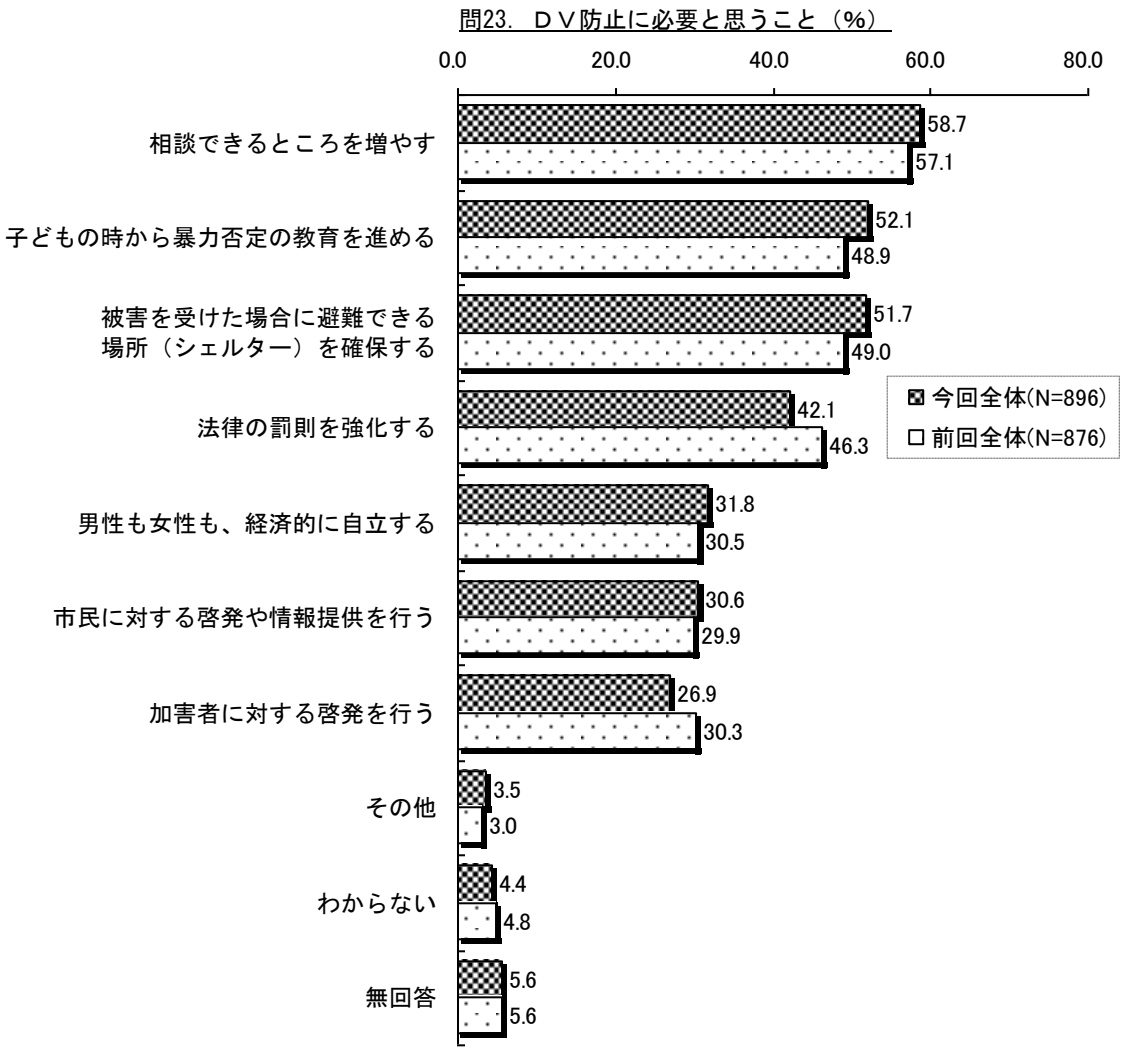
性・年齢別でみると、女性の 20 歳代で「市民に対する啓発や情報提供を行う」「加害者に対する啓発を行う」「子どもの時から暴力否定の教育を進める」などが他の年齢層を上回っている。また、女性の 50 歳代では「相談できるところを増やす」「男性も女性も、経済的に自立する」が多くなっている。

問23. ＤＶ防止に必要と思うこと（%）性別、性・年齢別

| | 法律の罰則を強化する | 相談できるところを増やす | 市民に対する啓発や情報提供を行う | 加害者に対する啓発を行う | 被害を受けた場合に避難できる場所（シェルター）を確保する | 男性も女性も、経済的に自立する | 子どもの時から暴力否定の教育を進める | その他 | わからない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体(N=896) | 42.1 | 58.7 | 30.6 | 26.9 | 51.7 | 31.8 | 52.1 | 3.5 | 4.4 |
| 女性(n=531) | 41.2 | 59.7 | 28.4 | 29.2 | 55.7 | 36.3 | 53.3 | 3.6 | 4.5 |
| 男性(n=354) | 44.4 | 57.9 | 33.6 | 24.0 | 45.8 | 24.9 | 50.3 | 3.4 | 4.0 |
| 女性20歳代(n=50) | 32.0 | 56.0 | 38.0 | 40.0 | 56.0 | 24.0 | 60.0 | 8.0 | 6.0 |
| 女性30歳代(n=111) | 44.1 | 59.5 | 31.5 | 26.1 | 66.7 | 32.4 | 49.5 | 4.5 | 3.6 |
| 女性40歳代(n=100) | 56.0 | 61.0 | 26.0 | 39.0 | 58.0 | 35.0 | 57.0 | 6.0 | 3.0 |
| 女性50歳代(n=73) | 30.1 | 71.2 | 32.9 | 23.3 | 57.5 | 50.7 | 52.1 | 1.4 | 4.1 |
| 女性60歳代(n=112) | 43.8 | 54.5 | 21.4 | 25.9 | 53.6 | 41.1 | 56.3 | 0.9 | 2.7 |
| 女性70歳以上(n=85) | 31.8 | 57.6 | 27.1 | 24.7 | 40.0 | 31.8 | 47.1 | 2.4 | 9.4 |
| 男性20歳代(n=30) | 33.3 | 80.0 | 36.7 | 23.3 | 40.0 | 23.3 | 43.3 | 10.0 | 3.3 |
| 男性30歳代(n=56) | 42.9 | 48.2 | 37.5 | 21.4 | 44.6 | 21.4 | 53.6 | 7.1 | 1.8 |
| 男性40歳代(n=59) | 50.8 | 61.0 | 35.6 | 27.1 | 62.7 | 28.8 | 57.6 | 1.7 | 0.0 |
| 男性50歳代(n=46) | 54.3 | 65.2 | 30.4 | 26.1 | 50.0 | 21.7 | 43.5 | 4.3 | 4.3 |
| 男性60歳代(n=81) | 44.4 | 59.3 | 42.0 | 27.2 | 44.4 | 30.9 | 60.5 | 2.5 | 2.5 |
| 男性70歳以上(n=82) | 39.0 | 48.8 | 22.0 | 19.5 | 35.4 | 20.7 | 39.0 | 0.0 | 9.8 |

【前回調査との比較】

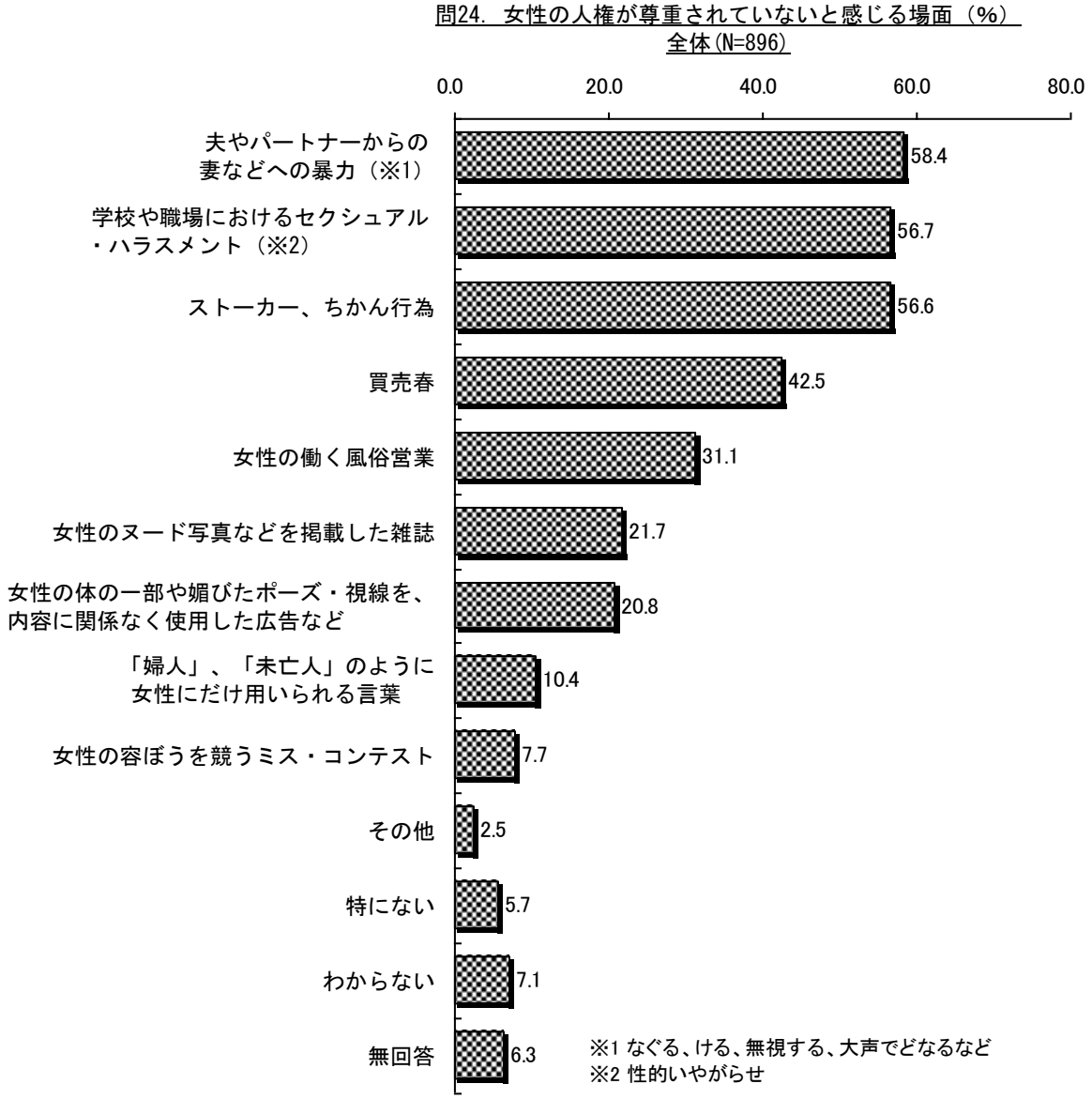
前回に比べ、「子どもの時から暴力否定の教育を進める」などがやや増加し、「法律の罰則を強化する」などがやや減少しているものの、全体的に大きな傾向の変化はみられない。



## 12. 女性の人権が尊重されていないと感じる場面

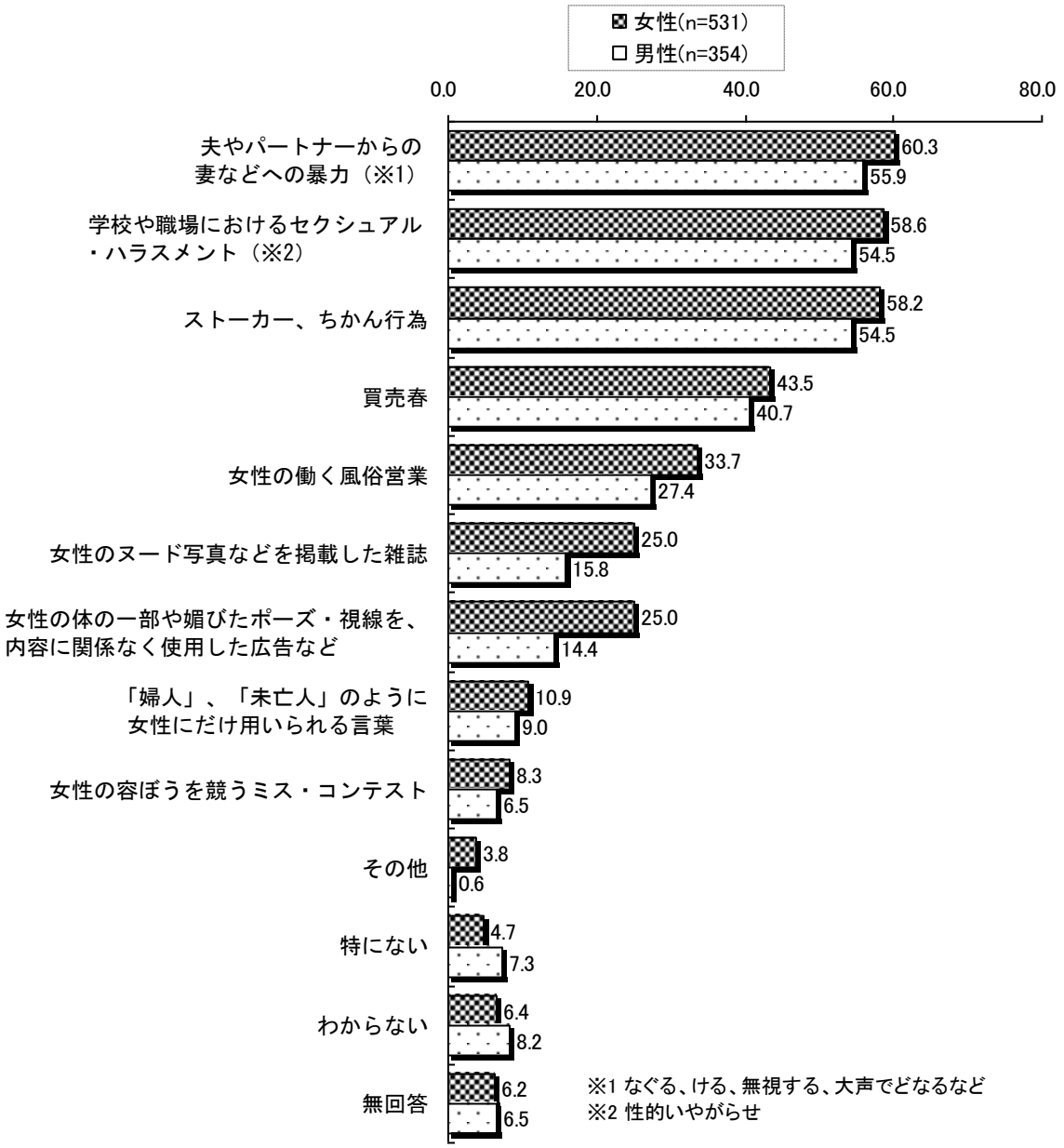
問 24. あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。（○はいくつでも）

女性の人権が尊重されていないと感じる場面については、「夫やパートナーからの妻などへの暴力（なぐる、ける、無視する、大声でどなるなど）」が 58.4%と最も多く、次いで「学校や職場におけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」（56.7%）、「ストーカー、ちかん行為」（56.6%）などが続くが、上位項目には大きな差はない。以下「買売春」（42.5%）、「女性の働く風俗営業」（31.1%）の順となっている。



性別でみると、女性で「女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を、内容に関係なく使用した広告など」「女性のヌード写真などを掲載した雑誌」が男性を上回っているが、その他は大きな差はみられない。

問24. 女性の人権が尊重されていないと感じる場面（%）性別



性・年齢別でみると、女性で年齢が上がるほど多い項目として「買売春」「女性の働く風俗営業」「女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を、内容に関係なく使用した広告など」「女性の容ぼうを競うミス・コンテスト」などがあげられる。

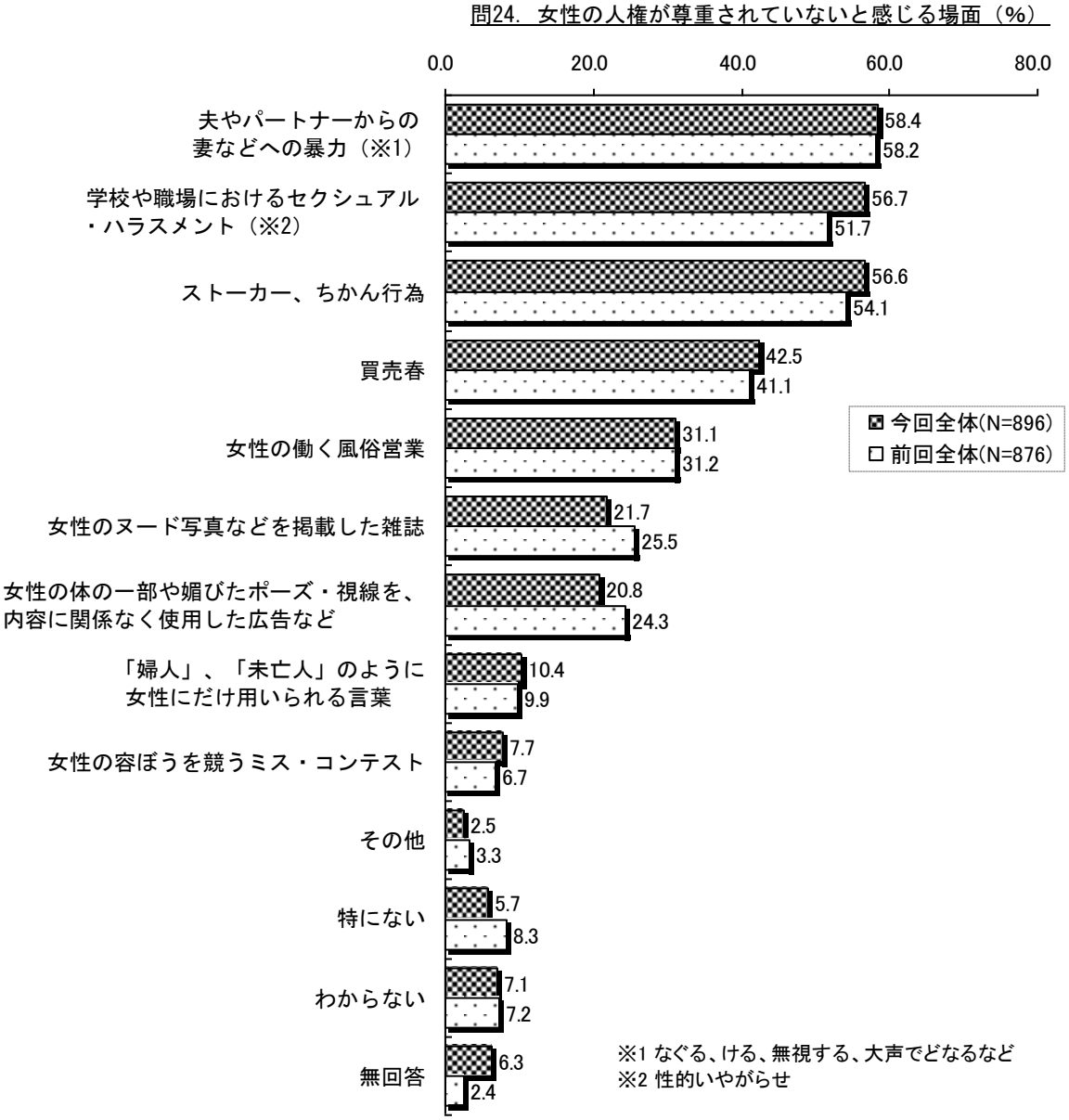
問24. 女性の人権が尊重されていないと感じる場面（%）性別、性・年齢別

| | 買売春 | 女性の働く風俗営業 | 夫やパートナーからの妻などへの暴力（※） | 学校や職場におけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ） | ストーカー、ちかん行為 | 女性のヌード写真などを掲載した雑誌 | 女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を、内容に関係なく使用した広告など | 女性の容ぼうを競うミス・コンテスト | 「婦人」、「未亡人」のように女性にだけ用いられる言葉 | その他 | 特にない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体(N=896) | 42.5 | 31.1 | 58.4 | 56.7 | 56.6 | 21.7 | 20.8 | 7.7 | 10.4 | 2.5 | 5.7 |
| 女性(n=531) | 43.5 | 33.7 | 60.3 | 58.6 | 58.2 | 25.0 | 25.0 | 8.3 | 10.9 | 3.8 | 4.7 |
| 男性(n=354) | 40.7 | 27.4 | 55.9 | 54.5 | 54.5 | 15.8 | 14.4 | 6.5 | 9.0 | 0.6 | 7.3 |
| 女性20歳代(n=50) | 34.0 | 22.0 | 66.0 | 68.0 | 70.0 | 16.0 | 16.0 | 4.0 | 18.0 | 4.0 | 6.0 |
| 女性30歳代(n=111) | 33.3 | 24.3 | 51.4 | 65.8 | 63.1 | 21.6 | 18.0 | 4.5 | 9.0 | 5.4 | 6.3 |
| 女性40歳代(n=100) | 47.0 | 37.0 | 65.0 | 55.0 | 65.0 | 20.0 | 17.0 | 8.0 | 11.0 | 6.0 | 7.0 |
| 女性50歳代(n=73) | 46.6 | 35.6 | 65.8 | 54.8 | 56.2 | 24.7 | 27.4 | 11.0 | 15.1 | 2.7 | 4.1 |
| 女性60歳代(n=112) | 48.2 | 37.5 | 64.3 | 58.9 | 50.0 | 32.1 | 32.1 | 13.4 | 7.1 | 2.7 | 3.6 |
| 女性70歳以上(n=85) | 49.4 | 42.4 | 52.9 | 50.6 | 49.4 | 31.8 | 37.6 | 7.1 | 10.6 | 1.2 | 1.2 |
| 男性20歳代(n=30) | 40.0 | 30.0 | 63.3 | 50.0 | 73.3 | 10.0 | 3.3 | 3.3 | 13.3 | 0.0 | 0.0 |
| 男性30歳代(n=56) | 26.8 | 17.9 | 50.0 | 60.7 | 50.0 | 7.1 | 8.9 | 5.4 | 14.3 | 1.8 | 7.1 |
| 男性40歳代(n=59) | 37.3 | 25.4 | 54.2 | 55.9 | 55.9 | 18.6 | 10.2 | 6.8 | 10.2 | 1.7 | 15.3 |
| 男性50歳代(n=46) | 41.3 | 26.1 | 56.5 | 54.3 | 56.5 | 15.2 | 17.4 | 8.7 | 6.5 | 0.0 | 8.7 |
| 男性60歳代(n=81) | 45.7 | 32.1 | 60.5 | 63.0 | 55.6 | 22.2 | 19.8 | 8.6 | 8.6 | 0.0 | 9.9 |
| 男性70歳以上(n=82) | 47.6 | 30.5 | 53.7 | 42.7 | 47.6 | 15.9 | 18.3 | 4.9 | 4.9 | 0.0 | 1.2 |

※なぐる、ける、無視する、大声でどなるなど

【前回調査との比較】

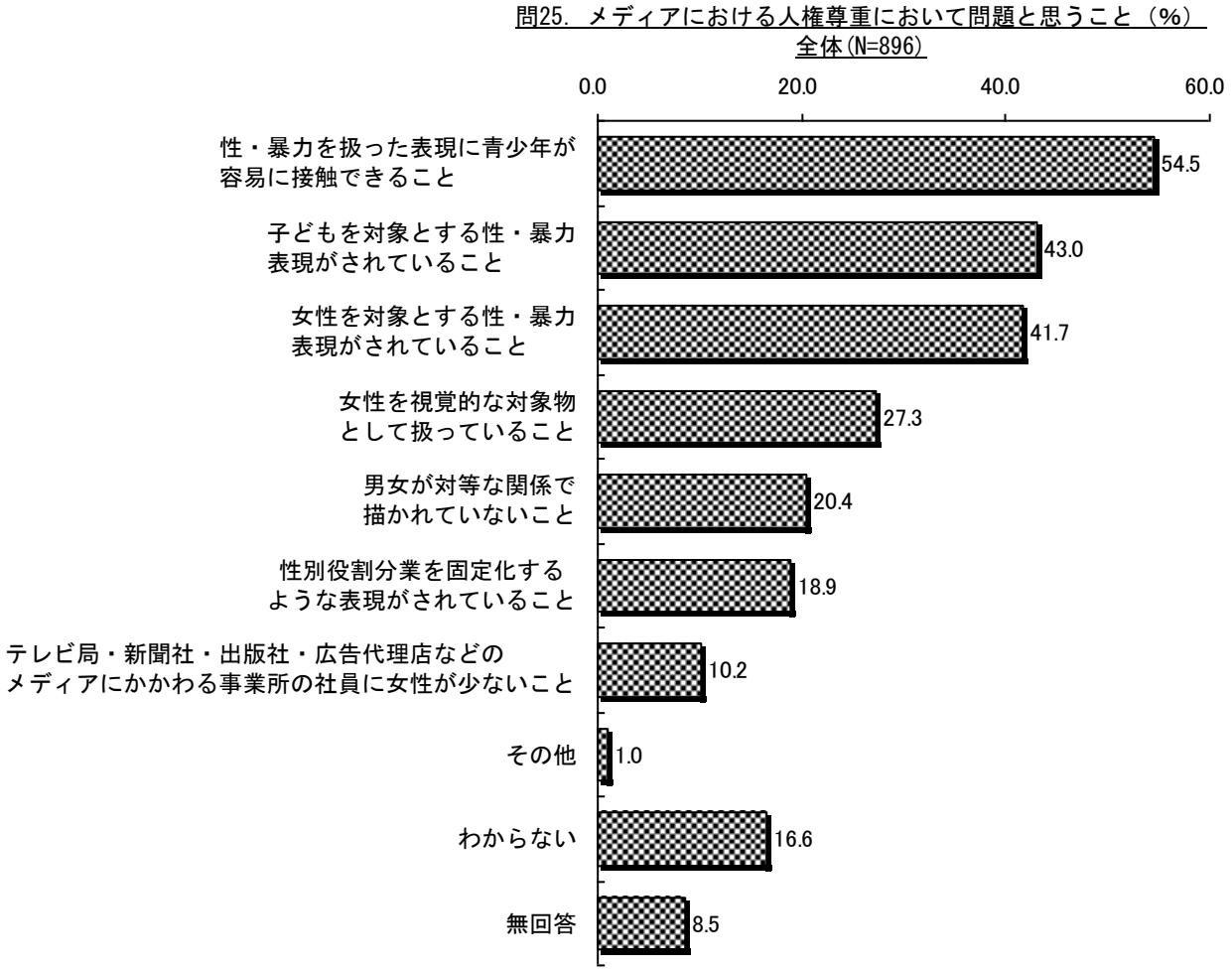
前回に比べ、「学校や職場におけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ)」「ストーカー、ちかん行為」などがやや増加し、「女性のヌード写真などを掲載した雑誌」「女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を、内容に関係なく使用した広告など」などがやや減少しているが、大きな傾向の変化はみられない。



## 13. メディアにおける人権尊重において問題と思うこと

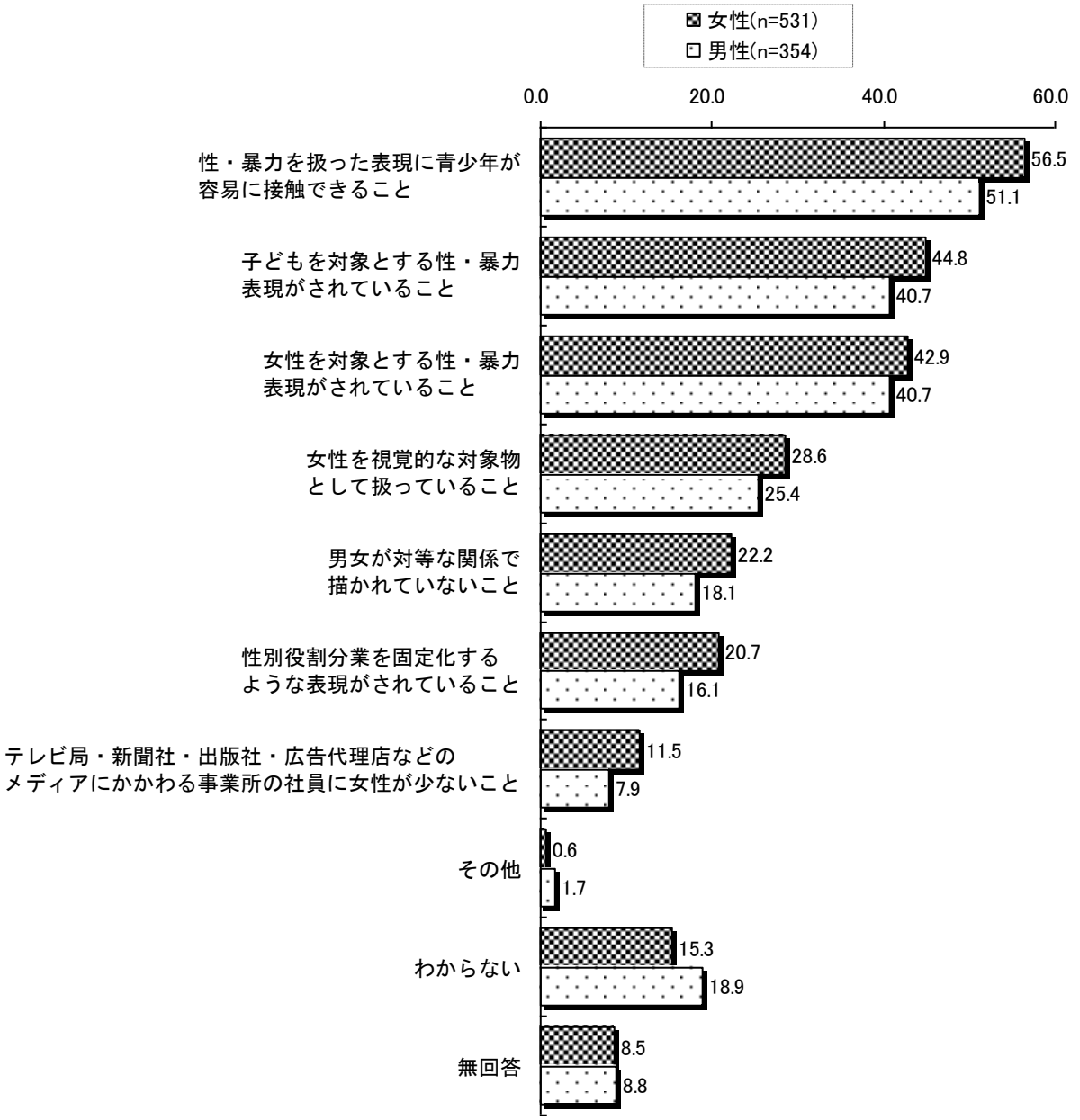
問 25. メディア（テレビ・新聞・雑誌・インターネットなど）における人権尊重において、問題だと考えられるのはどの点ですか。（○はいくつでも）

メディアにおける人権尊重において問題と思うことについては、「性・暴力を扱った表現に青少年が容易に接触できること」が 54.5%と最も多く、次いで「子どもを対象とする性・暴力表現がされていること」(43.0%)、「女性を対象とする性・暴力表現がされていること」(41.7%)、「女性を視覚的な対象物として扱っていること」(27.3%)、「男女が対等な関係で描かれていないこと」（20.4%）の順となっている。



性別でみると、女性で「性・暴力を扱った表現に青少年が容易に接触できること」「性別役割分業を固定化するような表現がされていること」などで男性をやや上回っているが、大きな男女差はみられない。

問25. メディアにおける人権尊重において問題と思うこと（%）性別



性・年齢別でみると、特に女性の 30 歳代で「性・暴力を扱った表現に青少年が容易に接触できること」「性別役割分業を固定化するような表現がされていること」「女性を対象とする性・暴力表現がされていること」、40 歳代で「子どもを対象とする性・暴力表現がされていること」、60 歳代で「女性を視覚的な対象物として扱っていること」などがそれぞれ他の年齢層に比べ多くなっている。一方で、女性の 20 歳代では「わからない」も多くみられる。

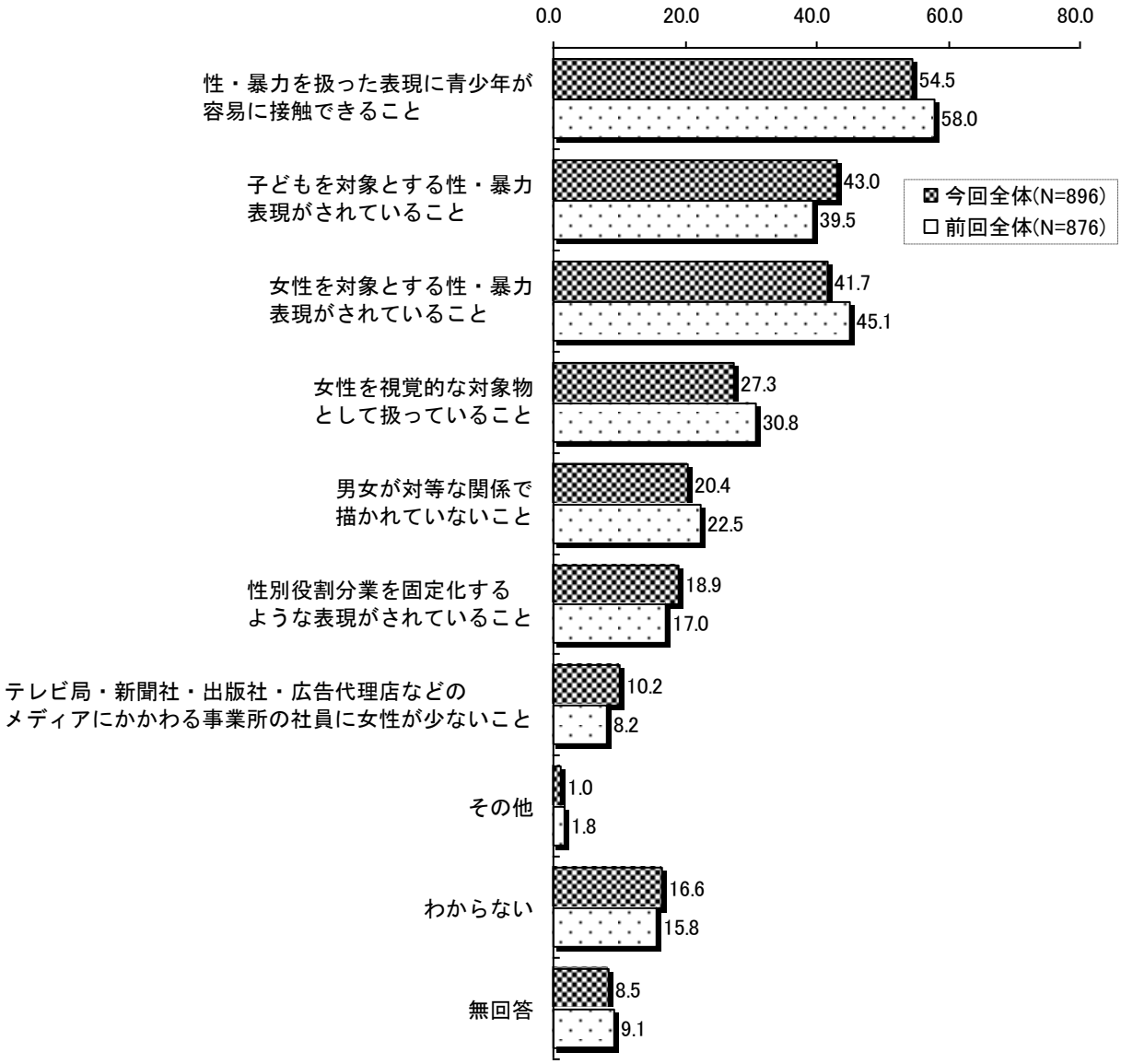
問25. メディアにおける人権尊重において問題と思うこと（%）性別、性・年齢別

| | テレビ局・新聞社・出版社・広告代理店などのメディアにかかわる | 性・暴力を扱った表現に青少年が容易に接触できること | 性別役割分業を固定化するような表現がされていること | 男女が対等な関係で描かれていないこと | 女性を視覚的な対象物として扱っていること | 子どもを対象とする性・暴力表現がされていること | 女性を対象とする性・暴力表現がされていること | その他 | わからない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体(N=896) | 10.2 | 54.5 | 18.9 | 20.4 | 27.3 | 43.0 | 41.7 | 1.0 | 16.6 |
| 女性(n=531) | 11.5 | 56.5 | 20.7 | 22.2 | 28.6 | 44.8 | 42.9 | 0.6 | 15.3 |
| 男性(n=354) | 7.9 | 51.1 | 16.1 | 18.1 | 25.4 | 40.7 | 40.7 | 1.7 | 18.9 |
| 女性20歳代(n=50) | 8.0 | 40.0 | 24.0 | 18.0 | 28.0 | 44.0 | 42.0 | 0.0 | 28.0 |
| 女性30歳代(n=111) | 12.6 | 67.6 | 26.1 | 23.4 | 19.8 | 52.3 | 47.7 | 0.9 | 11.7 |
| 女性40歳代(n=100) | 15.0 | 60.0 | 22.0 | 25.0 | 27.0 | 55.0 | 47.0 | 2.0 | 12.0 |
| 女性50歳代(n=73) | 11.0 | 63.0 | 17.8 | 17.8 | 27.4 | 39.7 | 39.7 | 0.0 | 13.7 |
| 女性60歳代(n=112) | 10.7 | 55.4 | 17.9 | 25.0 | 39.3 | 42.0 | 43.8 | 0.0 | 17.0 |
| 女性70歳以上(n=85) | 9.4 | 43.5 | 16.5 | 20.0 | 29.4 | 31.8 | 34.1 | 0.0 | 15.3 |
| 男性20歳代(n=30) | 10.0 | 36.7 | 13.3 | 16.7 | 13.3 | 30.0 | 36.7 | 0.0 | 33.3 |
| 男性30歳代(n=56) | 8.9 | 41.1 | 12.5 | 8.9 | 12.5 | 42.9 | 35.7 | 7.1 | 23.2 |
| 男性40歳代(n=59) | 8.5 | 61.0 | 8.5 | 13.6 | 20.3 | 44.1 | 40.7 | 1.7 | 15.3 |
| 男性50歳代(n=46) | 0.0 | 58.7 | 28.3 | 21.7 | 34.8 | 39.1 | 56.5 | 0.0 | 15.2 |
| 男性60歳代(n=81) | 11.1 | 58.0 | 23.5 | 25.9 | 35.8 | 45.7 | 40.7 | 1.2 | 11.1 |
| 男性70歳以上(n=82) | 7.3 | 45.1 | 11.0 | 18.3 | 26.8 | 36.6 | 36.6 | 0.0 | 23.2 |

【前回調査との比較】

前回に比べ、「子どもを対象とする性・暴力表現がされていること」などがやや増加し、「性・暴力を扱った表現に青少年が容易に接触できること」「女性を視覚的な対象物として扱っていること」などがやや減少しているが、大きな傾向の変化はみられない。

問25. メディアにおける人権尊重において問題と思うこと（%）

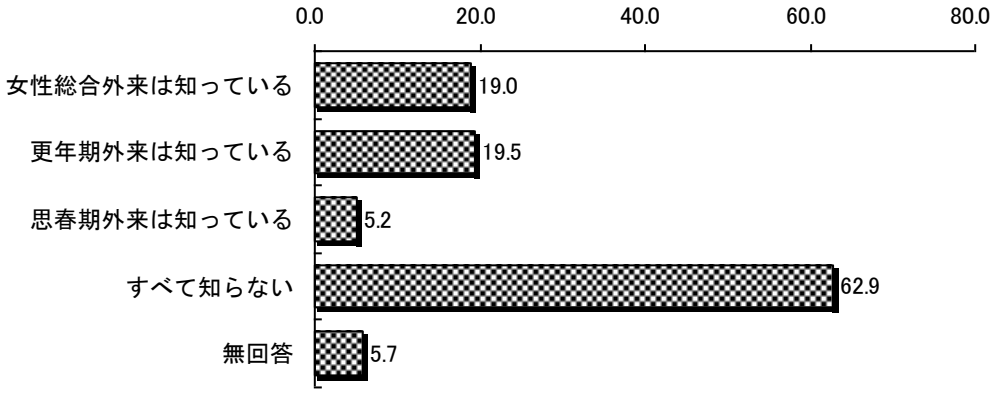


## 14. 市民病院の女性総合外来等の認知状況

問 26. あなたは、市民病院に女性総合外来、更年期外来、思春期外来があることを知っていますか。（○はいくつでも）

市民病院の女性総合外来等の認知状況については、「女性総合外来は知っている」が 19.0%、「更年期外来は知っている」が 19.5%、「思春期外来は知っている」が 5.2%となっており、合計 43.7%が、いずれかの外来は知っていると回答している。

問26. 市民病院の女性総合外来等の認知状況（%）
全体(N=896)




性別では女性で知っている割合が多く、特に「女性総合外来は知っている」「更年期外来は知っている」は男性を大き．く上回る。

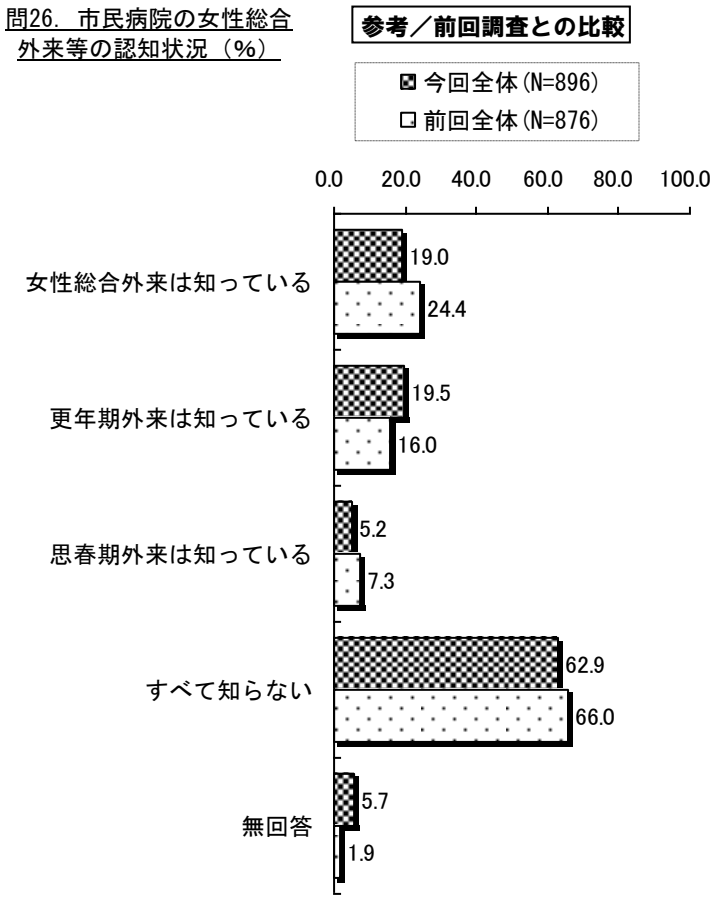
性・年齢別では、女性の 40～50 歳代で知っている割合が多い一方で、女性の 20 歳代では「すべて知らない」が 70.0%と多くなっている。

問26. 市民病院の女性総合外来等の認知状況（%）性別、性・年齢別

| | 女性総合外来は知っている | 更年期外来は知っている | 思春期外来は知っている | すべて知らない |
|---|---|---|---|---|
| 全体(N=896) | 19.0 | 19.5 | 5.2 | 62.9 |
| 女性(n=531) | 23.7 | 23.9 | 5.8 | 57.4 |
| 男性(n=354) | 11.0 | 13.0 | 4.5 | 71.5 |
| 女性20歳代(n=50) | 18.0 | 12.0 | 8.0 | 70.0 |
| 女性30歳代(n=111) | 24.3 | 18.0 | 3.6 | 62.2 |
| 女性40歳代(n=100) | 29.0 | 27.0 | 10.0 | 56.0 |
| 女性50歳代(n=73) | 17.8 | 31.5 | 9.6 | 54.8 |
| 女性60歳代(n=112) | 23.2 | 29.5 | 3.6 | 55.4 |
| 女性70歳以上(n=85) | 25.9 | 21.2 | 2.4 | 50.6 |
| 男性20歳代(n=30) | 3.3 | 6.7 | 3.3 | 86.7 |
| 男性30歳代(n=56) | 12.5 | 16.1 | 7.1 | 71.4 |
| 男性40歳代(n=59) | 15.3 | 10.2 | 3.4 | 71.2 |
| 男性50歳代(n=46) | 10.9 | 23.9 | 10.9 | 63.0 |
| 男性60歳代(n=81) | 8.6 | 11.1 | 2.5 | 75.3 |
| 男性70歳以上(n=82) | 12.2 | 11.0 | 2.4 | 67.1 |

【前回調査との比較】

前回との比較をみると、「更年期外来が知っている」がやや増加し、「女性総合外来は知っている」がやや減少しているが、大きな変化はみられない。



## 【５】男女共同参画社会について

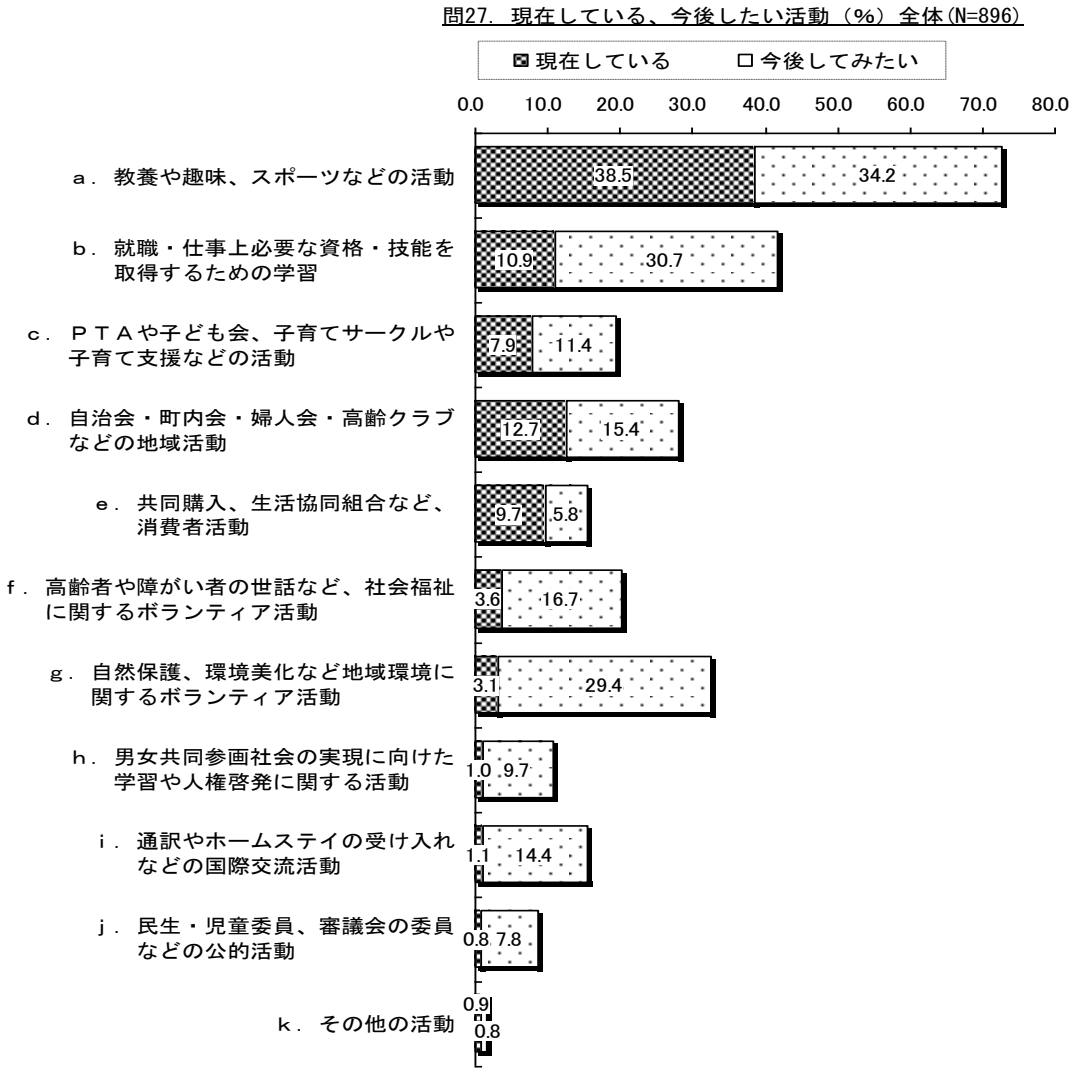
### １．現在している、今後したい活動

問 27．あなたは、何か教養や趣味・スポーツ、その他社会的な活動を現在していますか。あるいは、今後してみたいと思いますか。下の項目の中から、選んでください。
（○はいくつでも）

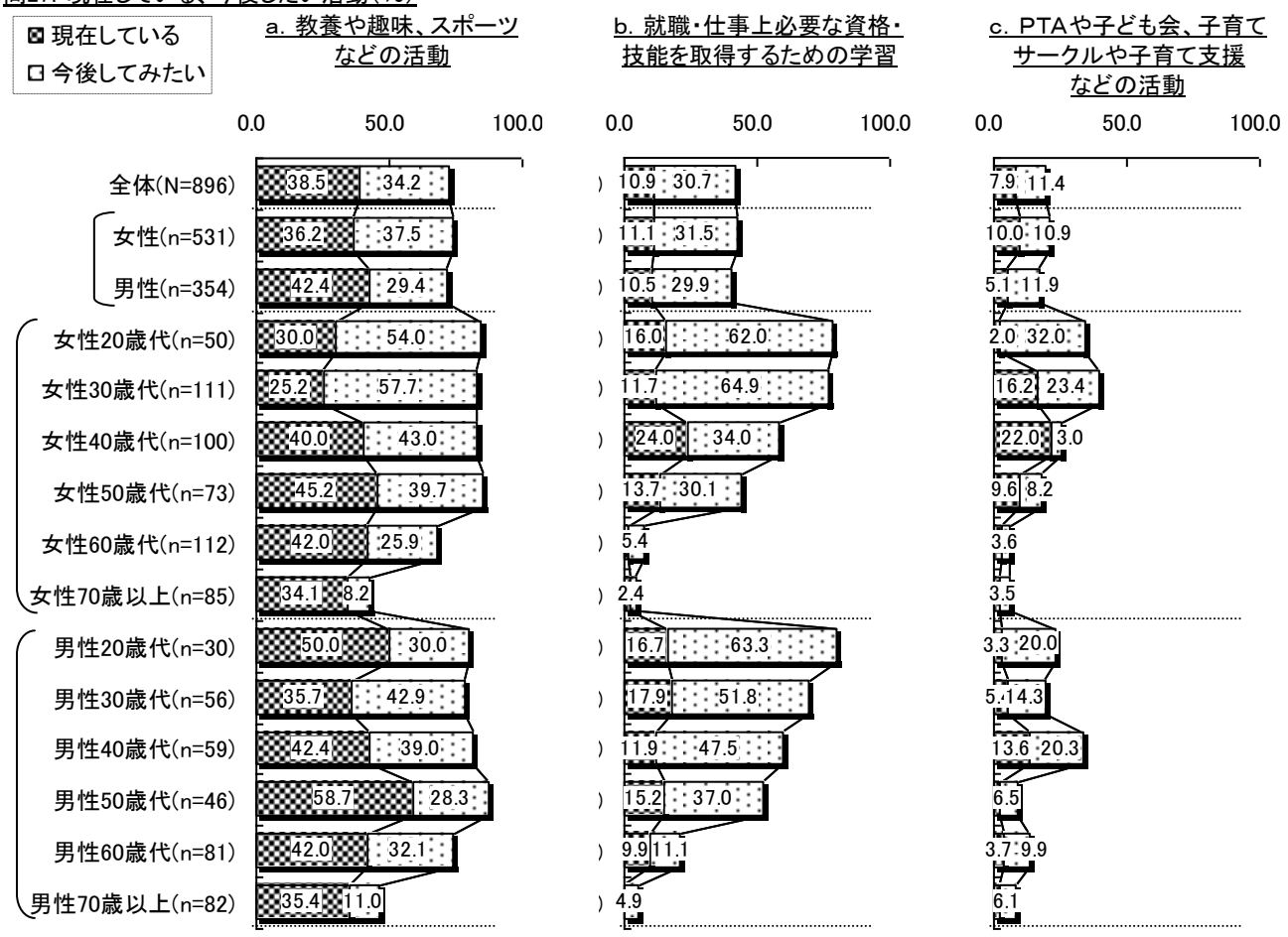
「現在している活動」については、「ａ．教養や趣味、スポーツなどの活動」が 38.5％と最も多く、次いで「ｄ．自治会・町内会・婦人会・高齢クラブなどの地域活動」（12.7％）、「ｂ．就職・仕事上必要な資格・技能を取得するための学習」（10.9％）の順となっている。「今後してみたい活動」については、「ａ．教養や趣味、スポーツなどの活動」が 34.2％と最も多く、次いで「ｂ．就職・仕事上必要な資格・技能を取得するための学習」（30.7％）、「ｇ．自然保護、環境美化など地域環境に関するボランティア活動」（29.4％）の順となっており、「現在している活動」と「今後してみたい活動」の合計では「ａ．教養や趣味、スポーツなどの活動」が最も多くなっている。

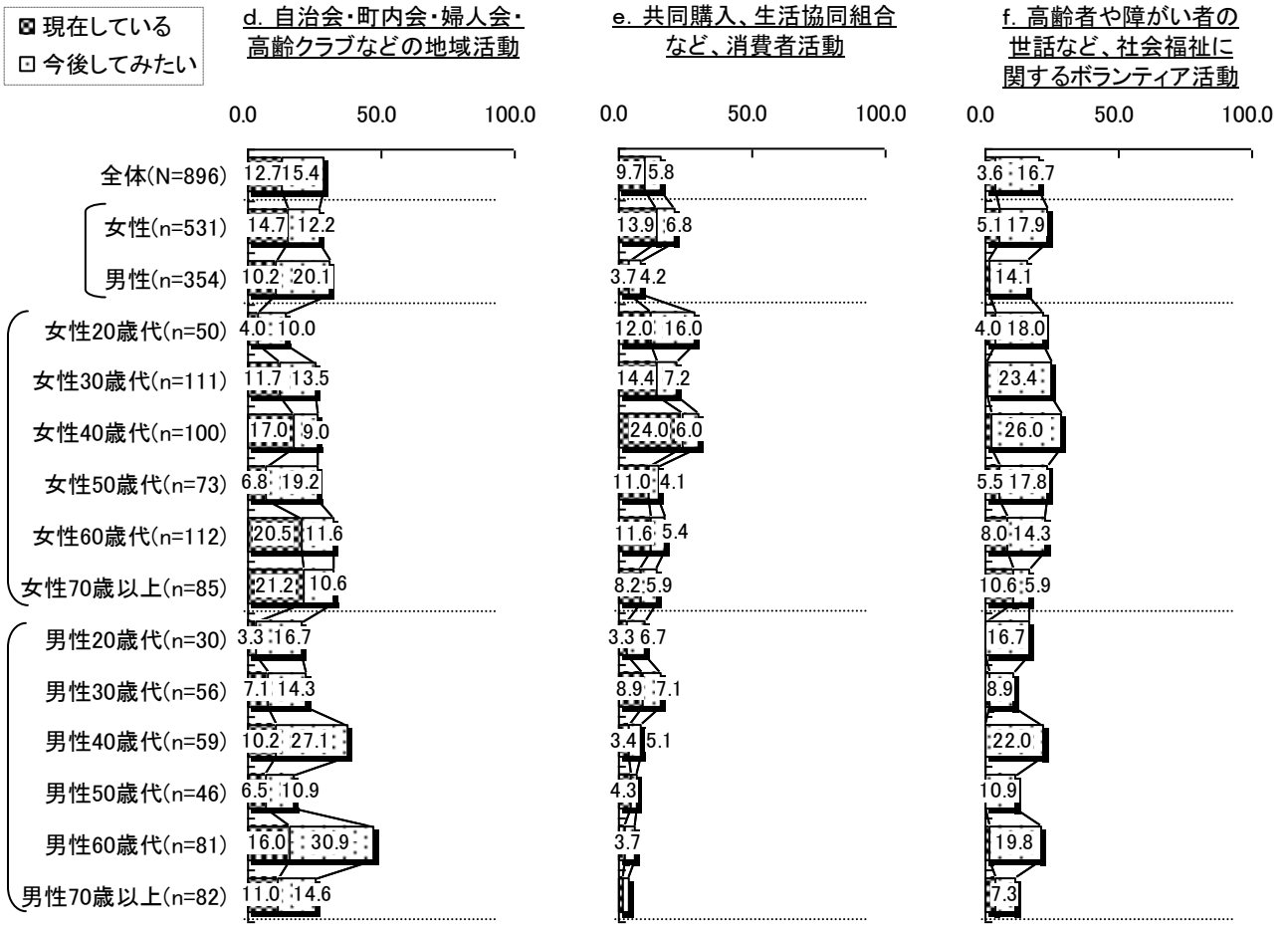
性別では大きな差はみられないが、性・年齢別では、70 歳以上を除く幅広い年齢層において「ａ．教養や趣味、スポーツなどの活動」が多くなっている。また男女ともに年齢が若い層ほど「ｂ．就職・仕事上必要な資格・技能を取得するための学習」を「今後してみたい」とする意識が多くみられる傾向にある。

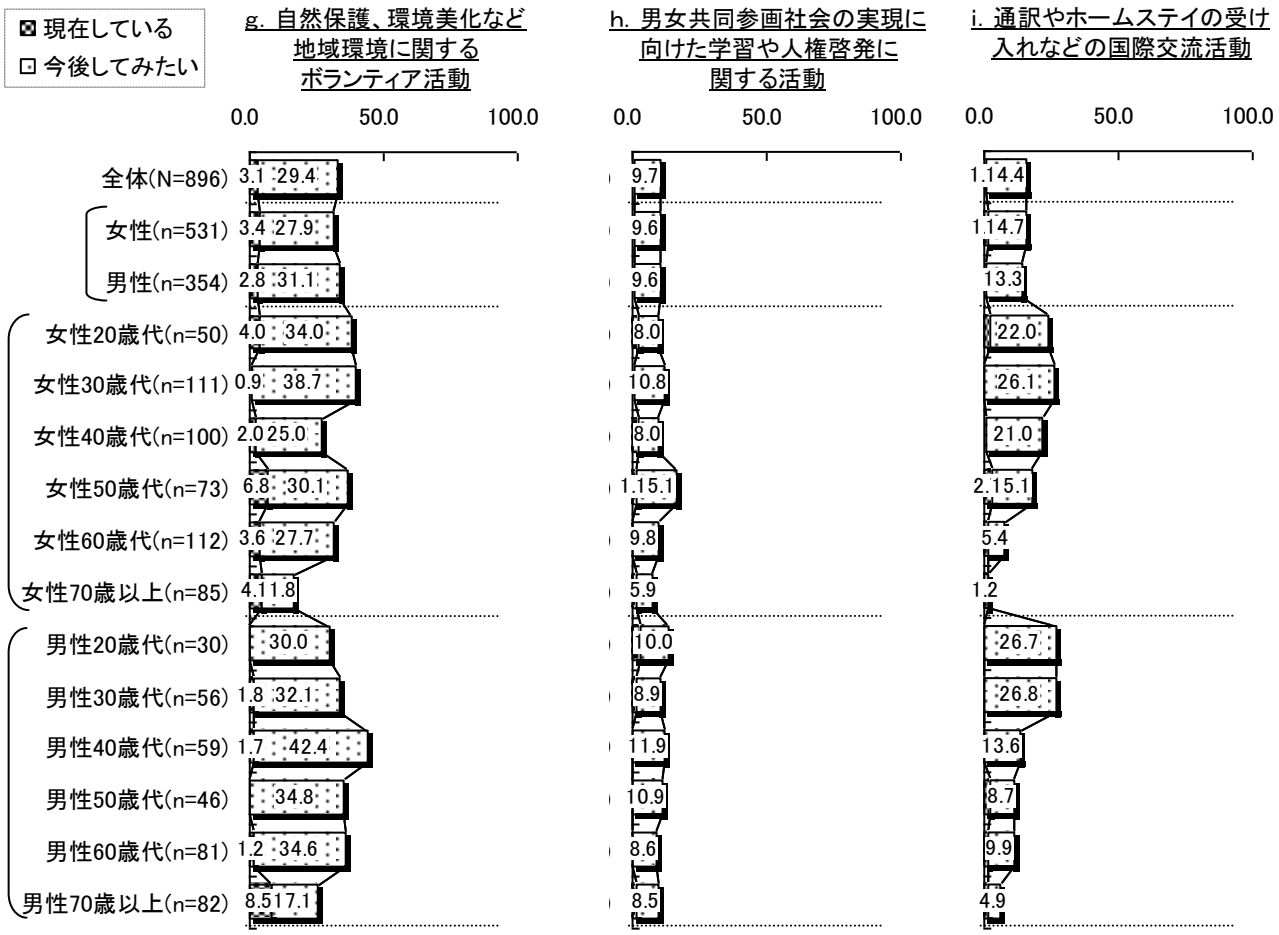
女性の 20～30 歳代、男性の 40 歳代では「ｃ．ＰＴＡや子ども会、子育てサークルや子育て支援などの活動」も多くみられる。

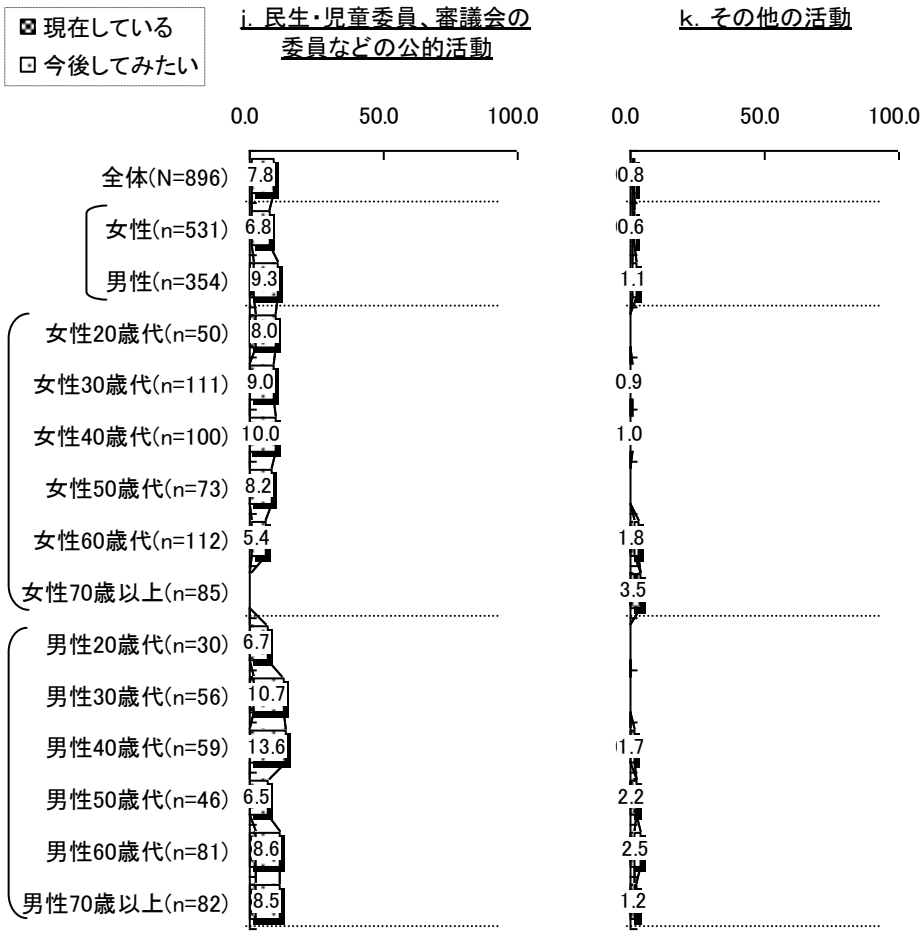


問27. 現在している、今後したい活動（%）



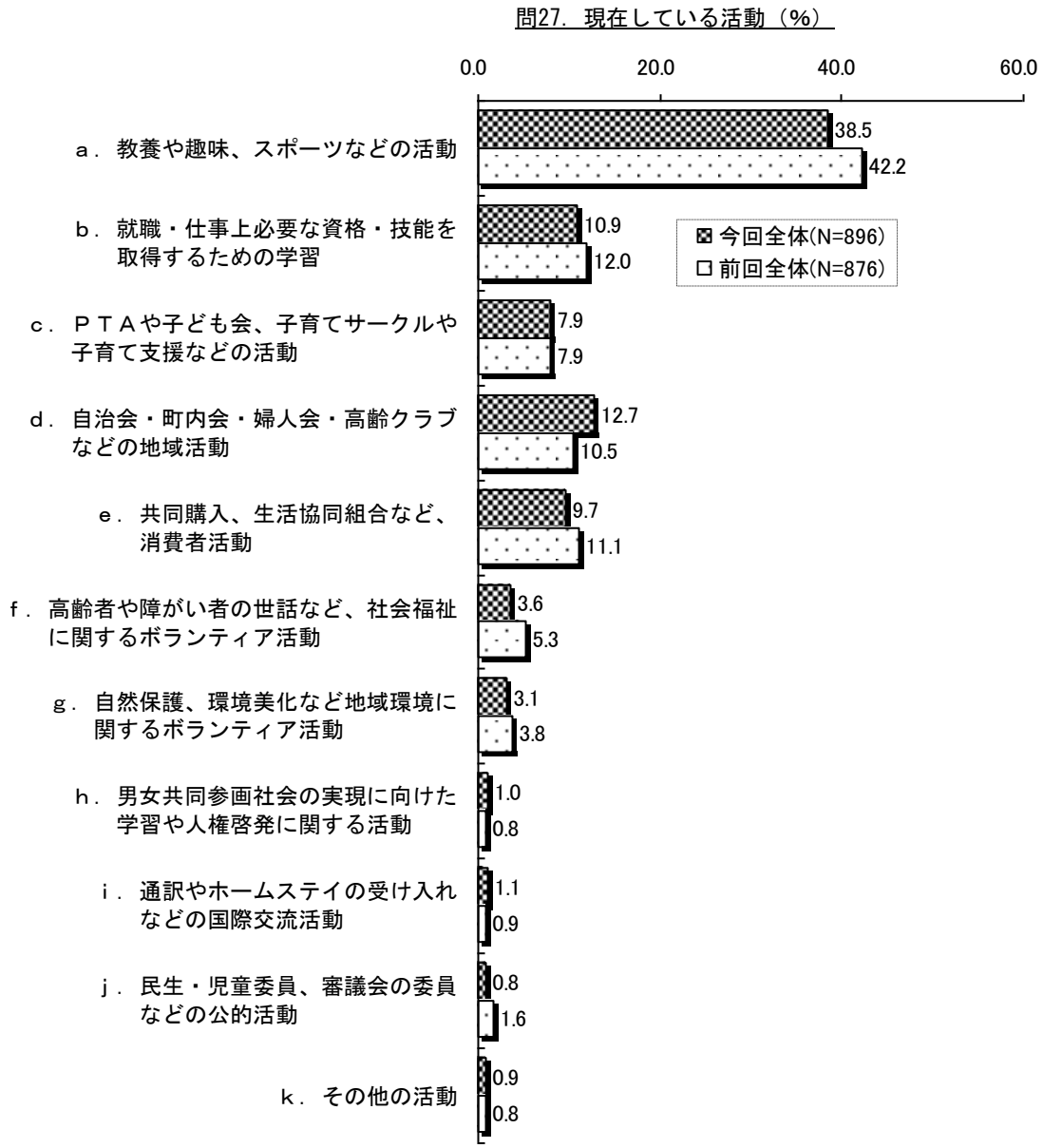




現在している
今後してみたい
g. 自然保護、環境美化など地域環境に関するボランティア活動
h. 男女共同参画社会の実現に向けた学習や人権啓発に関する活動
i. 通訳やホームステイの受け入れなどの国際交流活動
0.0
50.0
100.0
全体(N=896)
女性(n=531)
男性(n=354)
女性20歳代(n=50)
女性30歳代(n=111)
女性40歳代(n=100)
女性50歳代(n=73)
女性60歳代(n=112)
女性70歳以上(n=85)
男性20歳代(n=30)
男性30歳代(n=56)
男性40歳代(n=59)
男性50歳代(n=46)
男性60歳代(n=81)
男性70歳以上(n=82)

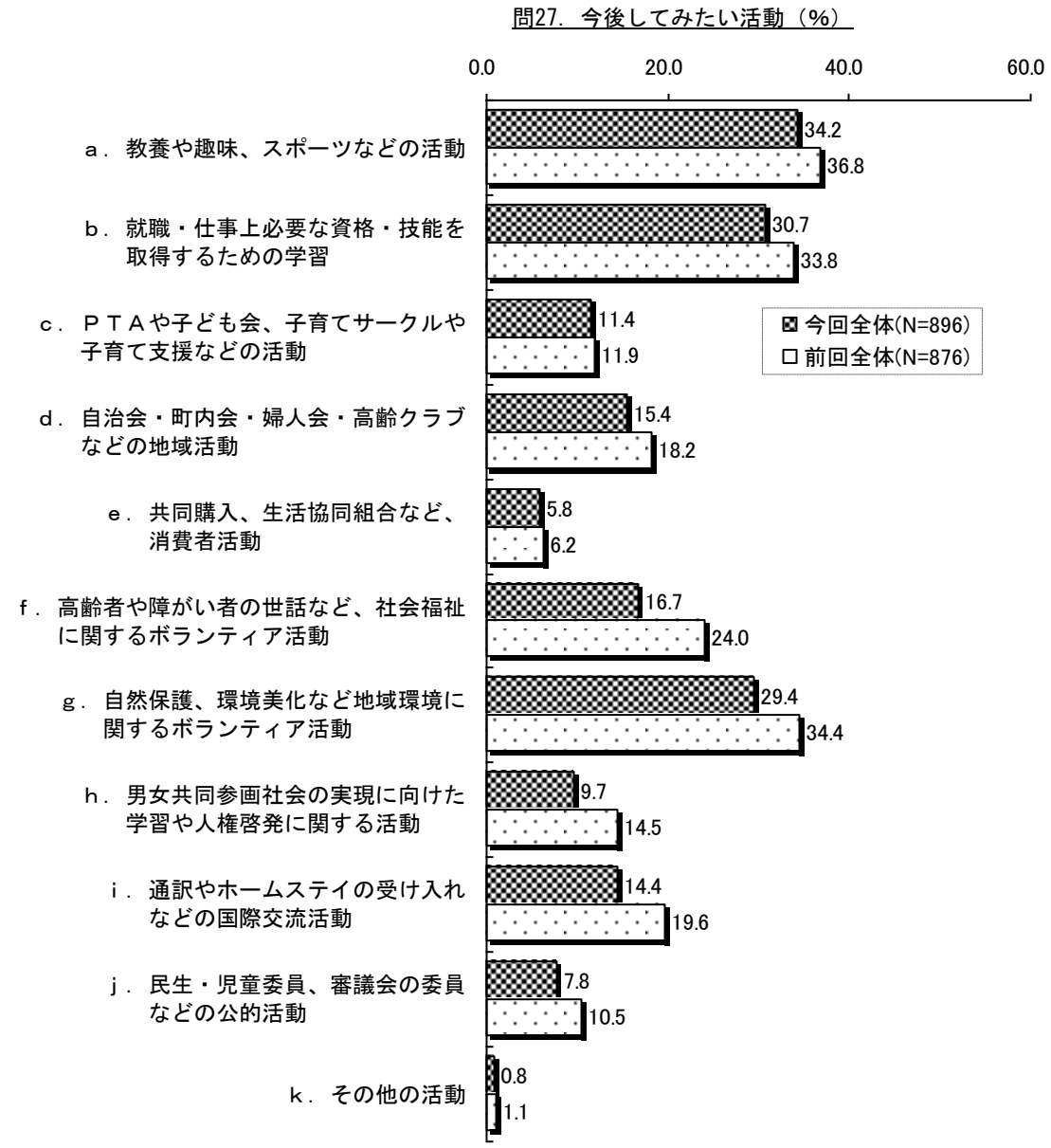

現在している
今後してみたい
j. 民生・児童委員、審議会の委員などの公的活動
k. その他の活動
0.0
50.0
100.0
全体(N=896)
女性(n=531)
男性(n=354)
女性20歳代(n=50)
女性30歳代(n=111)
女性40歳代(n=100)
女性50歳代(n=73)
女性60歳代(n=112)
女性70歳以上(n=85)
男性20歳代(n=30)
男性30歳代(n=56)
男性40歳代(n=59)
男性50歳代(n=46)
男性60歳代(n=81)
男性70歳以上(n=82)

【前回調査との比較】

「現在している活動」については、前回に比べ、「ｄ．自治会・町内会・婦人会・高齢クラブなどの地域活動」などがやや増加し、「ａ．教養や趣味、スポーツなどの活動」「ｆ．高齢者や障がい者の世話など、社会福祉に関するボランティア活動」などがやや減少しているが、大きな傾向の変化はみられない。



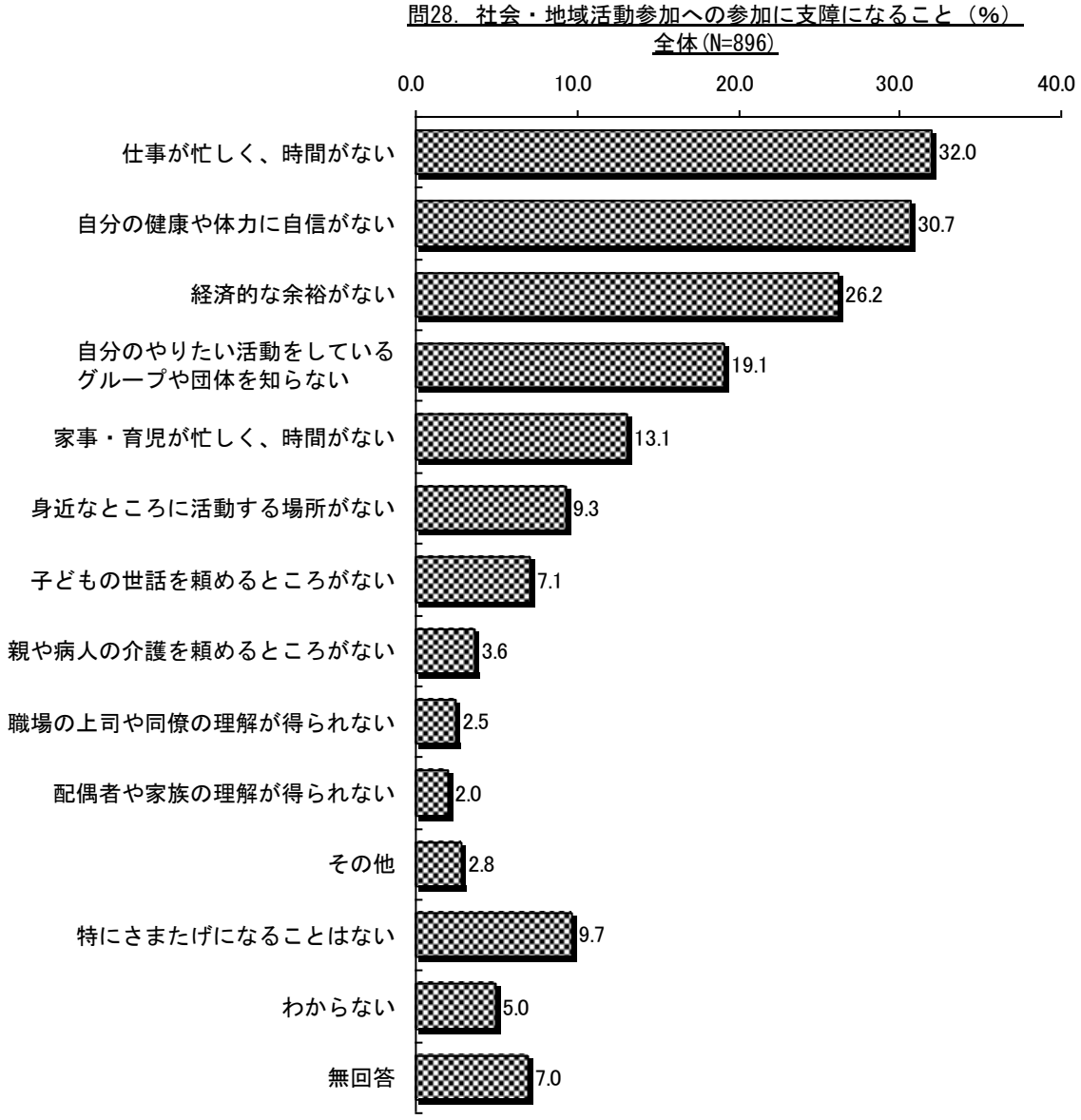
「今後してみたい活動」については、前回に比べ、「ｆ．高齢者や障がい者の世話など、社会福祉に関するボランティア活動」「ｉ．通訳やホームステイの受け入れなどの国際交流活動」「ｇ．自然保護、環境美化など地域環境に関するボランティア活動」などをはじめ、全体的に回答割合がやや減少している。しかし、大きな傾向の変化はみられない。



## ２．社会・地域活動参加への参加に支障になること

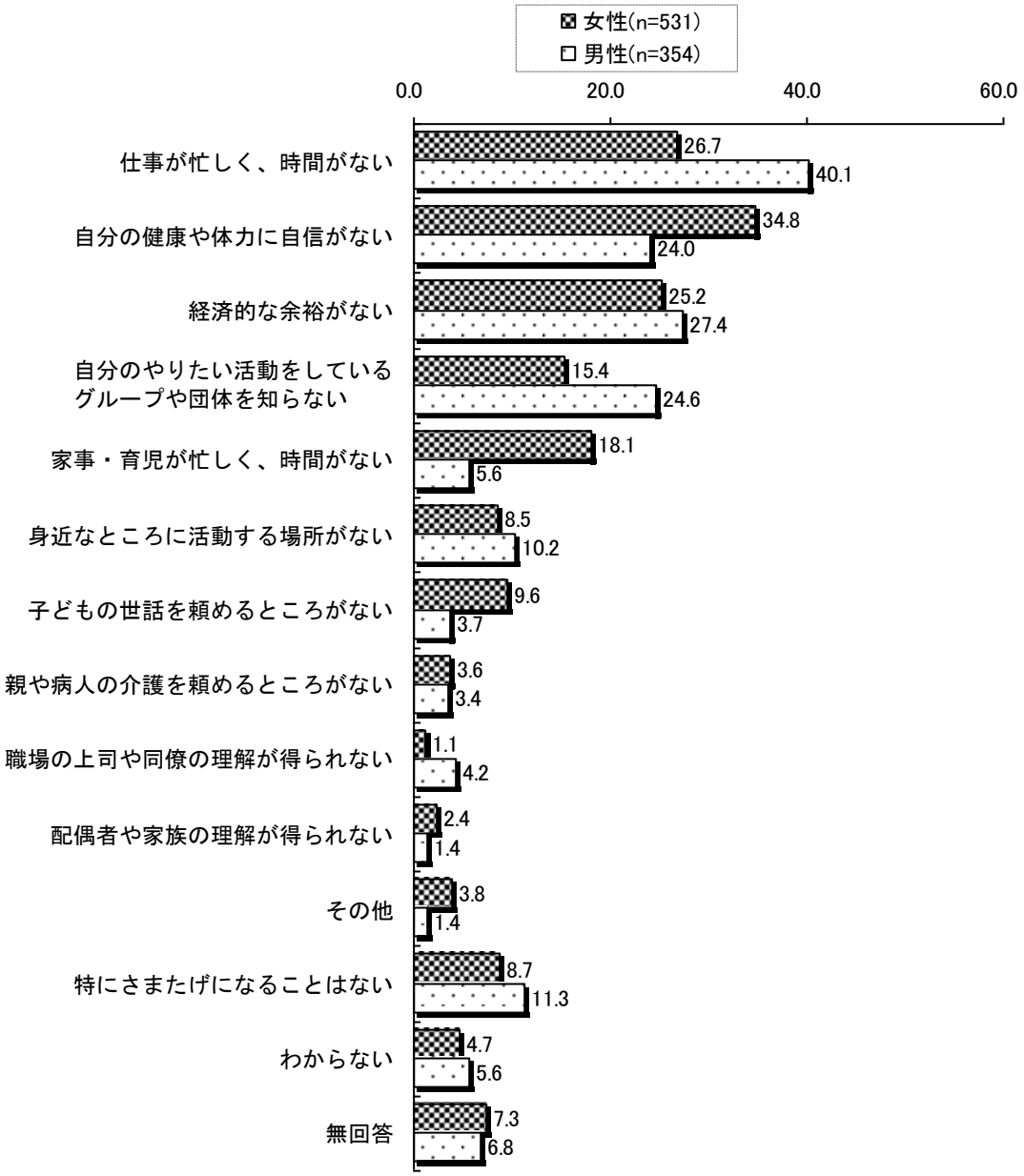
問 28．あなたが、今後、社会・地域活動に参加しようとする時、何かさまたげになるようなことがありますか。（○は３つまで）

社会・地域活動参加への参加に支障になることについては、「仕事が忙しく、時間がない」が32.0％と最も多く、ほぼ並んで「自分の健康や体力に自信がない」（30.7％）が続き、以下「経済的な余裕がない」(26.2％)、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」(19.1％)、「家事・育児が忙しく、時間がない」（13.1％）の順となっている。なお、「特にさまたげになることはない」は 9.7％と少ないことから、ほとんどの方に何らかの支障があるとみられる。



性別では、女性で「家事・育児が忙しく、時間がない」「自分の健康や体力に自信がない」が男性を大きく上回っており、男性は「仕事が忙しく、時間がない」「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」が多くなっている点で差がみられる。

問28. 社会・地域活動参加への参加に支障になること（%）性別



性・年齢別では、特に女性の 20 歳代で「仕事が忙しく、時間がない」、女性 30 歳代では「家事・育児が忙しく、時間がない」「子どもの世話を頼めるところがない」、女性 60 歳代で「自分の健康や体力に自信がない」などがそれぞれ他の年齢層を上回っている。一方、男性では 40 歳代で「経済的な余裕がない」、70 歳以上で「自分の健康や体力に自信がない」などが多くなっている。

問28. 社会・地域活動参加への阻害要因（%）性別、性・年齢別

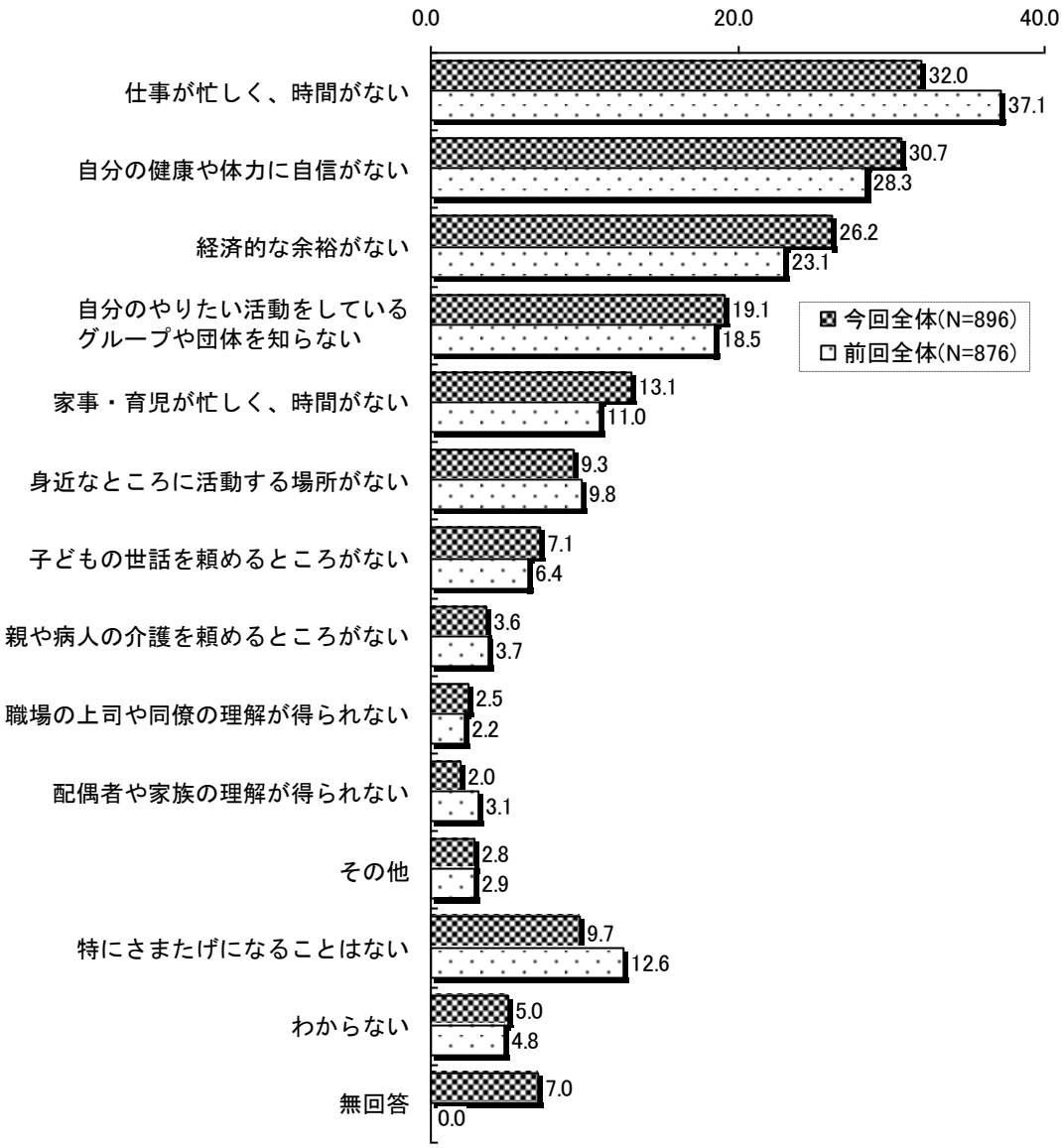
| | 仕事が忙しく、時間がない | 家事・育児が忙しく、時間がない | 子どもの世話を頼めるところがない | 親や病人の介護を頼めるところがない | 自分の健康や体力に自信がない | 身近なところに活動する場所がない | 経済的な余裕がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体(N=896) | 32.0 | 13.1 | 7.1 | 3.6 | 30.7 | 9.3 | 26.2 |
| 女性(n=531) | 26.7 | 18.1 | 9.6 | 3.6 | 34.8 | 8.5 | 25.2 |
| 男性(n=354) | 40.1 | 5.6 | 3.7 | 3.4 | 24.0 | 10.2 | 27.4 |
| 女性20歳代(n=50) | 46.0 | 22.0 | 8.0 | 2.0 | 14.0 | 16.0 | 26.0 |
| 女性30歳代(n=111) | 35.1 | 45.9 | 33.3 | 2.7 | 14.4 | 9.0 | 37.8 |
| 女性40歳代(n=100) | 41.0 | 25.0 | 10.0 | 5.0 | 24.0 | 9.0 | 38.0 |
| 女性50歳代(n=73) | 31.5 | 5.5 | 0.0 | 4.1 | 39.7 | 5.5 | 20.5 |
| 女性60歳代(n=112) | 11.6 | 2.7 | 0.0 | 5.4 | 57.1 | 6.3 | 17.0 |
| 女性70歳以上(n=85) | 3.5 | 2.4 | 0.0 | 1.2 | 52.9 | 8.2 | 8.2 |
| 男性20歳代(n=30) | 60.0 | 20.0 | 10.0 | 6.7 | 13.3 | 16.7 | 36.7 |
| 男性30歳代(n=56) | 69.6 | 12.5 | 10.7 | 0.0 | 10.7 | 7.1 | 28.6 |
| 男性40歳代(n=59) | 71.2 | 6.8 | 3.4 | 1.7 | 15.3 | 11.9 | 40.7 |
| 男性50歳代(n=46) | 58.7 | 2.2 | 2.2 | 6.5 | 10.9 | 13.0 | 23.9 |
| 男性60歳代(n=81) | 16.0 | 1.2 | 1.2 | 4.9 | 30.9 | 7.4 | 30.9 |
| 男性70歳以上(n=82) | 3.7 | 1.2 | 0.0 | 2.4 | 43.9 | 9.8 | 12.2 |

| | 配偶者や家族の理解が得られない | 職場の上司や同僚の理解が得られない | 自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない | その他 | 特にさまたげになることはない | わからない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体(N=896) | 2.0 | 2.5 | 19.1 | 2.8 | 9.7 | 5.0 |
| 女性(n=531) | 2.4 | 1.1 | 15.4 | 3.8 | 8.7 | 4.7 |
| 男性(n=354) | 1.4 | 4.2 | 24.6 | 1.4 | 11.3 | 5.6 |
| 女性20歳代(n=50) | 0.0 | 2.0 | 22.0 | 2.0 | 12.0 | 8.0 |
| 女性30歳代(n=111) | 2.7 | 1.8 | 18.9 | 4.5 | 7.2 | 0.9 |
| 女性40歳代(n=100) | 3.0 | 2.0 | 23.0 | 2.0 | 4.0 | 7.0 |
| 女性50歳代(n=73) | 0.0 | 1.4 | 13.7 | 4.1 | 16.4 | 1.4 |
| 女性60歳代(n=112) | 2.7 | 0.0 | 8.0 | 3.6 | 8.9 | 7.1 |
| 女性70歳以上(n=85) | 4.7 | 0.0 | 9.4 | 5.9 | 7.1 | 4.7 |
| 男性20歳代(n=30) | 0.0 | 6.7 | 36.7 | 0.0 | 6.7 | 10.0 |
| 男性30歳代(n=56) | 3.6 | 8.9 | 21.4 | 5.4 | 10.7 | 5.4 |
| 男性40歳代(n=59) | 0.0 | 10.2 | 32.2 | 0.0 | 6.8 | 3.4 |
| 男性50歳代(n=46) | 0.0 | 4.3 | 32.6 | 0.0 | 15.2 | 2.2 |
| 男性60歳代(n=81) | 2.5 | 0.0 | 23.5 | 1.2 | 21.0 | 1.2 |
| 男性70歳以上(n=82) | 1.2 | 0.0 | 13.4 | 1.2 | 4.9 | 12.2 |

【前回調査との比較】

前回に比べ、「経済的な余裕がない」「自分の健康や体力に自信がない」などがやや増加し、「仕事が忙しく、時間がない」「特にさまたげになることはない」などがやや減少しているが、大きな傾向の変化はみられない。

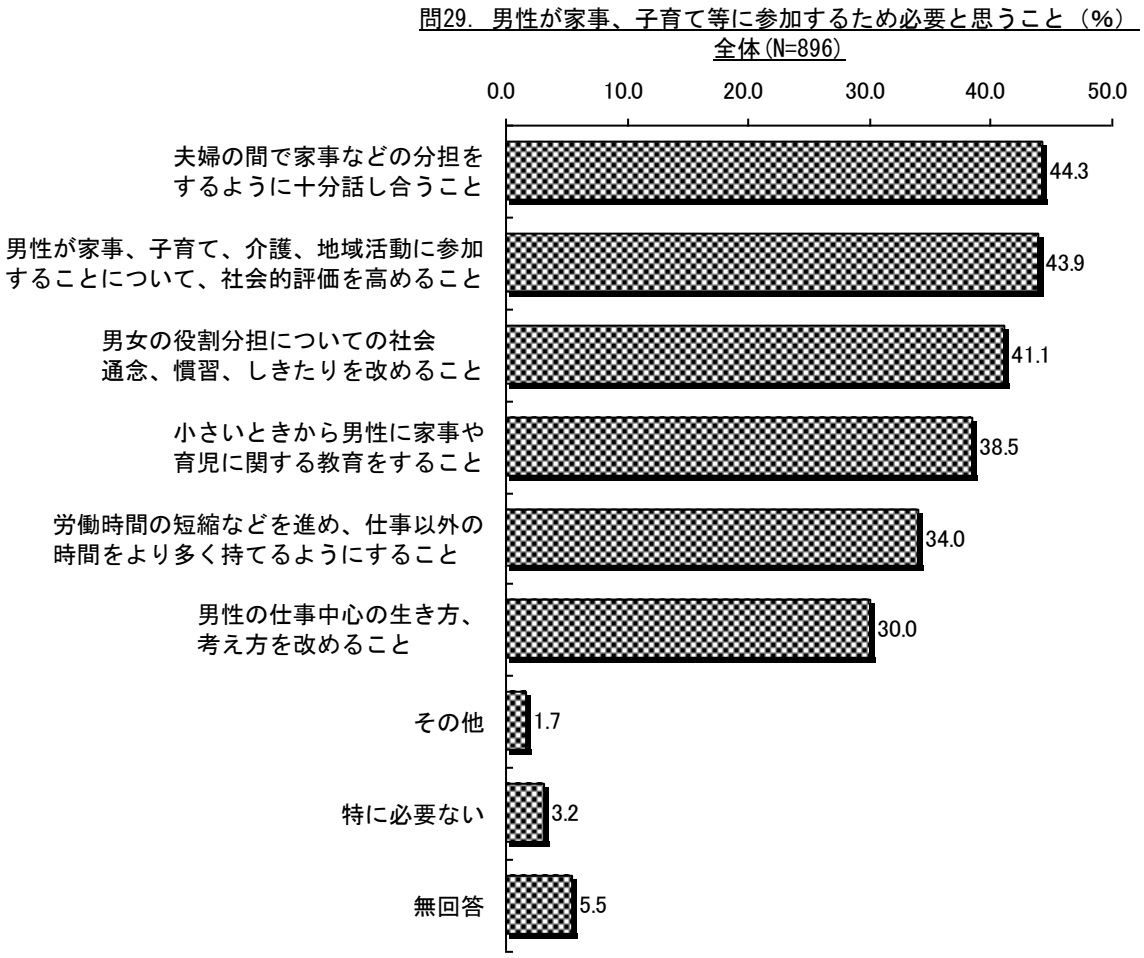
問28. 社会・地域活動参加への参加に支障になること（%）



## ３．男性が家事、子育て等に参加するため必要と思うこと

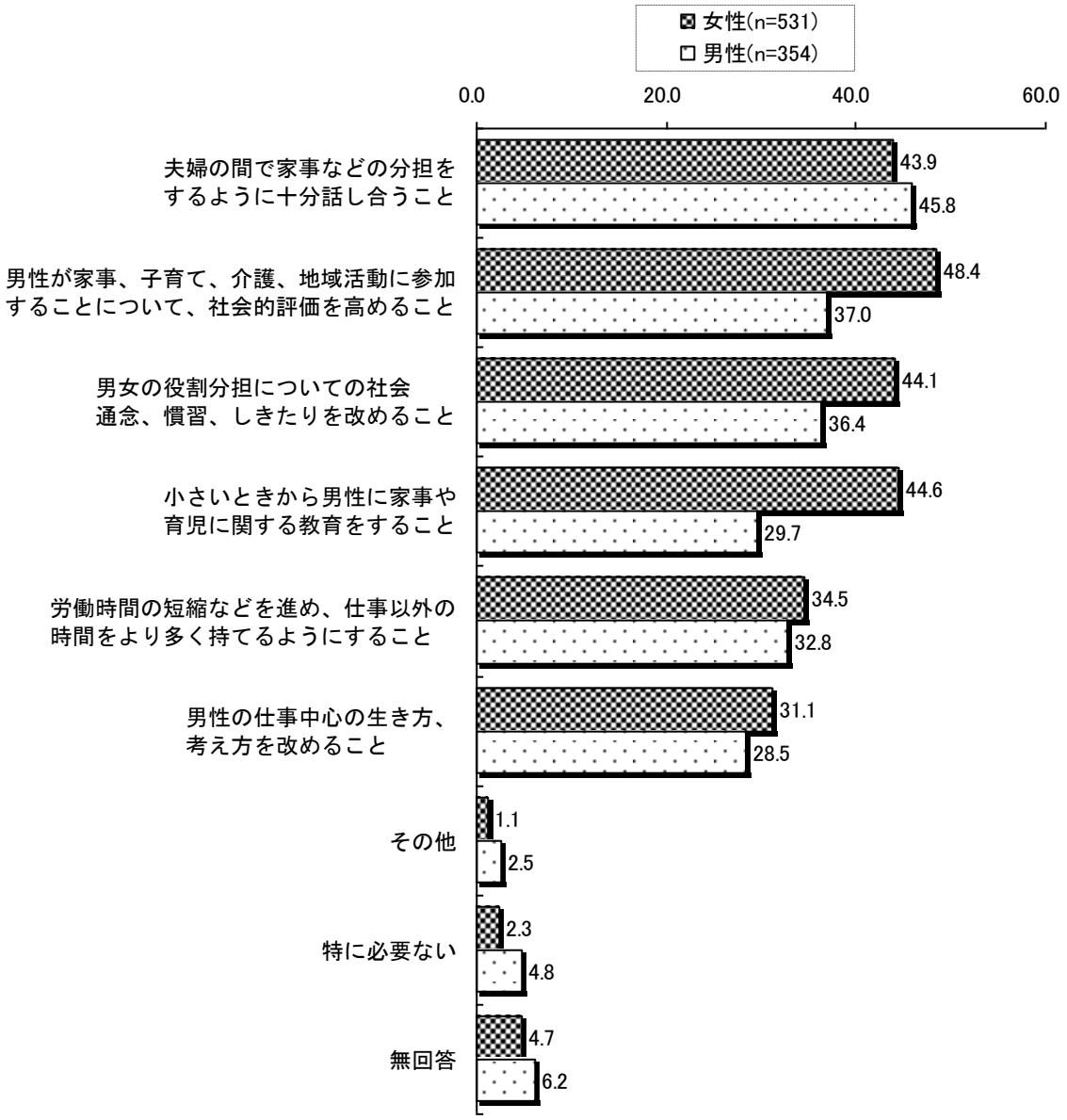
問 29. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）

男性が家事、子育て等に参加するため必要と思うことについては、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が 44.3%と最も多く、ほぼ並んで「男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること」（43.9%）、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」（41.1%）が続き、以下「小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること」（38.5%）、「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」（34.0%）の順となっている。



性別では、女性で「小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること」「男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること」が男性を大きく上回っている点で差がみられる。

問29. 男性が家事、子育て等に参加するため必要と思うこと（%）性別



性・年齢別では、女性の場合、20 歳代で「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」、40 歳代で「男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること」、60 歳代で「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」などがそれぞれ他の年齢層を上回っている。一方、男性では 20 歳代で「小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること」、30 歳代で「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」、60 歳代で「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」などが多くなっている。

問29. 男性が家事、子育て等に参加するため必要と思うこと（%）性別、性・年齢別

| | 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること | 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること | 夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと | 労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること | 男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること | 小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること | その他 | 特に必要ない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体(N=896) | 41.1 | 43.9 | 44.3 | 34.0 | 30.0 | 38.5 | 1.7 | 3.2 |
| 女性(n=531) | 44.1 | 48.4 | 43.9 | 34.5 | 31.1 | 44.6 | 1.1 | 2.3 |
| 男性(n=354) | 36.4 | 37.0 | 45.8 | 32.8 | 28.5 | 29.7 | 2.5 | 4.8 |
| 女性20歳代(n=50) | 28.0 | 58.0 | 52.0 | 42.0 | 18.0 | 42.0 | 2.0 | 2.0 |
| 女性30歳代(n=111) | 45.0 | 59.5 | 42.3 | 46.8 | 31.5 | 44.1 | 0.9 | 3.6 |
| 女性40歳代(n=100) | 44.0 | 55.0 | 35.0 | 44.0 | 42.0 | 50.0 | 3.0 | 1.0 |
| 女性50歳代(n=73) | 42.5 | 38.4 | 43.8 | 31.5 | 30.1 | 50.7 | 0.0 | 1.4 |
| 女性60歳代(n=112) | 50.0 | 39.3 | 48.2 | 25.9 | 35.7 | 42.9 | 0.9 | 2.7 |
| 女性70歳以上(n=85) | 45.9 | 41.2 | 45.9 | 16.5 | 20.0 | 37.6 | 0.0 | 2.4 |
| 男性20歳代(n=30) | 20.0 | 36.7 | 50.0 | 40.0 | 23.3 | 36.7 | 6.7 | 6.7 |
| 男性30歳代(n=56) | 35.7 | 44.6 | 37.5 | 55.4 | 32.1 | 25.0 | 3.6 | 1.8 |
| 男性40歳代(n=59) | 37.3 | 40.7 | 30.5 | 47.5 | 37.3 | 30.5 | 3.4 | 1.7 |
| 男性50歳代(n=46) | 39.1 | 41.3 | 45.7 | 28.3 | 23.9 | 26.1 | 4.3 | 6.5 |
| 男性60歳代(n=81) | 50.6 | 38.3 | 56.8 | 25.9 | 34.6 | 32.1 | 0.0 | 3.7 |
| 男性70歳以上(n=82) | 26.8 | 25.6 | 50.0 | 13.4 | 18.3 | 29.3 | 1.2 | 8.5 |

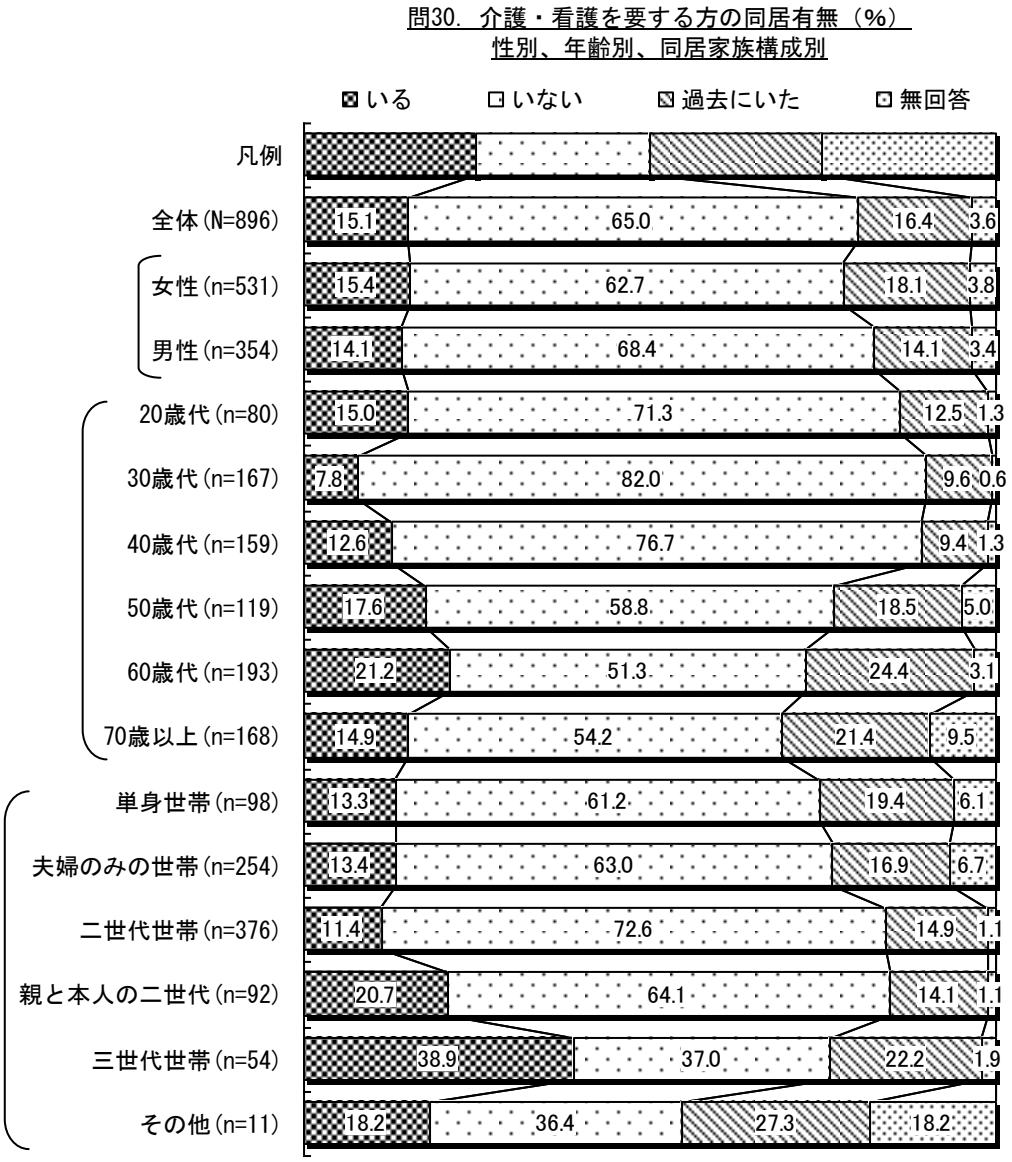
## ４．介護・看護を要する方の同居有無

| 問 30. あなたのご家族に、介護・看護を要する方がおられますか。（○は１つ） |
|---|

介護・看護を要する方の同居有無については、「いる」が 15.1%、「過去にいた」が 16.4%となっている。

性別では大きな差はみられないが、年齢別では 40 歳代から 60 歳代にかけて、年齢が上がるほど「いる」が多くなる傾向にある。

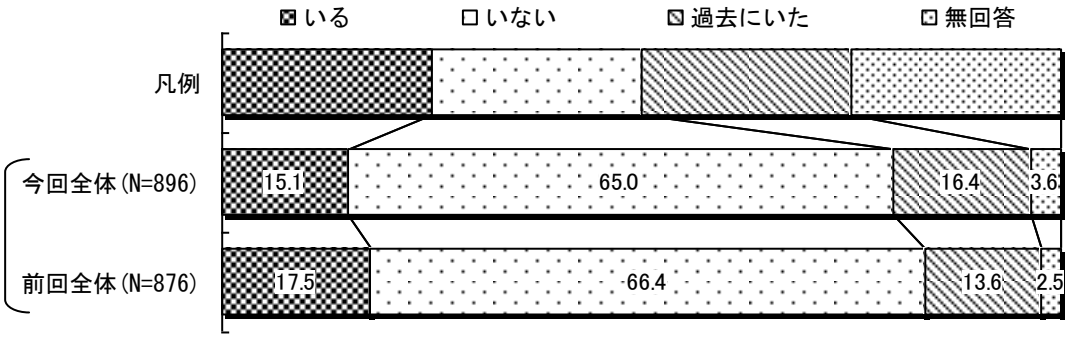
また、同居家族構成別では「三世代世帯」に「いる」が多くみられる。



【前回調査との比較】

前回に比べ、「いる」がやや増加し、「過去にいた」がやや減少しているが、大きな傾向の変化はみられない。

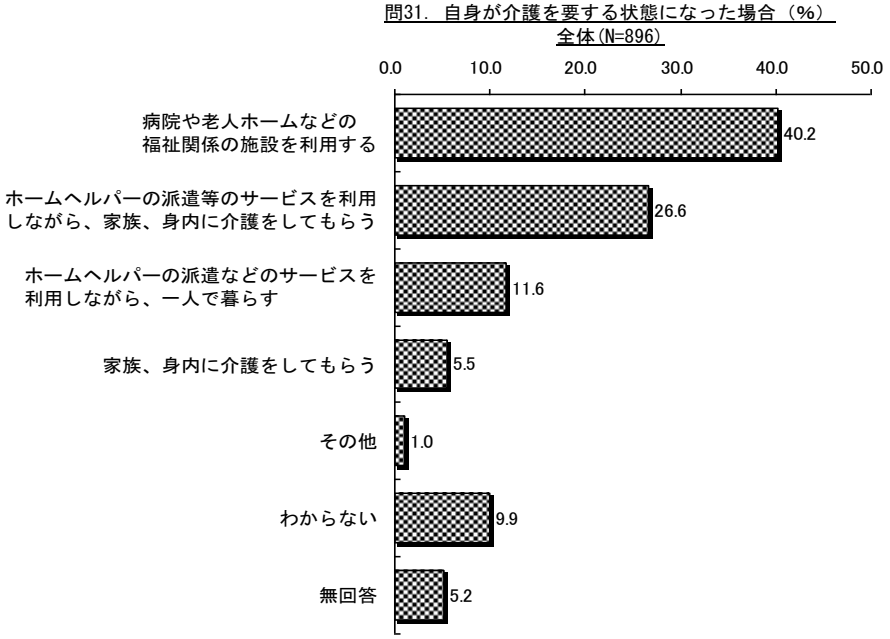
問30. 介護・看護を要する方の同居有無（%）



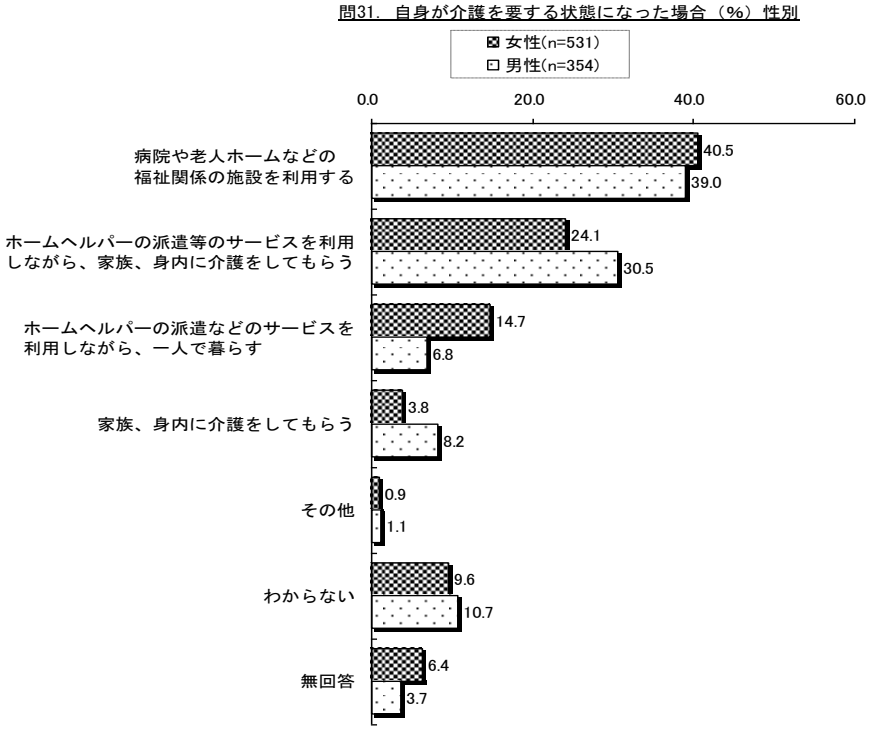
## ５．自身が介護を要する状態になった場合

問 31. もし、あなたが介護を要する状態になった場合、どうなさいますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。（○は１つ）→ 2.3.以外を答えた方は問 32.へ

自身が介護を要する状態になった場合については、「病院や老人ホームなどの福祉関係の施設を利用する」が 40.2%と最も多く、次いで「ホームヘルパーの派遣等のサービスを利用しながら、家族、身内に介護をしてもらう」（26.6%）、「ホームヘルパーの派遣などのサービスを利用しながら、一人で暮らす」（11.6%）の順となっている。




性別では、女性で「ホームヘルパーの派遣などのサービスを利用しながら、一人で暮らす」が男性を上回り、男性は「ホームヘルパーの派遣等のサービスを利用しながら、家族、身内に介護をしてもらう」が女性を上回っている点で差がみられる。



年齢別では、50 歳代で「ホームヘルパーの派遣などのサービスを利用しながら、一人で暮らす」、70 歳以上で「家族、身内に介護をしてもらう」が多く、また年齢が若い層ほど「わからない」が多い傾向にある。

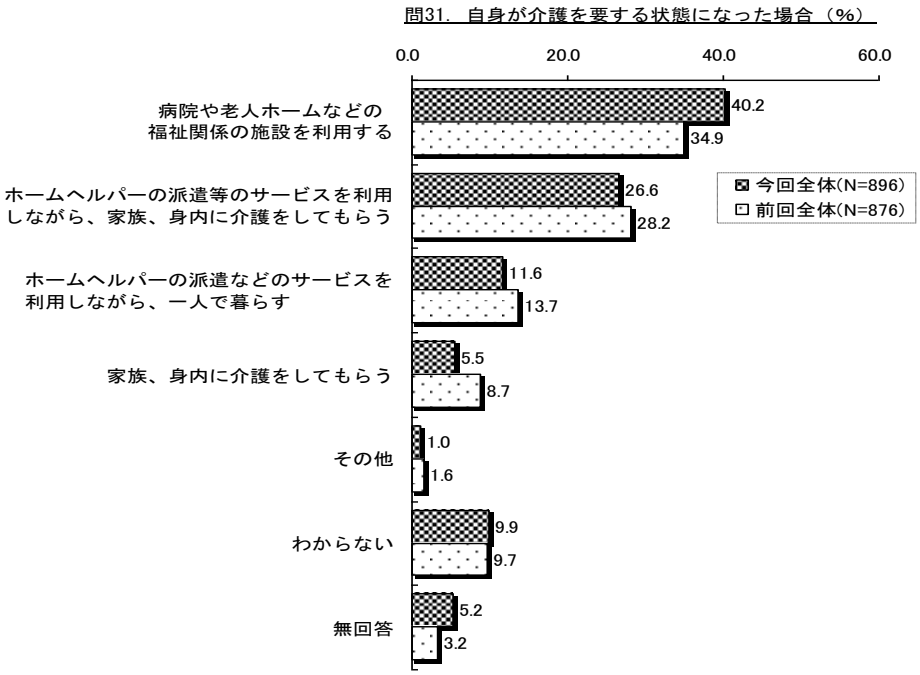
同居家族構成別では、三世代世帯で「ホームヘルパーの派遣等のサービスを利用しながら、家族、身内に介護をしてもらう」が他の層に比べ多くなっている。

問31. 自身が介護を要する状態になった場合（%）年齢別、同居家族構成別

| | 病院や老人ホームなどの福祉関係の施設を利用する | ホームヘルパーの派遣等のサービスを利用しながら、家族、身内に介護をしてもらう | 家族、身内に介護をしてもらう | ホームヘルパーの派遣などのサービスを利用しながら、一人で暮らす | その他 | わからない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体(N=896) | 40.2 | 26.6 | 5.5 | 11.6 | 1.0 | 9.9 |
| 20歳代(n=80) | 41.3 | 18.8 | 7.5 | 3.8 | 2.5 | 20.0 |
| 30歳代(n=167) | 46.7 | 26.9 | 4.8 | 6.6 | 0.6 | 12.0 |
| 40歳代(n=159) | 44.0 | 25.8 | 3.1 | 11.9 | 1.9 | 11.3 |
| 50歳代(n=119) | 42.9 | 21.0 | 5.0 | 19.3 | 0.8 | 5.9 |
| 60歳代(n=193) | 36.8 | 30.1 | 3.6 | 15.5 | 0.5 | 7.3 |
| 70歳以上(n=168) | 30.4 | 31.0 | 10.1 | 9.5 | 0.6 | 8.3 |
| 単身世帯(n=98) | 45.9 | 13.3 | 0.0 | 25.5 | 0.0 | 9.2 |
| 夫婦のみの世帯(n=254) | 39.4 | 30.7 | 3.1 | 10.2 | 1.2 | 7.9 |
| 二世代世帯(n=376) | 40.2 | 29.5 | 7.7 | 9.3 | 1.3 | 9.3 |
| 親と本人の二世代(n=92) | 43.5 | 14.1 | 6.5 | 12.0 | 0.0 | 17.4 |
| 三世代世帯(n=54) | 33.3 | 33.3 | 9.3 | 3.7 | 0.0 | 14.8 |
| その他(n=11) | 0.0 | 27.3 | 9.1 | 27.3 | 9.1 | 9.1 |

## 【前回調査との比較】

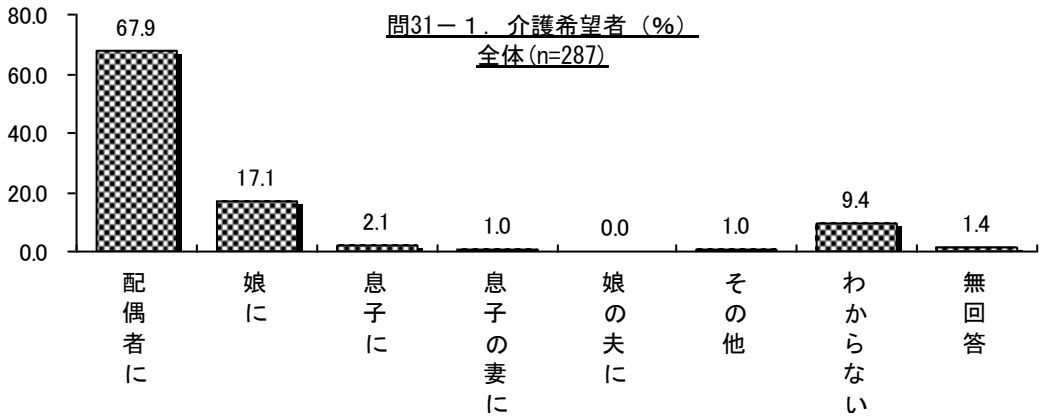
前回に比べ、「病院や老人ホームなどの福祉関係の施設を利用する」がやや増加しているが、大きな傾向の変化はみられない。



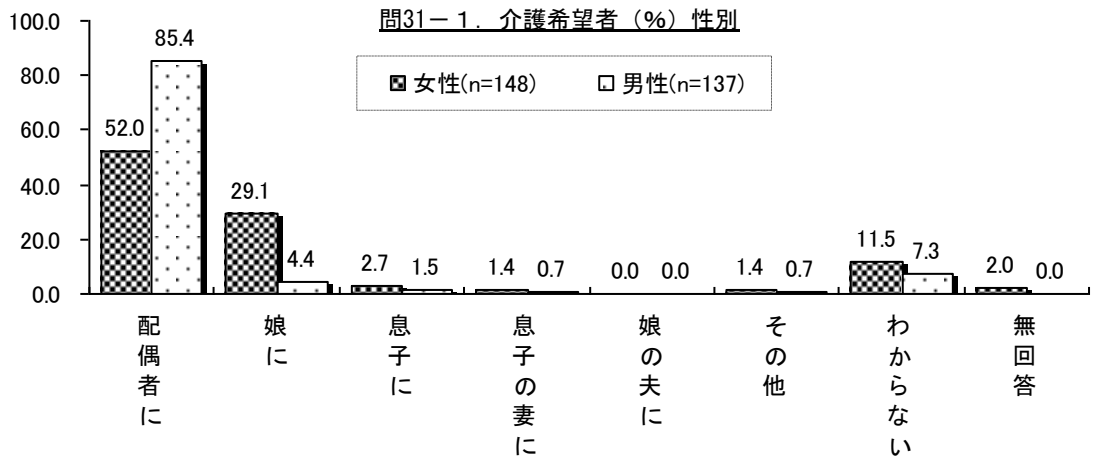
## ６．介護希望者

問 31. で、「2. または 3.」と答えた方のみにおたずねします。
◆問 31-1. その際、主に家族のどなたに介護をしてもらいたいと思いますか。（○は１つ）

介護希望者については、「配偶者に」が 67.9%と突出して最も多くなっている。次いで「娘に」（17.1%）が続き、この他への回答は少ない。




性別では、女性の場合「娘に」、男性は「配偶者に」がそれぞれ多く、男女差が大きい。



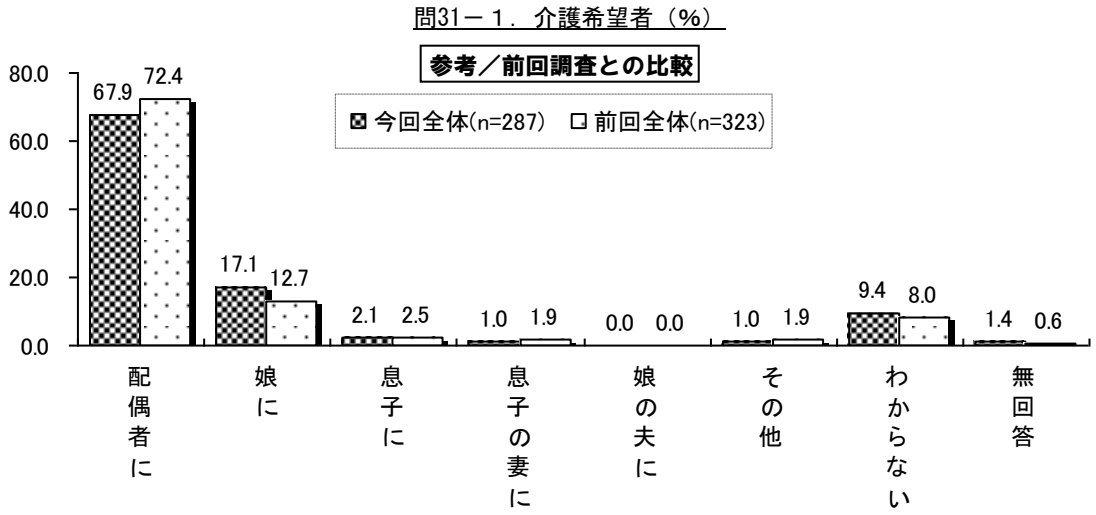
年齢別では、年齢が若い層ほど「わからない」が多いが、50～60 歳代では「配偶者に」が他の年代に比べて多くなっている。

問31－1. 介護希望者(%)年齢別

| | 配偶者に | 娘に | 息子に | 息子の妻に | 娘の夫に | その他 | わからない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体(n=287) | 67.9 | 17.1 | 2.1 | 1.0 | 0.0 | 1.0 | 9.4 |
| 20歳代(n=21) | 42.9 | 28.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 28.6 |
| 30歳代(n=53) | 66.0 | 11.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.9 | 18.9 |
| 40歳代(n=46) | 56.5 | 26.1 | 2.2 | 0.0 | 0.0 | 2.2 | 13.0 |
| 50歳代(n=31) | 87.1 | 9.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.2 |
| 60歳代(n=65) | 81.5 | 6.2 | 3.1 | 1.5 | 0.0 | 1.5 | 3.1 |
| 70歳以上(n=69) | 63.8 | 26.1 | 4.3 | 2.9 | 0.0 | 0.0 | 2.9 |

【前回調査との比較】

前回との比較をみると、「娘に」がやや増加し、「配偶者に」がやや減少しているが、大きな変化はみられない。



## ７．男女共同参画社会推進に力をいれていくべきこと

「男女共同参画社会」とは、 男女が、お互いにその人権を尊重しながら、性別にかかわりなく、社会のあらゆる分野に共に参画し、責任も分かち合い、個性と能力を十分に発揮できる社会をいいます。

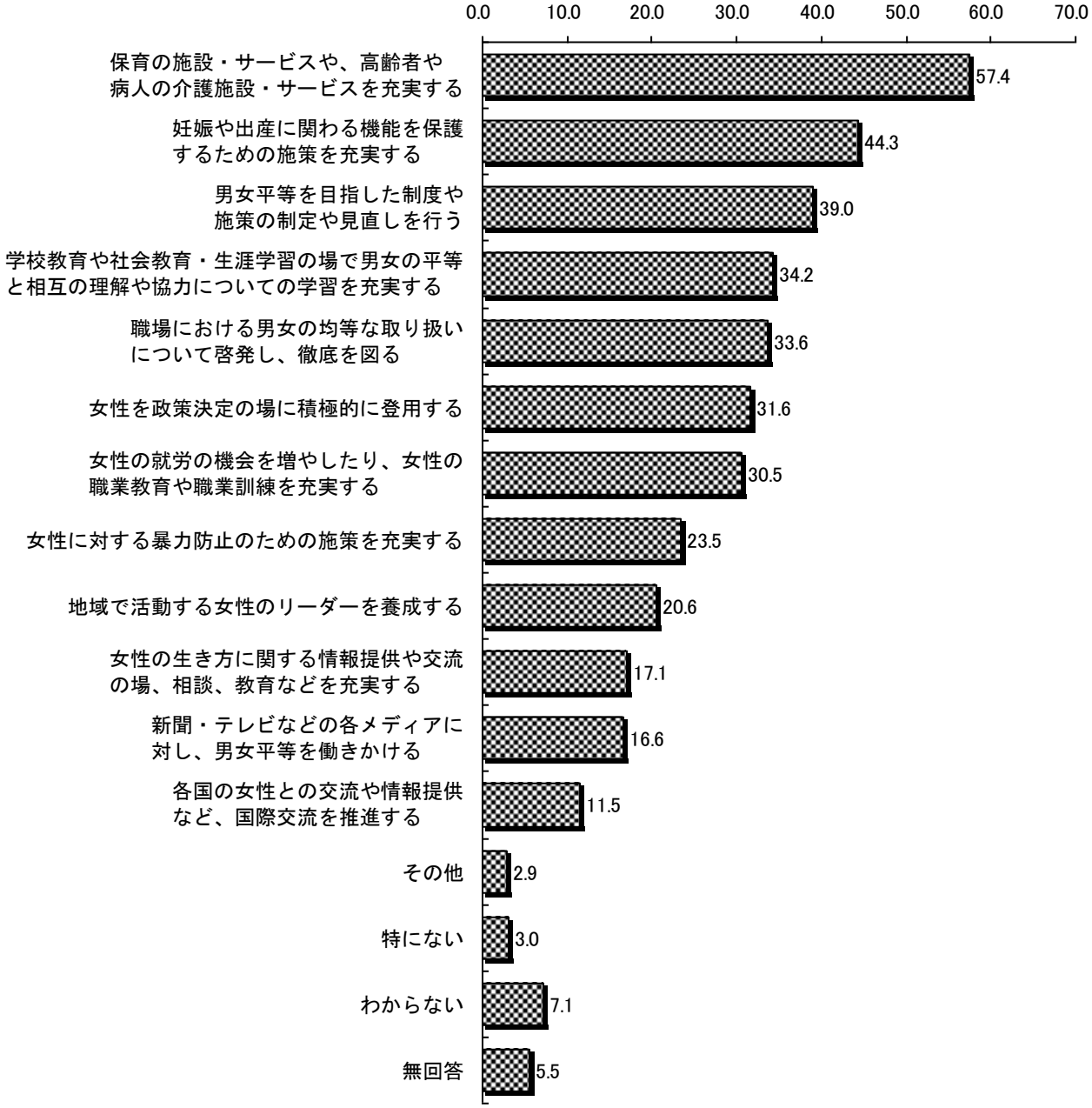
問 32. この男女共同参画社会を推進していくために、今後どのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。（○はいくつでも）

男女共同参画社会推進に力をいれていくべきことについては、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する」が 57.4%と最も多く、次いで「妊娠や出産に関わる機能を保護するための施策を充実する」(44.3%)、「男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う」(39.0%)、「学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」(34.2%)、「職場における男女の均等な取り扱いについて啓発し、徹底を図る」(33.6%)、「女性を政策決定の場に積極的に登用する」(31.6%)、「女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する」(30.5%) の順となっている。

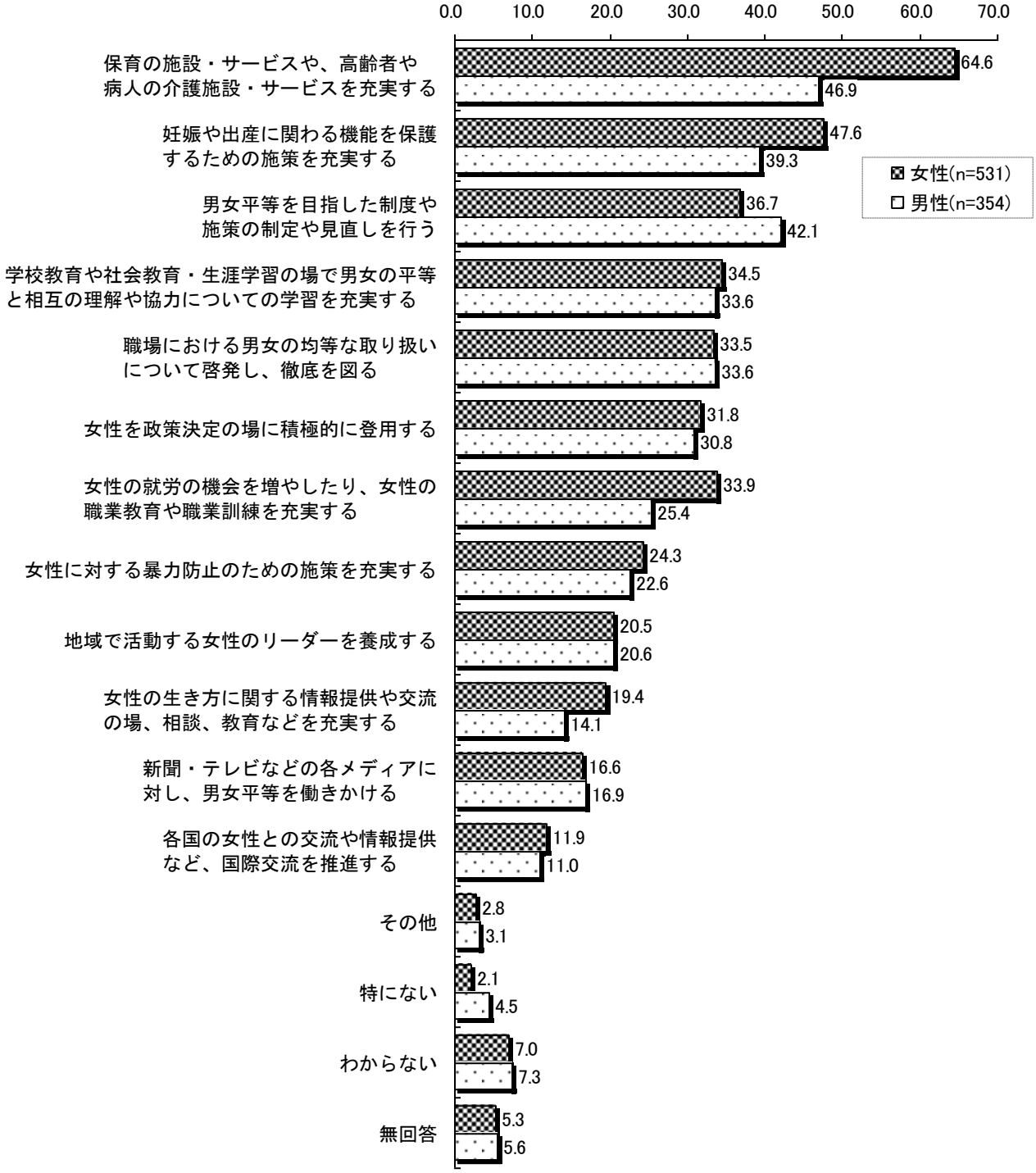
性別では、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する」「女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する」「妊娠や出産に関わる機能を保護するための施策を充実する」などで女性が男性を上回っているが、その他は大きな男女差はみられない。

性・年齢別では、女性の 20 歳代で「妊娠や出産に関わる機能を保護するための施策を充実する」「女性に対する暴力防止のための施策を充実する」、女性 70 歳以上で「地域で活動する女性のリーダーを養成する」などがそれぞれ他の年齢層を大きく上回っている。男性は 40 歳代で「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する」「地域で活動する女性のリーダーを養成する」などが多くみられる。

問32. 男女共同参画社会推進に力をいれていくべきこと（%）
全体(N=896)



問32. 男女共同参画社会推進に力をいれていくべきこと（%）性別



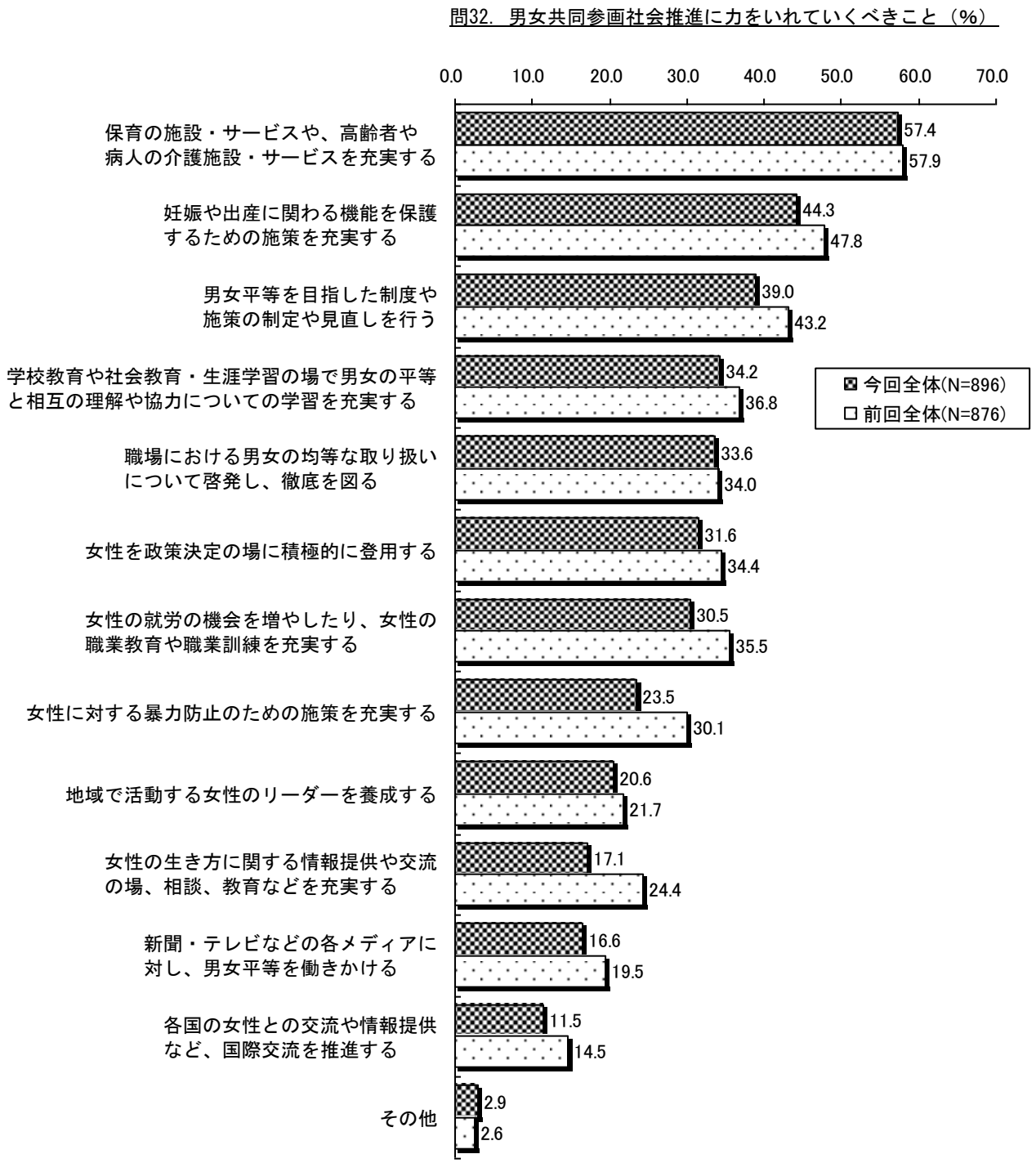
問32. 男女共同参画社会推進に力をいれていくべきこと(%)性・年齢別

| | 男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う | 女性を政策決定の場に積極的に登用する | 地域で活動する女性のリーダーを養成する | 職場における男女の均等な取り扱いについて啓発し、徹底を図る | 妊娠や出産に関わる機能を保護するための施策を充実する | 女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する | 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する | 学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体(N=896) | 39.0 | 31.6 | 20.6 | 33.6 | 44.3 | 30.5 | 57.4 | 34.2 |
| 女性20歳代(n=50) | 38.0 | 24.0 | 18.0 | 40.0 | 66.0 | 30.0 | 58.0 | 32.0 |
| 女性30歳代(n=111) | 38.7 | 32.4 | 18.0 | 36.0 | 59.5 | 40.5 | 75.7 | 30.6 |
| 女性40歳代(n=100) | 32.0 | 31.0 | 16.0 | 40.0 | 48.0 | 36.0 | 56.0 | 33.0 |
| 女性50歳代(n=73) | 39.7 | 32.9 | 15.1 | 34.2 | 45.2 | 42.5 | 58.9 | 41.1 |
| 女性60歳代(n=112) | 33.0 | 35.7 | 24.1 | 25.9 | 41.1 | 29.5 | 73.2 | 38.4 |
| 女性70歳以上(n=85) | 41.2 | 30.6 | 30.6 | 28.2 | 31.8 | 23.5 | 57.6 | 31.8 |
| 男性20歳代(n=30) | 40.0 | 40.0 | 10.0 | 20.0 | 33.3 | 30.0 | 30.0 | 40.0 |
| 男性30歳代(n=56) | 28.6 | 25.0 | 12.5 | 21.4 | 48.2 | 17.9 | 39.3 | 19.6 |
| 男性40歳代(n=59) | 49.2 | 23.7 | 30.5 | 39.0 | 44.1 | 30.5 | 55.9 | 40.7 |
| 男性50歳代(n=46) | 50.0 | 28.3 | 17.4 | 34.8 | 41.3 | 23.9 | 54.3 | 37.0 |
| 男性60歳代(n=81) | 48.1 | 39.5 | 23.5 | 43.2 | 43.2 | 28.4 | 49.4 | 40.7 |
| 男性70歳以上(n=82) | 36.6 | 29.3 | 22.0 | 32.9 | 26.8 | 23.2 | 45.1 | 26.8 |

| | 女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などを充実する | 各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する | 新聞・テレビなどのメディアに対し、男女の平等を働きかける | 女性に対する暴力防止のための施策を充実する | その他 | 特にない | わからない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体(N=896) | 17.1 | 11.5 | 16.6 | 23.5 | 2.9 | 3.0 | 7.1 |
| 女性20歳代(n=50) | 18.0 | 10.0 | 18.0 | 32.0 | 6.0 | 2.0 | 8.0 |
| 女性30歳代(n=111) | 14.4 | 13.5 | 17.1 | 25.2 | 1.8 | 4.5 | 5.4 |
| 女性40歳代(n=100) | 23.0 | 10.0 | 16.0 | 24.0 | 4.0 | 1.0 | 7.0 |
| 女性50歳代(n=73) | 20.5 | 9.6 | 15.1 | 24.7 | 2.7 | 2.7 | 5.5 |
| 女性60歳代(n=112) | 18.8 | 8.9 | 11.6 | 17.9 | 2.7 | 1.8 | 5.4 |
| 女性70歳以上(n=85) | 22.4 | 18.8 | 23.5 | 27.1 | 1.2 | 0.0 | 11.8 |
| 男性20歳代(n=30) | 20.0 | 13.3 | 13.3 | 26.7 | 3.3 | 0.0 | 20.0 |
| 男性30歳代(n=56) | 14.3 | 8.9 | 16.1 | 14.3 | 8.9 | 1.8 | 12.5 |
| 男性40歳代(n=59) | 13.6 | 10.2 | 22.0 | 25.4 | 5.1 | 0.0 | 5.1 |
| 男性50歳代(n=46) | 6.5 | 13.0 | 15.2 | 21.7 | 2.2 | 4.3 | 2.2 |
| 男性60歳代(n=81) | 21.0 | 14.8 | 21.0 | 32.1 | 0.0 | 7.4 | 2.5 |
| 男性70歳以上(n=82) | 9.8 | 7.3 | 12.2 | 15.9 | 1.2 | 8.5 | 8.5 |

【前回調査との比較】

前回に比べ、「女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などを充実する」「女性に対する暴力防止のための施策を充実する」「女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する」がやや減少しているが、大きな傾向の変化はみられない。

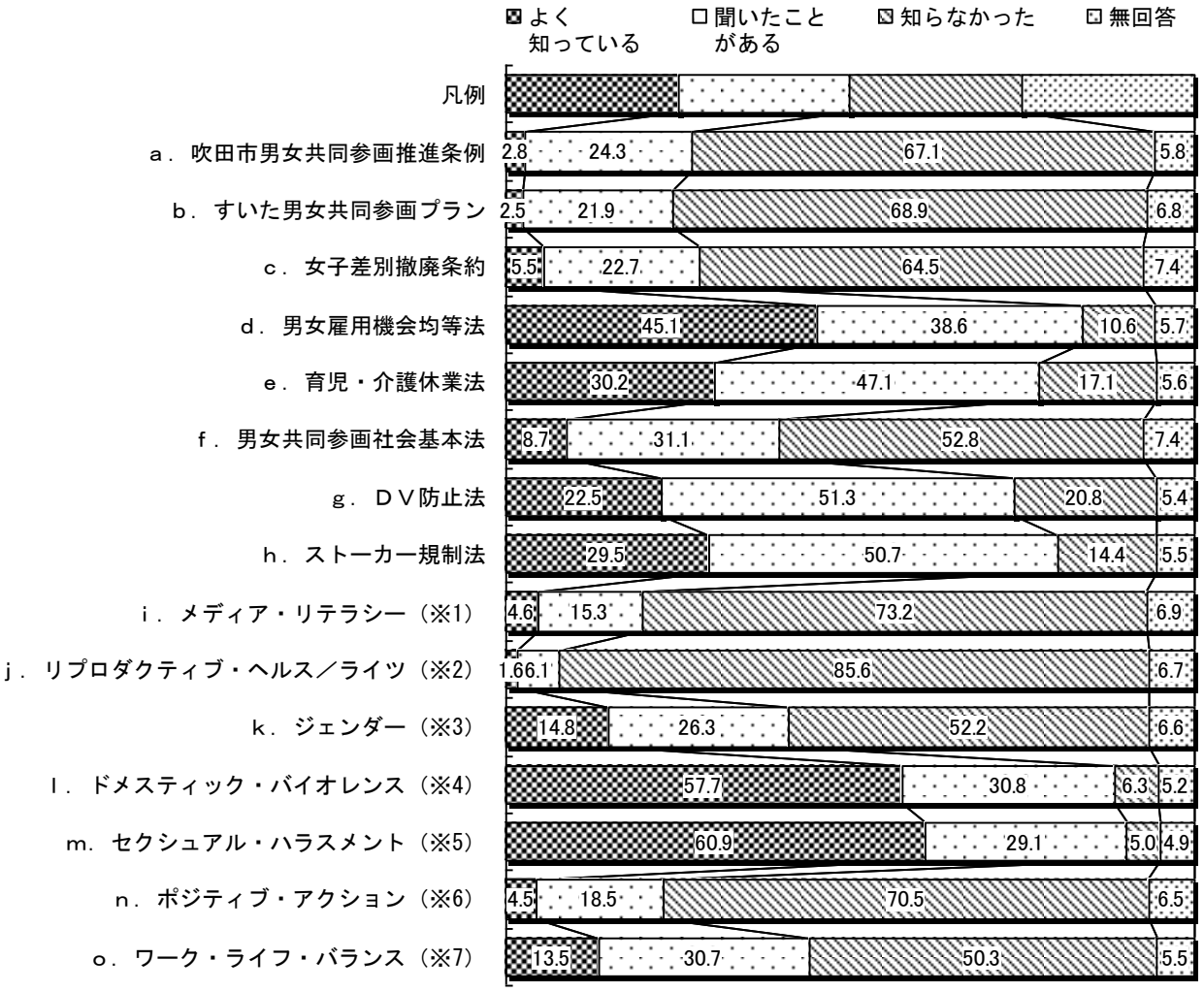


## ８．「ことがら」や「ことば」の認知状況

問 33. 次の「ことがら」や「ことば」をご存じですか。（○はそれぞれ１つずつ）

「ことがら」や「ことば」の認知状況について、「よく知っている」をみると、「m．セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」が 60.9%で最も多く、次いで「ｌ．ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ：配偶者や恋人など親しい人からの暴力）」（57.7%）、「ｄ．男女雇用機会均等法」（45.1%）、「ｅ．育児・介護休業法」（30.2%）、「ｈ．ストーカー規制法」（29.5%）の順となっている。逆に「知らなかった」が多いことばとして「ｊ．リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）」（85.6%）、「ｉ．メディア・リテラシー（メディアからの情報を読み解く能力）」（73.2%）、「ｎ．ポジティブ・アクション（積極的格差是正措置）」（70.5%）、「ｂ．すいた男女共同参画プラン」（68.9%）があげられる。

問33. 「ことがら」や「ことば」の認知状況（%）
全体(N=896)

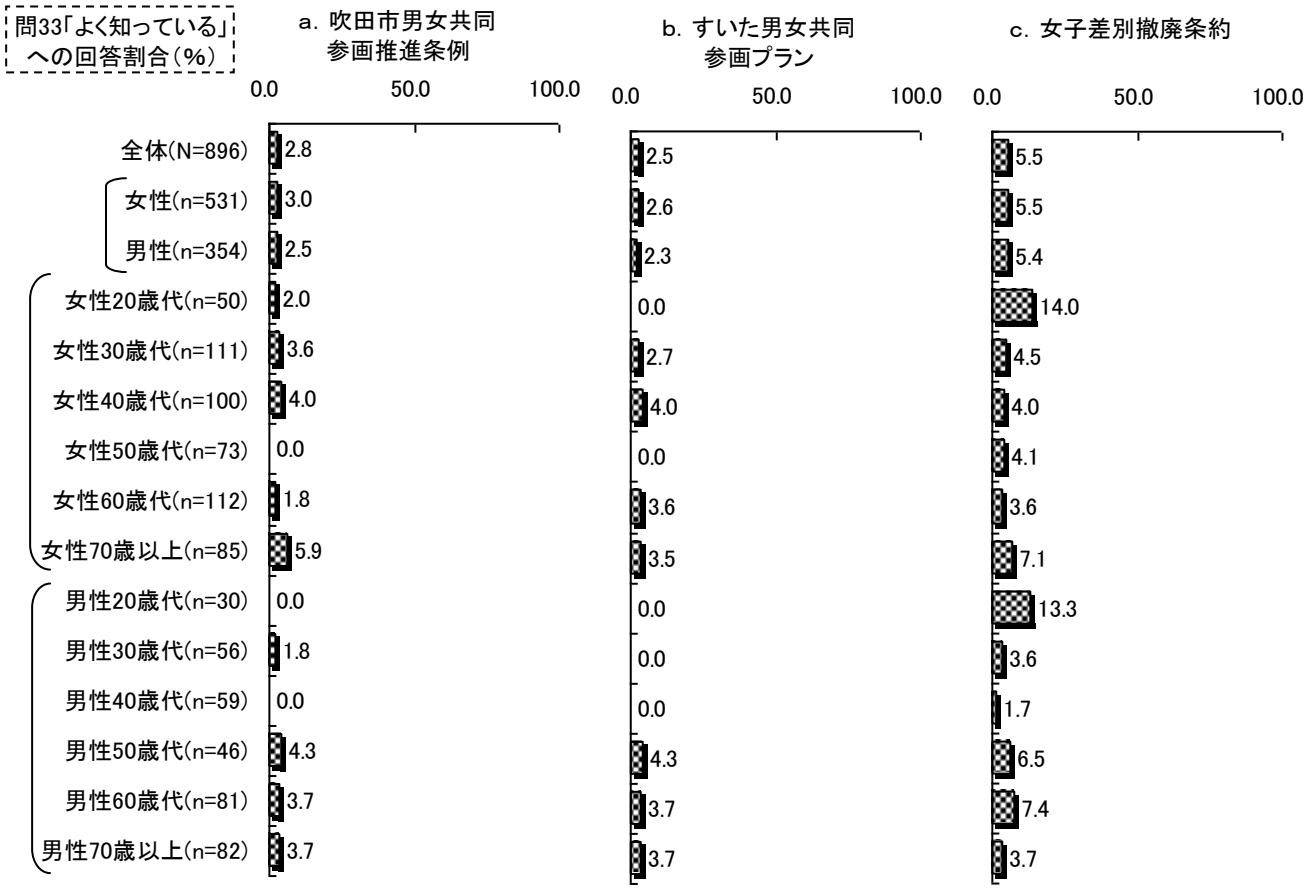


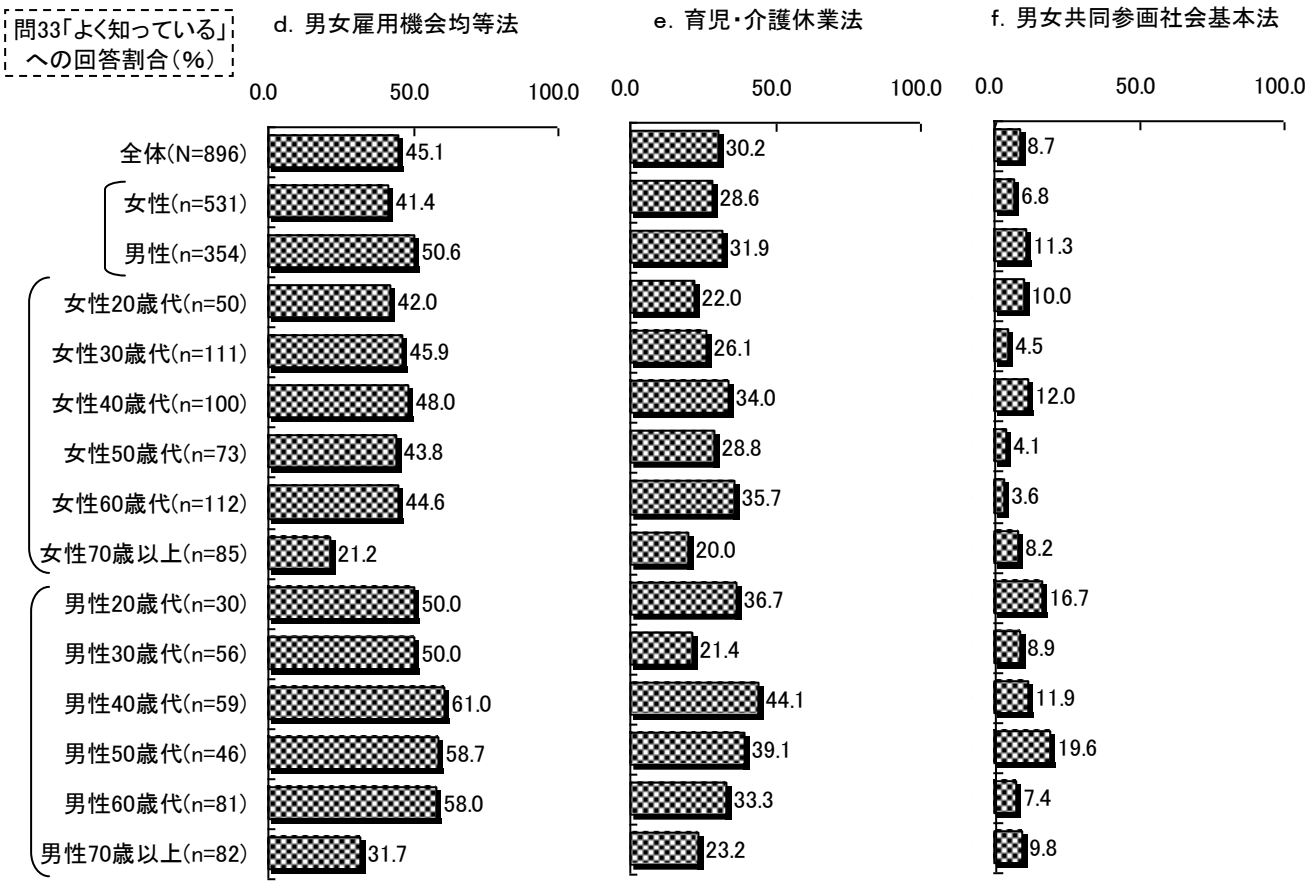

※1 メディアからの情報を読み解く能力
※2 性と生殖に関する健康と権利
※3 社会的、文化的性差
※4 DV：配偶者や恋人など親しい人からの暴力
※5 性的いやがらせ
※6 積極的格差是正措置
※7 仕事と生活の調和

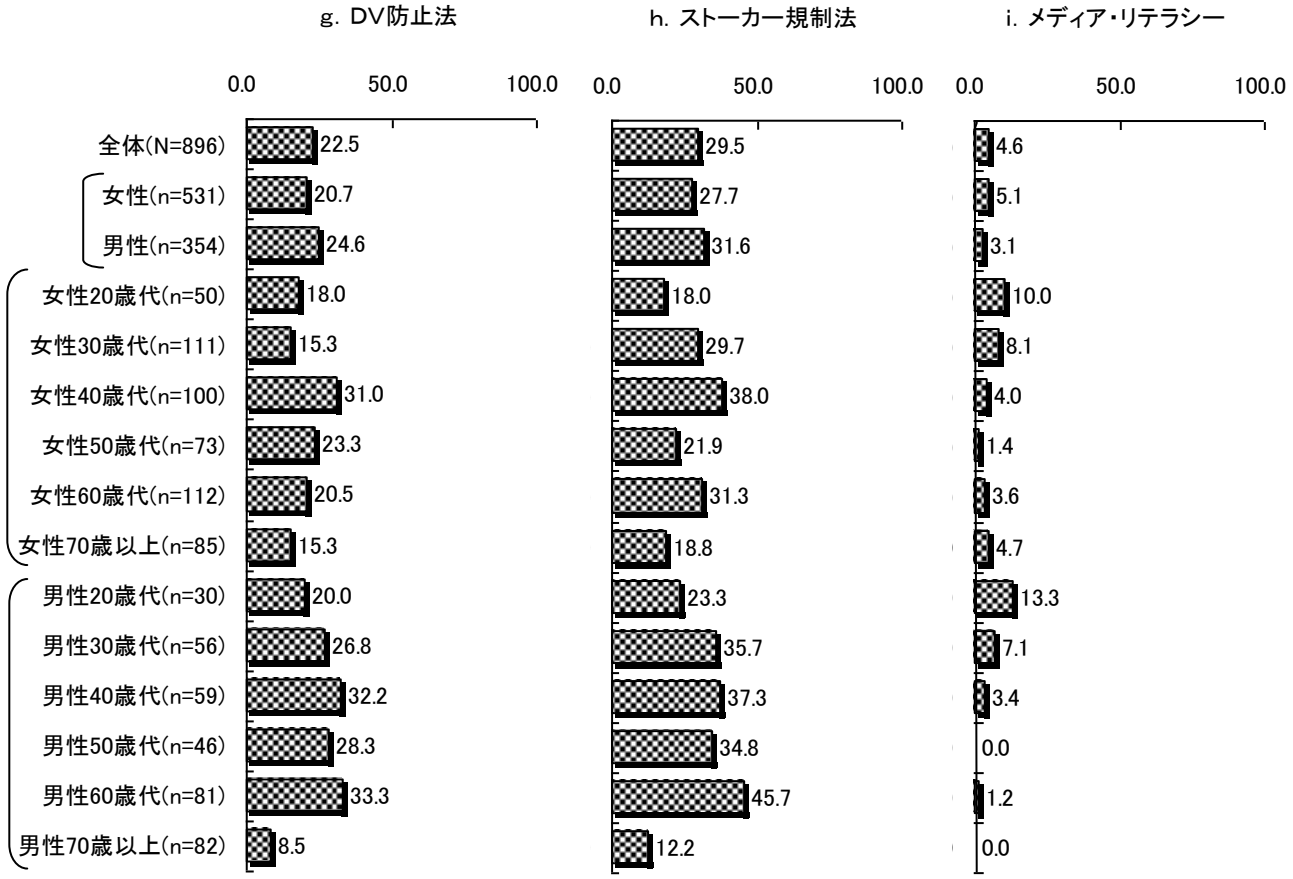
「よく知っている」について、性別では、女性で「ｌ．ドメスティック・バイオレンス」、男性で「ｄ．男女雇用機会均等法」が多いが、全体的に大きな男女差はみられない。

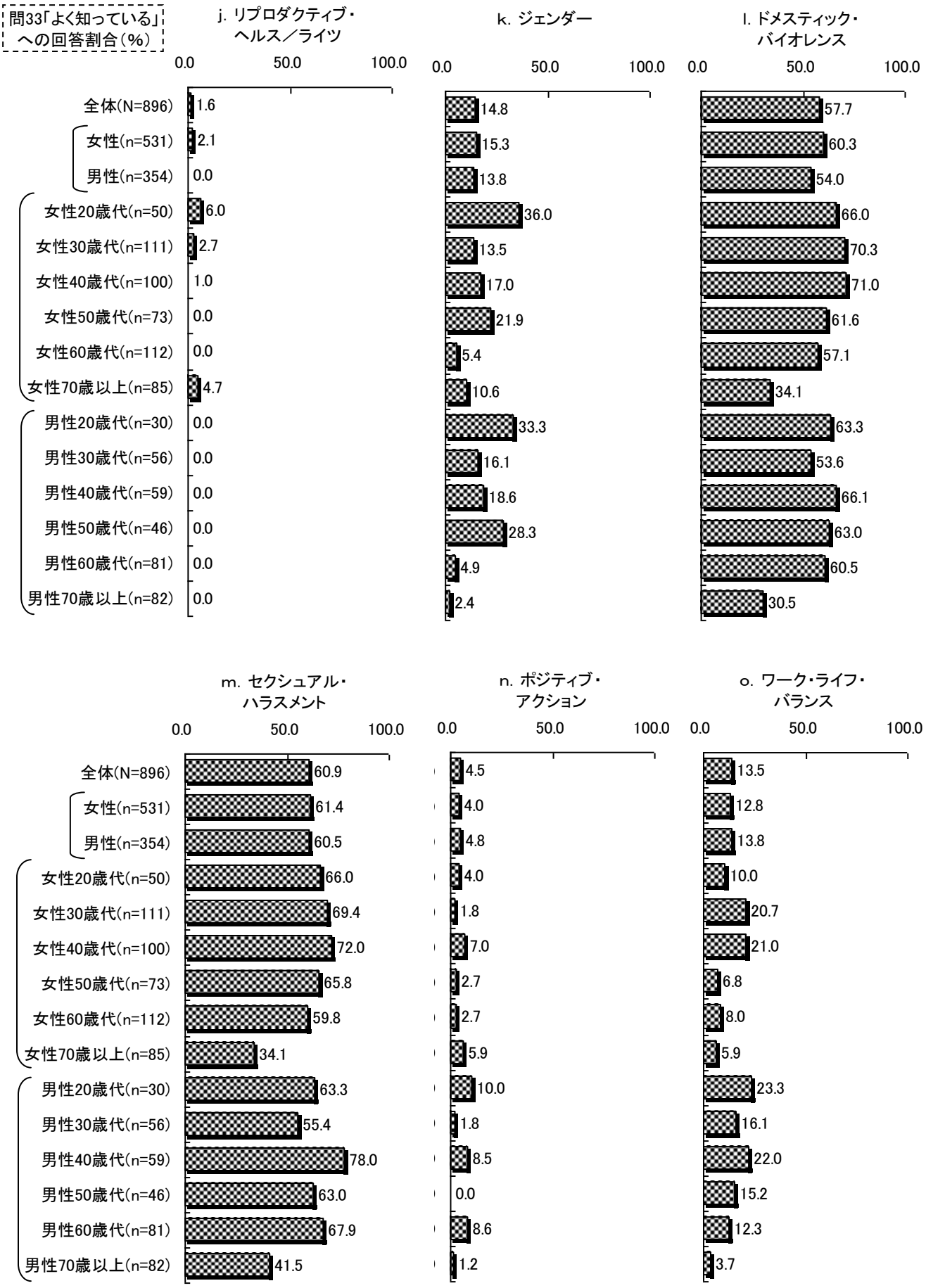
性・年齢別では、女性の場合 40 歳代で「よく知っている」ことばが多く、特に「ｍ．セクシュアル・ハラスメント」「ｌ．ドメスティック・バイオレンス」「ｄ．男女雇用機会均等法」などがあげられる。また 20 歳代では「ｋ．ジェンダー」「ｃ．女子差別撤廃条約」「ｉ．メディア・リテラシー」などで「よく知っている」割合が他の年齢層を上回っている。

男性の場合も 40 歳代で「よく知っている」ことばが多く、また 60 歳代では「ｈ．ストーカー規制法」「ｇ．ＤＶ防止法」なども多くみられる。



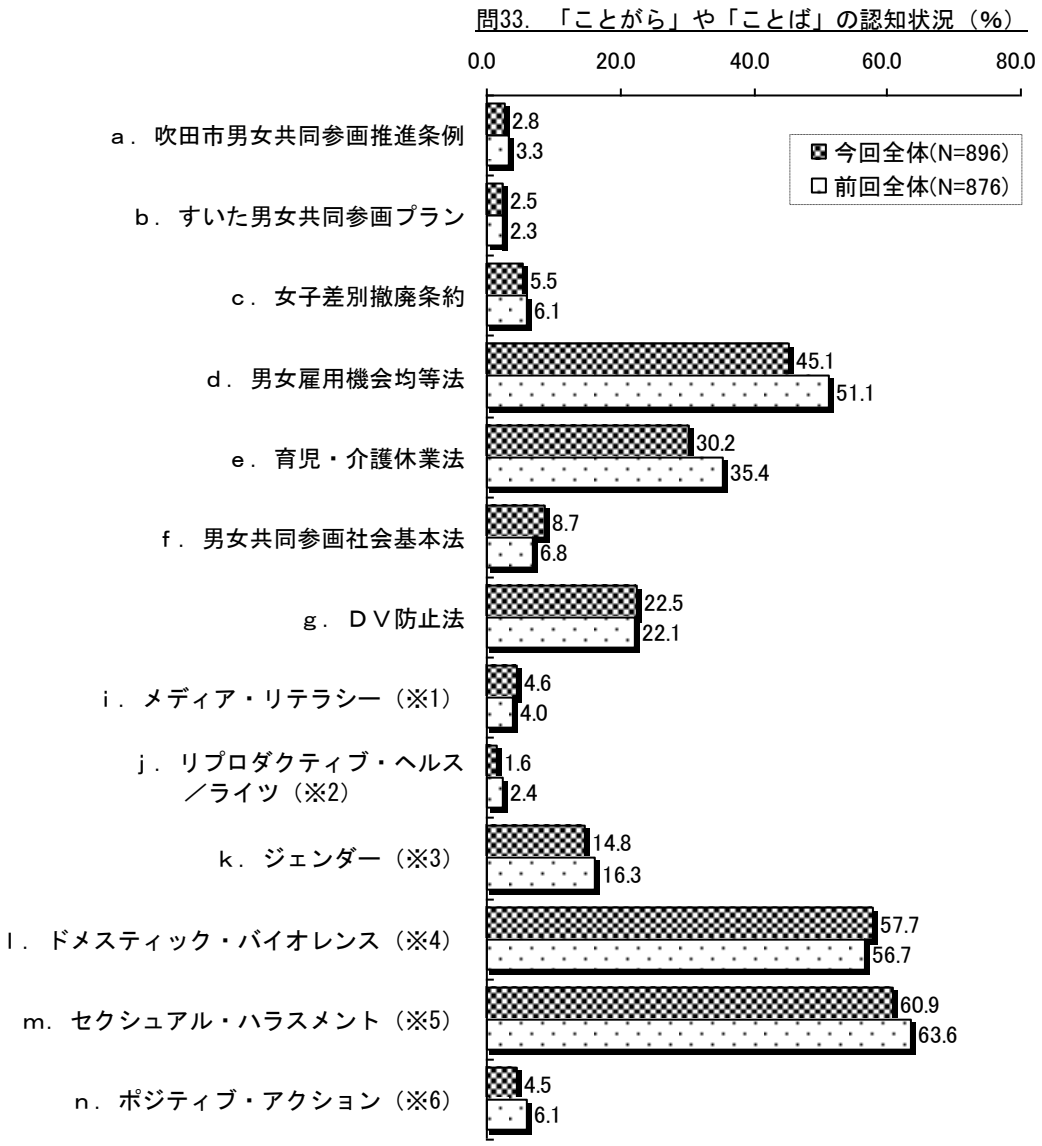

問33「よく知っている」への回答割合（%）
d. 男女雇用機会均等法
e. 育児・介護休業法
f. 男女共同参画社会基本法
0.0
50.0
100.0
全体(N=896)
女性(n=531)
男性(n=354)
女性20歳代(n=50)
女性30歳代(n=111)
女性40歳代(n=100)
女性50歳代(n=73)
女性60歳代(n=112)
女性70歳以上(n=85)
男性20歳代(n=30)
男性30歳代(n=56)
男性40歳代(n=59)
男性50歳代(n=46)
男性60歳代(n=81)
男性70歳以上(n=82)
45.1
41.4
50.6
42.0
45.9
48.0
43.8
44.6
21.2
50.0
50.0
61.0
58.7
58.0
31.7
30.2
28.6
31.9
22.0
26.1
34.0
28.8
35.7
20.0
36.7
21.4
44.1
39.1
33.3
23.2
8.7
6.8
11.3
10.0
4.5
12.0
4.1
3.6
8.2
16.7
8.9
11.9
19.6
7.4
9.8


g. DV防止法
h. ストーカー規制法
i. メディア・リテラシー
0.0
50.0
100.0
全体(N=896)
女性(n=531)
男性(n=354)
女性20歳代(n=50)
女性30歳代(n=111)
女性40歳代(n=100)
女性50歳代(n=73)
女性60歳代(n=112)
女性70歳以上(n=85)
男性20歳代(n=30)
男性30歳代(n=56)
男性40歳代(n=59)
男性50歳代(n=46)
男性60歳代(n=81)
男性70歳以上(n=82)
22.5
20.7
24.6
18.0
15.3
31.0
23.3
20.5
15.3
20.0
26.8
32.2
28.3
33.3
8.5
29.5
27.7
31.6
18.0
29.7
38.0
21.9
31.3
18.8
23.3
35.7
37.3
34.8
45.7
12.2
4.6
5.1
3.1
10.0
8.1
4.0
1.4
3.6
4.7
13.3
7.1
3.4
0.0
1.2
0.0


問33「よく知っている」への回答割合（%）
j. リプロダクティブ・ヘルス／ライツ
k. ジェンダー
l. ドメスティック・バイオレンス
m. セクシュアル・ハラスメント
n. ポジティブ・アクション
o. ワーク・ライフ・バランス
0.0
50.0
100.0
全体(N=896)
女性(n=531)
男性(n=354)
女性20歳代(n=50)
女性30歳代(n=111)
女性40歳代(n=100)
女性50歳代(n=73)
女性60歳代(n=112)
女性70歳以上(n=85)
男性20歳代(n=30)
男性30歳代(n=56)
男性40歳代(n=59)
男性50歳代(n=46)
男性60歳代(n=81)
男性70歳以上(n=82)
1.6
2.1
0.0
6.0
2.7
1.0
0.0
0.0
4.7
0.0
0.0
0.0
0.0
0.0
0.0
14.8
15.3
13.8
36.0
13.5
17.0
21.9
5.4
10.6
33.3
16.1
18.6
28.3
4.9
2.4
57.7
60.3
54.0
66.0
70.3
71.0
61.6
57.1
34.1
63.3
53.6
66.1
63.0
60.5
30.5
60.9
61.4
60.5
66.0
69.4
72.0
65.8
59.8
34.1
63.3
55.4
78.0
63.0
67.9
41.5
4.5
4.0
4.8
4.0
1.8
7.0
2.7
2.7
5.9
10.0
1.8
8.5
0.0
8.6
1.2
13.5
12.8
13.8
10.0
20.7
21.0
6.8
8.0
5.9
23.3
16.1
22.0
15.2
12.3
3.7

【前回調査との比較】

前回に比べ、「ｄ．男女雇用機会均等法」「ｅ．育児・介護休業法」などがやや減少しているが、大きな傾向の変化はみられない。




※1 メディアからの情報を読み解く能力
※2 性と生殖に関する健康と権利
※3 社会的、文化的性差
※4 DV：配偶者や恋人など親しい人からの暴力
※5 性的いやがらせ
※6 積極的格差是正措置

## 【６】吹田市立男女共同参画センターデュオについて

### １．吹田市立男女共同参画センターデュオの認知状況

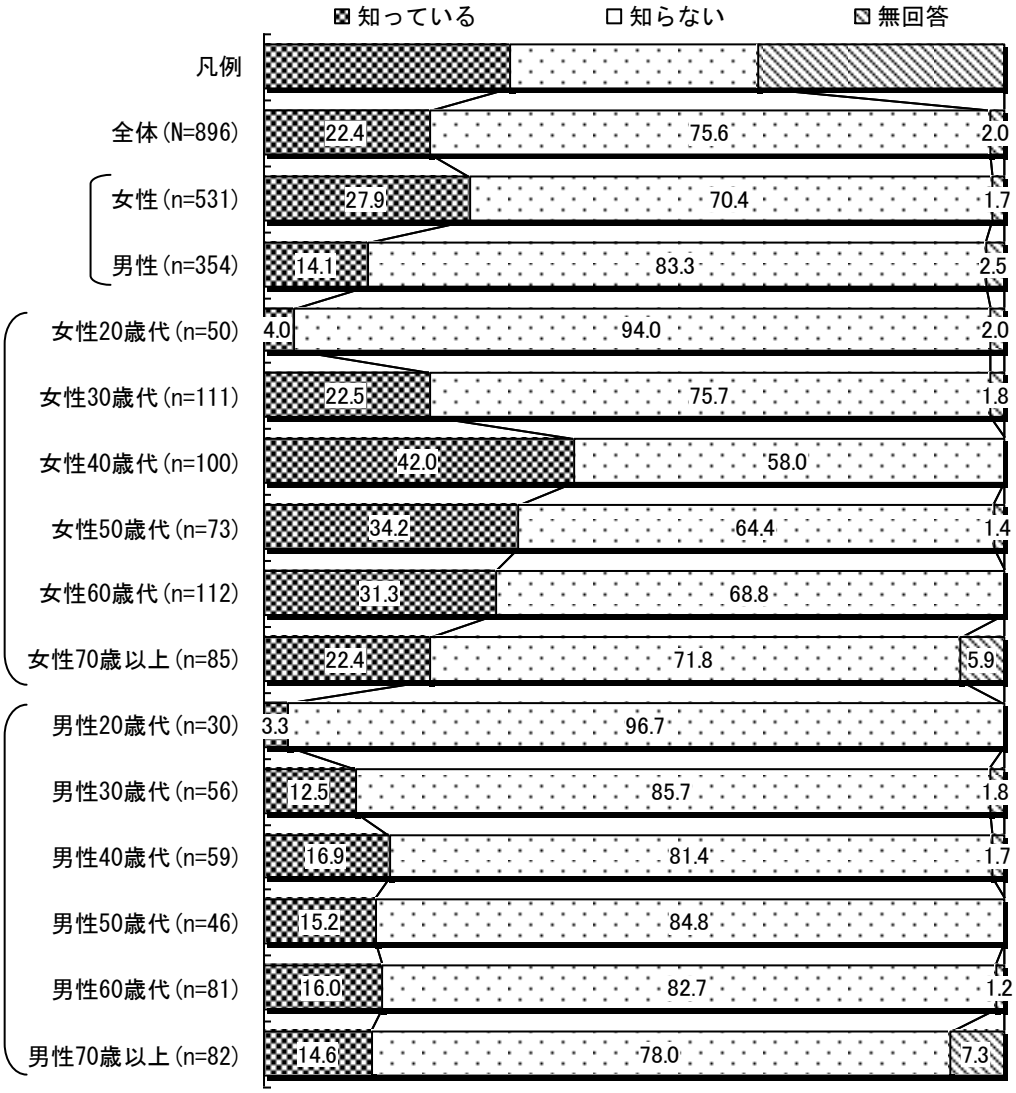
「吹田市立男女共同参画センターデュオ」は、男女共同参画の推進に関する施策を実施し、市民及び事業者による男女共同参画の推進に関する取り組みを支援するための拠点施設です。

問 34．あなたは、吹田市立男女共同参画センター デュオを知っていますか。（○は１つ）

吹田市立男女共同参画センターデュオの認知状況については、22.4%の認知状況であった。

性別では、女性で「知っている」割合が高く、特に 40 歳代で 4 割を超えている。一方で男女ともに 20 歳代では「知らない」割合が高くなっている。

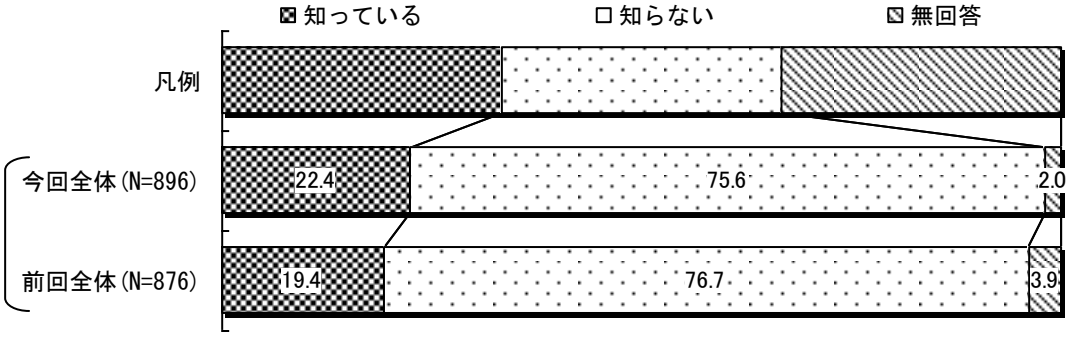
問34．吹田市立男女共同参画センターデュオの認知状況（%）
性別、性・年齢別



【前回調査との比較】

前回に比べ、「知っている」がやや増加した。

問34. 吹田市立男女共同参画センターデュオの認知状況（%）

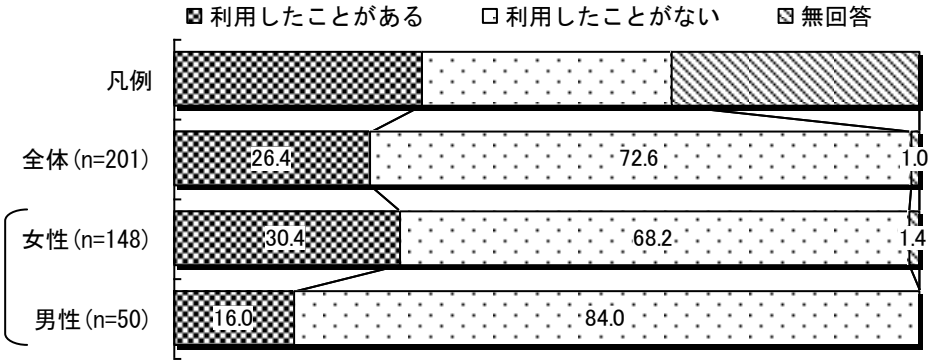


## ２．吹田市立男女共同参画センターデュオの利用経験

◆問 34-1. 吹田市立男女共同参画センター デュオを利用したことがありますか。（○は１つ）

吹田市立男女共同参画センターデュオの利用経験については、26.4%の利用率である。
性別では女性で３割程度、男性で３割未満となっている。

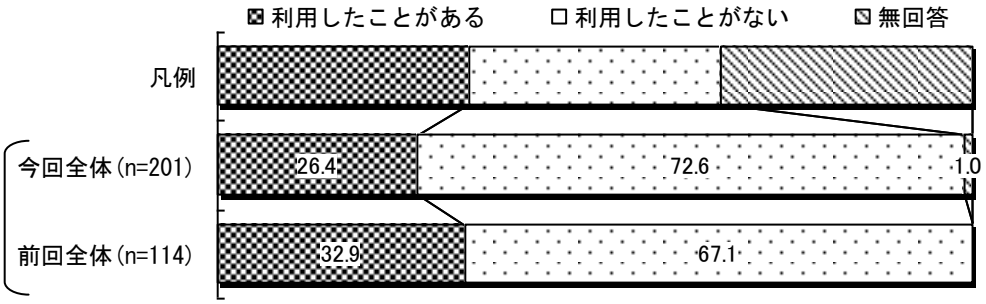
問34－１．吹田市立男女共同参画センターデュオの利用経験（%）性別




【前回調査との比較】

前回に比べ、利用率はやや減少している。

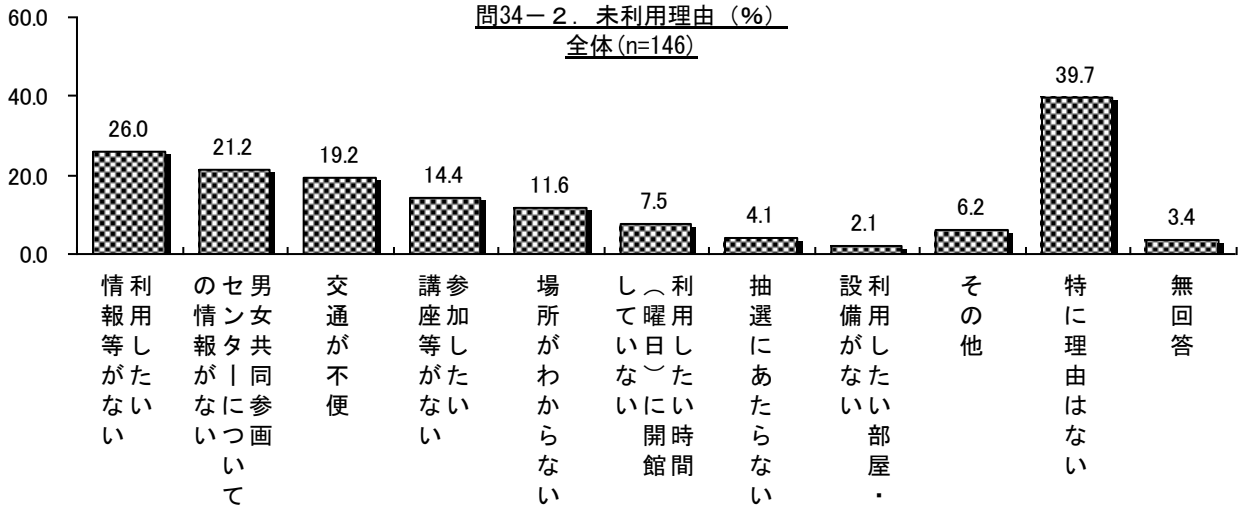
問34－１．吹田市立男女共同参画センターデュオの利用経験（%）



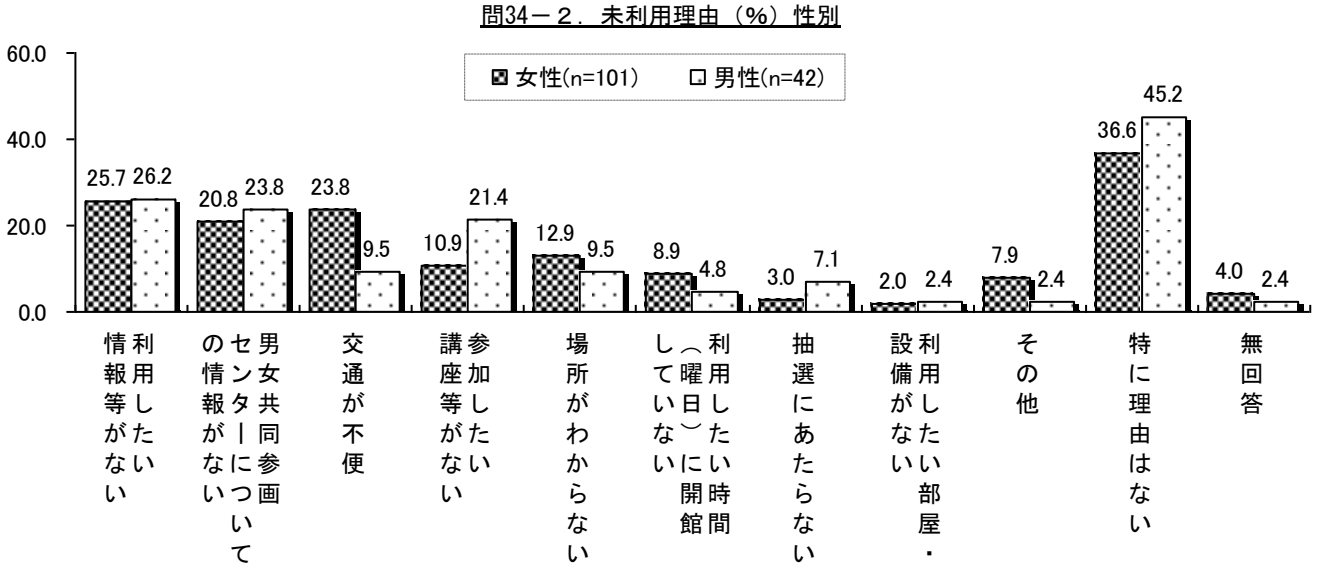
## ３．未利用理由

問 34-1. で、「2. 利用したことがない」と答えた方におたずねします。
◆問 34-2. 利用したことがないのは、なぜですか。（○はいくつでも）

吹田市立男女共同参画センターデュオの未利用理由については、「利用したい情報等がない」が 26.0%、次いで「男女共同参画センターについての情報がない」（21.2%）、「交通が不便」（19.2%）、「参加したい講座等がない」（14.4%）の順となっている。一方で、「特に理由はない」が 39.7%と最も多くなっている。

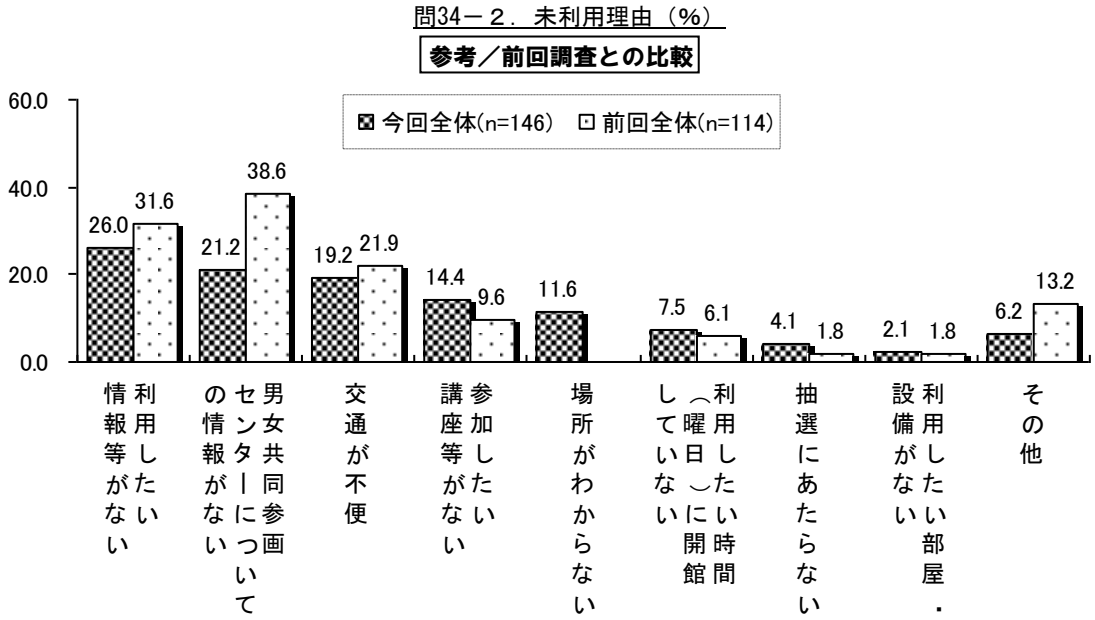



性別では、女性で「交通が不便」、男性で「参加したい講座等がない」がそれぞれ多い点で男女差がみられる。



【前回調査との比較】

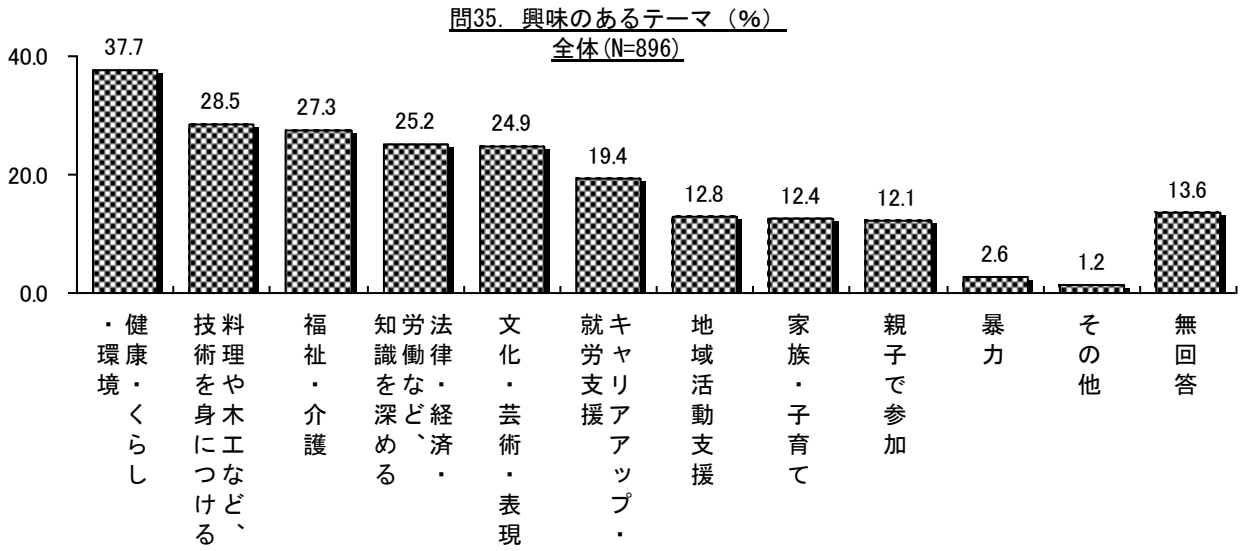
前回との比較をみると、「男女共同参画センターについての情報がない」が大きく減少している。



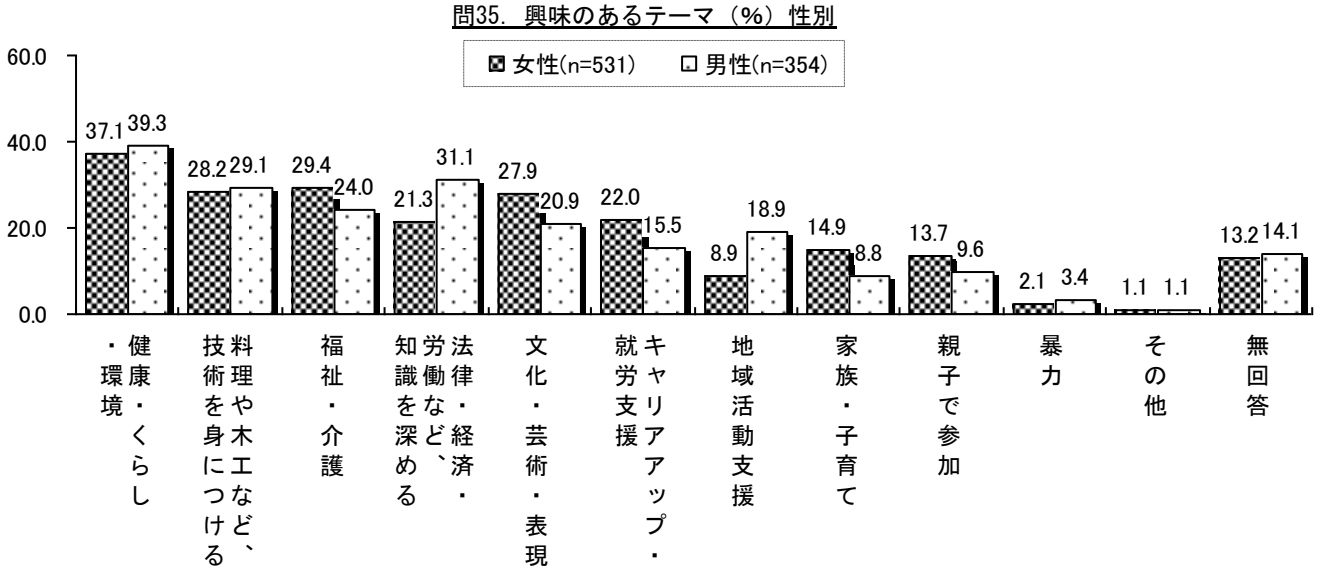
## ４．興味のあるテーマ

問 35. 吹田市立男女共同参画センターデュオではさまざまな講座を開催しています。次のテーマの中で、興味のあるテーマがあれば選んでください。（○は３つまで）

吹田市立男女共同参画センターデュオの講座で興味のあるテーマについては、「健康・くらし・環境」が 37.7%と最も多く、次いで「料理や木工など、技術を身につける」（28.5%）、「福祉・介護」（27.3%）、「法律・経済・労働など、知識を深める」（25.2%）、「文化・芸術・表現」（24.9%）の順となっている。




性別では、女性で「文化・芸術・表現」「キャリアアップ・就労支援」、男性で「地域活動支援」がそれぞれ多いが、大きな男女差はみられない。



## 【７】自由意見記述について

男女共同参画について、あるいは男女共同参画社会の実現に向けた市の施策について、お寄せいただいた自由意見については、以下のとおりです。

なお、本調査の趣旨に直接関連のない意見・要望を除き、原則として記述いただいたとおり記載している

**【20 歳代・女性】**

○家でも職場でも、運悪く男性からの言葉の暴力を目の当たりにしてきました。本当につらかったので、みんなが穏やかに生活できる世の中になることを願っています。個人の性格は変えられないけれど、思いやりのあふれる世の中になってほしいです。

○家制度のような日本の伝統から考えると､男女を完全に平等にすることは難しいように感じる。差別と区別を混同することのないよう、日本らしい男女平等の姿ができればと思う。

○大学で保育・福祉を専攻したので、男女格差や DV・虐待について学びました。そのような機会がない人たちにもいろいろと知ってもらうためにも、このアンケート内容のようなことを学べる機会をつくってほしいと思いました。

○保育サービスの充実を心から願っています。子どもはたくさんほしいが、母親も働かないと養っていけない｡でも保育所に入れない｡子どもを安心して育てられる環境を整えてほしいです。

○このアンケートは学生である私には答えにくい内容が多いので、もう少しアンケートの対象範囲を考えた方が良いと思います。

○よくわからないアンケートでした。必要があるのか疑問です。

**【20 歳代・男性】**

○デュオの活動内容等の情報をもっとほしい。

○男女共同参画へ向けた市の施策、男女共同参画センター　デュオについて全く知りませんでした。改めて勉強し、是非センターを利用してみようと思います。

○教育の場で男女共同参画についてもっと学習する時間を増やし、現実社会でも制度面などで男女共同参画を実現できるよう見直しが必要だと思う。

**【30 歳代・女性】**

○この世の中の全てが、健康な成人男性のためにつくられているということを、毎日のように感じている。その状況を変えるために何をすれば良いのか、未だにわからない。

○男女は平等である必要はない。今回の質問は女性の目線での質問ばかりだったので、男性目線での男女平等についての質問も合わせてすると良いと思う。

○法的には男女の平等が整っても、現実社会での 100%の男女平等は難しいと考えています。男女の性差は紛れもなく、制度上だけではなく、男女ともに活躍の場が広がり個人が自分の生き方に信念を持ち、その立場や環境の中でしっかり役割を果たしていくことが重要と考えます。確固たる自分が形成されれば、自分自身が男としてとか女としての次元ではなく、「人間として」生きていくことができ、人に対してもそういった見方ができると思います。また、アンケート内容についてですが、問 24、この問自体が女性や職業に対する差別ではないですか？アンケート全体に、女性側が被害者的内容になっている傾向を感じます。もう少しバランスの良いアンケートになればと思いました。

○女性が、仕事と子育ての両立がしやすいように、学童保育の学年をもう少し引き上げてほしい。

○育児で長い期間働いていない主婦はたくさんいます。キャリアのない主婦でも、子育てが落ち着いた時に働ける環境は必要だと思います。現在、発達障害児が増え続けています。その子どもたちの支援の場を広げる必要があります。その場が、子育てを終えた主婦がお手伝いできる環境になればと思います。

○男性が有給休暇や育児休暇を取ることが悪いというような状況がなくなってほしいです。

○「公立幼稚園の延長保育」と「病児保育をする施設を増やし、保育園児だけでなく幼稚園児や小学生の受け入れ」を是非お願いします。各企業の仕事優先の考え方は変わらないと思うので、子どもを預けて安心して働ける環境をつくってください。

○性教育はする必要がない。私の子は、小学生の時すごく嫌だったと言っていました。そんなことよりも、勉強をしっかりさせて自分で物事を判断できるように、社会の仕組みを教えてほしい。

○アンケートに答えるうちに、知らないことがたくさんあることに気づかされました。

○男性が、家庭生活・地域活動に積極的に参加できるような、職場環境の充実・啓発が進むような施策があればと思います。

○法律や条例をいくら整備しても、現場には反映されない。外資系メーカーに勤務しているが、男女平等より人権尊重を指導してほしい。

○男女平等である必要があるのか疑問もあります。男の人を立てることも大切です。男の人が仕事をして、女が家庭を守る！事情によりそうできない方もいるとは思いますが、一番大切なのは何かを忘れています。

○どんな施策をしても、この制度等を決定している人たちが体感していなければ、本当に中身のあるものにはならないと思う。とにかく、子どもがいても安心して仕事ができ、お金に追われない世の中にしてほしい。

○昨年まで住んでいた土地では、ほとんどの講座に無料の託児がついていたので、参加しやすかった。駐車場があるとなお嬉しい。

○社会的に男性育児が広まりつつある昨今、地域的に劇的な取組みがあればメディア等で取り上げられるなど、市（地域）の財産になるものがあると期待しています。地域社会と労働環境の整備が必要だと思います。

○吹田市が不妊治療の取り組みをまったくしていないのが意外です。府のサポートグループに参加していたのですが、多くの女性が、相談できる窓口の少なさに孤独を感じています。子育て・出産だけでなく、不妊女性も支えてくださることを願います。

○男が男らしく、女が女らしくあろうとするのが自然であり、その性差をなくしてしまうことには反対です。無理に「平等」や「共同参画」という言葉に縛られないでもらいたいと思います。

○なぜ女というだけで給料が少ないのですか？

**【30 歳代・男性】**

○「やりたくても出来ない」は理由にならない。このアンケートの方が女性をばかにしている。

○幼少の頃からのしつけ・教育が意識改革には不可欠であり、教育を行う親への意識改革が同時に必要になる。長期計画での意識改革の実施をお願いしたい。

○大人の再教育も必要と思う。正しいことを貫き通すのは大人でも難しい世の中である。頑張ってほしい。

○税金を大切に有効に利用して、画期的な吹田市を目指してほしいです。

○男女共同参画は必要だが、まずは景気回復が一番重要。将来の不安が減り、生活が安定し、ワークライフバランスが保たれれば、ほとんどの問題は解決する。

○吹田市の保育を守ってください。

○「女はこうあるべきだ」という枠にはめられている部分はあると思う。男女共同参画社会の実現に向けては、子どもの頃からの教育が必要と思われる。

○男女差別は良くないことですが、男女の性差は仕方ないので必ずしも平等が良いとは思いません。

○男女共同参画自体に対する十分な議論の喚起を行うべき。偏向思想から欠別し、様々なデータを限りなくオープンにした上で、幅広い議論を通じて施策を行うべきである。

○民間企業ではどうしても男性中心の社会になってしまいます。女性が家で子育てしやすいように、子育て支援の施策をもっと充実させてほしいです。

○市の施策について、具体的な内容をよく理解しておりません。内容を確認した上で、必要あれば要望したいと考えます。

【40 歳代・女性】

○職場でも女性が働く環境の活動をしているが、女性からすると男女という分け方がすでに時代遅れだと思う。男女で区別するより、人間として考えるべきだと思う。

○このアンケートで考えるきっかけになりました。イベントなども意義があると思います。

○男女平等は当たり前だと思いますが、力の差等はあるのが当たり前で、女性が無理に男社会に入る必要はない。平等平等と叫びすぎることなく、違いを感じつつも助け合う平等であってほしい。

○今まで知らなかった言葉や施設が多くあることにびっくりした。自分や家族が困った時に役に立つであろう所もたくさんあるようだ。これからいろいろと勉強していきたい。

○早い時期から才能や個性を見抜いて開花させていけるような施策があると良い。

○このアンケートが来るまで、男女共同参画という言葉やデュオを知りませんでした。これから、市報などを見る時に意識して読もうと思います。

○何でもかんでも男女平等というのはおかしい。男女の違いは必ずある。女性に働くことを推進するのもどうかと思う。本当は働かずに、子育てや家事をきっちりしたいが、経済的余裕がないので仕方なく働いている人も多いと思う。

○センターが遠いので利用しにくい。公民館でも同じようなことをやってもらったら、参加しやすい。

○質問を読んでいるうちに不愉快になってきました。普通の生活をしている人が大部分だと思います。もっと意義のあることに税金を使ってください。

○ひと括りに男女平等を唱えるのではなく、お互いの長けた部分やそうでない部分をきちんと認識し、その上で助け合いより大きな力となるような共同参画が理想だと思う。

○市の施策そのものを知らされていない。

○このアンケートの選択回答に、個人の意思を尊重する選択肢を増やすべきだと思う。

○女性であるということだけで、嫌な思いもたくさんしてきた。男社会の日本で、男性の意識を変えることは難しいことと思うが、一日も早く男女が同等の立場になってほしいと思う。

【40 歳代・男性】

○これからも市民の目線で活動を行ってほしい。

○知らないことがたくさんありました。市報で特集などがあれば知ることができるかと思います。

○人は男女に関係なく、その人の資質や性質、更には境遇に合わせて個人の社会生活が確立されることが、最も QOL 向上に寄与する。旧来の社会通念に合わない場合には、柔軟に対応できる制度改革が必要である。

○統計後のアンケート結果を、必ず記入者にフィードバックしてください。

○吹田市の男女共同参画に非常に興味を持ちました。これから良く調べて、参画したいと思います。このような取り組みを初めて知りました。回答するうちに、少し意識が変わってきました。

○意思決定する際、女性の意見を尊重することが最も重要と考える。最終的な判断が男性に委ねられていること自体が、男性寄りの施策になりがちであるという認識が必要。

○男女共同参画の存在及び市の施策を把握している人は少ないと思う。まずは、存在、活動内容などが広く認知されることが重要と感じる。

○男女平等とは言え、男性・女性は明らかに違う所もあり、得手不得手を見極めた施策が必要です。その上で、全ての人が尊重され豊かに過ごせる暮らしが営めるように努力することが大切です。

**【50 歳代・女性】**

○女性はどんどん社会に出ています。男性もどんどん家事・育児に参加してください。どんなライフスタイルでも２人で話し合ったら良いと思います。

○日本人のモラルがこの 10 年間ですっかり変わり、ギスギスした世の中と感じます。何にも参加できない弱い立場の人、心の弱い人たちにも目を向けていただけるようお願いします。

○家庭生活は、次世代を担う人材育成の最重要基盤である。男女が性別ではなく、個人の能力により共に歩むことのできる社会をめざすためには、子育てに関わる営み全てを価値ある仕事として社会的評価を高め、両親が共にその責任を担うことを「誉れある義務」として認識するよう社会全体を啓発すべき。

○行政も男性中心の視点で行われていると思う。学校教育で特に注意して指導しているようには思えない。小さい頃からの習慣は大きいと思うので、重点を置いて取り組んでほしい。

○ある市では、男女共同参画ということで過激な性教育をしている所があると聞きました。そんなことは絶対にやめてください。男性女性の違いは天から与えられたものなので、お互いを尊重し、支え合えるような方向にしていってほしいです。

○センターのことを知りませんでした。活動頑張ってほしいです。

○その立場、環境にならないとわからない。個人個人で異なると思います。

○男女共同参画という言葉自体がわかりにくいと思う。

○子育ては、両親・地域プラス学校でするものだと思っています。家庭で教えるべきことを何でも学校に押し付けるのは良くない。家庭で基本的マナーを教え、学校は教育の場と共同生活による相手を思いやる心の育まれる場所と考えます。

**【50 歳代・男性】**

○保育所を増やせば、女性ももっと働くことができると思う。

○設問の答えに偏りがあり、誘導的な感がある。男性が不利益を受けているケースも多々あり「女性＝弱い・不利」という構図だけではないのに、そう決め付けたような答えが多く、このこと自体が不公平である。

○税金の無駄使い。

○男女ともに、その特性を活かし、出来ることは進んですれば良い。特に男女を区別する必要はないと思う。

**【60 歳代・女性】**

○高齢者の一人生活者でも前向きな気持ちにさせるような、わかりやすい企画を立て参加しやすいようにしてほしい。

○「デュオ」の講座を日曜日に多数開催してください。

○男女平等をめざしてください。

○せっかくの施策や様々な講座等なので、できるだけより多くの方々が参加・利用できるようにしてほしいです。

○子育ては人間としてなすべき大切な仕事です。夫婦で協力して育てるには、女性・男性の役割分担が必要です。昔からの概念ではなく、どちらか一方が外で働き、一方が我が手で地域の手も借り育てるべきで、そのためには男女を問わず休暇が取れるような仕組みが確立されるべきです。

○家の中ではどうしても昔ながらの一家の長（主人）がいばっています。世の主人はこのような方が多いと思われます。本当に男女平等は来るのでしょうか。

○夫婦・子ども間、対人関係など悩んでいる人は多く、誰か手を差しのべてもらえればといつも身近に感じている。テレビコマーシャルで見るように、「挨拶をしていますか？」「奥さんを大事にしていますか？」など、わかりやすくやわらかく繰り返しテレビで放映すれば、人々に浸透すると思う。

○参加したいプログラムがあっても、なかなか参加できる日と合わず、残念に思うことが多い。

○何かをやりたい、役立てたい人はたくさんおられると思います。小さなことからコツコツと、小さな幸せをたくさん見つけられる世の中であってほしいと思います。

○吹田市は住みやすいと聞き、神戸市より転居し 14 年たちました。思った通り住みやすい街です。これからも市政を応援し、地域活動に参加していきたいと思います。

○最近、朝方や夕方、公園でお年寄りが一人で座っているのをよく見かけます。寂しそうにしているのを見ると、何かお年寄りと一緒にできることをしてあげたいと思っています。

**【60 歳代・男性】**

○センター主催の講座内容について広く情報を流してほしい。受講意欲は強いので興味があります。

○女性の社会進出には大賛成ですが、父親との共同作業で他人（社会・学校）に任さず、子どものしつけや物事の善悪をおろそかにせず育ててほしい。

○このアンケートを機に、男女共同参画社会の実現に向けての市の施策に関心を持つようになった。市の施策をもっと PR したら良いと思う。

○現在、男女差別ってありますか？私のまわりや情報等では、どちらかといえば女性が保護されていて、差別があるなんて思えません。女性の甘えでは？

○市の施策等がよくわからないので、市民全体にわかるように周知願いたい。また、このアンケートの結果を公表願いたい。

○市がリーダーシップを発揮してほしい。また、情報開示をお願いしたい。

○市の施策を策定するに当たっては、まず当事者である市の職員全員ならびに市議会議員の意識改革からやるべきである。

○人には個々の役割があり、男であれ女であれ、義務と責任を持つことを啓発することが重要ではないか。

○私は 68 歳。体の具合も悪いので、もっと若い人にアンケートを送ってください。

○男女共同参画社会というものが具体的にどのような社会なのかイメージできません。もっとわかりやすく説明するにはどのような機会があるか、もっと広報すべきだと思う。

○市の施策だけでは実現が難しい問題が多いので、いろいろな NPO や民間団体等と連携をとって、一般市民の意見を最大限取り入れて、参加しやすい方法を模索してください。

○全般的に広報活動が不足している。また、いろいろな施策や部門がありすぎてわかりにくい。もう少し部門統合して、その部門に行けば何でも対応できるようにしてほしい。

【70 歳以上・女性】

○大人から子どもまで、危機感を感じたり苦しくなったら、相談したりアドバイスを受けられる心のよりどころとなる場所をつくってほしい。

○デュオの名前は知っていたが、地図を含め具体的にどのような活動をしているのか知る機会が少ない。気軽にのぞいてみられるように、敷居を低くしてほしい。

○アンケートを後期高齢者に出すかどうか検討してください。

○高齢者でも利用できる講座を増やしてほしい。

○75 歳ともなれば、情報を知ったとしても、なかなか行動ができません。

○男女共同参画社会問題では、どうしても女性の方が負担が重くなるので、平等な負担を話し合い、近所仲良く暮らしていけることを祈るのみです。

○70 代に入り認知症・寝たきり予防のためスポーツ教室で運動しています。吹田市報行事に参加し、少しでも自立した人間になりたいです。

○デュオという施設を初めて知りました。今後利用したいと思います。

○旧態を引きづった自治会、持ち切れない責任を負わされている民生委員・児童委員、飾り者審議委員等、行政・市民ともに改善するべき点多々あり。もっと議論を交わせる機会・場所を設ける努力をしてほしい。

○とても良いことだと思う。

○私は主人の面倒を見ながら自分も病院通いの毎日です。なぜ私にこんなものが来たか不思議？読んでいるうちに気分が悪くなり吐いた。もっと若い人にしてほしい。

○家事は立派な仕事です。

○ちゃんと子どもを育て上げて、社会に貢献する生き方も大切ではないかと思う。

○自己責任の大切さを痛感すること。

○大変良い企画で、今まで参加しなかったことを残念に思いました。これから機会があれば勉強したいと思います。

【70 歳以上・男性】

○互いに相手を尊重していれば、どんな場でも仕事はうまくいくもの。相手を信頼する人を育てることが大切。

○必要あると思わない。

○なぜこのような調査が必要なのかと疑問に思います。

○このアンケートはボリュームが多すぎる。吹田市のアンケートはいつもダラダラとしている。簡潔にしてほしい。

○80 歳を超えた老人です。私には質問が多すぎる気もしましたが、一生懸命考えました。

**【年齢・性別不明】**

○何も知らなかったので、これから深く知っていき参加してみたい。それから市への要望が生まれてくると思う。

○不妊に関する問題は、男女共同参画とは別の意味合いになるのでしょうか？子どもを持って一人前という風潮に、振り回されがちな面があるように思います。